

勞資協調ノ趣旨ニ基キ地主及小作人ニ共濟慰安其他共同ノ利益ヲ保護増進スルノ事業ヲ營マシムルニアリ政府ノ所見果シテ如何ト云フコトニ付テ御尋ヲ致スノデアリマス、小作人ノミニ依ッテ造ル組合ヲ、小作組合ト私ハ考ヘテ居リマス、小作人ト地主トノ共同設立ヲ農業組合ト私ハ考ヘテ居ル次第デアリマス、從來ノ産業組合法ハ御承知ノ通り、設立ニ非常ニ煩瑣ナル手續ヲ要シマス、所謂認可主義ヲ御執リニナッテ居ル、故ニ此農業組合若クハ小作組合ト云フモノハ、屈出主義ヲ執ル、斯ウ云フコトニナサタナラバドウデアアルカ、所謂其長ヲ採リ其短ヲ捨ル所ノ一端デアリマス、ソレカラ如何ナル事業ヲ爲スカ——其組合ハ如何ナル事業ヲ爲スカト言ウタナラバ、組合員ノ共濟慰安、其他共同ノ利益増進ヲ圖ル爲ニ、一ツ共同ノ事業ヲ行フコトガ出來ルト致シマシテ、例ヘバ肥料ノ共同購入デアルトカ、化學肥料製造、共同耕作、日用品ノ共同購入、新式農具ノ共同使用、糶摺機械、或ハ精白機械ノ裝置、或ハ文明機械ノ應用、農産物ノ共同販賣、資金ノ供給、貯金、娛樂、進ンデハ聯合組合ノ運用ニ依リマシテ、共濟事業、若クハ保險事業ヲ經營シ得ラレル斯ウ云フコトニ致シマシタナラバ、自然ト地主ト小作ノ間ノ精神的融和ガ起ルト同時ニ小作者ニ向ッテ彼等ノ直接利益ヲ増進スルコトガ出來ルモノナリト私ハ考ヘルノデアリマス、而モ尙ホ農業方面ニ向ッテハ、生産費ノ輕減トナリ、生活費ノ輕減トナリ、取モ直サズ小作者及ビ地主ノ福利増進ニ效能ガアル、地主モ亦小作料減額ナドノ爭ヲ致サズトモ、此小作組合或ハ農業組合ト云フモノニ極力力ヲ盡シテ、資金ノ足ラナイ時ニハ資金ヲ貸シテヤラウ、又組合ノ管理ナドハ、小作者ガ其暇ガナケレバ、即チ地主ガ其管理ヲ致シテヤルト云フヤウナコトヲ致シテ、小作者ヲ保護致シタナラバ、此小作爭議ト云フモノハ、自然ト無クナッテシマフモノナリト私ハ考ヘルノデアリマス、其證據ト致シマシテ貴族院議員ニ出ラレテ居リマスル福井縣ノ山田敏君ガ其主旨經營ノヤリ方ヲヤッテ居ラレル、只今申上ゲマシタ農業組合ト云フガ如キコトヲ爲ナレテ、金ノ足ラナイ時ニハ低利ノ、而モ無利息ノ金ヲ山田君ガ提供致サレテ居ル、吉凶禍福ヲ共ニ致シ、又其組合ノ經營管理ハ山田君ガ管理費マデ出シテ管理經營ヲ致サレテ居ル、ソレガ故ニ山田君ノ村、山田君ノ地方ト云フモノハ、何等小作問題ト云フ事ガ起キナイト云フ實例ガアル

ノデアリマス、決シテ空理空論ヲ述ベルノデアリマセヌ、小作爭議解決ノ方策ハ、以上ノ如キ組合ノ運用ニ俟ツノ外ハナイト私ハ考ヘルノデアリマス、政府ノ御考ハ如何デアリマセウカ、是ガ即チ私ノ第三問デアリマス、更ニ農業ノ知識、農民ノ人格向上モ、小作爭議ト云フモノヲ鎮定致シマス上ニ於テ、最モ必要ナ事デアラウト思ヒマス、然ルニ此農業ノ教育、農村教育ト云フコトニ於テハ、殆ド今日見ルベキモノガ無イノデアリマス、ソレガ爲ニ第四問ト致シマシテ、農業教育ノ件ニ付テ、御伺ヲ致スノデアリマス、政府ハ少數者ノ爲ニ學校昇格ニ急ニシテ多數國民ノ教育、特ニ農村ニ於ケル補習教育及農業教育ヲ忽ニセル理由如何、竝ニ政府ハ其現狀ニ甘ンズルヤ否ヤト云フコトニ付テ御尋ヲ致スノデアリマス、御承知ノ通り、隨分此學校ノ昇格問題ト云フコトガ、議會ニ於テモ、貴族院ニ於テモヤカマシク論議サレタノデアリマス、聞クガ如クバ近日政府ヨリ致シテ昇格豫算ノ編成ヲサレ、議會ニ要求サレルト云フコトデアリマス、其總額一千二百餘萬圓ト聞イテ居リマス、而モ少數者ノ爲ニ是ダケノ莫大ナル豫算ヲ要求サレルノデアリマス、翻ッテ農村ノ補習教育ハドウデアアルカ、又郡ナドヲ建テ、居リマシタ所ノ簡易ナル農學校、所謂乙種農學校、是等ノ現狀ハドウデアアルカト云フコトニ付テ御考ヲ遊バサレタナラバ、此昇格問題ヨリモ、是等ノ問題ノ方ガ必要デアアルマイカト私ハ考ヘルノデアアル、何故デアルト言ウタナラバ、丁度此義務教育ノ學年ガ卒ッテ、生徒ガドウ云フ方向ニ進ムカト云フコトノ調査ヲ致シマスルト、是ハ帝國農會ノ調査デアリマスルガ、大正十年三月ニ小學校ヲ卒業致シマシタ人ノ是ハ百分算デアリマスルガ、八十八人マデト云フモノハ、補習教育ノ方ニ向ッテ進ムノデアリマス、ソレカラ十二人中中學程度ノ入學者デアアル、斯ウ云フコトニナッテ居ル、所ガ實際此農業補習教育ノ状態ハドウデアアルカト申上ゲマシタナラバ、羊頭狗肉ノ感ガアル、看板ハ如何ニモ何ニ農業補習學校ト云フ立派ナル看板ハ掲ゲテ居リマスルケレドモ、内容ニ立至ッテ見マスト、果シテ教授ヲヤッテ居ルヤラ、ヤッテ居ラナイヤラ譯ノ分ラヌヤウナコトデアアル、此事ハ私ガ申サズトモ政府モ御承知ノ通り、又此學校ヲ御覽ナスタ方モ御承知ノコト、思ヒマス、而モ其學校ノ數ガ、日本ニ於テ八千八百二十七、小學校ノ三分ノ一、即チ三ツノ小學校ニ一ツ、斯ウ云フ農業補



習教育ヲ置イテアル、ソレ等ノ點ニ付テ政府ハ何等考慮ヲ煩ハサレテ居リマセス、又乙種農業學校ハドウデアアルカ、是ハ丁度日本ニ二百程アリマス、郡ノ數ハ六百三十六、故ニ三郡ニ一ツ位ノ平均ヲ以テ此學校ガ出來テ居ルノデアリマス、所ガ郡制廢止ノ結果、費用ノ出所ガアリマセヌ爲ニ、廢校ノ已ムナキニ至ルコトニナツテ居ル、折角簡易ナル農業教育ト云フモノガ、特ニ進歩ノ端緒ヲ開カウト致シテ居ル時ニ當ツテ郡制廢止ニナツタ、ソレガ爲ニ廢校ノ已ムナキニ至ル、斯ウ云フ憐ムベキ状態デアリマス、故ニ私ハ只今ノ如ク少數者ノ利益ヲ圖ル昇格問題モ必要デアリマセウ、又高等教育ト云フコトモ必要デアリマセウガ、一方ニ於テ此憐ムベキ多數ノ國民ヲ如何ニ教育スルカ其點ニ付テ御伺致スノデアリマス、以上ハ大體ニ於テ小作爭議ニ關スルコトノ質問デアリマスガ、是カラハ小作爭議ニアラズシテ其他農村社會問題ニ付テ二三御伺致シタイノデアリマス、即チ第五問ト致シマシテ、都市集中ノ件デアリマス、近來經濟的ニ社會的ニ目醒メタル農民ト云フモノハ農村ニ滞在致シマセズシテ、踵ヲ接シテ都會ニ集中スル所ノ趣ガアルノデアリマス、而モ都市計畫ト云フコトガ出來マシテ、益、此勢ヲ助長セラル、所ノ傾ガアル、政府ハ之ニ對シ如何ナル方策ヲ御執リニナル考デアアルカ、之ガ第五問デアリマス、即チ東京市ノ統計ヲ取リマスト、大正二年ニハ、二百五十四萬ノ人口ガアッタノデアリマス、然ルニ其後五箇年ヲ經タル所ノ七年ニハ、六十萬人ノ増加ヲ致シテ居ル、即チ三百十四萬ニ相成ツテ居リマス、大阪ノ人口ヲ調査致シマスト、矢張此五箇年ノ間ニ五十萬人ノ増加ヲ致シテ居ル、斯ウ云フ状態デアリマス、其他神戸ニ致シマシテモ、名古屋ニ致シマシテモ、横濱ニ致シマシテモ、東京大阪同様ニ人口ハ増加シツ、アルノデアリマス、是亦政府ハ、御承知ノ通りデアリマス、然ルニ都市計畫ノ結果ハ、如何様ニ此都市ガ膨脹スルカト云フコトヲ調査致シマスルニ、東京ハ六倍大キク相成ルノデアリマス、大阪モ亦六倍、京都ハ十二倍、神戸ハ三倍、横濱ハ今日ノ五倍、斯ウ云フコトニ相成ルノデアリマシテ、益、農村ノ人間ヲ都會ニ集中スルヤウナコトニ相成ルコトハ、火ヲ賭ルヨリ明カデアリマスガ、政府ハ此都會集中ト云フコト、竝ニ此農村ヲ離ル、所ノ者ヲ如何ニシテ喰留メテ置クカ、農村ガ荒廢ニ歸シテモ宜イカ、何等カノ御考ガアル筈ト思フ、此事ニ付テ御伺致シタイノ

デアリマス、ソレカラ其次ニ社會問題トシテ、農村ニ關スル事ハ農村ノ中堅階級ノ滅亡ト云フコトデアリマス、仍テ第六問トシテ、中堅階級ニ付テ御尋ヲ致スノデアリマス、即チ農村ニ於ケル中堅階級ハ、負擔ノ過重、物價ノ騰貴ナドニ依ツテ滅亡スルモノガ多イ、政府ハ之ニ處スル對策ヲ御講ジニナツテ居リマセヌガ、其御講ジニナラナイ理由ハ如何デアアルカ、此事ニ付テ御尋ヲ致スノデアリマス、即チ地主ト都會ノ商業者トノ負擔公平不公平ト云フコトニ付テハ、先日帝國農會ニ於テ調査サレテ居リマスガ、地主ハ商業家ノ三倍ノ負擔ヲ致シテ居ル、斯ウ云フコトニ相成ツテ居リマス、其詳細ナル統計竝ニ説明ハ此處デ申上ゲマセヌデ、議長ノ許可ヲ得マシテ速記録ニ記載スルコトニ致シマス、斯ウ云フ負擔ノ状態デアリマス、ソレカラ又物價ノ騰貴ト云フコトニ付テハ、私ガ諄々シク申シマセヌデモ御承知ノ通りデアアル、其結果農村ニ生活致シテ居リマス、中農、中堅階級ト云フモノハ年々滅亡致シテ居ル、山崎延吉君ノ調査ニ依ルト、最近毎年七千六百戸ヅツ中堅階級ハ滅亡シテ居ル、斯ウ云フコトヲ言ハレテ居リマス、實ニ由々シキ問題ト私ハ思フ、御承知ノ通り中堅階級ト云フモノハ、農村ニ於ケル自治機關ノ中心トモナリ、或ハ公共事業ノ中心トモナリ、公益事業ノ中心トモ相成ルノデアリマス、然ルニ今ヤ農村ニ於ケル中堅階級ハ滅亡ニ向ツテ居ルノデアアル、而シテ農村ニ於ケル不振ノ勢ヲ愈々甚シカラシメヤウトシテ居ル、然ルニ政府ハ私ノ見ル所デハ、是等ノ社會問題ニ對シテ恰モ對岸ノ火事ヲ見テ居ラレルガ如キ感ガアルノデアリマスガ、是ハ何故デアリマスカ、此中堅階級ノ滅亡ハドウシテモ豫防シ更ニ都市ニ集中スル所ノ農民、離村スル所ノ農民ヲ引留メル方法ヲ考ヘナケレバ、農業ノ發達ハ期シテ待ツコトガ出來ナイト思フノデアリマス、ソコデ私熟々考ヘマスルニ、是ハ確ニ制度ノ上ニ缺陷ガアル、土地制度ノ上ニ於テ缺陷ガアルト考ヘルノデアリマス、故ニ第七問トシテ土地制度ノ件ニ關シテ御伺ヲ致スノデアリマス、政府ハ小面積ノ耕地所有者ノ地租ヲ免除シ、大面積ノ所有者ニ對シテ累進的地租ヲ課スルコト猶ホ所得稅ノ如クシ、更ニ自作耕地資金ヲ供給スル爲メ營利ヲ目的トセザル農業銀行ヲ設立スルノ意思ナキヤ、否ヤト云フコトニ付テ御尋ヲスルノ



デアリマス、都市集中ノコト、竝ニ中堅階級滅亡ノコトハ、前申上ダタ通りデアリマスガ、更ニ之ヲ農家ノ種類ヨリ分ツテ研究致シマスルト、自作農ト云フモノハ年々減ジテ、小作人ガ増加シツツアルト云フコトハ御承知ノ通りデアリマス、統計ヲ示サズトモ御承知デアリマセウ、而モ五十町歩以上ノ地主ト云フモノハ、年々増加シツ、アル、此事モ政府ハ御承知デアリマス、是ハドウ云フ譯デアリマス、中堅階級ガ無クナリ、自作農ガ無クナリ、而モ中堅階級ノ子弟ハ田舎ヲ嫌ッテ都會ニ集ツテ來ル、其原因ヲ考ヘマスト云フト、是ハ第一ニハ負擔ノ過重、先刻申上ダマシタ通り田舎ノ人ハ非常ニ澤山ナル率ノ稅ヲ拂ッテ居ル、負擔ノ過重、第二ハ物價ノ騰貴、第三ハ土地制度ノ不公平、ソレカラ第四ト致シマシテハ、斯様ナル原因ヨリ致シマシテ、生活致シマス上ニ於テ、生産シタル其果實ニ依ッテ生活ヲ致サズシテ、負債ニ依ッテ、所謂借錢ニ依ッテ生活ヲ致スト云フガ如キ状態ニナリツ、アルノデアリマス、中堅階級竝ニ自作農ハソレガ爲ニ是等ガ滅亡スルノデアリマス、丁度今日ニ於テ農民ノ負債ト云フモノハ、二十億萬圓ヲ超過致シテ居ル、其内生産的ニ使ハレテ居ルモノハ僅ニ十億萬圓、アトノ十億萬圓ト云フモノハ、生活費ニ使ッテ、所謂ソレガ借錢トシテ殘ッテ居ル、斯ウ云ノ状態ニ相成ッテ居ルノデアリマス、ソレガ爲ニ中堅階級竝ニ自作農ト云フ者ハ亡ンデ行クノデアリマス、故ニドウシテモ此時此際是等ヲ救済致サウト致シマスルニ付キマシテハ、五段歩以下ノモノハ、——五段歩以下ノ土地ヲ所有致シテ居ル者ハ免稅ニシテヤル、サウシテ彼等ノ生存權ノ保證ヲ與ヘル、所謂生活ノ安定ヲ與ヘル、ソレカラ五段歩以上三町歩以上ノ土地所有者ニ對シテハ、現行ノ地租ヲ課シテ宜シイ、併ナガラ是等モ中堅階級ノ人デアリマスルガ故ニ、今日借錢デ困ッテ居ル、其借錢ニ對シテハ相當ノ救済、所謂舊イ所ノ借錢ヲ借替ヘテ新シキ低廉ナル利息ノ借錢ト借替ヘテヤルト云フ所ノ金融ノ途ヲ付ケテヤラナケレバナラヌ、即チ農業銀行ト云フモノヲ拵ヘテ、營利ヲ目的トセザル所ノ、社會政策的ノ農業銀行ト云フモノヲ造ルコトガ宜カラウト云フノハ、此意味ヨリ私論ズルノデアリマス、而シテ三町以上ノ土地所有者ト云フ者ハ、又大地主ト云フ者ハ、袖手傍觀唯、小作料、小作米ノミニ依ッテ飯ヲ食ウテ居ル人デアリマスカラ、恰モ華族ノ財產家ノ如キモノデアリマスガ故ニ、是

等ハ征伐シテ宜シイ、故ニ是等ニ對シテハ、所得稅ノ累進稅ヲ課スルガ如ク——征伐ト云フノガ惡ケレバ是ハ取消シマス——緩和致ス、必要ガアルダラウト私ハ考ヘルノデアリマス、是等ノ所謂三町歩以上ノ土地所有者ニ對シテハ所得稅ニ定メテアルガ如キ累進稅率ヲ御執リニナツタナラバ、ドウデアラウカ、斯ク致シタナラバ、其制度ノ結果ト致シマシテ、自作農ノ創設トモナルデアリマセウ、又自作農ヲ維持スルコトモ出來ルノデアリマセウ、而モ一方ニ都市——都會ニ集中スル所ノ弊害ト云フモノヲ防グコトモ出來ルデアリマセウ、而モ土地分配ト云フモノガ極テ公平ニ相成リマシテ、農村ト云フモノ、美風ガ保タレル事ニ相成ルダラウト思フノデアリマス、現ニ斯ノ如キ所ノ制度ハ御承知ノ通り、丁抹ニ於テモ小農法ト云フ一ツノ制度ヲ以テ現在實行致シテ居リマス、此營利ヲ目的トセザル所ノ農業銀行ハ御承知ノ通り、亞米利加ガ世界ニ率先致シマシテ、其制度ト云フモノヲ定メテ現ニ實行致シテ居ルノデアリマス、決シテ是亦私ノ空理空論デハアリマセウ、世界ノ所謂農業國ノ、而モ農業ニ忠實ナル國ニ於ケル所ノ實例デアリマス、果シテ政府ハ私ガ只今申上ダマシタ如ク、土地制度ノ改正ヲ行ハル、意思アリヤ否ヤ、又營利ヲ目的トセザル所ノ農業銀行ヲ設立サル、所ノ意思アリヤ否ヤ、是ガ第七問デアリマス、要スルニ今日ハ御承知ノ通り、産業立國ト云フコトガヤカマシク唱ヘラレテ居リマス、併ナガラ其議論ヲ綜合致シマスルニ、政府ト云ハズ、民間ト云ハズ、或ハ工業若クハ貿易ヲ盛ニスベシト云フガ如キ事ニ傾イテ居ルノデハナイカト私ハ考ヘルノデアリマス、即チ日本ハ郷土狹シ、所謂領土ガ狹イ、人口ハ少シ、是レ以上ハ工業ヲ盛ニシ、又國民ノ頭腦ヲ發達セシメテ、工業品ヲ盛ニ製造シテ、而モ之ヲ外國ニ賣出スヨリ方法ハナカラウト、斯ウ云フ風ニ私ハ聞エルノデアリマス、併ナガラ此工業ニ從事致シマスル所ノ勞働者、所謂壯健ナル勞働者ノ供給ハ何レカラ來ルカト言ヘバ、是亦農村デアリマス、而モ亦工業勞働、又ハ工業者其他貿易業者ノ食糧、食物ト云フモノハ何所カラ供給ヲ致シテ居ルカト言ヘバ、是亦農村デアアル、而モ軍備縮少ト云フ事ヲ言ハレルガ少クトモ此軍備ト云フモノハ必要デアアル、其軍備ニ要スル所ノ軍人壯丁ハ何レカラ供給致シテ居ルカト言ヘバ、是亦農村カラ供給ヲ致シテ居ルノデアリマス、故ニ私ハ工業ヲ盛ナラシメヤウ、



貿易ヲ盛ナラシメヤウト云フ點ニ付テ、異議ヲ挾ム者デアリマセヌケレドモ、ソレ等ヲ盛ナラシムル所ノ一要素デアル所ノ農業ト云フモノモ、少クトモ商工ト同ジ如ク、併進的ニ發達セシムルノ必要アリト私ハ考ヘルノデアリマス、是亦國ヲ保ツ所以ナリト私ハ考ヘルノデアリマス、此見解ヨリ致シマシテ、今日最モヤカマシク論議サレテ居ル所ノ、而モ農村ニヤカマシイ所ノ小作爭議、其他農村ニ起リツツアル所ノ社會問題ニ付テ御尋ヲ致シタ次第デアリマス、何卒深切ナル御懇切ナル御答辯ヲ要求致シマス  
(參照ハ略ス)

之ニ對シ田中(隆三君)政府委員ハ同日口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

只今土井君ヨリシテ農業政策ニ關シテ種々御抱負ノアル所、御經綸ノアル次第ヲ承リマシテ、此席ニ於キマシテ敬聽致シテ居リマシタノデアリマス、而シテ其掲ゲラレマシタ所ノ諸項目、例ヘバ小作爭議ニ關スルコトハ、或ハ農民ノ都市ニ集中スル趨勢、或ハ農商工トノ負擔ノ割合如何、其輕重ノ模様、或ハ又進ンデ土地制度ニ關シテ、何等ノ施設ヲ此際スル必要ナキカト云フヤウナ諸問題ニ付キマシテハ、政府ニ於テモ慎重調査考慮ヲ盡シテ居ル事柄デアリマシテ、既ニ一昨年ノ臨時議會ニ於テ、其調査ニ關スル費用ノ御協賛ヲ得マシテ、爾後小作制度調査委員會ト云フモノヲ設ケマシテ、屢、集合シテ意見ヲモ闘ハシ、又一方ニ於テハ其意見ヲ定メルニ付テノ各般ノ調査ニ從事シツ、アルノデアリマス、土井君モ其委員ノ一人ト成ラレテ居ルノデ、度々私共モ御名論ヲ拜聽シツ、アル譯デアリマス、ソレ故ニ此重大ナル問題ニ付キマシテハ、土井君ハ勿論ノ事、皆様ト共ニ政府ガ力ヲ協セマシテ、一日モ早ク良案名策ヲ得テ、其實行ヲ致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、之ヲ以テ御答ト致シマス

三 農村政策ニ關スル再質問

- 一 今ヤ小作爭議ハ全國ニ普遍シ往々ニシテ其ノ惡化ヲ見ムトス之ニ處スル當面ノ對策ヲ何故ニ政府ハ講セサルヤ
- 二 農會法及小作法ノ制定ハ農村ニ對スル恆久政策ニシテ小作爭議ニ處スル當面ノ對策ニ非ス政府ノ所見果シテ如何
- 三 小作爭議ニ處スル當面ノ對策ハ速ニ小作組合法又ハ農業組合法ヲ制定シ勞資協調ノ主旨ニ基キ地主及小作人ノ共濟慰勞其ノ他共同ノ利益ヲ保護増進スルノ事業ヲ營マシムルニ在リ政府ノ所見果シテ如何
- 四 政府ハ少數者ノ爲學校昇格ニ急ニシテ多數國民ノ教育特ニ農村ニ於ケル補習教育及農業教育ヲ忽ニセル理由如何竝政府ハ此ノ現狀ニ甘スルヤ否ヤ
- 五 自醒シタル農民ハ踵ヲ接シテ都市ニ走ラムトス而モ都市計畫ハ益此ノ勢ヲ助長セムトス政府力之ニ處スル對策ヲ講セサルノ理由如何
- 六 農村ニ於ケル中堅階級ハ負擔ノ苛重物價ノ騰貴等ニ依リ滅亡スルモノ多シ政府力之ニ處スル對策ヲ講セサルノ理由如何
- 七 政府ハ小面積ノ耕地所有者ノ地租ヲ免除シ大面積ノ所有者ニ對シ累進的地租ヲ課スルコト



猶所得稅法ノ如クシ更ニ自作地購入資金ヲ供給スル爲營利ヲ目的トセサル農業銀行ヲ設立スルノ意思ナキヤ否ヤ

十一年二月二十七日土井權大君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月十四日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

再質問デアリマスルガ故ニ極テ簡單デアリマス、實ハ政府ヨリ答辯書ガ來ルコト、考ヘテ居ッタノデアリマス、然ルニ答辯書ニ接シマセヌカラ、已ムナク此壇ヲ汚ス次第デアリマス、先日私ガ農村政策ニ關スル質問ヲ致シマシタニ對シテ、田中農商務次官ハ極メテ懇篤ナル御答辯ガアッタノデアリマス、而モ此農村問題ハ官民一致、舉國一致解決ヲ付ケナケレバナラヌト云フ御誠意モ見エタノデアリマス、併ナガラ私ガ御尋致シマシタ七ツノ箇條ガ其時アッタノデアリマス、其七問ニ對シ何等ノ具體的答辯ニ接シナカッタノデアリマス、ソレガ故ニ再質問主意書ヲ提出シタ次第デアリマスケレドモ、第一乃至第七ハ諄々シク申上ゲマセヌ、唯此中ノ極ク重要ナ事ノミヲ申上ゲタイ、第一ハ小作爭議當面ニ對スル政策ハ何デアルカ、如何ナル當面ノ對策ヲ持タレテ居ルカ、此事ガ第一デアリマス、ソレカラ第二ニハ小作組合法、又ハ農業組合法ノ如キモノヲ制定サレテ、勞資協調ノ趣旨ニ基イテ、此際地主及小作人ノ共濟慰安、其他共同ノ利益増進ノ方法ヲ講ゼラル、ノ意思アリヤ否ヤ、是デアッタノデアリマス、ソレカラ第二ハ補習教育、農業教育ト云フモノニ向ッテ如何ナル政策ガアルカト云フコトヲ御尋致シタノデアリマス、所ガ丁度今ヤ帝國教育會ニ於キマシテ、日本全國ノ農業教員大會ガ開ケテ居ルノデアリマス、本月ノ七日、八日、九日ノ三日ニ互リマシテ、農業補習教育ト云フコトニ付テ、種々審議ヲ致シテ居ル、其結果如何ナル意見ヲ發表シ、如何ナル決議ヲ發表シタカト申上ゲマヌルナラバ、如何ニモ今日農業補習教育ト云フモノガ忽セニサレテ居ル、尤モ政府ニ於キマシテモ、之ヲ忽セニシヤウト云フ意味デハナイケレドモ、經費ガ之ニ伴ハナイガ爲ニ已ムナク忽セニ相成ッテ居ル、其原因ハ何處ニアルカト言

ヘバ、御承知ノ通り隨分議會ニ於テヤカマシイ所ノ義務教育費ノ問題スラモ解決ガ付イテ居ラヌ今日デアアル、ソレガ爲ニ農村ニ於キマシテモ、國家ニ於キマシテモ、此農村補習教育ト云フモノヲ顧ミル暇ガナイ、ソレガ爲ニ大切ナル教育ト云フモノヲ忽セニスルノ已ムナキニ至リ、等閑ニ付スルノ已ムナキニ至ッテ居ル、今日最モ急務デアアル所ノ實業教育及農村補習教育ト云フコトニ於キマシテ、少クトモ實業補習教育及農村教育獎勵ノ爲ニ、五百萬圓以上ノ國庫補助ヲ與ヘテ貫ヒタイ、斯ウ決議ヲ致シテ居ルノデアリマス、丁度二百三十餘人相集リマシテ、其決議ヲ致スト同時ニ請願書ヲ今日持ッテ來テ居ル、斯ウ云フ次第デアリマス、果シテ政府ハ此補習教育並ニ實業教育ニ對シテ、如何ナル御考ヲ御持チニナッテ居ルカ、之ガ第二デアッタノデアリマス、第四ハ中堅階級ガ今ヤ負擔過重ノ爲ニ滅亡ニ赴キツ、アルガ、之ニ對シ如何ナル政策ヲ御執リニナルカト云フ尋デアッタノデアリマス、ソレカラ第五ハ此地租ヲ累進稅ノ制度ニ改メルノ意思アリヤ否ヤ、第六ハ營利ヲ目的トセザル農業銀行ヲ設立スルノ意思アリヤ否ヤ、是ダケデアッタノデアリマス、骨子ハ是ダケデアリマス、此事ニ付テ速ニ書面ヲ以テ答辯ヲシテ戴キタイノデアリマレドモ、骨子ハ是ダケデアリマス、此事ニ付テ速ニ書面ヲ以テ答辯ヲシテ戴キタイノデアリマス、實ハ本月ノ二十日ニ日本農民大會ナルモノガ東京ニ開ケルノデアリマス、是ハ政友會ノ方モ、憲政會ノ方モ、又國民黨、庚申俱樂部、無所屬等ノ農政ニ御熱心ナル方々ガ農政研究會ナルモノヲ御造リナッテ居ルノデアリマス、其方々ガ發企ト相成リ、日本全國各郡ヨリ二名以上ノ代表者ヲ出シテ、農民ノ利害休戚ニ關スル問題ヲ、帝都ニ於テ討議スルト云フコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、只今私ガ承ラント欲シタコトハ、總テ多クノ農民ガ聽カントシテ居ル次第デアリマスルガ故ニ、成ルベクハ此農民大會ノ以前ニ、書面ヲ以テ御答辯アラントヲ御依頼ヲ致シテ、此再質問ヲ致シタ次第デアリマス

之ニ對シ山本農商務大臣、床次內務大臣、中橋文部大臣、高橋大藏大臣ハ三月二十四日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ



一 各地方ニ起リツ、アル小作爭議ニ關スル當面ノ對策ハ地方廳等ヲシテ夫々其場合ニ應シ之ヲ講セシメツ、アリ

二 大體ニ於テ貴見ノ通り但シ農會法ノ改正ヲ機トシ農會カ自ラ進ンデ一層爭議ノ調停仲裁ニ當ルニ至ラハ當面ノ對策トシテ相當ノ效果アルヘシト信ス

三 第三項ニ關シテハ政府ニ於テ折角調査研究中ナリ

四 農村ニ於ケル補習教育及農業教育ノ普及發達ニ就テハ從來政府ノ大ニ意ヲ用キ來リタル所ニシテ近年農業補習學校及農業學校ノ數著シク増加シ其内容又漸次充實ノ域ニ向ハントス然レトモ政府ハ斯教育ノ現狀ニ満足スルモノニ非サルヲ以テ將來益之カ振興ニ力ヲ致サムトス

五 人口ノ都市集中ハ現今世界各國ニ於ケル自然ノ勢ナリ政府ハ農民ヲシテ農村ニ安住セシムル爲各種ノ産業組合等ヲ獎勵シツ、アリ將來益之ニカムヘシ

六及七 政府ハ中小農民ノ生活ノ安定ニ關シテハ從來各種ノ方策ヲ講シ來レルカ尙臨時財政經濟調査會及小作制度調査委員會ニ於テ調査中ナリ

#### 四 關東州及朝鮮ニ對スル施政ノ方針ニ關スル質問

一 滿洲及蒙古ニ於ケル鐵道政策ノ完成ハ日支親善日支共存ノ實現ニ關スル重要案件ナリ然ルニ此ノ使命ヲ全フスヘキ南滿洲鐵道株式會社ノ經營狀態ハ之ヲ裏切リツツアルノ事實鮮カ

ラス更ニ未設鐵道ニ對スル政府ノ措置又甚々遲緩ヲ極メ居レリト思惟ス政府ノ之ニ對スル辯明ヲ求ム

二 帝國ハ關東州ニ於テ唯礎確不毛ノ地上ニ租借權ヲ擁シ舊露西亞帝國時代ノ遺策ヲ踏襲シ徒

ニ宏壯ノ建築物ニ膠著シテ多數ノ遊民的文武官人ヲ置キ爲ニ無聊ニ苦シムノ結果瀆職罪ヲ犯スモノアリ黨人ト結托シテ官規ヲ紊ルモノアリ又或ハ官權ヲ濫用シテ三十里堡事件及取引所建値事件等ノ場合ノ如ク支那人ノ惡感ヲ挑發シテ國策ヲ誤ルカ如キモノアリ速ニ根本

策ヲ確立シテ一大革新ヲ行フノ必要アリト思惟ス之ニ對スル政府ノ所見奈何

三 關東州カ黨略本位ノ政治ニ毒セラレタルコトハ阿片事件滿鐵事件等ニ政府ノ大官政府與黨所屬代議士等ノ連坐セル事實ニ徵スルモ明白ナリ政府ハ一日モ速ニ其ノ真相ヲ明ニシ善後策ヲ講セサルヘカラサル責任アルニ拘ラス該事件豫審終結後約半歲ナラムトスルモ該豫審

調書ヲ祕密ニシ公判ヲ開廷セシメス帝國議會閉會ヲ俟タムトス是レ政府及政府與黨ノ戰慄スヘキ事實ノ公表セラルミヲ恐ルルカ爲ナリト云フ若事實ナリトスレハ眞ニ聖代ノ一大怪事ナリ更ニ又此ノ事件ヲ隱密ノ裡ニ葬ラムトシツツ一面ニハヨリ大ナル醜惡ノ事實ヲ以テ黨人ノ私利ヲ營ミ國家ノ體面ヲ汚瀆スルカ如キ行爲カ政府大官及黨人等ニ依テ敢行セラルルカ如キ事實ナキカ政府ノ答辯ヲ求ム



四 大連商品取引所創立及大連遊歩場即チ敷島廣場拂下等ニ關スル官規紊亂乃至瀆職事件ニ對シ當局官憲ハ一旦取調ニ著手シタル筈ナルニ爾來杳トシテ聲ナシ其ノ經過奈何

五 關東州ノ行政カ從來三頭政治ノ弊ニ苦シメラレタル如ク近ク更ニ金建銀建兩派ヲ生シ轢軋暗闘是レ事トシ經濟界ヲ惡化セルコト言語道斷ニシテ更ニ對支政策ヲ傷ケムトスルモノアリ是レ實ニ内閣不統一ノ結果ニシテ又政府大官中ノ或者カ一部人士ヲ煽動シテ之ヲ助長セシメタルノ事實アリ殊ニ特殊銀行カ鼓ヲ鳴ラシテ政府ノ政策遂行ヲ阻害シ政府大官ノ使喚セル日本人カ支那人ト呼應シテ排日ノ助勢ヲ爲スカ如キハ看過スヘカラサルコトニ屬ス政府ハ此ノ事實ニ對シ如何ナル措置ヲ執ラムトスル乎

六 本年十月滿洲奉天ニ於テ曝露シタル朝鮮人ノ陰謀事件ハ我カ官民ノ關係セルモノアリト云フ果シテ事實ナリヤ殊ニ犯人釋放ニ關シ外務大臣ハ奉天駐在帝國總領事ニ打電シタリト聞ク其ノ真相奈何

七 朝鮮統治ノ現狀ヲ一言ニシテ評スレハ罪惡ノ政治ニ非サレハ聲ノ政治而已ト謂フノ外ナシ假令ハ農事改良會社ノ如キ其ノ成立ノ裏面ニ言フニ忍ヒサル醜怪ノ事實ヲ藏シ又帝國議會ニ於テハ再度不成立ノ運命ニ接シタル程ノ札附案ナルニ拘ラス更ニ之ヲ提案シテ通過ヲ計ラムトスル其ノ真意果シテ那邊ニ在リヤ又驛屯土拂下ノ成績ノ如キ當局ノ聲明ヲ裏切り却

テ土地兼併ノ弊ヲ助長シ排日運動ノ資金供給ニ終ラムトスト謂フニ非スヤ而シテ文化政治ト稱スルモノモ實ハ却テ國民生活ノ安定ト幸福トヲ脅威シ滅殺スルノ事實ヲ道路ニ鐵道ニ勸業ニ警察ニ又課稅ノ上ニ現ハシツツアリ之ニ對スル政府ノ所見奈何

八 時代ハ何物ヲモ民衆化セムトスルノ現代ニ於テ獨リ文化政治下ノ朝鮮警察ノ軍隊化ハ奇怪ナリ而モ其ノ軍隊化セル警察ハ之ヲ憲兵警備時代ニ比スレハ銃器數ニ於テ三倍人員ニ於テ二倍半經費ニ於テ三倍ノ増加ヲ示シ居レルニ拘ラス保安交通其ノ他一般行政警察事務ハ退步セリ是レ朝鮮統治上ノ一大問題ナリ政府ノ之ニ對スル所見奈何

九 國境ニ於ケル事件ノ統計ハ前年度ニ比シ四倍ヲ越エムトスルノ不穩狀態ニアルニ拘ラス國境警備ヨリ憲兵ヲ撤退セシメ更ニ一層經費ト人員トヲ要スルコト多カラムトスル警備方法ヲ執ラムトスル理由奈何殊ニ文化政策ヲ標榜シ又鄰邦官憲ニ對シ不逞鮮人討伐ヲ要請シナカラ朝鮮内ニ馬賊ノ大集團ヲ駐屯横行セシメ之ニ武器彈藥ヲ供給シテ帝國領土内ニ於テ帝國臣民ヲ殺傷セシメ鄰邦官民ヲシテ脅威ニ陥ラシメ遂ニ一種ノ國際問題ヲ惹起スルヤ他國軍隊ニ對シテ帝國領土内ノ討伐ニ來ラムコトヲ慫慂シタルカ如キ形跡アリ眞ニ重大ノ失態ナリ政府ハ之ニ對シテ考慮シタルコトアルヲ聞カス如何ニシテ其ノ責任ノ所在ヲ明ニセムトスル乎明確ナル答辯ヲ求ム



十年十二月二十七日山道襄一君外一名ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ一月三十一日高橋總理、内田外務兩大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 質問ノ趣旨明カナラサルモ南滿洲鐵道株式會社ノ經營狀態ハ良好ニシテ滿蒙開發ノ使命ヲ辱カシメサルノミナラス日支親善ヲ阻碍シタルカ如キ事實無シ尙ホ滿蒙ニ於ケル支那未設鐵道ノ敷設ニ關シテハ地方經濟ノ發達上速成ノ必要ヲ認メ適當ノ措置ヲ執リツツアリ
- 二 政府ハ大正八年以來數次關東廳官制ヲ改正シテ銳意施政ノ改善ニ努メツ、アルモ偶々管内ヨリ瀆職罪トシテ起訴セラレタル者アルハ遺憾ニ堪ヘス又州内支那人ニ對スル行政ニ付テハ常ニ深甚ノ考慮ヲ怠ラス正義人道ノ下ニ勗メテ公平ヲ期シ日支共榮ノ實ヲ舉ケツツアリ從テ質問書ニ例示セル三十里堡官有土地交換事件、大連取引所建值變更事件等ハ勿論其他如何ナル場合ニ於テモ苟クモ官權ヲ濫用シテ其ノ惡感ヲ挑發シタルコトナシ
- 三 阿片事件滿鐵事件ハ目下裁判所ニ繫屬中ナルヲ以テ不日裁判ノ確定ニ依リ明瞭ナルヘシ質問書ニ「政府ハ豫審調書ヲ祕密ニシ公判ヲ開廷セシメス」トアルモ政府ハ該裁判ニ對シテ干渉ニ涉ルカ如キ行爲ヲナシタルコトナシ
- 四 大連株式取引所設立ニ關スル瀆職事件ハ豫審ニ於テ有罪ノ決定ヲ受ケ現ニ公判ニ繫屬中ナ

- 一 ルモ大連市敷島町遊歩地拂下ニ關シテハ瀆職又ハ官紀ヲ紊亂シタル事實ナシ
- 五 大連取引所建值問題ハ既ニ圓滿解決ヲ告ケ客年九月六日金建ニ依ル取引開始以來取引順調ニ行ハレ其ノ取引高ノ如キモ好成绩ヲ示シ支那人取引人亦全部取引ニ參加シ最早不穩ノ狀況ヲ認メス尙本件ニ關シテ政府大官中一部人士ヲ煽動シテ紛擾ヲ助長セシメタル如キ者無ク又政府ハ特殊銀行カ政府ノ政策遂行ヲ阻碍シタルノ事實ヲ認メス
- 六 質問書ニアル朝鮮人ノ陰謀事件トハ如何ナルコトヲ指示スルヤ明カナラサルモ政府ハ大正十年十月奉天ニ於テ斯クノ如キ事件アリタルヲ認メス
- 七 朝鮮ノ統治ニ關シテハ政府ハ一視同仁ノ大義ニ遵ヒ時勢ニ順應シ現下ノ事情ニ稽ヘ最モ急務ト認ムル治安、教育、産業等各般ノ事項ニ付キテ改革ヲ行ヒ只管民衆ノ安寧ト幸福トヲ圖リ著々其ノ成績ヲ舉ケツツアリ質問書ニ例示セル土地改良ニ關スル特殊會社ノ設立ハ之レ朝鮮ニ於ケル農耕ヲ助長シ併セテ帝國食糧問題ノ解決ニ資セムトスルモノニシテ何等醜怪ノ事實アルナシ驛屯土ノ賣却ニ關シテハ之ヲ小作人ニ賣拂ヒ健實ナル多數ノ自作農ヲ育成セムコトヲ期シ著々豫期ノ成果ヲ得ツツアリ又租稅其他統治上ノ施政ニ付國民生活ノ安定ト幸福トヲ脅威シ滅殺スルカ如キ事實ヲ認メス
- 八 騷擾事件勃發以來政府ハ朝鮮ノ情勢ニ鑑ミ警察取締ヲ嚴密ニ行フノ必要ヲ認メ警察官ノ増



八 員ヲ行ヒ又其ノ活動ヲ敏活有效ナラシムルノ方法ヲ講スル等專ラ警察力ノ充實ヲ圖リタルモ質問書ニ謂フカ如キ狀況ニアラス而シテ保安交通其ノ他一般行政警察事務ハ漸次改善ヲ加ヘツツアリテ毫モ退歩セル事實ヲ認メス

九 質問書ニハ國境ニ於ケル事件數前年度ニ比シ四倍ヲ越エムトス云々トアルモ事實ハ之ニ反シテ前年度ヨリ却テ減少シ特ニ不穩ノ狀態ニアルヲ認メス又從來憲兵ヲシテ國境監視ニ任セシメ命令系統ノ異ナルル憲兵警察官ヲ同一地方ニ於テ類似ノ勤務ニ當ラシメタルハ同方面ノ情況ニ鑑ミ止ムヲ得ス執リタル一時的ノ手段ニシテ最早其必要ヲ認メサルニ至リタルヲ以テ該憲兵ヲ撤廢シ警察官ヲ以テ之ニ代ヘムトスルモノナリ次ニ昨春馬賊ノ一隊カ支那軍警ノ討伐ニ逢ヒ逃竄シテ鮮内惠山鎮ノ奧地密林地帯ニ潛入シ居リタル事實アルモ政府ハ其ノ駐屯ヲ許容シ又ハ之ニ武器彈藥ヲ供給シタルコトナク帝國領土内ニ於テ帝國臣民カ彼等ノ爲ニ殺傷セラレタル事實アルヲ認メス而シテ本事件ニ關シ他國軍隊ヲ帝國領土内ニ討伐ニ來ラムコトヲ從憑シタルコト斷シテナシ

五 鐵道貨物輸送ニ關スル質問

一 近時鐵道貨物輸送ニ關シ貨車不足配給爭奪及從業員等ニ原因シ其ノ輸送ニ支障ヲ來シ貨主

營業者ノ困憊ヲ訴フル現狀ニ在リ政府當局ニ於テ之ヲ認メサルヤ

二 鐵道貨物輸送ニ關シ下關驛發貨物ニ於テ特ニ其ノ甚シキヲ見ル就中同驛唯一ノ特種貨物トシテ取扱フヘキ鮮魚輸送ニ關シテハ冷蔵貨車等ノ設備不足ナルノミナラス其ノ輸送量ノ益増加スルニ係ラス其ノ設備供給ニ至テハ却テ之カ減少ヲ來シ營業者ノ困憊及損害甚大ニシテ容易ナラサル現狀看過スヘカラサルモノト思料ス當局ハ之ヲ諒知セラルルヤ否

三 貨物輸送ノ停滯ハ延テ其ノ價格ニ影響シ就中特種貨物タル鮮魚ノ如キニ於テハ其ノ輸送時期ヲ遲滯セムカ鮮度ヲ損シ保存處理ニ窮シ鹽藏又ハ肥料ニ製造スルノ止ムヲ得サルニ至リ消費地タル大都市ニ於テハ却テ鮮魚供給ノ不足ヲ告ケ多數市民ヲシテ價格ノ不廉ト不鮮不味ヲ歎セシメ他面ニ於テ漁業者ハ捕獲物ノ陸上不能ノ爲空シク數日間滯船スルノ損害ハ非テ尋常ナル巨額ニ達シ斯業發達ヲ阻害スルモノニシテ食糧問題ノ喧シキ今日其ノ價格調節上何等影響ナシトナスカ

四 政府ハ銳意各方面ニ鐵道敷設ヲ高唱スト雖鐵道ノ樞軸タルヘキ所謂幹線ニ於テ斯ノ如キ輸送狀態ハ果シテ鐵道經營上遺算ナキモノト謂フヘキヤ政府ハ徒ニ鐵道敷設ノ量ニ腐心シ質ヲ閑却スルモノトノ譏ヲ受クルニ至ラサルヤ

五 斯ノ如キ狀態ニ於テ推移將來セムカ鐵道經營輸送ニ關シ他ヨリ其ノ缺陷ニ乘セラレ屋上屋



ヲ架スルカ如キ又更ニ補助機關ノ必要ヲ唱ヘシメ鐵道ノ機能ヲ減却スルノミナラス諸種ノ弊害ヲ釀成スルニ至ラサルヤ如何

六 以上ノ事實ト理由ニ依リ現今ノ鐵道貨物輸送狀態ハ當局ノ責任ニシテ其ノ施設宜シキヲ得サルモノト思料セラル速ニ其ノ原因ヲ精査シ施設改善ヲ爲ス意志ナキヤ如何

十一年一月二十一日藤井啓一君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ一月三十一日元田鐵道大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 貨車ノ配給ハ當局ノ最モ注意シ居ル所ナルモ或ハ片輸送ニ偏シ或ハ貨物不時ノ出荷多キ爲メ殊ニ貨主ニ於テ輸送後之ヲ引取ラサルカ爲メ困憊ヲ感スルコト多シ當局ニ於テハ之レカ調節ニ最善ノ努力ヲナシツ、アリ
- 二 下關驛發鮮魚輸送ニ關シテハ鐵道ニ於テモ特ニ輸送ニ注意シ列車ヲ指定シ冷藏車ヲ常備シ極力其ノ輸送ニ努メ居レルカ近時特ニ其ノ數量ヲ激増シ來リ大正七年ニ四萬七千噸同九年ニ五萬七千八百噸ナリシモノ大正十年ニハ一躍九萬一千餘噸ニ昇リタルヲ以テ既ニ省有冷藏車ノ約半ヲ下關驛ニ常備シ更ニ百五十輛ノ共通冷藏車ヲ割キテ之ニ當テ尙不足ノ分ニ就キテハ有蓋貨車ヲ以テ之ニ補ヒツツアリ即チ鐵道ハ其ノ現在所有冷藏車約五百五十輛ノ七

割ヲ割キテ下關ノ鮮魚輸送ニ當リツツアリ一般ニ鮮魚ノ輸送ハ冬季最モ盛ニシテ夏季ニ於テハ殆ト其ノ半ニモ達セス之ヲ昨年ノ實數ニ見ルモ十一月一萬四百餘噸十二月一萬一千四百餘噸ナルニ對シ七月四千噸八月三千二百餘噸ニ過キササルヲ以テ特ニ冷藏裝置ヲ必要トスル夏季ニハ現在ノ冷藏車ヲ以テ遙ニ餘裕アルヘキモ事國民ノ生活ト重大ナル關係アルヲ以テ特ニ最近更ニ百五十輛ノ増備ヲ計畫シ製作改造ノ途ニ在リ

三 鐵道ハ鮮魚輸送ニ就キ特別ノ考慮ト優越ナル取扱ヲ爲シツ、アルモ鮮魚ノ託送量ハ日ニ依リ著シキ波動アリ之レ漁業ノ性質上已ムヲ得サラムモ鐵道ハ他ノ一般貨物ノ振合上日々收獲ヲ豫想シテ貨車ヲ遊泊用意スルコトヲ得サル場合アリ故ニ大都市ニ對スル鮮魚ノ供給ヲ潤澤ニシ且ツ其ノ鮮度ヲ保持センニハ勢ヒ荷主側ニ於テモ發地ニ鮮魚冷藏ノ設備ヲ爲シ鐵道ニ於テモ取扱輸送ニ就キ充分ノ努力ヲ爲シ相俟テ需給ノ圓滑ヲ期スルノ外ナカラム

四 政府ハ益金全部及公債ノ一部ヲ充當シテ極力改良ヲ計畫シ輸送計畫實行ノ施設ニ就キ努力シツツアリ敷設ニ對シテハ公債ノ一部ヲ充當スルニ過キス徒ニ敷設ノ量ニノミ腐心スルモノニアラス現ニ貨車モ每年約二千輛ヲ新造シ又山陽線ノ如キ極力複線ノ完成ニ努力シツツアリ

五 以上ノ理由ニ依リ鐵道ハ極力輸送改善ニ努力シツツアルヲ以テ斯カル弊害ヲ釀成スルコト



ナシト信ス

六 歐洲戰亂以來出貨ノ狀勢激増シ鐵道ハ常ニ輸送施設ノ改善ヲ計リツツアルモ或ハ尙及ハサルモノアラムコトヲ虞レ鐵道財政ノ許ス範圍ニ於テ極力施設ノ改善ニ努力シツツアリ右ニ對シ同日藤井啓一君ハ意見ヲ陳述セリ

六 帝都ノ公安維持ニ關スル質問

一 最平和ヲ要スヘキ世界ノ公道タル東京驛頭ニ於テ屢流血ノ慘事ヲ見ルハ一般國民ノ均シク遺憾トスル所ニシテ殊ニ帝都二百萬市民ノ不安ニ堪ヘサル所ナリ曩ニ親日鮮人閔元植ノ事アリ今又内閣總理大臣政友會總裁原敬君刺客ノ襲フ所トナリ非命ノ死ヲ遂ク實ニ國家ノ不祥事ニシテ憲政史上ノ一大惡痕タリ政府ハ原君被害ノ原因ハ奈邊ニ在リト認ムル乎且其ノ責任如何

二 政府ハ屢脅威セラルル帝都公安ノ維持ニ關シ從來如何ナル手段ヲ採リ且將來如何ナル方策ニ出テムトスル乎

三 既往ノ事跡ニ徴スルニ帝都ニ於ケル特殊ノ警察機關タル警視廳ヲ存置スルノ必要ナク寧ロ之ヲ廢止シ一般ノ制度ニ歸セシムルヲ適當ナリト信ス政府ノ所見如何

十一年一月二十一日横山勝太郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ二月二十一日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本員ハ帝都ノ公安ニ關スル重大ナル事項ニ付テ、政府ノ所見ヲ質シテ置キタイト思ヒマス、此質問ヲ起シマス理由ハ、其質問書ニ梗概ヲ説明致シテ置キマシタ通り、諸君モ御承知ノ通り平和アリ、最モ靜肅デアルベキ萬國ノ公道ト稱シテモ宜シイ東京驛ニ於テ、屢、流血ノ慘事ヲ見ルト云フコトハ、洵ニ帝都ノ爲ニ遺憾トスルノミナラズ、我國ノ名譽ノ爲ニ甚ダ遺憾ニ存ズルモノデアリマス、曩ニハ親日派ノ鮮人閔元植君ガ東京驛ニ於テ暗殺ヲセラレマシタ、今復タ政友會ノ總裁、時ノ總理大臣デアラレタ所ノ原敬氏ガ、不幸ニシテ刺客ノ襲フ所トナツテ、非業ノ死ヲ遂ゲラレタト云フコトハ、洵ニ憲法史上ノ一大汚點デアリマシテ、吾々ハ非常ニ之ヲ遺憾トスルモノデアリマス、ソコデ第一ニ吾々ノ憂フル所ハ、斯ノ如ク東京市ノ中央、而モ宮城ヲ距ルコト僅ニ數町ノ東京驛ニ於テ、屢、斯ノ如キ慘事ガ演出セラレルト云フコトハ、先刻申上ゲタ如ク帝都ノ一大不安デアリマス、吾々、帝都ノ住民ハ、重大ナル生命、自由、財産ト云フモノヲ何ニ依ツテ保護スルコトガ出來ルカト云フ不安ノ状態ニ陥ルノハ已ムヲ得ヌコトデアアル、帝都ハ申ス迄モナク政治ノ中心點デアリマス、政治ノ中心點デアル所ノ帝都ノ住民ガ、不安ヲ感ズルト云フ事柄ハ、聽テ我ガ日本帝國全體ノ不安デアルト云フコトヲ吾々ハ斷言シテ憚ラヌ者デアリマス、斯ノ如ク政治ノ中心タル三百萬ノ帝都ノ住民ガ、生命、自由、財産ノ上ニ非常ナル脅威ヲ感ジ延テ全國ノ不安ヲ來シタト云フ事柄ハ、全ク我ガ内務行政ノ一部タル警察ノ不振ト云フコトヲ暴露致シタモノデアルト、私ハ斷定致サナケレバナラヌ、是等ノ點ニ付テ、吾々ハ屢、此壇上ニ立ツテ内務大臣ノ所見ヲ質シテ居ルノデアリマスケレドモガ、未ダ曾テ徹底シタル意見ヲ承ルコトガ出來ナイト云フコトヲ、私ハ遺憾ニ存ズルノデアリマス、斯ノ如ク吾々、帝都ノ住民ガ、非常ナル不安ヲ感ズルト云フ事柄ハ、我ガ帝國ノ前途ノ爲ニ極テ憂慮スベキ事項デアルト存ジマスカラ、私ハ以下數項ニ互ツテ、政府當局ノ御意見ノ在ル所ヲ承リタイノデアリマス、先ツ第一ニ承リタイノハ、



原總理ガ東京驛ニ於テ暗殺ヲセラレタト云フコトハ、當時ノ新聞雜誌ニ依ッテ極テ詳細ニ報道セラレテ居リマスガ、併ナガラ其原總理ガ暗殺ヲセラレタル原因ニ付テハ、當局ノ責任アル言明ヲ承ツタコトガナイノデアリマス、苟モ大政黨ノ首領デアッテ、而モ時ノ内閣ノ總理大臣デアル所ノ原氏が、暗殺ヲセラレタト云フコトデアリマスナラバ、内務當局ハ其司法上ノ責任ガ何レニ歸スルヤハ、暫ク司法權ノ解決ニ之ヲ委託スルト致シマシテモ、斯ノ如キ慘事ハ何ガ故ニ起ッタノデアルカト云フコトノ原因ハ、必ズ調査ヲ爲サルベキ筋合デアルト私ハ考ヘル、而シテ一國ノ總理大臣トモアラウ者ガ、公然東京驛ニ於テ殺害セラレルト云フヤウナ事柄ハ、將來ノ政治家ノ以テ鑑トスベキ事項デアリマスガ故ニ、何故ニ斯ノ如キ重大ナル結果ヲ生ジタカト云フ事柄ハ、苟モ國民治安ノ責任ヲ雙肩ニ擔ウテ居ル所ノ内務當局ハ、最モ詳細ニ此事項ヲ調査致シテ、再ビ斯ノ如キ慘事ノ國民ノ前ニ演出セラレルトコトノナキヤウニ御盡力ニ相成ルノガ私ハ當然デアアル、斯ウ考ヘテ居リマス、而シテ原首相ハ如何ナル原因ニ依ッテ、暗殺ノ害ヲ被ラレタカト云フコトヲ、吾々ハ冷靜ニ考慮致シマスノニ、是ハ或ル新聞ノ記事等ニ依レバ、外來ノ危險思想ヲ抱懷致シテ居ル所ノ或ル團體ノ教唆煽動スル所デアアル、斯様ニ傳ヘル者モアリマスケレドモ、併シ事實進行ノ今日ニ於テ、其結果ヲ調査致シマスノニ、全ク原首相ノ暗殺ハ、外來ノ思想ニ煽動セラレタモノデモ、教唆セラレタルモノデモナイト云フコトハ、極テ明瞭デアリマス、共產主義ノ思想モ、無政府主義ノ思想モ、過激思想ノ事柄モ、一切此問題ニハ關係ヲ持ッテ居ラナイト云フコトガ今日明瞭デアアル、隨テ何カ迷信ノ結果ヤッタモノデアアルカト申シマスレバ、左様ナ事柄モナイ、然ラバ原總理ヲ暗殺シタル所ノ中岡良一ハ、知覺精神ノ上ニ何等カ異常ナル者デアアルカト云フコトヲ調査致シテ見ルノニ、是亦完全ナル責任能力ヲ有スル者デアッテ、意思ノ點ニ於テ寸毫モ缺點ノ無イ人デアアル、刑法ヲ適用スル上ニ於テ、裁判官ハ毫モ考慮ヲ費スコトヲ要シナイ、完全ナル意思ヲ持ッテ居ル人デアルト云フコトモ極テ明瞭デアアル、然ラバ多クノ場合、人ヲ殺シ、人ヲ害スルト云フ場合ニハ、私ノ憤懣惡恨ノ情ト云フモノガ、能ク其原因ヲ爲スモノデアリマスガ、原總理ト中岡良一トノ間ニ、斯ノ如キ私的惡恨ノ關係ガアルカト申シマスレバ、是亦絕對ニ何等ノ

關係モナイコトガ明瞭デアリマス、斯ノ如ク詮シ來レバ、何ガ原因デアアルカト云フコトガ問題トナルノデアリマス、是ニ於テ私ハ中岡良一ガ裁判官ノ前ニ於テ供述シタル其供述ノ一端ヲ、諸君ニ御紹介ヲ申シテ、サウシテ政府當局ノ考慮ヲ爲サル、資料ニ供シタイト斯ウ考ヘルノデアリマス、極テ簡單デアリマスカラ、朗讀致シテ置キマス、中岡良一ハ豫審廷ニ於テ、裁判官ノ訊問ニ對シテ、斯ウ答ヘテ居リマス、「問、政治問題ニ付テハ何時頃カラ考ヘルヤウニナッタカ」答、昨年五月頃、尼港問題ガ起ッテカラ政治方面ニ注意スルヤウニナリマシタ」「問、ドンナ風ニ考ヘタカ」答、尼港問題ヲ新聞雜誌デ見テ政府ノ手拔リニ依ッテ彼様ナ失政ヲ生ジタト憤慨シマシタ、ソレニ青島問題ニ關スル政府ノ交渉ガ頗ル消極的デアルト思ヒ、東京市疑獄事件ニ付テハ、畏多クモ明治神宮參道不正工事ヲシタリ、又瓦斯疑獄ニ付、現ニ代議士トモ言ハル、者ガ政黨ニ關係アル爲メ、採消運動ヲシタト云フ新聞記事ヲ見、又相當ノ辯護人ガ犯罪ヲ辯護スルモノハ宜イガ、犯罪ヲ免レルヤウナ方法ヲ教ヘタト云フコトナドハ、怪シカラヌト思ヒマシタ、滿鐵事件ニ付テモ、半官半民ノ會社ガ個人ヨリ故ラニ高ク買込ミ、其何人ガ政友會ニ關係シテ居ルト云フコトデアリ、阿片事件ニ付テハ、高官ガ賄賂ヲ貰ッテ選舉ノ費用ニ供シ、内務次官トモ言ハル、者ガ、此國務ノ忙シイノニ伊勢神宮ヲ參拜スルコトハ宜イデスガ、伊勢神宮參拜ノ序デアルト云フテ、遙々熊本マデ行キ、政友會ノ人ノ選舉應援運動ヲシタリ、福島ノ選舉デハ官憲ヲ以テ妨害ヲシタリ、又華盛頓會議ノ大使ニハ平素軍備縮少ニ付テ考ヘテ居ル島田、尾崎ナドノ適任者ガアルノニ、今マデ左様ナ事ニ關係ノナイ徳川公爵ヲ選ンダノハ、徳川内閣ヲ作ル準備デアリ、彼様ナ事ヲ新聞雜誌デ見ル度ニ、現内閣ハ私ヲスル、怪シカラヌ政府デアルト思ヒマシタ、古賀、阿部、内務次官、其他ノ者モ惡イト思ヒマシタガ、斯様ナ者ガ惡イ事ヲシテモ、其儘打捨テ置クノハ、上ニ立ッ總理大臣ガ惡イト思ヒマシタ」「問、労働問題ニ付テハ別ニ考ヘナカッタカ」答、特ニ考ヘマセデシタガ、神戸ノ労働問題ガ起ッタ時、警官ガ三菱、川崎等ノ金持ヤ政黨關係アル者ニ味方ヲシ、労働者ハ亂暴スル者トキメテ拔劍シタナドハ怪シカラヌト思ヒマシタ」「問、斯様ナ政治ニ對スル憤慨ニ付テ原首相ヲ殺スト云フ考ハ何時頃持ッタカ」答、本年ノ夏以來只今申上ゲタヤ



ウナ稅政ガ頻々トシテ起ッテ來タノデ、是ハ誰カ、原首相ヲ斃スダラウ、斃セバ宜イガト思ッテ居リマシタラ、誰カ爆彈ヲ腰ニシテ原首相ヲ斃サウトシタガ、失敗シタト云フ新聞ヲ見、又原首相ヲ誰カ斃サウトシテ居ルト云フ話ヲ聞キマシタガ、若シ誰モヤラナケレバ自分ガヤラウト段段思フヤウニナリマシタ」問、愈、自分ガ手ヲ下シテ原首相ヲ殺サウト決心シタノハ、何時カ」

「答、前ニ申上ゲタ通り朝日平吾ガ安田善次郎ヲ殺シタニ付、驛デ話ヲシタ、翌晩寢テカラ決心ヲ固メマシタ」斯ウ云フコトニナッテ居リマス、此豫審判事ニ對スル中岡良一ノ答辯ハ果シテ中岡良一ノ答辯ガ誤ッテ居ルカ居ラヌカト云フコトハ、私之ヲ茲ニ論議スルノ自由ヲ有シマセヌ、兎ニ角時メク政友會ノ總裁原敬氏ヲ東京驛頭ニ於テ暗殺シタル中岡良一ハ、斯ク政治上ノ原因ニ依ッテ暗殺シタルデアルト云フコトヲ、裁判官ノ前ニ公言致シテ居ルト云フ事柄ハ、政友會ノ諸君モ、現内閣ノ諸公モ、大ニ考慮ヲセラレナケレバナラヌ事項デアルト云フコトヲ私ハ申ス資料ニ供スルノデアリマス、斯ノ如ク政治上ノ理由ヲ以テ中岡良一ハ原首相ヲ殺シタルデアルカ、此中岡良一ノ考ガ間違ッタカ、ドウカハ姑ク別問題ト致シテ、吾々モ中岡良一ノ行爲ニ共鳴スル者デアリマセヌ、然レドモ原内閣ノ時代ニ於テ、第一普通選舉ヲ阻止スルノ目的ヲ以テ、民意ヲ知ルノ必要アリト稱シテ、帝國議會、即チ衆議院ノ解散ヲ致シタト云フ事柄ハ何トシテモ民衆ノ反對ヲ買フベキ一ツノ原因デアルト云フコトヲ私ハ斷言シテ憚ラヌ者デアル、殊ニ今日坊間ニ宣傳セラレテアリマスル阿片事件ノ豫審終結決定書ヲ拜見致シマスレバ、古賀長官ノ罪跡ハ裁判官ノ責任ヲ以テ署名ヲシテ居ル、公表文書ニ於テ明瞭デアル如ク、其犯罪ハ今日此席デ申ス必要ヲ認メマセヌガ、兎ニ角諸君モ御承知ノ通り、數年前ニ廣東政府ノ紙幣ヲ偽造シタリトノ嫌疑ノ下ニ、東京地方裁判所ノ檢事局ノ起訴スル所トナリ、第一審ニ於テ自由刑ノ裁判ヲ受ケテ、東京控訴院ニ控訴シタル結果、兎ニ角無罪ニハナツタケレドモ、ソレハ證據不十分ノ結果無罪ト云フコトノ宣告ヲ受ケテ居ルニ過ギナイ、兎ニ角前科トハ申シマセヌガ、非常ナル罪惡ノ嫌疑ヲ受ケタ、社會的ニ觀察スレバ立派ナ政治的ノ前科ノアル人間デアルト謂ハナケレバナラヌ、其惡名紛々タル古賀廉造氏ヲ、處モアラウニ再ビ拓殖局長官ノ顯職ニ推薦ヲ致シタト云フ事ハ、私

ハ時ノ總理大臣原敬氏ハ、上、天皇陛下ニ對シテ古賀廉造ヲ推薦シタル事ノ顛末ニ付テノ責任ヲ感ゼラレナケレバナラヌト云フ事ヲ、私ハ茲ニ斷言ヲスルノデアアル、又古賀長官ノミナラヌ、阿部府知事ノ推薦ハ如何デアリマス、阿部府知事ノ今回ノ事件以前ノ事ハ、私ハ此處デ言明スルノ必要ヲ認メマセヌガ、東京府知事ニ再ビ任命セラレテ以來ノ阿部府知事ノ公人トシテノ行動ト云フモノハ、到底吾々東京府民、東京市民、否國民ノ之ヲ承認スルコトヲ得ザルモノガ澤山アリマス、殊ニ瓦斯問題ニ付テハ御承知ノ通り警視廳ノ高等官デアアル所ノ熊谷巖カラ、郡部ノ瓦斯料金値上認可ノ一日モ速カナランコトノ請託ヲ受ケテ、サウシテ某待合ニ於テ五千圓ノ小切手ノ提供ヲ受ケタト云フコトノ事實ハ極テ明瞭デアリマス、此五千圓ノ小切手ノ提供ヲ受ケタル際ノ顛末ハ、是亦諸君ハ新聞紙ニ依ッテ御承知デアラウト考ヘマスガ、言下ニ之ヲ排斥スルコトヲ爲サズシテ、明日午前十時ニ官邸ニ來レト、斯ノ如ク裁判官ノ前ニ供述ヲ致シテ、纔ニ檢舉ヲ免レテ居ルノデアリマス、阿部府知事ト熊谷保安部長トハ役所ハ異ッテ居リマスルガ、同ジク我が帝國ノ高位高官ノ人デアリマシテ、上官下官ノ關係ヲ持ッテ居ルノデアリマス、若シ阿部氏ニシテ最モ公平デアリ、最モ廉直ノ士デアラバ、此五千圓ノ提供ヲ受ケタル際ニ、明日午前十時ニ官邸ニ來レト言フヨリモ、言下ニ之ヲ叱責シ之ヲ斥ケ、而シテ相當ナル官紀肅正ノ手段ヲ執ルト云フノガ、阿部府知事ノ執ルベキ途デアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、吾々ハ此五千圓ノ顛末ニ付テ、若シ明朝午前十時ニ熊谷保安部長ガ官邸ニ行キシナラバ、ドウナツタノデアラウカト云フコトニ付テ、今日之ヲ考ヘテ見マス、甚ダ怪訝ニ堪ヘナイノデアアル、斯ノ如キ人ヲ推薦ヲ致シテ、斯ノ如キ事柄ガ原因トナリ結果トナッテ、サウシテ東京市ノ所謂瓦斯事件、即チ疑獄事件ト云フモノヲ惹起シテ居ルノデアアル、之ニ付テ上長官デアアル所ノ内務大臣モ總理大臣モ責任ヲ負ハヌト云フコトハ、私ハ無責任ノ極デアルト斷言シテ憚ラヌモノデアアル、原總理大臣ハ此議會ニ於テ義勇奉公ノ念慮ガ國民ノ間ニ減退シツ、アルト云フ事柄ヲ聲明セラレテ居リマシタガ、國民ノ義勇奉公ノ精神ガ減退スルト云フ事柄ハ、其責國民ニモ在ルカモ存ジマセヌガ、苟モ天下ノ政柄ヲ握ッテ居ル所ノ一國ノ總理大臣ガ、官吏ノ任命ニ付テモ、其他部下ノ官吏ノ爲



ニ爲シタル罪跡ニ付テモ、一モ責任ヲ負荷セズシテ、サウシテ顧ミテ他ヲ言フガ如キ態度ノアルト云フコトハ、綱紀紊亂ノ責原首相ニ在リテ、國民ノ義勇奉公ノ念衰頹ノ原因ハ、原總理大臣自ラ之ヲ造ツタモノデアルト私ハ斷言スル者デアリ、吾々ハ斯ノ如キ事柄ガ原因トナツテ、中岡良一ガ遂ニ東京驛頭ニ於テ之ヲ暗殺シ、而シテ帝都三百萬ノ住民ノ不安ヲ惹起スルヤウナコトニナツタモノト認メルノデアリマスルガ、果シテ政府當局ハ左様ニ認メルカドウカ、若シ左様ニ認メルナラバ、此事項ニ付テ如何ナル責任ヲ執ルカ、一ニ下級ノ警察官ヲ譴責シタリ處罰シテ、ソレデ此責任ガ濟ムトハ私ハ信ジナイ、直接ノ責任ヲ負フベキ者ハ、警視總監デアルト私ハ考ヘル道路傳フル所ニ依レバ、警視總監ハ此問題ニ付テ責任ヲ引イテ進退伺ヲ出シタトカ、或ハ辭表ヲ出シタトカ云フコトガ傳ヘラレテ居ルノデアリマスガ、ソレガ今日依然トシテ警視總監ノ職ニ在ルト云フコトハ、果シテ如何ナル原因デアルカ、曩ニ閔元植ノ事アリ、今又政友會ノ總裁ガ暗殺セラレテ、サウシテ現内閣ノ諸君ガ平然トシテ雲煙過眼シテ居ル、又二百八十ノ黨員ヲ有シテ居ル所ノ政友會ノ諸君モ、諸君ノ最モ尊敬ヲセラレル、否或ル程度マデ我が大日本帝國ノ國民ガ尊敬シテ居ル所ノ原總理大臣ガ暗殺セラレタ、其責任者ヲ問責スルコトガ出來ヌト云フノハ、何タル意氣地ノ無キコトカト私ハ思フノデアリマス、是ハ獨リ現内閣ノ責任ノミナラズ、私ハ政友會ノ諸君モ亦此點ニ付テ責任ヲ負擔セラル、必要ガアルト考ヘルノデアリマス、此原因——此責任ニ付テ政府ノ御意見ヲ承リタイ、原因果シテ斯ノ如シトセバ、後ノ總理大臣トナリ、後ノ政治家タルベキ者ハ、之ヲ以テ鑑トスベキ必要ガアルト、斯ウ信ズルノデアリマス、ソレカラ第二ニ御尋ヲ致シテ置キタイノハ、此從來ノ高位高官ノ人ニ對スル取締ハ、如何ナル方法ヲ以テヤツテ居タカト云フコトデス、是ハ閔元植ノ暗殺セラレタ當時ニモ、私ハ政府當局ニ質ス所ガアリマシタガ、唯尾行ノ巡查ヲ附ケテ置イタトカ、警護ノ警察官ヲ附ケテ置イタトカ云フガ如キ、無責任極マル答辯ヲナサレテ、責任アル答辯ヲ避ケテ居ラレマスガ、從來一體斯ウ云フ帝國ノ憲法政治ヲ運用スル上ニ於テ、最モ尊敬シナケレバナラヌ一黨ノ總裁デアリ、或ハ總理大臣デアルトカ云フ人ニ對シテ、如何ナル警護ノ方法ヲ講ジテ居タカ、如何ナル取締ノ方法ヲ講ジテ居タカト云

フコトヲ私ハ聽キタイノデアリマス、尙ホ進ンデ之ニ關聯シテ承ラナケレバナラヌコトハ、將來ヲドウスルカト云フ問題デアリマス、今警視總監ノ指揮ノ下ニ在ル所ノ警察官ハ、實ニ一萬二千二百有餘ノ多キニ達シテ居リマス、サウシテ帝國ノ總理大臣トシテ、一國ノ政治ノ樞機ヲ握ツテ居ル所ノ政友會ノ總裁ガ、最モ平安デアアルベキ東京驛頭ニ於テ暗殺セラレタ、此一萬二千二百有餘人ノ警察官ハ、何ヲ致シテ居ッタデアルカ、果シテ此一萬二千二百有餘人ノ警察官ヲ以テシテモ、斯ノ如キ慘事ヲ豫メ防止スルコトガ出來ヌト云フノナラバ、將來大ニ經費ヲ増加シ更ニ又人員ヲ増加シテ、サウシテ斯ノ如キ事ノ再ビ起ラザルコトヲ注意スルノ必要ガアルト考ヘルノデアリ、此點ニ付テ如何ナル考慮ト用意トヲ爲サレテ居ルノデアリマスルカ、ソレヲ承ラントスルノデアリマス、第三ノ事項トシテ承リタイノハ、質問書ニ其要領ヲ盡シテ置キマシタ通り、私ノ意見ハ警視廳ヲ斷然此際廢止スベシト斯ウ云フノデアリ、警視廳ヲ廢止シタカラト申シテモ、警視廳ノ警察事務ヲ全然拋擲シテ顧ミルコトヲ要セヌト言フノデアリマセヌ、各府縣ノ官制ト同ジク、之ヲ府知事ノ手ニ一任スルト云フコトモ一ツノ方法デアリ、又或ル論者ノ主張スル如ク、之ヲ東京市長ノ手ニ移スト云フノモ一說デアリ、其孰レヲ執ルモ必シモ私ハ此際議論ヲスル譯デアリマセヌケレドモガ、吾々ガ警視廳廢止ヲ唱フル所以ハ第一ニ感情ノ上カラ私ハ左様ニ申ス……宜シウゴザイマス、警視廳ト云フ言葉ヲ聽クト吾々ハ何トナク異様な感ジガ致シマス、ソレカラ警視廳ノ廢止ヲ政府ニ建言シ、又政府ノ意見ヲ尋ヌル上ニ於キマシテ、第一ニ申上ゲナケレバナラヌノハ、從來警視廳ガ警視廳トシテ如何ナル功績ガアッタカト云フコトデアリマス、吾々ノ見ル所ヲ以テスレバ、警視廳ハ從來民衆ノ運動ヲ妨害シ、若シクハ民論ノ抑壓ヲヤツテ、不當ニ人權ノ蹂躪ヲ致シタト云フ事實ハ、極テ明瞭デアリマスケレドモ、ソレ以外ニ何等ノ功績ヲ認ムルコトガ出來ナイ、若シ強テ警視廳ナル特別ノ高等警察機關ニ功績ガアリシト主張スルナラバ、纔ニ内閣ノ高等「ボーイ」ヲ勤メタト云フニ過ギナイト私ハ考ヘル、御承知ノ如ク警視總監ハ内閣ニ直屬スルノ所以ヲ以テ、内閣ノ更迭スル毎ニ警視總監モ同時ニ更迭ヲスルノデアリマス、此故ニ警視總監トシテ帝都公安ノ維持ニ對スル重大ノ責任ヲ持ッテ居ル警視總監ハ、帝都



ノ住民ノ保護ト云フヨリモ、寧ロ内閣擁護ヲ以テ其職責ト致シテ居ッタト云フ事柄ハ、蔽フベカラザル事實デアアル、申スマデモナク我が帝國ノ警察機關ハ帝國ノ警察機關デアアル、吾々國民ノ警察機關デアアルト私ハ斯様ニ考ヘル、其帝國ノ警察機關デアリ、又國民ノ警察機關デアアルベキ重大ナル任務ヲ持ッテ居ル警視總監ガ、其本來ノ任務ヲ忘レテ時ノ内閣ノ鼻息ヲ窺ッテ、内閣ノ耳目トナリ、内閣ノ走狗トナッテ、纔ニ内閣ノ高等「ボーイ」、内閣保護ノ職責ニノミ没頭致ス事柄ハ、是ハ警視廳ヲ廢シタガ宜シイト云フ重大ナル根據ト私ハ信ズルノデアアル、私ハ警視廳當局ニ問ハシ、又警視廳ヲ監督ヲ致シテ居ル内務大臣ニ問ハシ、大正九年六月二十九日午後九時十分頃、即チ第四十三議會、臨時帝國議會ノ召集セラレタル當時、衆議院ノ正門ニ爆彈ヲ投ジタル犯人ノアルト云フコトヲ御記憶デアリマセウ、最モ自由デアリ、最モ神聖ヲ尊ブ所ノ民論ノ府デアアル所ノ帝國議會、衆議院ノ正門ニ爆彈ヲ投ジタル犯人ガアルト云フ事柄ハ、我が帝國ノ憲法史上洵ニ吾々ハ大ニ脅威ヲ感ジ、又憲法史上ノ一大汚點デアアルト斯様ニ考ヘル、其犯人ハ未ダ以テ之ヲ逮捕スルコトガ出來ナイノデアアル、私ハ曾テ一言致シタコトガアル通り、政友會ノ本部ニ放火シタル犯人ハ、直ニ之ヲ檢舉スルコトガ出來タガ、一國ノ立法府デアアル此神聖ナル衆議院ノ正門ニ爆彈ヲ投ジタル犯人ガ捕ラヌト云フコトハ、是ハ警視總監ノ無能無力ノ致ス所デアアルト、私ハ斷言致スノデアアル、左様ニ無能無力ナ者ヲ獨立ノ高等警察機關トシテ存續セシムル事ノ必要ハ認メマセウ、今ノ警視總監、今ノ警視ノヤル位ノ事ハ、之ヲ東京府知事ノ管轄ニ歸屬セシメテモ、私ハ十分出來ルト考ヘマス、否、十分出來ルノミナラズ、内閣ノ直屬デアアルト云フ事ノ關係ヲ離脱スル關係上、東京府知事ガ時ノ政争ニ卷込マレズシテ、時ノ政事運動ニ超越シテ其任務ヲ執ルコトノ出來ル關係上、寧ロ東京府知事ガ此權利ヲ持ッテ居ッタ方ガ公平ニ其職務ヲ實行シテ行クコトノ出來ル便利ガアルト私ハ斯様ニ信ズルノデアリマス、斯ノ如ク警視廳ノ歴史ハ最モ忌ムベキ歴史デアアル、元來警視廳ナル、特別ノ高等ナル警察機關ト云フモノヲ設ケタル理由ハ、數世紀前歐羅巴各國ガ警察本位ヲ以テ政治ヲ致シタ時代ガアル、政治ノ一切萬事ハ總テ警察官ノ力ニ依ッテ之ヲ行フ、斯ノ如クニシテ歴史ノ上ニ所謂警察國時代ナルモノヲ造リ出シタノデアリマ

ス、併ナガラ十八世紀、十九世紀ニ及ンデ、警察本位ヲ以テ政治ヲスルコトハ宜シクナイ、警察ハ軍事、財政、司法、斯ノ如キモノト獨立シテ内務行政ノ一部トナルベキモノデアアルト云フ思想ガ起ッテ參リマシテ、今日デハ警察國時代ノ思想ト云フモノガ歐羅巴各國ニ無イノミナラズ、日本帝國ニモ左様ノ思想ガアッテハナラヌノデアリマス、然ルニ我が帝國ノ法制ハ何ノ必要アリテカ、何ノ見ル所アリテカ、十六、七世紀時代ノ歐羅巴各國ニ行ハレタル警察國時代ノ舊思想ニ囚ハレテ、サウシテ内閣ノ手足トナッテ働ク高等警察機關タル警視廳ヲ存置シテ居ル事柄ハ是レ、全ク時代錯誤ノ思想ニ基クモノデアアルト、私ハ斷言スルノデアリマス、斯ノ如キ次第デゴザイマスカラ、此改造ノ時期ニ當ッテ、從來數十年ノ間、民衆ノ敵トナッテ民論ノ抑壓ヲ爲シタル以外、何等ノ功績無カリシ國民ノ側カラ見テ、異様ナ感シヲ起ス舊思想ニ基ク遺物デアアル、警視廳ノ如キハ今日斷然之ヲ廢止スルコトガ、此改造ノ時期ニ對スル第一策デアラウト感ズルノデアリマス、此事項ヲ政府ニ質問致シテ、成ベク丁寧ナル答辯ヲ得タイト考ヘマス、之ヲ以テ壇ヲ降リマス

之ニ對シ松田政府委員ハ同日口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

私ハ横山君ニ答辯致シマス、今内務大臣ガ貴族院出席中デアリマスカラ、私ヨリ御答致シマシテ、其足ラナイ所ガアリマシタナラバ、他日或ル機會ニ於テ内務大臣ガ、又直接ニ答辯致スデゴザイマセウ、此帝都ノ公安ノ維持ニ關シマシテ、政府ハ常ニ必要ナル施設ヲ講ジマシテ、深甚ナル注意ヲ以ッテ其任ニ當ッテ居ルニ拘ラズ、曩ニ中岡ト云フ一青年ガ、矯激無謀ノ行動ヲ敢テシマシテ、時ノ内閣總理大臣原敬氏ヲ殺害スルニ至ッタコトハ、最モ遺憾トスル所デアリマス、此原因ニ付テ豫審調書等ヲ朗讀セラレマシテ、横山君ハ質問サレマシタガ、本件目下裁判進行中デアリマス、此裁判結果ヲ待チマスレバ、彼ガ如何ナル信念ヲ以テ時ノ内閣總理大臣原氏ヲ殺害シタカト云フコトモ、明カニナルコトデアラウト考ヘルノデアリマスカラ、如何ナル原因ニ依ッテ中岡某ナル者ガ、時ノ總理大臣ヲ殺害シタカト云フコトニ付テハ、今日ハ答辯スルノ必要ハナカラウ、裁判ノ結果ニ依ッテ明カニナルコトデアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、而シテ其責任者ハ目下



ソレト懲戒處分ニ廻ハシテアルノデアリマスカラ、其懲戒處分ノ結果ヲ待ツテ、ソレト職務上過失ガアレバ懲戒サレルコトデアラウト考ヘル、今ハ責任者ハソレト懲戒處分ニ廻サレマシテ、進行中デアリマス、ソレカラ内閣總理大臣ノ護衛ニ付キマシテハ、政府ハ殊ニ注意致シテ居ルノデアリマスガ、其護衛ニ付テ不注意ガアツタ、或ハ護衛ガ十分アレバ、云フヤウナ不祥ナ事件ハ起ラナカッタカドウカト云フコトモ、是モ今懲戒處分ノ進行中デアリマスカラ、其結果ニ依ツテ果シテ護衛其モノガ不十分デアッタカ、護衛ガ十分アレバ、ア、云フ不祥ノ事ハ起ラナイモノデアアルカト云フコトニ付テハ、其結果ニ於テ明瞭スルコト、私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ帝都ノ治安維持ニ關シテハ、政府ハ常ニ監視廳ヲ督勵致シテ十分努力致シテ居リマス、今回アリマシタル事件等ニ鑑ミマシテ、一層時勢ニ順應スル適當ナル處置ヲ講シマシテ、銳意帝都ノ安寧ノ秩序保持ニ違算ナキヲ期シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、以上申上ゲマシタヤウニ、帝都ノ治安ニ付キマシテハ、十分ナル警察力ト之ヲ運用スルコトニ付テ、深甚ノ注意ト敏速ナル活動トヲ要シマスカラ、是ガ爲ニハ一般内務行政ノ局ニ當ッテ居ル所ノ知事以外ニ、別ニ警察ノ首腦者ヲ置キマシテ、専心其衝ニ當ラシムルコトガ必要デアルト考ヘルノデアリマス、隨テ政府ハ帝都ニ於ケル特別警察機關タル監視廳ヲ廢止スル意思ハナイノデアリマス、又此衆議院ノ前ニ爆彈ヲ投ジテ其犯人ガ今日マデ分ラヌト云フコトハ、政府ニ於テモ非常ニ遺憾ヲ感ズルノデアリマス、嚴重ニ搜查進行致シテ居ルノデアリマスケレドモ、今日マデ何人ガ犯人デアアルカト云フコトノ明瞭シナイノハ遺憾デアリマスガ、斯ル一事ヲ以テ監視廳ヲ廢止スルト云フコトニモナラナイト思フノデアリマス、ソレカラ世界各國ニ監視廳見タヤウナ制度ハ無イト云フコトデアリマシタガ、私ノ調べマシタ所ニ依リマスケレバ、巴里ニモ特別ナル警察機關ガアリマス、伯林ニモアリマシタ、今ハドウナツテ居ルカ知レマセヌガ、前ニハアリマシタ、是ハ日本特有ノ制度デアリマセヌ、要スルニ政府ハ帝都ニ於テハ特別ナル警察機關アルコトヲ必要ト致シテ居リマスカラ、今日監視廳ヲ廢止スル意思ハアリマセヌ、是ダケ御答シテ置キマス

右ニ對シ横山勝太郎君ハ意見ヲ述ヘ松田政府委員之ニ應答セリ

極テ簡單デアリマスカラ、此席カラ發言ヲ御許願ヒマス、只今松田參事官ノ御答辯ノ中ニ、關係者ヲ懲戒處分ニ付シテ居ル、ソレト審議中デアルト云フ御答辯ガアリマシタガ、私ノ質問ノ主旨ハ下級ノ官吏ヲ懲戒處分ニスルト云フヤウナコトヲ以テ満足スル趣旨デアリマセヌ、監視總監ヲドウスルカ、監視總監ノ責任ヲドウスルカ、斯ウ申シタノデアリマス、サウスルト監視總監ヲ懲戒處分ニ付シタト云フコトニ諒解シテ宜シウゴザイマスカ、更ニ進ンデ承リタイノハ、私ハ監視總監ノ懲戒處分ノミヲ以テ満足スルモノデナイト云フコトモ、先刻ノ演說中ニ述ベタ筈デアリマス、然ラバ何ヲ望ムカト云フト、即チ内務大臣ノ責任ヲドウスルカ、警察ハ御承知ノ通り、内務行政ノ一部デアアル、内務行政ノ最高位置ニ居ル所ノ内務大臣ハ、當然其責任ヲ負ハナケレバナラヌト私ハ考ヘル、其内務大臣ノ法律上責任、或ハ政治上ノ責任ヲドウスルカト云フコトヲ承リタイノデアアル、徹々タル警察官ヲ懲戒處分ニ付スルト云フヤウナコトハ、決シテ帝都ノ公安ヲ維持スル方法デナイ、帝都ノ住民ノ不安ヲ除去スル方法デナイト私ハ思フ、内務大臣ヲシテ政治的ノ責任ヲ負ハシメルト云フコトガ、即チ吾々住民ノ生命、自由、財産ヲ保護スル所以デアアル、又帝都住民ノ不安ヲ除去スル所以デアアル、斯様ニ信ズルノデアリマスガ、其點ニ對スル政府ノ御意見ハ如何デアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ、其次ニ承リタイノハ、今尙ホ懲戒處分ノ進行中デアルト云フコトデアリマスガ、ソレデハ餘リニ緩慢ニ失セズヤ、昨年末ニ起ツタ事デアアル、ソレヲ二月ノ二十日ヲ過ギテ居ルニ、マダ詮議中デアルト云フニ至ッテハ、現政府ノ帝都治安維持ニ關スル觀念ガ極テ稀薄デアツテ甚ダ冷淡不深切デアルト言ハネバナラヌト思ヒマス、私ハ之ヲ緩慢ナリト考ヘマスカ、其點ニ付テノ御答辯ヲ要求致シマス

松田政府委員ノ應答

御答致シマス、横山君モ御承知デアリマセウガ、懲戒處分ノ範圍ハ祕密デアリマス、結果ハ公表致シマスケレドモ、今ハ懲戒處分ニ付シテアリマスカラ、如何ナル人ヲ懲戒處分ニ付シテ居ルカト云フコトニ付テハ此處テ明言スル限リデアリマセヌ、ソレカラ内務大臣ノ責任ノコトデアリ



マスガ、是ハ私カラ答ヘルト云フコトハ間違ッテ居ルカ知レマセヌガ私ハ此點ニ付テノ内務大臣ガ、辭職シテ責任ヲ負フ所ノモノデナイト云フコトヲ考ヘテ居リマス、ソレカラ緩慢デアルトカ、緩慢デナイトカ云フコトハ、是ハ各人ノ考ヘ次第デアリマスガ、政府ハ其事ハ進行中デアリマシテ、決シテ緩慢デナイト認メテ居リマス

七 長崎縣五島航路補助費ニ關スル質問

- 一 長崎縣五島列島ヲ中心トスル汽船會社トシテハ九州汽船、五島汽船、佐世保汽船、松浦汽船ノ四大會社アリ然シテ政府ハ比較的基礎薄弱ナル五島汽船會社二十一年度ヨリ多大ノ航路補助ヲ與フルハ如何ナル理由ニ依ル乎
- 二 五島汽船會社ハ九州汽船會社ト無運賃競争ヲ爲シ其ノ結果五島汽船會社ハ資力既ニ盡キ維持困難ニ陥リタルヲ以テ之カ救濟トシテ右航路補助費ヲ與ヘタリト聞ク政府ノ所見如何

十一年一月二十四日橋本喜造君ハ右質問主意書ヲ提出シタルモ提出者ハ同月二十五日之ヲ撤回セリ

八 義勇奉公心ニ關スル質問

近時我カ國民思想惡化ノ甚シキ何人モ憂慮措ク能ハサル所ナリ殊ニ帝國三千年獨立ノ基礎タル義勇奉公心ノ衰頹セルハ實ニ深憂ニ堪ヘサルナリ去レハ昨年故原首相ハ年頭ノ辭ヲ以テ國民ニ警告スル所アリ高橋總理大臣モ亦本年年頭ノ辭ニ於テ義勇奉公心ヲ旺盛ナラシメサルヘカラスト叫ヘリ

十數年前日露戰後歐米人ハ一齊ニ我カ國戰勝ノ基因ハ日本國民ノ勇敢ナル義勇奉公心ニ在リト喝破セル此ノ麗ハシキ大和民族特有ノ崇高ナル犧牲的精神カ何故ニ今日斯ノ如ク衰頹セリト思惟スルヤ

十一年一月二十七日田中善立君ハ右質問主意書ヲ提出シ一月三十一日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

近時我カ國民思想惡化ノ甚シキ何人モ憂慮措ク能ハザル所デアリマス、殊ニ帝國三千年ノ獨立ヲ能ク支ヘ來ツタル義勇奉公心ノ衰頹ハ、實ニ深憂ニ堪ヘマセヌ、サレバ昨年目出度キ年頭ノ辭ノ中ニ、故原首相ハ此點ニ就テ國民ニ警告スル所アリ、今又高橋總理大臣ハ本年年頭ノ辭ニ此精神ヲ旺ナラシメネバナラヌト叫ンデ居ラル、次第デアリマス、抑、此精神ハ我ガ大和民族ガ建國以前ヨリ有スル愛他的ノ崇高ナル犧牲心デアリマス、此精神ガアル爲ニ三千年間幾度モ外難ニ迫リマシタケレドモ、能ク之ヲ免レテ以テ金甌無缺ノ我ガ帝國ヲ成シテ居ル次第デアリマス、全ク帝國獨立ノ基礎デアリマス、三千年間佛教或ハ儒教ニ依ッテ培養訓練サレタル此精神近ク日露



戰爭當時ニ、戰後歐米各國人が我國ニ視察ニ參ッテ、歸ッテ報告シテ居ル所ヲ見マスト云フト、日露戰捷ノ原因ハ全ク此精神ニ在ルト云フコトガ一致シテ居ル次第デアリマス、斯ノ如ク帝國ニ取ッテ最モ大切ナル此精神ガ、日露戰爭十數年後ノ今日何故ニ斯ノ如ク衰頹シタモノデアルカ、必ヤ其原因ナカルベカラズデアリマス、之ヲ床次内務大臣ハ、是ハ教育家、宗教家將タ浪花節ノ輩ガ努力足ラザル結果デアラウト云フ所カラ、就任以來三年一日ノ如ク思想善導ヲ叫バレテ天下知名ノ教育家、宗教家將タ浪花節ヲ優待督勵セラレマシテ、全國津々浦々ニ涉ッテ思想善導ノ講演ヲ既ニ約二萬回開カレタト云フコトデアリマス、御盡力ノ段ハ感謝ニ堪ヘマセヌガ、不思議ナル事ニハ一向其效果ガ今日現レテ居ラヌノデアアル、下手ナ演說デモ數百回スレバ多少ノ效果ハアリマスガ、天下知名ノ教育家、宗教家ガ三年間二萬回ニ互ッテノ講演會ヲ開イテモ、不思議ナル哉、效果ガ少シモ現ハレテ居ラヌト申スノハ外デモナイ、故原總理大臣、現總理大臣ガ嘗テ總理大臣トシテ何人ニモ言ハザリシ此不祥ナル義勇奉公心衰頹云々ト云フコトヲ、目出度キ年頭ノ辭ニ叫バナケレバナラヌ位ニ、國民ノ思想ハ二年前ヨリ惡クナッテ居ル、若シ床次内相ガ之ヲ叫バル、前ヨリモ思想ガ善クナッテ居ルナラバ、斯ウ云フ事ハ兩總理大臣ガ叫バル、必要ハ無カッタノデアリマス、ソレヲ叫バナケレバナラヌ位ニ、一年此大切ナル國民思想ガ衰頹シタコトハ論ヨリ證據デアリマス、シテ見レバ其效果ガ無イト云フコトハ、決シテ妄言デアアルマイト思フ、何故デアリマスカ、惟フニ是レ床次内相ノ御觀察ガ誤ッテ居ッタ爲デアラウト考ヘルノデアリマス、即チ此國民思想ノ病源ノ由テ來ル所ノ御觀察ガ間違ッテ居ッタデアラウト思フ、如何ニ名醫ト雖モ病源ノ由テ來ル所ヲ知ラズシテ藥ヲ盛リマシタナラバ、其藥ハ却テ其病人ニ仇ヲ爲スコトモアリマス、此病源ト云フモノハ決シテ教育家、宗教家、浪花節輩ノ怠慢ノ結果ニアラズシテ、其由テ來ル所ハ外ニ在ッタノデアラウト思フ、即チ政治家ノ心得違ヨリシテ、其言フ事、爲ス事ガ、此病ノ源ヲ爲シタモノト私ハ思フノデアリマス、是ハ敢テ不肖ナル私ガ初テ申上ゲル次第デアアリマセヌ、明治大帝ガ既ニ此事ハ仰セラレテ居ルノデアリマス、明治四十四年二月十一日濟生會ヘ下シ賜ヒシ詔勅ノ中ニ、此事ハ仰セラレテアル、アノ御詔勅ノ中ニ斯ウ云フ言葉ガアリ

マス、人心動モスレバ其歸嚮ヲ謬ラントス、政ヲ爲ス者宜シク深ク之ニ鑑ミ益々憂勤シテ業ヲ進メ教ヲ敦クシ以テ健全ノ發達ヲ遂ゲシムベシト、教育家、宗教家ノ事ハ一言半句モ仰セラレテ居ラヌノデアリマス、何故人心ガ斯ク險惡ニナッタカト言ヘバ、是ハ政治家ノ不心得ノ結果デアルカラシテ、心ヲ入替ヘテ以テ國民ヲ、身自ラ教育家、宗教家ニナッタ考デ、篤ク教ヘテ此心ノ病ヲ健全ニ直シテ吳レンケレバナラヌト仰セラレテ居ルノデアリマス、之ニ依ッテ見レバ明ニ民心ノ腐敗墮落ハ、政治家ノ腐敗墮落ニ在リト云フコトヲ、既ニ先帝陛下ハ仰セラレテ居ルノデアリマス、又我國文明ノ母ニシテ帝國中興ノ偉人ニ在シマス聖德太子ハ、千三百餘年前ニ十七憲法ノ第九條ニ「群臣共ニ信アレバ何事カ成ラザラン」政治ヲ司ル者ガ誠心ガアルナラバ何事カ成ラザラント仰セラレテ居ルノデアリマス、其次ニ「群臣信無クンバ萬事悉ク破ル」政治ヲ扱フ者ガ嘘偽リノ精神ヲ以テ事ヲシテ居ルナラバ、其爲ス事ハ悉ク破壊サレテシマフト、痛切ニ政治家ヲ御戒メニナッテ居ルノデアリマス、此點ニ付テ現内閣諸公ハ何ト御心得ニナッテ居ルノデアリマスカ、故原首相ガ常ニ此處ニ立ッテ詭辯ヲ弄サレタコトハ最早申シマスマイ、現總理大臣ガ過日來ノ議員ノ質問ニ對スル御答辯ヲ見テモドノ點ニ誠ガアルカ、吾々ハ之ヲ發見スルニ苦シムノデアリマス、又歷代ノ内閣、時ニ粗末ナル大臣モアッタノデアリマスケレドモ、一國文教ヲ司ッテ居ル所ノ文部大臣ダケハ、何時モ眞面目ニドノ内閣ニ於テモ政務ヲ執ッテ居ラレルノデアアル、然ルニ現文部大臣中橋徳五郎君ハドウデアリマスカ、其言ハレル所常ニ虛偽デアアル、大切ナル政務ニ關スル中橋文相ノ御言葉ハ、常ニ天下ヲ欺瞞シテ居ルト私ハ思フノデアリマス、彼ノ學校昇格問題ニ付テモサウデアリマス、明ニ天下ヲ欺イテ居ルノデアアル、約束ヲシタ覺テハ無イト言ハレマスケレドモ、自分ガ必ズ大正十年度カラ豫算ニ計上シテ昇格シテヤルト言ッタナラバ、即チ是ハ約束デアアル、ソレヲ履行セザルガ故ニ所謂ニ枚舌ト言ッテ天下カラ攻撃セラレル、是ガ嘘偽リニアラズシテ何ゾヤ、又一昨年島田三郎君ガ株賣買問題ニ付テ質問ヲ致シマシタ、其時ニ中橋文相ハ何ト此處ニ於テ答辯セラレタノデアリマス、口ニ之ヲ言フノミナラズ、永ク議會ノ記錄ニ遺サレル文書ニ認メ、島田君ニ逆襲セラレタ答辯書ニ何ト書カレマシタカ、匹夫毛筆ニス







カレタガ故ニ、天下皆事實ナリト信ズルニ至ッタデハナイカ、此故ニ不幸ニモ、昨年十一月四日東京驛頭ニ於テ兇及ニ斃レラレタノデアル、若モ之ヲ早ク天下ニ其無實ナル事ヲ發表シテ置カレタナラバ、決シテアノ災難ニ罹ラレル必要ハナカッタノデアル、實ニ彼ノ斃レタノハ自業自得デアルト言ハザルヲ得ヌガ、併ナガラ之ニ依ッテ風教ヲ害セラレ官紀ガ紊亂サレタル其罪科ヲ如何ニスルノデアリマスルカ、實ニ痛恨ノ至リニ堪ヘヌ次第デアリマス、併シ既ニ過去ノ人トナッタル其人ノ罪惡ハ是レ以上申上ゲマスマイガ、今現ニ大政輔弼ノ任ニ當ッテ居ラレル、某々ノ大臣ノ事ニ付テハ、尙ホ申サザルヲ得ヌ次第デアリマス、昨年ノ八月六日發行ノ、信用アル而モ政府ニ好意ヲ表シテ居リマスル時事新報ノ二面記事ニ、如何ナル事ガ掲載サレテアリマシタガ、御覽ニナッタ方ハ御記憶デゴザイマセウガ、念ノ爲ニ私ハ此處デ一讀致シマスル、驚クベキ事ガ掲載サレテアル、未ダ是ハ取消サレテ居ルコトヲ私ハ耳ニシテ居リマセヌガ故ニ、之ヲ讀上ゲテ注意ヲ促ス次第デアリマス、一號活字二號活字ヲ以テ斯ウ云フ見出シニナッテ居リマス「大木法相ヤ古賀廉造及ビ床次内相、九鬼子、岡内男、戸水、平岡、香川ノ諸氏ヲ背景ニ津下精一ノ新犯罪五十餘件ノ新事實ヲ發見シ、檢事モ暫シ呆然」是ガ見出シデアリマス「稀代ノ大事件トシテ社會ノ耳目ヲ聳動セシメタ、彼ノ收入印紙橫領事件ノ巨魁津下精一ノ辯護ヲ執ル筈ナル木村、根津兩辯護士ハ、事件調査ノ結果、政友會代議士ヲ背景トスル臺灣「モルヒネ」拂下事件ニ關スル新事實ヲ發見セル事ハ既報ノ如クデアアルガ、其後著々調査ヲ進メタル處、更ニ驚ク可キ新事實ヲ發見シタノデ、四日兩辯護士ハ五十餘通ノ證據書類ヲ檢事局ニ提出スルト共ニ尼ヶ崎選出憲政會代議士中馬興丸氏ニ其材料ヲ提供シタ、其重ナルモノヲ示セバ、二十萬圓ノ手形偽造ノ件ヲ以テ目下九州デ收監サレテ居ル田中仁作ハ、大阪ノ天下茶屋ノ高橋賢造、西澤四郎ト共謀シ、九州有明灣ノ埋立工事ニ當リ、前政友會代議士山本唯三郎氏カラ十三萬圓ノ負債サヘアリ、併シ自分ハ近ク中央生命保險ノ專務取締役ニ就任スル事ニナッテ居レバ、同社ニ就任次第二百萬圓ヲ貸與スルカラト稱シ、大正九年十月七日同人カラ十五萬圓ヲ借受ケ、右ノ金ヲ以テ田中ハ其後間モナク大木法相、古賀廉造氏ノ斡旋ニ依ッテ中央生命保險ノ專務トナリ濟マシタ、又政友會代議士戸水寛人氏

ハ亞細亞炭礦ト云フ一千萬圓ノ會社ヲ起ス可ク目下著手シテ居ルガ、運動費ガ缺乏シテ居ルカラト稱シ、前記高橋西澤兩氏ハ、津下二十萬圓借入ヲ申込ミ、此際十萬圓ヲ立替ヘ吳レルナラバ、株式デ六十萬圓ヲ只、上ゲル、尙ホ五百萬圓ヲ一箇年間只、貸シテ置クト云フ津下ノ慾深イノヲ附込ミ、牡丹餅ヲ煩ヲ叩クヤウナ契約書ヲ入レ、印紙デ十萬圓ヲセシメ、五萬圓ヲ三人デ分配シ、残り五萬圓ノ印紙ヲ賣リ歩イタト云フ事實デアアル、更ニ二號活字デ題號ヲ更メマシテ「一抔喰ッタ津下、驚イテ印紙ヲ取戻ス」是ガ題號ニナッテ居リマス、「尙ホ西澤ハ九州有明灣ノ埋立工事ノ爲メ政友會代議士横田千之助氏實弟稔氏ヲ社長トシテ十萬圓ノ會社ヲ起スト稱シ、創立費トシテ五千圓ヲセシメテ居ル其後同氏等ハ約束ヲ實行シナイノデ、津下ハ少カラズ立腹シタト云フ、高橋ハ此際津下ニ對シ「拜啓日々御健勝ノ程推察申上候就テハ横田氏ノ例ノ有明灣ノ埋立ノ件ニツキ(中略)七日午後五時ヨリ大木法相、横田長官、小橋内務次官等ト會合スル事ト相成居候間貴下ノ御列席ハ絶對的ノモノ、ニ有之候何卒御諒察萬障御縁合セ御上京被下度候大木法相ハ決定的ニテ外三名ハ都合上一名位缺席ト相成ヤモ知レス候、右ハ絶對的ノ祕密ニ候間御諒承被下度候云々」十一月三十日、津下ニ書面ヲ送ッテ居ル、而シテ右會合ニハ北村辯護士ガ津下ノ代理トシテ列席シテ居ルガ此際五萬圓ノ印紙ヲ賣リ歩イタ事ヲ北村ガ、聞キ込シタノデ、津下ハ大ニ驚キ其印紙ヲ、買取り其後カラ十五萬圓ヲ賣却ヲ致シ、合計十五萬圓ヲ戸水代議士ニ渡ス可ク、去ル二月二十九日寶塚ノ自宅ヲ出發、東京出端ノ妾宅デ津下ハ其筋ノ手ニ逮捕サレタモノデアアル、更ニ一號活字ヲ以テ斯ウ云フ風ニ見出シガ改マッテ書イテアリマス「彼ハ政友會ノ喰物ニ成リタ、檢舉ノ手ハ意外ニ擴大、證據書類ハ悉ク蒐マル、根津辯護士談」トシテアル「尙津下ハ前樺太長官平岡定太郎、香川岡山縣知事、東京共榮銀行專務小池熊吉、濱口英男氏等ガ關係シテ、東京芝區三田赤澤信次ニ支那公債ノ贖物ヲ擱マサレニ十六萬圓ヲセシメラレテ居ル、現在支那ニ於ケル大田銀行ハ右二十萬圓ヲ以テ興サレタルモノデアルト云ッテ居ル、尙ホ秋田縣名尾良信香川岡山縣知事、床次内相ノ關係セル三十萬圓事件、九鬼子爵、岡内男爵ノ關係セル美濃御料林事件、權執院ヲ中心トシテ、後藤男親戚村上仙氏、戸水寛人代議士等ノ關係セル臺灣商券交換所ニ關スル一



萬三千圓ノ横領事件天理教創設者中西丑郎ヲ中心人物ニ、戸水代議士ガ後押セル扶桑教事件ナドノ重ナルモノデ、其他五十餘件ノ驚クベキ事實ガ發見セラレテ居ルガ、右ハ悉ク逃スベカラザル書類及證據物件ガ舉テ居ルノデ、檢事ハ今更ノ如ク驚キノ目ヲ睜ツテ居ルト云フ、更ニ檢擧ノ手ハ意外ノ方面ニ迄及ボスデアラウ、是迄ニ蒐集サレタ證據書類ヲ以テ見ルモ、津下ガ政友會ノ人物ノ喰物ラシイト根津氏ハ語ツテ居タレト云フ、ドウデアリマセウ、如何ナル人モ之ヲ見レバ直ニ驚カル、ニ相違ナイノデアリマス、之ヲ何故ニ政府當局ハ打遣テ置イタデアリマスカ、ソレナ事ハ事實無根デアアルカラ念頭ニ置カナカッタト、蓋シ言ハレルデアリマセウガ如何ニ事實無根デアッタニシタ所ガ、此信用スベキ天下ノ大新聞、而モ常ニ政府ヲ辯護スルガ如キ新聞ニ之ヲ書カレテ、之ヲ黙ツテ置イテ天下信ゼザル者ガ幾人アリマスルカ、現内閣ハ常ニ言論文書ニ壓迫ヲ盛ニ加ヘラレテ居ル所ノ内閣デアアル、然ルニ之ニ對シテ一言半句ノ取消ヲ命ジテ居ラレヌノハ何事デアリマスカ、斯ノ如クニシテ以テ、ソレテ天下ノ人心ヲ健實ナラシムルト言ツタ所ガ、ドウシテソレガ行ハレマスルカ、尙ホ是デモ人心ヲ改メルコトガ出來ル、義勇奉公心ヲ盛ニスルコトガ出來ルト云フ御信念ガアッタナラバ、ドウゾ此所デ簡明ニ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス終ニ申シマスルガ、此外交問題ノ華府會議ニ於ケル所ノ失敗ニ於テモサウデアリマス、四國協約ノ際ニ我ガ本土ヲ入レルト云フコトニ一時ナッタト云フコトハ、直ニ我ガ獨立ノ體面ヲ侵サレタコトニナツテ居ル、而シテ又ソレハ解釋上取消シタ所ガ、立派ニ我ガ本土ト極メラレテ、固ヨリ昔カラ極ツテ居ル帝都ノ門戸タル小笠原島及我ガ帝國ノ南門ノ鎖鑰タル琉球臺灣方面ノ防備制限ヲサレルト云フコトハ、明ニ是ガ帝國ノ獨立ヲ侵害シタル遣方ト言ハザルヲ得ヌノデアリマス、神武建國以來二千五百八十有餘年間、斯ル侮辱的條約ニ調印シタト云フコトハ會テ無イノデアリマス、斯ウ云フヤウナ事ヲ、全權又ハ政府ガ之ヲ認ムルヤウナコトデ、ドウシテ義勇奉公ノ精神ヲ涵養スルコトガ出來マスルカ、此現内閣諸公ハ風教ノ點カラ言ツテモ、外交ノ上カラ言ツテモ、常ニ人心ヲ萎縮シ、人心ヲ腐敗墮落セシメ、此尊キ犧牲的精神タル義勇奉公ノ精神ヲ、破壊スルヤウナ行爲ヲシテ居ルト私ハ思フノデアリマス、是デ尙ホ十分ニ振興スル策アリト云フ御信念ガ

アリマシタナラバ、此所デハッキリ御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス  
之ニ對シ中橋文部大臣ハ同日口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

御答ヲ致シマス、唯今義勇奉公ニ關スル質問書ト云フモノヲ御提出ニナリマシタ其理由ヲ御説明ニナリマシタ、此義勇奉公ニ關スル質問書ノ中ニ、唯今モ御説明ニナリマシタガ、又此主意書ヲ拜見シマスト、今日ノ社會ハ義勇奉公心ニ於テ既ニ非常ニ衰頽シタリト云フコトノ前提ノ下ニ、御質問ニナツタモノト思フノデアリマス、果シテソレ程我ガ同胞ノ義勇奉公心ハ頽廢シテ居ルノデアリマセウカ、私ハ甚ダ之ヲ疑フ——疑フデアリマセヌ、左様考ヘマセヌ多クノ或ハ世間ニ傳ハリ、或ハ新聞紙上ニ記載ニナツタ事柄ヲ一々採ツテ以テ、其事實ヲ正サズシテ直ニ之ヲ針小棒大ニ、世間ニ宣傳スルト云フコトハ、國家風教ノ上ニ於テ如何ニ害ガアルカト云フコトハ、ドウカ御承知置キヲ願ヒタイ、ソレハ反對黨ノ諸君ガ御自分ノ立場ヨリ致シマシテ、攻撃ノ材料ニ御使ヒニナル場合ニハ或ハ必要カモ知レマセヌケレドモ、國家ノ風教ト云フモノヲ維持スルコトノ心ヨリシテ、此質問ニ出タコト、思フノデアリマスカラ、ドウカ事實ハ事實トシテ以テ此質問ヲ發シ、此御演說ヲナサルヤウニ私ハ希望スル、然ラザレバ國家ノ此教育上ニ於ケル風教ニ、非常ナル害ヲ及ボスノデアリマスソレニ付キマシテ私ハ自分ノ所管ニ關シマシタル事柄ヲ主トシテ申上ゲタイ、昨年ノ學校ノ問題ノ起リマシタトキニ約束ヲシタ、其約束ヲ履行シナイト云フコトノ唯今御質問ガアリマシタガ、私ハ申上ゲタ、昨日モ豫算總會ニ於テ申上ゲタガ、約束事ハ致サナイ、聲明ヲ致シタノデ——明ニ聲明ヲ致シタノデ、之ヲ實行シヤウトシツ、アルト云フ譯デアアル、其事柄ハ既ニ昨年ノ春ノ議會ニ於テ、議場ニ於テハ大抵決ツテ居ル之ヲ提出シテ事新シク御質問ニナルダケノ必要ハナカラウト思フ、ソレカラ島田三郎君ノ質問ニ對シマシテノ事實ハ是モ昨年ノ議會ニ於テ此處デ多數ノ御方ガ討論ヲ爲サツテ、事實ハ明瞭ニナツテ居ル、或ハ其時ニ數ガ足ラナイ、理由ガナイカラデ、少數ノ御方ガ今ニソレヲ御主張ナサルカ知レナイ、ケレドモ本議場ニ於テハ其事實ハ既ニ明瞭ニナツテ居ルノデアリマス、國庫補助ノ問題ニ付テ大正



七年デス、私共ガ委員長ニナッテ御互ニ全會一致ヲ以テ彼ノ法律案等ノ如キモノヲ建議ヲ——終ニハ建議ニナリマシタ、之ヲ議決致シマシタ、是ハ此通り今日實行ニナッテ居リマス、又之ヲ段増額シヤウト云フコトモ御互ニ恐ラク此議場ニオキデニナル御方ハ一人モ取除ケ無イモノト私ハ認メル、皆今日ニ至ル迄熱心ニ之ヲ主張シ之ヲ實行シヤウトシテ居ルノデアル、而シテ是ハ財源問題ニ關スル事デアリマスルカラ、吾々ガ如何ニ希望ヲ致シマシテモ、其年ノ歲計ノ按排ニ依リマシテハ、出來ル事モアリ出來ヌ事モアル、之ヲドナタガ——アナタ方ガ内閣ヲ取ッテ處理ナサツテモ同様デアラウト思フ、今日ハドウデアル、今日ハ此同僚ノ希望ニ從ヒマシテ、出來マスナラバ此秋ニ於テ、臨時議會ヲ召集スルコトニナレバ洵ニ結構ダ、然ラバ其時ニ此議案ヲ提出スルコトノ今日ハ計畫ヲ持ッテ進ンデ居ル譯デアル、是ハ早晚實行出來ルニ相違ナイノデアル、ソレカラ最後ニ私ハ申上ゲテ置キタイ、是モ國家ノ風教ニ關スル事デアリマスルカラ、私ヨリシテ一言御答シテ置キタイ、ソレハ滿鐵事件ニ付テ故原總理ガ關係ガ有ッタト言フ、私ハ關係ガ無イト言フ、又阿片事件ニ付テモ關係ガ有ッタト言フ、私ハ之ヲ無イト見ル、併ナガラ是ハ唯今裁判ニ繫ッテ居リマス、新聞紙ニハ色々ナ事ヲ言ッテ居リマス、是ハ新聞ダ、新聞ハ豫想ヲスル、ソレハ中ツタリ中ヲナカッタリスルノデアル、ドウカ斯ウ云フ事ヲ御質問ナサルニ付テハ、事實ヲ十分ニ御確メニナッテ今ノ新聞紙ニ出タ事ヲ以テ、取消スノ取消サヌノト云フコトハ別問題デアラウト思フ、私ノ所管ニ關係シマスル事柄ダケヲ御答辯致シテ置キマス

九 郡道處分ニ關スル質問

郡制廢止ノ結果現在ノ郡道ハ其ノ全部ヲ府縣ノ管理ニ移スヤ否ヤ政府ノ方針如何

十一年一月二十七日下田勘次君ハ右質問主意書ヲ提出シ一月三十一日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ内務大臣ニ對シテ御尋ヲ致スノデアリマス、御答辯ノ模様ニ依リマシテハ直チニ再質問ヲ致スカモ知レマセヌカラ、此點ハ議長ニ於テ御合置ヲ願ヒマス、質疑ハ至テ簡單ナ問題デアリマシテ、郡制廢止ノ曉ニ郡道ノ歸屬ヲ如何ニスルカ、即チ現在ノ郡道ヲ、其全部ヲ内務當局ノ言明サレタ如ク府縣ノ管理ニ移サル、ヤ否ヤ、斯ノ如キ簡單ナ事柄デアリマス、昨四十四議會ニ於キマシテ、郡制ノ廢止案ガ上下兩院ノ議決スル所トナリマシテ確定致シマシタ、三十年來穩健ナ發達ヲ遂ゲテ居リマシタ所ノ、郡ト云フ自治體ノ全廢ノ可否如何ト云フコトハ、是ハ別問題ト致シマシテ、此郡制ノ廢止ニ伴ヒマス所ノ郡ト云フ自治體ガ、從來經營シ來ッタ所ノ事業、其事業ノ處分歸屬ヲ如何ニスルカト云フコトハ、上下一般非常ニ心配シ、内務當局ニ於カセラレマシテモ非常ニ御攻究ニナッタ事ト考ヘテ居リマス、此郡事業ノ中ニ於キマシテ、最モ重キヲ爲シテ居ル所ノ郡道、一萬里餘ニ亙リマスル所ノ此郡道ト云フモノハ、ドウ處分スルカト云フコトハ、郡制廢止ガ本會議ニ上程サレマシタ當日、議員高木正年君ノ質問ニ對シマシテ、床次内務大臣ハ、ハッカリト之ニ對スル處分方法ヲ御答ニナッテ居リマス、床次内務大臣ノ御答辯ヲ道路ニ關スル部分ダケ朗讀致シマス「唯今ノ御尋ハ專ラ道路法施行ノ結果、郡道ナルモノガ出來テ居ルガ、ソレハ如何ニスルカト云フコトニ御質問ノ眼目ガ在ッタヤウニ思ヒマス、ソレハ郡道ハ將來准府縣道トシテ、府縣知事ヲシテ認定管理セシメル、斯ウ大體ニ致シマシタナラバ、宜シカラウト云フ考ヲ持ッテ居リマスガ、或ハ其費用ハ府縣費ノ負擔トシテ、關係町村ニ一部ヲ分擔セシメルト云フヤウナコトモ宜カラウカト思ヒマスガ、兎モ角准府縣道ト云フヤウナコトニ致シテ、處分ヲ致シタラ宜シカラウカ、併シソレニハ何レ道路法ノ改正ヲ致サナケレバナラヌ、大體ノ考ダケヲ申上ゲテ置キマス、斯ノ如ク明ニ郡道ト云フモノハ一樣ノ取扱、即チ准府縣道トシテ假令其費用ノ一部分ハ町村ニ賦課致シマシテモ、道路其モノ、管理ハ府縣ヲシテ爲サシメルト云フコトニ、内務當局ノ御方針ガ一定シテ居ルト云フコトヲ言明サレタノデアリマス、又此郡制廢止案ニ政友會ヲ代表サレテ贊成演說ヲナサッタ所ノ瀧正雄君ノ演說中、郡道ニ關スル事柄ニ付テハ斯ノ如ク申シテ居ラレル「矢張府縣ヲ統一スル必要ガアル、隨テ郡道ハ之ヲ府縣ニ移スベキモノデアルト吾々ハ信



ズルノデアリマス、之ヲドウシテ府縣ニ移スカト云フコトニ就テ、過日來委員會ニ於テ憲政會ノ諸君カラ能ク質問モ出マシテ、政府委員モ御答ニナクヤウデアリマスガ、今尙ホ郡道ヲドウスルカト云フ質問ガ矢張反對論ガ出タコトヲ見マスルト、マダ十分ニ御判リニナクテ居ラヌヤウニ考ヘマスルガ、郡道ナルモノハ將來ハ准府縣道ニ准府縣道トシテ存續スルデアラウト思ヒマス、准府縣道ト申シマスルノハ、矢張郡道ト同ジヤウナ地位ニ在ルノデアリマス、即チ管理ハ府縣ガ之ヲ握ル、所謂府縣カラ補助シタヤウナ、一部分ノ費用ハ府縣ガ之ヲ負擔シマスケレドモ、他ノ一部分ハ其關係町村ガ負擔スル、關係町村ニ於テ修繕ナリ其他ノ費用ノ一部分ヲ負擔スルト云フ、斯ウニ云フ制度ニシマシテ、郡道ハ即チ准府縣道トシテ存續スルコト、信ジマス。郡制廢止案ニ賛成サレタ所ノ政友會ノ意見モ、准府縣道トシテノ管理ニ移スト云フ御意見デアッタ、無論今日モ吾々ハ左様ニ處分セラレルモノト信ジテ居リマス、所ガ最近ニ至リマシテ新聞紙ノ傳フル所ニ依リマスレバ、内務當局ニ於テハ或ハ之ヲ二様ニ處分スル、現在ノ郡道ノ中ノ一部ハ府縣ノ管理ニ移シ、即チ准府縣道トシテ府縣ノ管理ニ移シ、一部ハ里道トシテ町村ノ管理ニ移スト云フ御意見ガアルトカ、或ハ又現在ノ郡道ハ業ニ既ニ道路會議ニ於キマシテ、准府縣道ナルモノヲ拵ヘズニ一部ハ府縣道トシテ行フ、一部ハ里道トシテ町村ニ移ス、斯ノ如ク既ニ道路會議デハ決定サレテ居ルト云フヤウナ風説ヲ洩ス者ガアル、サウシテ又地方ニ於キマシテハ、何所カラ何ヲ嗅出シタモノデアアルカ知レマセヌガ、從來府縣ニ於キマシテ、府縣會ノ多數ヲ恃ンデ、地方官ヲ強要スルコトニ味ヲ占メテ居ル所ノ黨派ナルモノハ、郡道ハ二様ニ處分サレルト云フコトヲ期待シテ、サウシテ或ハ其政黨ノ内ニ調査會ナルモノヲ設ケマシテ町村ニ對シテ或ル道路ハ現在ノ郡道ヲ府縣ニ移スベク盡力シテヤル、或ル道路ハ之ヲ里道ニ下ゲルト云フヤウナコトヲ吹聴シテ、盛ニ人民ヲ惑ハシテ居ルノデアアル、尙ホ其上進ミマシテ、地方ニ依リマシテハ、府縣自ラ郡道ノ調査會ヲ設ケテ、如何ニモ郡道ト云フモノガ二様ニ處分方ニナルガ如キ形勢ヲ示シテ居ルノミナラズ、其間ニ於テ多數黨ハ様々之ヲ黨勢擴張ニ利用シテ居ルト云フ事實ハ明ニアルノデアリマス、吾々ハ昨四十四議會ニ於ケル政友會ノ郡制廢止案ニ對スル代表演説——此郡

道ニ對スル御意見ガ今日變ルト云フコトハ、私ハ昨年ノ議會ニ於テ政友會ノ黨議其モノ、豹變ニ付テハ、苦キ、經驗ヲ嘗メテ居ルノデアアルカラ、之ヲ追窮スル勇氣ハ持チマセヌガ、内務大臣ガ本會議ヲ通ジテ國民ニ言明シテ居ラル、所ノ郡道處分ニ對スル御意見ハ、ヤウカ今日マデ變ツテ居ルトハ信ジマセヌ、併ナガラ斯ノ如キ風評ガアリ、斯ノ如キ地方ノ事實ガアル、煙ノアル所或ハ火ナキヲ保シ難シト存ジマシテ、之ニ對シマシテハ、キリシタ内務當局ノ御方針ヲ御答辯ヲ願ヒマス

之ニ對シ小橋政府委員ハ同日口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

御答辯致シマス、郡道ノ處分ニ付キマシテハ、今期議會中ニ道路法ノ改正ノ案ヲ提出致シマス筈デアリマスカラ、其道路法ノ改正ノ結果トシテ、其法ノ運用ニ依ッテ郡道ノ廢止處分ヲ各地方ニ於テ適當ニ決定スルノデアリマス、其道路法ノ改正ノ際ニ詳細申上ゲルコトニ致シマス

一〇 綱紀頹廢ノ責任ニ關スル質問

現内閣(原首相時代ヲ通シテ)成立以來綱紀頹廢其ノ極ニ達セリ其ノ責任ノ所在ニ付政治道德上明確ナル説明ヲ求メムトス

十一年一月二十八日清瀨一郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月二十一日高橋内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ



政府ハ機宜ノ方途ニ依リ時弊ノ矯正ニ當リ國民ノ自省ト相待テ常ニ綱紀ノ肅正ニ留意シ居レ  
右ニ對シ同日清瀨一郎君ハ意見ヲ陳述セリ

議長ハ同君ノ演說中不穩ノ言辭ニ對シ取消ヲ要求シ同君ハ之ヲ取消シタリ

一一 綱紀頹廢ノ責任ニ關スル再質問

一 高橋内閣ハ原内閣當時ノ綱紀紊亂ニ對シ政治上ノ責任ヲ負擔セスト爲スカ若ハ之ヲ負擔ス  
ルニ付テハ其ノ間一定ノ限度アリト爲スカ此ノ點ニ關スル明確ナル答辯アリタシ本員ハ此  
ノ主意ヲ以テ本年一月二十八日質問書ヲ提出シタルニ之ニ對スル本年二月二十一日付ノ答  
辯ハ全ク質問ノ主旨ト齟齬スルヲ以テ茲ニ再質問ヲ爲ス所以ナリ

二 原内閣當時敢行セラレタル諸事件ノ内(一)彼ノ大連取引所設立問題ノ如キハ殊更ニ樞密院  
ノ審議ヲ回避スル目的ヲ以テ罰則ナキ取引所令ヲ起案シ原總理大臣自ラ之カ裁可ヲ奏請シ  
該取引所設立ニ便宜ヲ與ヘタル事實ナリ(二)關東廳ニ於ケル阿片ノ濫賣ノ如キハ單ニ一二  
行政官ノ犯罪ニハ非スシテ關東廳ノ收入ヲ圖ル目的ヲ以テ帝國政府ノ施政ノ一トシテ公然  
敢行セラレタル事實ニシテ殊ニ昨年二月議會ノ問題トナリタル以後ニ於テモ猶之ヲ繼續セ

リ(三)塔連炭坑ヲ南滿洲鐵道會社ニ不當ニ買收セシメタル事件(世ニ滿鐵事件ト稱スルモ  
ノ)ニ依リ得タル金錢ハ盡ク原總理大臣ノ統轄スル政黨員ノ選舉費ニ消費セラレタリ然ル  
ニ一方滿鐵ノ重役ナル者ハ亦原總理大臣ノ任命セシトコロナリ此ノ件ニ付テモ原敬氏在世  
ナラハ其ノ責ヲ負ハサルヘカラサル道理ナリ現總理大臣高橋是清子爵ハ右等ノ件ニ付責任  
ヲ負フノ覺悟ナキヤ若ハ一定ノ限度ニ於テ責任ヲ負フ考ナリヤ果シテ然ラハ其ノ限度如何  
三 尙本質問ノ主旨ニ付テハ本年二月二十一日衆議院本會議ニ於テ本員ノ陳述シタル意見ヲ參  
照セラレタシ

十一年二月二十七日清瀨一郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十三日  
高橋内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

綱紀ノ肅正ニ付テハ政府ハ常ニ最善ノ手段ヲ講シテ之カ達成ニ努力シツ、アルモ事固ヨリ國民  
ノ自省ニ待タサルヘカラサルコト曩ニ答辯シタル所ノ如シ

一二 普通選舉ニ關スル質問

普通選舉要求ノ聲ハ今ヤ天下ニ瀰漫ス在野各政派ハ期セスシテ其ノ意見ヲ一ニシ全國ノ言論機



關ハ勿論智識階級、勞働者、僧侶ノ諸階級ヲ通シ普通選舉ノ要求ハ益熾烈ナリ此ノ時ニ於テ高橋首相新ニ宰相ノ地位ニ立ツ首相ノ普通選舉ニ對スル意見竝其ノ態度ハ國民ノ最知ラムト欲スル所ナリ敢テ高橋首相ノ普通選舉ニ對スル所見ヲ質ス

十一年一月二十八日松本君平君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月二十一日高橋内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

政府ハ時世ノ進運ニ伴ヒ貴族院議員ヲ始メ地方議會ノ議員ノ選舉資格ヲ擴張シ其ノ選舉有權者ヲ增加スルノ緊要ナルヲ認ム曩ニ大正八年衆議院議員選舉法改正案尋テ昨十年市制町村制中改正案ヲ提出シ帝國議會ノ協贊ヲ得タルハ此ノ趣旨ニ出テタルニ外ナラス將來モ亦此ノ方針ニ則リ漸ヲ追ヒテ選舉權ノ擴張ヲ圖リ以テ憲政ノ秩序アル發達ヲ期ス  
右ニ對シ同日松本君平君ハ意見ヲ陳述セリ

一三 海陸軍備及特例ニ關スル質問

- 一 政府ハ華府會議ニ於テ減縮セラレタル海軍力ヲ協定ノ上更ニ減縮スルノ意志ナキ乎
- 二 政府ハ自ラ之ヲ發議セサル迄モ他國之ヲ發議スルニ方テハ之ニ應スル意志ナキ乎

三 單ニ主力艦ヲ制限シタルノミニテ補助艦潛航艦等ヲ制限セサルトキハ此ノ點ニ於テ再ヒ列國間ノ嫉視ト競争ヲ惹起スルノ悞ナキヲ保シ難シ政府ハ此ノ患害ヲ豫防スルノ意志ナキ乎

四 華府會議ノ結果トシテ豫定計畫ニ比シ今後十年間ニ互ル軍備補充費、水陸整備費、艦船整備費、軍需品整備費、營繕費等ノ各款ニ於テ減少スヘキ金額及其ノ年度割並海軍本省費、軍事費等ノ各款ニ於テ減少スヘキ金額ノ見込如何

五 政府ハ海軍減縮ノ結果當然生スヘキ多數ノ官民失業者及工場ノ閉鎖損害等ニ對シ相當ノ手當金又ハ補償金ヲ支給スル消極的救濟法ト同時ニ何等カ將來ノ產業政策ヲ加味スル積極的救濟法ヲ講スルノ意志ナキ乎若之レアリトセハ其ノ程度及方法如何

海軍協定制限論ノ根據ハ「國防ハ元來相對的ノモノナルカ故ニ世界ノ三大海軍國タル日英米相協議シテ之ヲ縮小スレハ孰レノ國家ノ安全率ヲ減少セスシテ大ニ國防費ヲ節約シ國民ノ負擔ヲ輕減シ得ルノミナラス兼テ世界ノ平和及人類ノ幸福ニ貢獻シ得ヘシ」ト謂フニ在リ然ルニ「國防ハ絕對的ニシテ相對的ニ非ス」トカ或ハ「八八艦隊ハ戰鬥單位ナルカ故ニ一隻タリトモ減少スル能ハス」ト唱ヘテ協定制限ニ反對スルモノアリタリ華府會議ノ結果トシテ主力艦ノ協定制限既ニ成立シタルノ今日ニ於テハ此ノ類ノ反對論ハ既ニ全ク粉碎セラレテ復一人ノ公然之ヲ唱ヘ得ル者ナカルヘシ



英米ノ主力艦各五十萬噸ニ對シ我カ三十萬噸ノ主力艦ヲ以テ國防ノ目的ヲ達シ得ヘントスレハ更ニ之ヲ半減シテ英米各二十五萬噸、日本十五萬噸ニ協定スルモ國家ノ安全率ハ毫モ増減スル所ナシ更ニ一步ヲ進メテ列國皆ナ同時ニ主力艦ヲ全廢スレハ列國ノ安全幸福ハ更ニ大ニ増加スヘキ道理ナリ

華府會議ニ於ケル我カ全權ハ主力艦六割說ニ對シテハ七割ヲ主張シ潛航艦ノ減縮修正ニ對シテハ米國ノ原案ヲ維持シ如何ナル場合ニ於テモ唯減縮程度ヲ寡少ナラシムヘキ方針ノミヲ執持シタリ其ノ狀恰モ我カ隻噸量ヲ増加セサルモ英米ノ數量ヲ減少スレハ國家ノ安全率ハ同一ナルコトヲ解セサルモノノ如ク然リ殊ニ陸奧ヲ復活セシムルカ爲英米ヲシテ各二艦ヲ増加セシメ以テ自他ノ浪費ヲ増加シ且其ノ比率ニ於テ明ニ我カ帝國安全ノ度ヲ減少シタルカ如キニ至リテハ唯驚キ入ルノ外ナシ

今回ノ華府會議ハ唯協定制限ノ端緒ヲ發シタルニ過キス造船休業十年間ニ於テ更ニ國際會議ヲ開キ主力艦ノ減縮及廢止、補助艦ノ制限其ノ他附隨ノ諸問題ヲ協議シ以テ國家内外ノ安全幸福ヲ増進スルノ必要アリ列國ノ輿論ハ必ス此ノ方向ニ進動スヘキヲ疑ハス我カ國ノ官民若今ニシテ是等ノ問題ヲ注意研究スルニ非スムハ必ス華府會議ニ對スルカ如ク徒ニ他國ノ足跡ヲ履ムノ失態ヲ再演セム

補助艦ハ主力艦ノ多少ニ從テ之ヲ按排増減スヘキモノナリ故ニ主力艦ニシテ制限セラルル以上ハ特ニ補助艦ヲ制限スルノ規約ナキモ精神的ニハ制限セラレタルモ同様ナリ然ルニ成文ノ規約成立セサルニ藉口シ既定計畫以上ニ之ヲ増加スルカ如キコトアラハ茲ニ再ヒ國際間ノ嫉妬ト競争ヲ惹起シ華府會議ノ效果ヲ減少スルコト尠少ニ非ス

又今回華府會議ニ於テ協定セラレタル海軍減縮ノ目的カ既ニ不生産的軍費ヲ節約シ國家ノ利益、國民ノ幸福、世界ノ平和ニ貢獻スルニ在ル上ハ之カ實行ノ結果當然生スヘキ多數ノ海軍軍人ノ解職、官民諸工場ノ閉鎖、技術者職工ノ失業等ニ對シテハ當然政府ヨリ相當ノ年金、手當金又ハ補償金ヲ支給シ之ヲ救済保護スヘキハ言フ迄モナシ加之ナラス是等軍用諸工場ノ設備及技術者職工ノ熟練セル專門の技能ヲ擧テ之ヲ平和的工業ニ轉用シ寧ロ益之ヲ獎勵シテ我カ産業ノ改善發展ヲ圖リ之ヲ今後ノ國際經濟戰ニ利用スルハ最機宜ニ適セル積極的失業救済法ニシテ且最堅實ナル産業政策タリ最徹底セル國防充實策ナリト信ス今日歐米列國カ最頭腦ヲ惱マセルハ産業ノ復活、貿易ノ振興、失業者ノ救済問題ニ在リ我カ國ノ産業政策及失業問題ノ解決如何ハ我カ將來ノ國防及國運ニ影響スルコト亦極メテ重大ナルヲ知ラサルヘカラス

六 我カ陸軍ノ對手國ナル露支既ニ陸軍國タルノ資格ヲ失ヒタル今日政府ハ大ニ陸軍ヲ減縮スルノ意志ナキ乎



七 若減縮ノ意アリトスレハ其ノ方法及程度如何

八 我カ陸軍ハ内地及臺灣朝鮮樺太等ノ事變又ハ露支境上ノ匪徒防禦ニ用ウルノ外之ヲ使用シ得ヘキ場合ナシ政府ハ此ノ實事ヲ認メサル乎

九 政府ハ其ノ半數タモ尙之ヲ使用スル目的ナキコト明白ナル今日ニ方リ依然トシテ二十一箇師團ノ大陸軍ヲ維持スルハ國家内外ノ政策上非常ノ不利益ナル事實ヲ認メサル乎

單純ニ國家的見地ヨリ其ノ必要ノ程度ヲ較量スレハ島帝國タル日本ニ取テハ海軍ハ陸軍ヨリ必要ナルコト辯ヲ埃タス然ルニ今ヤ華府會議ノ結果トシテ比較的 necessary 多キ海軍ハ大ニ減縮セラレムトス此ノ時ニ方リ政府若強テ口實ヲ設ケテ陸軍縮少ニ反對シ國力ノ耗費ヲ顧サルカ如キコトアラハ陸軍ハ遂ニ國民ノ怨府トナラム且夫レ我カ現在ノ陸軍ハ主トシテ帝政時代ニ於ケル露國ノ大陸軍ヲ對象トシテ帝國防護ノ爲ニ設定セラレタルモノナリ然ルニ露國ハ先年ノ革命以來既ニ陸軍國タルノ資格ヲ失ヒ、來テ我カ國ヲ攻撃スル能ハサルハ勿論國內ノ治安スラモ尙之ヲ維持シ難キ境遇ニ在リ露國ノ來寇ニ對シテ二十一箇師團ノ大陸軍ヲ備フルノ必要ナキコト明ケシ然ラハ露國以外ニ其ノ陸軍ヲ以テ我カ國ニ寇シ得ヘキ邦國アリヤト考フルニ我カ海軍ニシテ苟モ全滅セサル限リハ全然之アルコトナシ既ニ來寇者ナケレハ我カ陸軍ハ之ヲ國防ノ用ニ供スルノ機會ナキコト亦極メテ明白ナリ然ラハ侵略ノ爲ニ之ヲ用ヒ得ヘキカト

謂フニ大戰以後世界ノ形勢ハ如何ナル邦國ノ武力的侵略モ之ヲ許容セサル傾向ヲ生シ強テ之ヲ爲サムトスレハ必ス全世界ノ反對ヲ受ケテ結局獨逸ノ覆轍ヲ踐マサルヲ得サルニ至レリ故ニ現在ノ我カ陸軍ハ防禦的ニモ侵略的ニモ之ヲ用ウルノ地ナシ若強テ之ヲ使用スレハ必ス西伯利亞出兵ノ失敗ヲ再演スヘシ

我カ陸軍ヲ必要トスル場合ハ(一)内地ニ警察官ノ手ニ餘ル程ノ暴動内亂起ル時(二)朝鮮臺灣樺太等ノ新領土ニ事變生スル時(三)露支ノ匪徒我カ國境ヲ擾シ又ハ在留官民ノ生命財產ヲ危クシ而モ露支官憲其ノ責ニ任スル能ハサル時等ノ數種ニ過キス此ノ目的ノ爲ニハ現在ノ兵員ヲ半減スルモ尙多キニ過クヘシ

實際ニ用途ナキ大兵ヲ養フカ爲ニ内ニ於テハ教育及産業ノ發達ヲ妨碍シ外ニ在テハ列國ノ猜疑ヲ招キ國家ノ安全ヲ保證スヘキ兵備アルカ爲却テ國家ヲ危殆ナラシムルノ結果ヲ來サムトス現ニ西伯利亞出兵ノ如キハ徒ニ六億圓ノ國帑ヲ消耗シテ全世界ノ非難ヲ招ケリ此ノ外侵略主義、二重外交ノ惡評ヲ受クルカ如キモ亦必要ナキニ大軍ヲ備フル結果ニ外ナラサルヘシ

十 政府ハ大ニ兵數ヲ減少スルト同時ニ士官兵卒(特ニ下兵卒)ノ給與ヲ増加シ退役軍人及戰死者遺族又ハ廢兵ノ待遇ニ改善ヲ加フルノ必要ヲ認メサル乎

人生普通ノ道理ニ據レハ隨意ニ辭退シ得ヘキ任務ニ服スル者ノ報酬ハ希望者アル限ハ薄少ニ



シテ可ナルモ強制的ニ就役セシメラル者ノ報酬ハ豊富ナラサルヘカラス然ルニ徵兵制度ハ此ノ道理ニ逆行シ強制徵募ノ兵卒ヲハ無給同様ノ薄給ニテ國防ノ任務ニ服セシム故ニ兵卒ノ大多數ヲ占ムル所ノ下層階級ハ身自ラ非常ノ窮境ニ立ツノミナラス其ノ父母モ亦飢餓ニ陥ル者少シトセス畢竟經濟力不相應ノ大軍ヲ備フルカ爲止ムヲ得ス下士兵卒ノ給與ヲ節約シテ財政上ノ破綻ヲ免レムトスル窮餘ノ窮策ニ外ナラス而シテ之カ犠牲ニ供セラルルモノハ大多數ノ下層階級ナリ

明治六年徵兵制度ヲ採用シ國民皆兵ノ主義ヲ樹立シタリト雖實際兵役ニ服スル者ハ國民全體ニ非スシテ其ノ一小部分ニ過キス之ヲ今日ノ實況ニ見ルニ現役兵約二十五萬人之ニ豫後備兵ヲ加フルモ約二百萬人ニ過キス而シテ全國ニ於ケル丁年以上後備免役ニ至ル年齢ノ男子ハ約一千萬人ニ及フヘキカ故兵役ノ義務ニ服シ服役中經濟的損失ヲ受クル者ハ右男人口ノ二割五分ニ過キサルヘシ今此ノ二百萬人カ各二年宛服役スルコトノ代リニ家ニ在テ生産的業務ニ従ハムカ一日平均一圓五十錢ノ收入トシテ一年ニ約十一億圓在營二年間ニハ二十餘億圓ノ犠牲ヲ拂フ計算トナルヘシ此ノ大犠牲ハ徵兵服役者二百萬人ノミノ負擔ニシテ他ノ八九百萬人ハ全然之ヲ免レ居ルノミナラス四年ノ豫備役モ十年ノ後備役モ皆現役兵ヲ出セル少數者ノミノ負擔ニ屬シ一朝有事ノ日ハ直ニ一身一家ヲ棄テ進テ戰線ニ立タサルヘカラス封建專制ノ時代

ヲ距ルコト尙甚タ遠カラサル現行懲兵令創設當時ニ在テハ一般國民ノ無知覺ノ爲之ヲ默默ニ附シ去レルモ爾後既ニ五十年ヲ經過シ國民ノ思想著シク進歩セル今日ニ於テ此ノ著大ナル負擔ノ偏頗不公平ヲ此ノ儘ニ放任シ置クハ政治ノ良道ト謂フヘカラス  
中流以上ノ壯丁ハ或ハ官吏トナリ或ハ一年志願兵トナリ或ハ海外ニ留學シテ猶豫若ハ免除ヲ受ケ得ルニ反シ下層階級ノ貧困者ハ血稅ヲ納ムル上ニ尙薄給ニ甘シ經濟上ニ於テモ亦右ノ如キ大犠牲ヲ拂ハサルヲ得ス下層階級ハ中流以上ノ者ニ比スレハ事實上二重ノ義務ヲ負擔スト謂フテ可ナリ

多數ノ退役軍人ニ至リテハ其ノ職務ノ性質上其ノ心身ノ全部ヲ捧ケテ軍務ニ盡瘁シタル結果自ラ其ノ經濟的能力ヲ減損スルノミナラス將校ニ在テハ其ノ退役後ト雖尙永年ニ互リテ義務的公課ニ安シ且大多數ハ現役將校ト同等ノ戰時職務ヲ有シ一旦緩急アラハ挺身公ニ奉スルノ覺悟用意ヲ必要トスルモノニシテ戰死者及廢兵ハ共ニ國家非常ノ場合其ノ身命ヲ犠牲ニ供シテ硝煙彈雨ノ間ニ轉戦シタル有功ノ勇士ナリ幸ニシテ其ノ生命ヲ取り留メタル者モ往往戰傷ニ依リテ廢疾トナリ甚タシキハ其ノ起臥出入ニ附添人ヲ要スル不具者トナル國家ハ之ニ報ユル爲宜シク相當ノ優遇ヲ與ヘ一家ノ柱石タル壯丁ヲ國家ノ犠牲ニ奪ハレタル遺族等ヲシテ飽ク迄其ノ生活ノ安定ヲ得セシメサルヘカラス然ルニ現在之ニ對スル國家ノ待遇甚タ冷薄ニシ



テ孰レモ其ノ生活ノ保障スラ得ル能ハサル結果名譽アル戰死者ノ遺族ニシテ尙路頭ニ迷フ者アルノミナラス氣ノ毒ナル癡兵中ニハ全ク瀕死ノ生活ヲ爲ス者アリ甚ダシキハ退役將校ニシテ窮迫ノ餘リ法網ニ罹リテ市井ノ常習的犯罪者ト共ニ牢獄ノ辱メヲ受クル者アルニ至ル斯ノ如キハ決シテ國家カ忠誠ナル功勞者ヲ遇スル所以ノ道ニ非サルノミナラス其ノ結果或ハ忠勇ナル我カ軍隊ノ將來ニ忌ハシキ惡風潮ヲ誘入スルノ悞ナシトセス

斯ル不合理ノ制度ヲ持續スルハ國家ニ取テ極メテ危險ノ業ナレハ我カ陸軍ノ對手トナルヘキ邦國倒壞シタル今日取り敢ヘス兵員ヲ半減シ以テ大ニ下士兵卒ノ給與ヲ増加シ退役軍人及戰死者遺族又ハ癡兵ノ待遇ニ一大改善ヲ加フルハ目下ノ急務ナリト信ス

十一 政府ハ製造工業隆盛ニシテ經濟力豐富ナラサレハ兵員多シト雖戰勝者タル能ハサルノ事實ヲ認メサル乎

文明ノ進歩ハ全ク戰爭ノ實質ヲ一變シタリ從前ハ兵員ノミノ戰爭ナリシモ今日ハ國力總體ノ戰爭トナリ製造工業隆盛ニシテ原料品豐富ナラサレハ將卒如何ニ精銳ナルモ決シテ勝者タル能ハサルコトハ獨逸ノ敗殘英米ノ勝利ニ依テ證明セラレタリ殊ニ米國ノ如キハ殆ト無陸軍國ナリシニモ拘ラス今日ハ儼然タル世界ノ最大強國トシテ天下復々之ト爭ヒ得ル者ナキカ如キ現狀ヲ呈スルニ至レリ是レ畢竟他ノ列國カ軍備擴張ニ非常ノ大金ヲ消耗シ爲ニ經濟力ノ發達

ヲ阻碍セシ間ニ軍事費ヲ節約シテ之ヲ經濟方面ニ利用シタル結果ニ外ナラス即チ米國強大ノ一大原因ハ歐洲列國ノ如ク不要ノ軍備ヲ擴張セサリシ一事ニ在リト謂フモ可ナリ獨露ハ國家ノ主力ヲ過多ノ軍備ニ傾注シテ倒壞シ英米ハ主力ヲ文化及産業ニ傾注シテ今日尙其ノ隆昌ノ新運ヲ開ケリ眼前ニ此ノ事實ヲ見ル者豈國防政策ニ根本的の改革ヲ加ヘスシテ可ナランヤ

十二 國家防衛ノ爲ニ必要ナル資格ハ必スシモ兵營ニ於テ之ヲ訓練スルヲ要セス學校及一般社會ニ於テ一層廣ク訓練シ得ヘシト信ス政府ハ兵營以外ニ戰士訓練ノ道ナシト爲ス乎

身體強健ニシテ義勇奉公ノ念ニ富ミ規律ヲ重シ節制ニ服スル者ハ一朝事アルニ方テハ皆精良ナル兵士タルヲ得ヘシ而シテ斯ノ如キ性格ヲ養成スルハ教育者ノ任務ニシテ獨リ兵營ニ於テノミ之ヲ訓練シ得ヘキニ非ス僅僅二三年間ノ兵營生活中ニ訓練シ得ヘキ技能性格ハ十數年ノ久シキニ涉ル所ノ學校生活中ニ於テ教養訓練シ得ヘキハ明ナリ問題ハ唯經費ト設備ノ有無ニ在ルヘシ今日我カ陸軍ニ於テ毎年兵員養生ノ爲ニ費ス所ノ一億餘萬圓ヲ舉テ教育方面ニ轉用シ而モ運用其ノ宜シキヲ得ハ必ス現在以上ノ國防的戰士ヲ得ヘシ

體、智、德ノ三育、善ク普及シ心身強健ナレハ平時ハ之ヲ文化生産ノ業ニ用ヒ戰時ハ之ヲ硝煙彈雨ノ間ニ用ウルヲ得ヘシ曾テ英ノ「ウエリントン」公カ「ウォーター」ノ戰勝ハ「イトン」校庭ニ於ケル訓練ノ結果ニ過キスト喝破セルモノ即チ是レナリ特科兵ハ之ヲ兵營教育ニ一任



スルモ普通兵ノ訓養ニ至テハ之ヲ普通ノ學校ニ於テ爲シ得ヘカラサルノ理ナシ然ルニ陸軍幼年學校迄モ設ケ未タ普通教育スラ終了セサル少年ヲ驅テ一生ノ方針ヲ決定セシムルカ如キハ甚タシキ偏武的施爲ニハ非サル乎

今日ノ教育家ハ軍人ノ爲ニ其ノ本務ノ領域ヲ侵蝕セラレテ之ヲ感知セサル者ノ如シ教育家ハ「現在ノ兵營教育中何所迄ハ當然教育家ノ擔當シ得ヘク又擔當セサルヘカラサルモノナル乎」ヲ冷靜ニ考慮研究シ國家ノ爲徐ロニ其ノ被侵蝕地ヲ回復セサルヘカラス

十三 政府ハ軍閥擁護ノ爲特ニ設ケラレタルカノ如キ嫌アル幾多ノ制度法律ヲ改廢シ立憲的軌道ヲ履ミテ以テ文武對等ノ實ヲ舉クルノ意志ナキ乎

軍人ハ制度法律上幾多ノ待遇ヲ受ケ因襲ノ久シキ自ラ之ヲ知ラサルモノノ如シ依テ茲ニ其ノ例證ヲ掲ケテ其ノ反省ヲ促スト同時ニ政府ノ之ニ對スル意見ヲ問ハムトス蓋斯ノ如キ不合理ナル制度法律ヲ維持スルハ國民ト軍隊トヲ阻隔スルノ惡果ヲ結フヘキヲ深ク恐ルルカ故ナリ

(一) 參謀本部及海軍軍令部ノ特權 我カ國ノ統治權(無論統帥權ヲ含ム)ハ憲法第四條及第十一條ニ依リ 天皇之ヲ總攬シ給ヒ國務各大臣ハ同法第五十五條ノ規定ニ依リ一切ノ國務ニ就キ 天皇ヲ輔弼啓沃シ均シク其ノ責ニ任スヘキモノナリ然ルニ參謀本部及海軍軍令部

ハ全ク此ノ通軌ノ範圍外ニ立テ責任ヲ負ハサルモノノ如ク官制上ニ於テ國務中重要ナル國防用兵ニ關スル諸計畫ヲ專決シ一國安危ノ岐ルル此ノ重大問題ニ就キ内閣ヲシテ一切之ニ關與セシメス任意ニ之ヲ獨斷シ得ルノ特權ヲ掌握ス是レ全然我カ憲法ノ條規ニ反シ事實上内閣ノ外更ニ國法上無責任ナル一種ノ軍事内閣ヲ有シ外交軍事輒モスレハ二門ニ出ツルノ状態ヲ現出ス西比利亞多數出兵ノ舉ノ如キハ其一端ナリ

(二) 陸海軍大臣ノ任用資格 陸海軍大臣ハ現行内閣官制上他ノ各省大臣ト同シク内閣ノ一員ナルト同時ニ陸海軍省官制ノ各第一條ニ規定セル軍事行政長官ニシテ他ノ各省大臣ト均シク純然タル一個ノ國務長官ニ過キス果シテ然ラハ獨リ陸海軍大臣ノミ特ニ其ノ任用資格ヲ軍人ニ限ラサルヘカラサルノ理由ナキノミナラス之ヲ歐米列國ノ實例ニ見ルモ今日尙純然タル軍人ヲ以テ陸海軍大臣トセル邦國ハ殆ト之ナキヲ事實トス然ルニ我カ國ノ實際ハ全ク以上官制ノ條規ト列國ノ實例トニ反シ今日尙陸海軍大臣ノ任用ハ陸海軍省官制末尾ニ附セル附表又ハ別表ニ依リ特ニ之ヲ軍人ニ限レリ是レ時代ノ精神ニ副ハサル制度ト謂ハサルヘカラス

(三) 陸海軍大臣ノ帷幄上奏權 國務各大臣ハ憲法ノ條規ニ依リテ一切ノ國務ニ就キ 天皇ヲ輔弼啓沃シ均シク其ノ責ニ任スヘキモノナルコト上述ノ如ク内閣官制第五條ハ更ニ之ヲ



裏書シ特ニ其ノ末尾ニ附記シテ各省主任事務ト雖事高等行政ニ關係シ事體稍重キモノハ總テ閣議ヲ經ヘシト明定セリ然レハ我カ今日ノ内閣制ハ憲法及内閣官制上明ニ閣員全體ノ連帶主義ニシテ苟モ國家ノ大政ニ關スル重要問題ハ全閣員之ヲ關知シ内閣ノ全責任者タル總理大臣之ヲ奏宣スヘキモノナルヤ言フ俟タス且陸海軍省官制ノ各第一條ニハ特ニ陸海軍大臣ノ職任ヲ規定シテ純然タル軍事行政長官ト爲シ獨リ此ノ兩大臣ノミ特殊待遇ノ必要ナキヲ明ニセリ然ルニ内閣官制第七條ハ國務中最重要ノ部分タル陸海軍統帥ニ關スル事項ニ限リ他ノ國務大臣ニハ一切輔弼啓沃ノ機會ヲ與ヘスシテ獨リ陸海軍大臣ニノミ何時ニテモ勝手ニ帷幄上奏ヲ爲スノ特權ヲ附與シ總理大臣ニスラ尙僅ニ事ノ決定シタル後一片ノ報告ヲ爲セハ可ナリト規定セリ是レ憲法第五十五條ニ牴觸シ内閣官制第五條ト陸海軍省官制ノ各第一條トニ背馳スルモノナルコトヲ信ス

(四) 陸海軍軍令 陸海軍ノ統帥ニ關スル規程ハ一般ノ勅令公布ニ必要ナル公式令(明治四十年二月勅令第六號)第六條及第七條ノ手續ヲ經由セス一般國民ニ公示ヲ要スルモノト否トヲ問ハス總テ明治四十年九月軍令第一號ヲ以テ公布セラレタル「軍令ニ關スル件」ニ依リ直ニ軍令トシテ之ヲ施行シ得ルノ特權ヲ有シ勅令ト其ノ效力ヲ同ウセリ是レ畢竟明治二十七年、八年戰後ニ於ケル陸海軍人ノ勢力俄ニ重加シタル結果新ニ元帥府及軍事參議院ヲ特

設シ勢ヒ自ラ樞密院ト對立スルノ狀形ヲ生シタルト一般明治三十七、八年戰後ニ於ケル陸海軍ノ勢力加重ノ結果新ニ本令ヲ制定シテ更ニ一般勅令ト對立スヘキ法律上ノ一大特權ヲ陸海軍ノ掌中ニ占握セルモノナリ現ニ明治四十年十二月ノ改正ニ係ル參謀本部條例ト陸軍省官制トハ共ニ其ノ所管事務ノ綱領及當該長官ノ任務職分ヲ規定セル一條文ニシテ兩者ノ實質毫モ異ナル所ナキニ拘ラス後者ハ内閣所屬ノ政廳ナルカ故ニ勅令ニ依リ前者ハ陸軍所屬ノ軍衙ナルカ故ニ特ニ軍令ニ依レルカ如キ亦最著シキ實例ノ一ナリ

(五) 陸海軍所屬ノ 天皇直隸機關 文官所屬ノ 天皇直隸機關總數四ニ對シ陸海軍所屬直隸機關總數四十一ニシテ其ノ内容左ノ如シ

文官所屬

四

内閣

臨時外交調查委員會

樞密院

會計検査院

陸海軍所屬

四一

元帥府



軍事參議院

參謀本部

教育總監部

師團司令部

朝鮮軍司令部

關東軍司令部

臺灣軍司令部

青島軍司令部

海軍軍司令部

鎮守府司令部

要港部司令官

艦隊司令長官

(六) 陸海軍軍人文官任用ノ特權 文官ハ一切武官トナル能ハス之ニ反シテ陸海軍軍人ハ上内閣大臣ヲ始メ在外總督大公使ヨリ下ハ判任文官ニ至ル迄殆ト任用セラレサル所ナク殊ニ陸軍准士官下士官採用規則(明治二十年十二月勅令第八十三號)ニ依ルトキハ現役七年以

十 上ノ陸軍准士官下士官ハ試驗ヲ要セスシテ判任文官ニ任用サレ海軍省ヲ除ク外各官廳ニ於テ

判任官ヲ任用スルニハ少クトモ五人ニ付一人ハ陸軍准士官下士官ノ文官請願者ヲ採用スヘキ

規定ナリ

(七) 陸軍給與ニ關スル委任經理 各省及其ノ所屬官廳ノ歲出入決算ハ憲法第七十二條及會

計検査院法第十二條第十四條ニ依リ一々會計検査院ノ検査及議會ノ監督ヲ受ケサルヘカラ

五 サルモ獨リ陸軍軍隊ノ糧食被服消耗品陣營具及馬匹ニ係ル諸給與ハ明治二十三年三月法律

四 第二十七號ニ依リテ是等ノ検査監督ヲ免レ其ノ殘金、廢物賣却代及補償金等ハ隨意ニ之ヲ

積立テ自由ニ之ヲ使用スルコトヲ得大正十一年度豫算ニ於テ衣糧費、兵器及馬匹費合計額

三 九千六百三十萬八千六十五圓ナリ

(八) 陸海軍犯罪者ノ特別取扱 陸海軍ノ現役軍人軍屬ハ軍律犯罪ニ非サル常事犯ト雖陸海

軍治罪法ノ各第一條ニ依リ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スル規定ニシテ事實上一種ノ治外法權

ヲ有セリ且軍法會議開否ノ鍵ハ常ニ陸海軍大臣ノ掌中ニ握ラレ事件毎ニ判官ヲ任命セサル

ヘカラサルノミナラス理事主理憲兵等ノ上司ニ對シテ無勢力ナル結果ハ自ラ近年ニ於ケル

十一 陸海軍人ノ腐敗ヲ誘致シタル一原因ナルカ如ク軍人ハ犯罪者トナリテ迄尙特別ノ取扱ヲ受

ケ居レリ



十一年一月二十八日尾崎行雄君外一名ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十三日高橋内閣總理、加藤海軍、山梨陸軍各大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 華府會議終結後ニ於ケル我海軍勢力ニシテ列國ト共ニ協議ノ上相對的ニ一層縮少シ得ルモノナルトキハ國防ノ安全ニ差支ナキ限り之ヲ制限ニ反對スルモノニアラス
- 二 第一問ニ對スル答辯ノ通
- 三 政府ハ補助艦艇等ノ建造ニ付テ列國間ノ競争ヲ惹起セシメントスルノ意思ナキハ勿論將來更ニ列國ト共ニ本問題ノ爲ニ會議ヲ開クノ機會アラハ政府ハ欣然之ニ參加スヘシ
- 四 目下調査中ナリ
- 五 目下調査研究中ナリ
- 六 我國陸軍ノ對手國カ露支兩國ナリトノ前提ハ之ヲ認ムルコトヲ得ス
- 七 質問第六及第九ノ答辯ヲ參照アリタシ
- 八 東洋ノ形勢ト歐洲大戰ノ戰例トニ顧ミ政府ハ本項ノ事實ヲ認ムル能ハス
- 九 國家ヲ防衛スル爲我陸軍ノ現勢力ハ之ヲ維持スルコト目下必要ナリト認ム
- 十 國防ヲ全フシ得ル程度ニ兵力ヲ維持スルト共ニ給與待遇ノ改善ヲ計ルニ同感ナリ

- 十一 兵力ト經濟力ト兼備ハリテ完全ナル勝者タルヲ得ヘシ其緩急ハ時勢ト國情トニ依ル
- 十二 普通教育ト軍隊教育ト相俟テ精銳ナル國軍ヲ養成シ得ヘシ普通教育ノミヲ以テシテハ軍隊教育ハ徹底セス
- 十三 現在ニ於テ質問ノ如キ嫌アルヲ認メス但シ將來時勢ノ進運ニ伴ヒ適當ナル改正ヲ施スノ必要アル場合無キヲ保セス

一四 礦業被害ニ關スル質問

近時礦業ノ發展ニ伴ヒ煙毒、礦毒水ノ被害、炭礦採掘ニ因ル土地陷落ノ損害ハ礦業地帯ニ於ケル住民ニ對スル一大脅威ヲ來シツツアリ政府ハ之ニ對シ救濟ノ方法ヲ如何ニセムトスルヤ

十一年一月三十一日古賀三千人君ハ右質問主意書ヲ提出シ二月二十一日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、礦業ノ被害救濟ヲ如何ニスルカト云フ問題ハ、國家ノ産業上カラ見マシテモ、又人道上カラ見マシテモ、極テ重大ナル問題デアルト信ズルノデアリマス、故ニ私ハ産業上、人道上極テ重大ナル問題ニ對シ、政府ノ所見ヲ伺ヒたいと思フノデアリマス、近時礦業ノ發展ニ伴ヒ、煙毒、礦毒水ノ被害、石炭採掘ニ依ル土地ノ陷落等ノ被害ハ、實ニ甚シイノデアリマス、就中最モ悲惨ナル實例ハ、此九州ノ筑豊炭田地方デアリマス、同地方ハ往年炭價ノ未曾有暴騰ニ際シテ、盛ニ採掘ガ行ハレマシタル爲ニ、頓ニ其被害ノ度ヲ高メ、耕地ノ陷落ハ勿論、住宅地ノ傾斜陷落、又溜



池ノ濁濁、道路、水路ノ陷落、障害、又井戸ノ變質、濁濁、洗堰ノ陷落、煙害、礦毒水ノ流入、其他ノ土地ニ對シマシテモ、其被害ハ實ニ甚シイノデアリマス、精神上、物質上、關係地方ニ於キマシテハ、多大ノ被害ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、即チ福岡縣ノ如キハ、其被害ガ全縣下ニ及ボシテ居ルノデアリマスガ、其中ノ最モ甚シイ遠賀、鞍手、嘉穂、田川ノ四郡ニ於ケル調査ノ大體ヲ申上ゲマズレバ、耕地ノ陷落ノ段別ハ、大正六年ニハ八百八十六町二段、大正八年ニハ三百三十七町五段、大正九年ニハ四百二十一町二段、礦毒水ノ流入ノ被害ハ、大正六年ハ五十四町三段、又大正八年ハ百十三町四段、大正九年ニハ二百八十町二段デアリマス、此減收高ヲ計算致シマスレバ、米ニ於テ三萬四千二百九十六石、麥ニ於キマシテ十四萬二千四百石、其見積價額ニ於キマシテ、百二十二萬四千八百九十圓、又麥ノ減收額ハ十五萬四千五百圓、更ニ又家屋ノ傾斜陷落ガ四千四百六箇所、井戸ノ變質、濁濁ガ二千七十七箇所、又溜池ノ濁濁ガ八十六箇所、道路、水路ノ陷落ハ、百八十四箇所デアリマス、而シテ財界不況後ニ於ケル土地ノ陷落ハ、又實ニ夥シイノデアリマス、斯ノ如キ有様デアリマスルカラ、之ヲ最近ノ詳シイ調査ガ出來上リマスレバ、福岡縣一縣ニ於キマシテモ、裕ニ千萬圓以上ニ其被害ハ達スルノデアラウト私ハ信ズルノデアリマス、況ヤ全國ヲ通ジテ此被害ヲ通算シマシタナラバ、實ニ甚大デアルト私ハ信ズルノデアリマス、故ニ政府ハ斯ノ如キ多數住民ノ利害休戚ニ係ル此問題ヲ、如何ニ救済セラレントスルノデアリマスルカ、此點ニ付テ私ハ承リタイノデアリマス、又次ニ承リタイト考ヘマスルノハ、現在ノ鑛業法ハ我國ノ幼稚ノ時代ニ、鑛業者ニ頗ル有利、所謂保護獎勵的ニ極テ有利デアリマシテ、被害者ニ對シテハ何等考慮ヲ拂ッテ居ナイト思フノデアリマス、是等ハ全ク法ノ缺陷デアリマスルガ故ニ、時代ノ要求ニ應ジテ速ニ鑛業法ヲ改正シテ、住民ノ生存權ノ確立、又國土ノ保安上損害ノ賠償ニ對スル條項、及鑛業ノ中止後ニ於ケル責任等ニ關シテモ、之ヲ明記シテ完全ナル鑛業法ヲ改定セラレナケレバナラヌト云フ事ヲ私ハ信ズル者デアリマス、故ニ大正八年ノ二月ニ帝國農會ハ主務省ニ建議ヲ致シ、又大正八年ノ三月ニハ郡及縣ノ農會長、又大正八年ニハ關係町村農會長ヨリ、被害ノ狀況ヲ具シテ政府ニ陳情ヲ致シテ居ルノデアリマス、然ルニ政府ハ今日マデ斯ノ如キ重大ナル問題

ニ對シ、何等適當ノ施設ヲ爲サナイト云フコトハ、私ハ甚ダ奇怪千萬デアルト思フノデアリマス、故ニ私ハ昨年本院ニ於テ、之ニ關スル質問書ヲ提出致シマシタル所、政府ハ極テ簡單ナル答辯書ヲ交付サレマシタノミナラズ、觀察點ニ於キマシテ事實ト大ニ相違ヲ致シテ居ル點ガアルノデアリマス、昨年政府ノ交付セラレマシタ答辯書ヲ見マスレバ、斯様ニ書イテアルノデアリマス、石炭鑛業ニ關スル鑛業者ト、被害者トノ間ニ、土地ノ陷落ニ付テハ其土地ヲ買收シ、又復舊ニ要スル費用ヲ辨償シ、若クハ收益ノ減少ニ對シテ補償等ヲ爲スヲ常トシ、尙ホ當事者間ニハ概シテ圓滿ナル解決ヲ見ルヲ常トスルト、斯様ニ申サレテ居ルノデアリマスルガ、私ハ遺憾ナガラ圓滿ナル解決ヲ致シタル事實ヲ見ナイノデアリマス、又或ル鑛業者ノ如キハ、此悲惨ナル狀況ニ堪ヘ兼ネテノ要求ニ應ジテ、多額ノ金ヲ拂フ者モアリマスガ、是ハ決シテ補償ニ足ルモノデアリマシマセヌ、又多クノ鑛業者ハ如何ニ要求致シマシテモ、又如何ニ事情ヲ説イテ哀訴嘆願ヲ致シマシテモ、更ニソレヲ顧ミナイノデアアル隨テ鑛業者ト被害者間ニハ、常ニ紛擾ガ絶エナイヤウナ事實ガアルノデアリマス、又昨年答辯書ノ末項ニハ、斯様ナ事モ書イテアリマス、然ルニ一般産業ト鑛業トノ關係ニ付テハ、大ニ考慮ヲ要スルモノアルヲ以テ、農商務省ハ既ニ被害調査委員ヲ設ケ且ツ來年度豫算ニ於テモ是ガ費用ヲ計上シ以テ十分調査ヲ遂ゲ適當ナル措置ヲ執ラントスルト斯様ニ申サレテ居ルノデアリマスガ、成程本年ノ豫算ヲ見マスレバ、鑛害調査費ト云フモノガ一萬七千二百圓計上シテアリマスガ、其内譯ヲ見マスレバ、奏任官費ガ六千四百圓、判任官俸給ガ三千圓デアリマス、又廳費ガ二千二百五十圓、旅費ガ二千四百圓、雜給雜費ガ三千五百五十圓ニナツテ居リマスガ、之ヲ見マスレバ、奏任官ガ一名若クハ判任官ガ三名位デハナイカト私ハ思フノデアリマス、斯ノ如キ少額ノ經費ヲ以テ、斯ノ如キ少數ノ役人ヲ以テ、是ガ救済ヲ速カニスルト云フ、果シテ御考ガ私ハ疑フニ甚ダ堪ヘナイノデアリマス、故ニ私ハ政府ニ對シテ此質問ノ要點ヲ三項ニ別チテ御尋ヲ致シタイト思フノデアリマス、政府ハ現在ノ鑛業被害ヲ救済スルニ如何ナル方針ヲ有セラレタルノデアリマスカ、又第一ニ現左ノ鑛業被害ニ對シ、政府ハ本年度豫算ニ計上セラレタル如キ微細ナル經費ト少數ナル役員ヲ以テ、是ガ救済ヲスルニ十分ナリト信ジ



ラレマスルカドウカ、其邊ニ付テ承リタイノデアリマス、第三ニハ現行法ヲ改正シ、時代ノ要求ニ應ジテ完全ナル鑛業法ヲ制定セラレマスル意思ガアルカドウカ、此三點ニ付テ政府ノ深切ナル御答辯ヲ承リタイト思フノデアリマス  
之ニ對シ田中(隆三君)政府委員ハ同日口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

御答申上ゲマスガ、只今北九州ノ炭礦地方ニ於ケル被害ノ事ニ付キマシテ、三項目ニ別ツテ御質問デゴザイマシタガ、此礦業ト其他ノ産業トノ利害衝突ノ事ニ付キマシテハ、當局ニ於キマシテモ始終考慮、調査研究ヲ致シマシテ、出來ル限リ其間ニ立ッテ圓滿ナル解決ヲ告グルコトニ努メツツアリマスル譯デアリマス、而シテ只今御示ノ如ク、大地域ニ互ッテ所謂被害場所ノアルト云フコトハ事實デアリマス、併ナガラ其實際ノ被害區域ヲ數字のニ現ハスコトニ於キマシテハ、農會ノ調、縣廳ノ調、或ハ地方礦業組合ノ調等、各、異ナル點ガアリマシテ、一致シテ居リマセヌ、サリナガラ其何故ニデス、ソレ等ノ被害地ガ復舊セラレズニ、其儘ニ殘テ居リマスカト云フコトニ付キマシテハ、色々ナ事情ガアルノデアリマス、其主ナル事ヲ分類致シテ見マスルト、被害地ノ通常御視察等ニ赴カレテ、此被害ハドウモ酷イト云フ風ニ目ニ著クヤウナ所ハ、礦業人ガ既ニ賠償シテ、礦業人ノ所有地ニナツテ居ル所ガ澤山アルノデアリマス、唯其被害地ヲ御視察ニイラッシヤルト、此處ハ被害地デアアル不毛ナ土地デアアルト云フノデ、驚カレル方ガアリマスケレドモ、併ナガラソレハ所有者ト礦業人トノ間ニ話ガ著イテ、所謂土地ノ代價ヲ拂ッテシマッタ後ナノデ復舊スルコトハ利益ナラズト認メテ、捨テテアルノデアリマスカラ、是ハドウモ所有權ノ法規ノ上ニ於テ致方ガナイノデアリマス、第二ハ礦業權者ノ所有ニハ屬シマセケレドモ、土地所有者ノ方ガ賠償金ヲ取ツタケレドモ、其賠償金ヲ外ニ有利ナル事業ナリ何ナリニ流用シテ、自ラ其復舊ノ事ヲ爲サナイノガアリマス、是モドウモ所有者ノ自由デアリマスカラ、外カラハ強制的ニドウサセルト云フ譯ニハイカヌ、ソレカラ根本的ニ只今申上ゲルヤウニ或ハ礦業權者ガ之ヲ買取ルトカ、或ハ土地所有權者ガ一時ニ賠償ヲ取ルト云フコトデナシニ、年々其被害ノ場所ヲ現場ノ儘

ニ此處ニ曝ケ出シテ置イテ、サウシテ年々歳々補償金ヲ取ツテ繰返ヘス方ガ便宜ナリト心得テ居ル土地所有者モアル、斯ク各々ノ場所ニ付テ取調ヲ致シテ見マスルト云フト、種々ノ事情ガアル譯デアリマス、單ニ此處ニ是ダケノ被害ガアル、是ハ酷イト云フコトデハ、事ノ真相ニ觸レタ觀察デナイト私ハ認メテ居ルノデアリマス、ソレカラ是ハ一方ノ相手方ノ方ノ取調デアリマスカラ、必シモ此數字ヲ以テ確實ナリト主張スル譯デアリマセケレドモ、筑豊ノ所謂北九州ノ有名ナル炭田地ニハ、有力ナル數郡ニ互ッテノ筑豊石炭組合ト云フモノガアルノデアリマス、其取調ニ依ッテ見マスルト云フト、田地ニシテ今日其土地所有者ト礦業人トノ間ニ紛議ガ起ッテ、話ノ纏ラナイノガ五十一町歩アルト云フコトヲ申シテ居リマス、詰リ其他ノ田地ハ解決ガ付イテ居ル、或ハ賠償ガ濟ンデ居ル、實際解決ノ付カヌノハ五十一町歩アルト申シテ居リマス、併シ今御斷リ申シタ通り其五十町歩ハ或ハ百町歩致シマシテモ、其纏リノ付カナイト云フコトハ、一體ドウ云フコトニ歸著スルカ、礦業人ガ拂フベキ責任ヲ盡サナイ者モアリマセウケレドモ、又反對ニ被害者ノ方デ不當ナル價格ヲ要求スルカラ出來ナイ者モアリ得ル道理デアアル、要スルニ一方ノ要求ト一方ノ承諾トガ合致シナイ爲ニ、話ノ調ッテ居ラスコトモアリマス、併シ是ハ結局其爭ガ定リマセケレバ、司法權ノ處分ニ依ッテ是非曲直ヲ判斷スルヨリ致方ハナイ、單リ是ハ礦業上ノ問題ノミナラズ、如何ナル行爲ニ致シマシテモ故意過失等ニ依ッテ、他人ニ損害ヲ及ボシタナラバ賠償シナケレバナラヌ、而シテ賠償ノ事ニ付テ雙方ノ對談、纏ラナケレバ、結局之ヲ司法處分ニ仰グヨリ致方ガナイ、併ナガラ唯一ツ其話ノ纏ラナイ原因ノ中デ、最も深ク一ツ御考慮ヲ煩シタイ事ハ、果シテ或場所ノ陷落ガ或ル礦業人ノ行爲ニ依ッテ起ッタモノデアアルヤ否ヤト云フコトノ、原因結果ヲ定メルコトノ困難ナル場合ハ往々ニシテアル、例ハ遙カ離レテ居ル處デ礦業ヲシテ居ル者ガアル、離レテ居ル此方ノ方ニ陷落シタ土地ノアッタトキニ、土地所有者カラ申シマスト云フト、要求ノ仕易イ礦業人ニ向ッテ賠償ヲ要求スルニ相違ナイ、礦業人ハ四面八方ニ皆軒ヲ竝ベテ居ルノデアリマス、軒ヲ竝ベルト云フト言葉ガ惡イカモ知レマセヌガ、煙突ヲ竝ベテ仕事ヲシテ居ル、ドノ煙突デ作業シタ結果ガ、土地陷落ニ影響ヲ及ボシタノデアアルカ否ヤ



ト云フコトハ、中々困難ナ問題デアリマス、一ツノモノガ及ボシタコトモアリマセウシ、數箇所ノモノガ關係ヲ持ッテ居ルカモ知レヌ、又ソレノミナラズ御承知ノ通り、此今ヤッテ居ル炭礦ハ何ノ某デアリマセウケレドモ、其炭礦ナルモノハ數十年ヲ經テ色々ノ人ノ手ニ渡リ、而モ數十年ノ昔ニ遡リマスト云フト、甚ダ規則ガ立タナイ、俗ニ申シマスル濫掘ト申シマスカ、兎モ角モ正則デナイ適當ナル施業案ニ依ラズシテ作業シタコトガ、昔ニ澤山アリマシタカラ、其昔ノ——今ノ人ニ一切縁故モ關係モ何モナイ、昔ノ人ノ不作法ナル處爲ノ結果ガ、今日或ル損害ヲ惹起シテ居ルト云フ事モアルノデアリマス、詰リサウ云フヤウナコトデ、原因結果ガ明瞭シナイ爲ニ、争ノ解決シナイモノガ澤山ニアルノデアリマス、是等ノ諸般ノ關係ヲ詳細ニ調査スルト云フコトハ、中々一朝一夕デハ出來マセヌ、行政官ノ力デハ頗ル困難デアル、裁判官ノ手ニ之ヲ移シテモムヅカシカラウト思フ、若シモ明瞭ニ何ノ某ガ斯ノ如キ被害ヲ惹起シタト云フコトデアラナラバ、直グ手近ノ裁判所ニ訴ヘテモ解決ガ出來ル譯デアル、被害者ガ何故ニ裁判所ニ之ヲ持出サヌカ、若シモ礦業人ガ不當ナル理窟ヲ竝ベテ、サウシテ適當ナル損害賠償ヲシナイト云フナラバ、何故ニ裁判所ニ持ッテ行カナイカト申シマスルト、裁判所ニ持ッテ行カナイ原因ニハ、其礦業人ガソレダケノ害ヲ及ボシタト云フ證據ヲ舉示スルトガ困難デアルト云フ事情ハ確ニアラウト私ハ思フノデアリマス、併ナガラズ如キ争ガ假令五十町歩ナリ百町歩ニ互ッテ殘ッテ居ルト云フコトハ、當局ニ於テモ甚ダ遺憾ニ思ヒマス、出來得ル限り公式非公式ニ各、此方ノ取調等ヲ根據ト致シマシテ、纏マル限リ雙方ノ間ニ圓滿ナル解結ヲ求メヤウトスルトニ努メツ、アル譯デアリマス、固ヨリ議會ニ於テ特ニ御協賛ヲ得マシタ費用ハ、只今御話ノ通り僅カナル技師技手ニ過ギヌノデアリマシテ、ソレノミニ力ニ依ッテハ調査ナドハ中々捗リマセヌ、併ナガラ御承知ノ通り鑛務署ニハ其他ニ數十名ノ職員役員ガ居ルノデアリマス、各、其任務ヲ持ッテ居リマセヌケレドモ、矢張相共ニ扶ケテ出來得ル限り是等ノ調査ニ付テ歩ヲ進メツ、居ル譯デアリマス、又固ヨリ只今御質問中ノ御言葉ニアリマス如ク、是ダケノ人數デハ逆モ出來ルモノデハナイ、モット澤山ノ經費ヲヤルカラモット勉強セヨト云フコトデアルト、其御言葉ハ當局ニ於テ非常ニ有難ク感ズル

次第デアリマス、人數ノ足ラヌコトハ當局ニ於テモ認メテ居リマス、併ナガラ御承知ノ通りノ事情デ吾々カラ要求スル所ノ豫算ガ旨ク通過シナイ、ソレ故ニ不足デアルト云フコトヲ知リツ、其不足ノ範圍内ニ於テ出來ルダケノ勉強ヲ致シマシテ、是等ノ調査ニ當ッテ居ル譯デアリマス、追々縣廳或ハ、當業者、或ハ土地所有者ノ御助力ニ依ッテ、紛議ガ段々少クナッテ居ルト云フコトノ結果ヲ見タイト存ジテ居リマス、又サウ云フコトニナラウト信ジテ居リマス、ドウゾ其邊リノ意味ヲ御了承ノ上ニ、當局ノ趣旨ノアル所ヲ御認メ下サランコトヲ御願ヒ申上ゲマス

右ニ對シ古賀三千人君ハ再ヒ左ノ質問ヲ爲シ田中政府委員之ニ應答セリ

極テ簡單デアリマスカラ此席カラ御許ヲ願ヒタイ、只今私ガ伺ヒマシタ中ノ第三ノ現在ノ鑛業法ハ、甚ダ不備デアルト信ズルノデアリマスルガ、之ヲ完全ニ改正ヲサレマス意思ガゴザイマセヌカト云フコトヲ御尋シタ所ガ、御答ガゴザイマセヌカラ、重ネテ御尋シテ置キマス

田中政府委員ノ應答

甚ダ失禮致シマシタ、御質問ノ一箇條大事ナ事ヲ取落シマシタ、此鑛業法ヲ改正スル意思ガ無イカドウカト云フ事デゴザイマスガ、只今ノ所デハ有リマセヌト御答スルヨリ外ニ致方ガアリマセヌ、ソレハ要スルニ只今ノ御質問ノ趣旨ニ連絡シテノ改正ト云フ意味デアラウト思ヒマスガ、此紛議ヲ根絶スルヤウナ法律ハ、如何ニ考ヘテモ見出スコトガ出來ナイノデアリマス、要スルニ此關係ハ損害賠償ヲスルト云フコトニ歸著スルノデス、故意過失ニ依ッテ人ニ損害ヲ及ボシタ者ニハ、損害ヲ賠償セヨト云フコトダケハ法律デ出來マスケレドモ、何某ト何某トノ間ニ起ッタル事件ガ、何千何百圓賠償シテ宜イカドウカト云フ事ハ、到底法律デ極メヤウガナイ、各般ノ起ッタル事情ニ基イテ之ヲ判斷スル、争ガアレバ裁判所ニ依ッテ公明正大ナル判決ヲ得ルヨリ外ハ仕方ガナイノデス、若モ幸ニデス、斯ウ云フ方法ア、云フ案ガアル、ソレニ依ッテ此損害賠償ノ問題



ガ筑豊炭田地方ニ起ラヌト云フヤウナ御名案ガアリマスナラバ、謹デ承リマシタ上ニ何分ノ御答ヲ申上ゲマス

一五 青年團ノ振興ニ關スル質問

大正四年九月及大正七年五月ノ兩度ニ互リ内務文部兩大臣ノ青年團ニ關スル訓令發布ニ基キ各地自治團ニ多少ノ遲速アリト雖今日ニ於テハ青年團若ハ青年會ノ組織ノ殆ト之ヲ見サル所ナキニ至レリ從テ青年ノ氣風品性モ之ヲ組織セラレサリシ當時ニ比スレハ相當振興改進ノ跡アルヲ認メラレ國家ノ爲喜悅スヘキコトニ屬ス然レトモ其ノ組織タルヤ日猶淺ク青年輩ノ自覺奮自重ヲ缺キ先輩有識者ノ彼等ニ對スル冷淡ニシテ指導督勵ヲ加フルヲ好マス又青年團中ニハ著シク年齡教育思想等ヲ異ニセル者ヲ含有セル等ノ爲ニ英米佛等先進國ノ青年團ノ自制自律團結一致シテ獻身ノニ國家及社會ニ奉仕スルノ行爲ニ比スレハ其相距ル霄壤モ霄ナラサルモノアリ世界五大強國ノ一タル帝國ノ青年ニシテ依然今日ノ狀態ナルニ於テハ國防ノ充實上世人ノ論談スル兵役短縮モ軍隊減少モ全然不可能ニシテ眞ニ慨歎ニ堪ヘサルナリ爰ニ本員ハ左記數項ヲ舉ケテ質問シ以テ詳細ナル書面答辯アラムコトヲ望ム

一 今後帝國ノ中學程度以上ノ諸學校ノ學生ニ在學間軍隊教練ヲ實施シ團結心及義務心ヲ涵養

シ軍事學ヲ教授シ且時ヲ定メ考試シ其ノ成績ハ本科ノ總成績ニ加算シ而シテ專門學校以上ノ卒業者ヲシテ軍事能力ヲ具備セルモノハ豫備將校ニ任スルノ制ヲ設ケ以テ一年志願兵ノ制ヲ廢スルコトニ關シ政府ノ所見如何

二 一般青年團ハ高等小學校卒業ヨリ二十歳迄ノ者ヲ以テ組織シ彼等ノ愛國心ニ愨ヘ自發心ニ依リ毎月一回(業務最多忙ノ時期ハ之ヲ除キ)各學校區毎ニ教育點呼ヲ實施シ現役將校及下士卒ニ依リ體育及團體的訓練ヲ施行シ尙此ノ機會ヲ利用シ郡市長ハ教育者技術員等ヲシテ訓話試問ヲ爲シ或ハ其事業ノ指導ヲ爲サシムルコトニ關シ政府ノ所見如何

三 各學校區毎ニ尋常三年ヨリ高等小學在校者ヲ以テ少年團ヲ組織シ青年團ノ基礎ト爲スコト是レ幼年時代ヨリ國家ノ使命ヲ自覺セル訓練ヲ爲シ世界人類ヲ兄弟視シ人類ノ福祉ヲ増進セムカ爲ナリ之ニ關スル政府ノ所見如何

四 東京ニ青少年團本部ヲ置キ全國青年ノ指導訓練檢閲彰表ヲ爲シ尙新聞雜誌ヲ刊行シ彼等ノ知識德育ヲ向上シ兼ネテ歐米強大國ノ青少年團ト通信交通スルコト  
皇子殿下ヲ青少年團總裁ニ奉戴スルコト  
學識重望アル人士ヲ網羅シ總裁ヲ輔翼スルコト  
政府ハ可及的援助督勵ヲ加フルコト



右ニ關スル政府ノ所見如何

五 青年男女ノ道德及知能ノ向上ハ極メテ必要ナルヲ以テ義務教育ヲ八年トスルノ外強制的ニ補習教育ヲ實行セシムルコト

補習教育期ニ就テハ昨年夏補習教育講習會ニ於テ指示セラレ適當ト認ムルモ之カ實施ニ就テハ男女共ニ餘リニ寛容斟酌ニ過クルト認ム歐米ニ於テスラ強制的ニ實行シツツアリ況ヤ從來實業教育ノ行届カサル我カ國ニ於テハ今後一層強制的實行ヲ必要トセサルヤ右ニ關スル政府ノ所見如何

六 青年團ノ教育ハ補習教育ニ待ツモノ大ナリ然ルニ補習教育ハ文部大臣ニ於テ從來相當ニ努力セラレツツアルヲ認ムルモ其ノ割合ニ實蹟甚タ舉ラス

第一 都會地方共ニ一般ニ未タ其ノ必要ヲ認メスシテ補習教育ト謂ヘハ單ニ小學校ニテ修得セシ國語算術等ノ復習或ハ村役場員ノ事務見習等ヲ爲スコトナリト了解シ居ルコト

第二 中ニハ職業的知識技能ヲ増進スルコトノ必要ヲ認メナカラ費用ノ支出ニ當惑シ手ヲ束ネ居ルコト

第三 實業專門教師ノ缺乏ヲ告クルコト  
以上ノ理由ニ依リ眞ニ僅少ノ土地ヲ除クノ外全ク見ルヘキ成績ナキハ國家ノ爲最大不幸ト

謂ハサルヘカラス按スルニ第一及第二ノ理由ノ如キハ政府今後ノ督勵ト教育費國庫支辨ノ増額ニ依リ又第三ノ理由ニ至リテハ農工商業ノ專門教員ノ多數ヲ養成スルコトニ依リテ解決シ得ヘシト信ス政府ノ所見如何

七 實業教員中最多數ヲ要スルハ實ニ農科ナリ目下政府ハ農科大學ニ於テ教員養成ノ外ニ各府縣ノ農業及農林學校ヲシテ中學校及師範學校ノ卒業生數十名ヲ募集シ一年間ノ短期教育ヲ施サシメ之ヲ以テ補習學校教員ト爲サント擬シツツアリ斯ノ如キ教員カ果シテ農村青年ニ農事ノ知能ヲ與ヘ得ルヤ否ヤ本員ハ少クモ二年間教育セシ者ニ非サレハ效果ヲ舉クルコト能ハスト思考ス右ニ關スル政府ノ所見如何

十一年二月一日仙波太郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月八日床次内務、中橋文部兩大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

青年團ノ振興ニ關シテハ常ニ之カ指導獎勵ニ留意シ專ラ團員各自ノ修養ニ資セシメ以テ青年ヲシテ健全ナル國民善良ナル公民タルノ素地ヲ養ハシムムコトニ努メツツアリテ今ヤ漸ヲ追フテ堅實ナル發達ノ途ニアルヲ認ム

一、中等程度以上ノ諸學校ニ於テハ大體質問趣旨ノ如キ方針ノ下ニ教養シツツアリテ常ニ之カ



實績ヲ舉ケムコトニ努メツツアリ  
 專門學校卒業者ヲ直ニ豫備將校ニ任スルノ制度ニ就テハ學校教育上軍事教育ノ加設程度ニ關シ尙ホ幾多ノ考慮ヲ要スルモノアリテ俄ニ實施シ難ク目下研究中ナリ  
 二、現時ニ於ケル青年團員ハ實際社會ノ狀況ニ鑑ミ一般ニ義務教育終了後滿二十五歲迄ノ者ヲ以テ組織シツツアリ而シテ教育點呼等ニ關シテハ現在地方ノ狀況ニ依リ劃一的ニハ實施困難ナルモ概ネ質問趣意ノ如キ方針ノ下ニ指導獎勵ヲ加ヘツツアリ  
 三、少年團ノ組織ニ關シテハ其年齡並實施時期等ノ具體案ニ就テハ今日尙公表シ難シト雖モ其經營指導ニ關シテハ政府ニ於テモ其必要ヲ認メ目下之カ調査研究中ナリ  
 四、全國青少年團統一機關ニ關シテハ之カ設置ノ要アルヲ認メサルモ是等團體ノ聯絡及指導ニ任スル適切ナル機關設置ニ關シテハ政府ニ於テモ其必要ヲ認メ目下考慮中ナリ  
 五、義務教育八ヶ年制並補習教育ノ義務制ニ關シテハ目下考究中ナリ實業補習教育ニ關スル諸般ノ制度ニ改善ヲ加ヘ學科課程ノ標準ヲ内示スル等此種教育ノ充實ニ努メツツアリ其強制的實行ニ就テハ尙十分ノ考究ヲ要ス  
 六、政府ニ於テハ曩ニ實業補習學校規程ヲ改正シテ斯種教育ノ本旨ヲ明ニシ其徹底ヲ期スル様督勵シツツアルト共ニ實業補習學校教員給ニ對シテ補助金ヲ交付シ地方ニ於テモ補習教育獎

勵費ヲ支出シ相俟ッテ之カ改善ヲ圖リ又大正九年十月實業補習學校教員養成所令ヲ制定シ優良ナル專任教員ノ養成ニ努メツツアルモ將來尙一層ノ指導督勵ヲ要スト認ム  
 七、修業年限二箇年ヲ以テ適當ナリト認ム但シ目下地方ノ情況ニ依リ一箇年ノモノヲモ認ムルモ將來ハ漸次其域ニ達セシメムトス

一六 青年指導ノ方針ニ關スル質問

青年指導ノ方針ハ健全ナル國民ト善良ナル公民タルトノ素質ヲ得セシムルニ在リ果シテ然ラハ現内閣ノ下ニ行ハレツツアル所謂自主的指導ハ其ノ名ノ美ハシキニ似ス其ノ實ノ之ニ伴ハサル憾アリ政府ハ眞ニ帝國將來ノ國運ヲ其ノ雙肩ニ擔ハムトスル剛健眞摯ナル青年ヲ養成セムト欲セハ青年指導ノ方針ニ一大變革ヲ加ヘサルヘカラス政府ノ所見如何

十一年二月一日田中萬逸君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月二十一日床次内務、中橋文部兩大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ  
 青年ヲシテ自主自立以テ其ノ力ヲ展ヘシムルハ將來健全ナル國民善良ナル公民トシテ國運ノ負荷ニ堪フルノ素地ヲ養ハシムル所以ニシテ之カ指導ノ方法ノ常ニ時代ニ順應シテ適切ナルヘキ



ハ又言フ俟タサル所ナリ從テ特ニ青年指導ノ方針ニハ何等變更ヲ加フルノ必要ナシト認ム

一七 關東州ノ支那人壓迫ニ關スル質問

- 一 李子明ニ故ナク退去處分ヲ命シタル如キ金建反對ノ支那人ヲ威嚇シテ取引ヲ強要セシメタル如キハ支那人ノ對日感情ヲシテ益惡化セシムルモノニ非スヤ政府ノ所見如何
- 二 三十里堡ノ支那人耕作地ヲ無償取上ケ之ヲ和田某ニ下付シタル如キハ官紀紊亂綱紀頹廢ノ事實タルト共ニ支那人ノ反感ヲ招キシコト尠カラスト思考ス政府ノ所見如何

十一年二月二日清水留三郎君外一名ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月二十八日高橋内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 大連取引所ニ於テ賣買取引ニ用フル建値ヲ金ニ變更セラルルヤ大連華商公議會副會頭李子明ハ百方其ノ實行ヲ阻止セムトシ之カ爲自己ノ地位ヲ利用シテ金建取引ヲ爲サントスル支那人ヲ脅迫シテ其ノ營業ヲ妨害シ又日本輸入綿絲布ノ不買同盟ヲ計畫シ或ハ滿鐵沿線各地商務會ニ不穩文書ヲ發送シテ熾ニ排日排貨ヲ煽動スル等其ノ行動過激ニ涉ルモノアリタルヲ以テ大連民政署長ハ彼ニ對シ再三警告ヲ與ヘタル結果一度不穩行動ヲ中止スヘキ旨ヲ誓

ヒタルモ其ノ後同志ニ使囑セラレテ曩ノ誓約ヲ破リ再ヒ華商ヲ煽動シテ不穩ノ行動ヲ爲サシムル等治安ヲ妨害シ財界ヲ攪亂スルノ悞アリタルヲ以テ民政署長ハ客年五月十四日更ニ彼ヲ招致シテ其ノ不心得ヲ戒メ且此際一時州外ニ旅行スルコト得策ナルヘキ旨ヲ忠告シタルニ彼ハ署長ノ厚意ヲ謝シテ翌日營口ニ旅行シタルコトアルモ退去處分ヲ命シタルコトナシ又支那人ヲ威嚇シテ金建取引ヲ強要シタルカ如キコト更ニナシ

- 二 三十里堡水田ハ元來官有地ニシテ從來之ヲ農民ニ貸下ケ小作料ヲ徵收シ來リタルモノナルカ大正九年右貸下期間滿了シ一方官ニ於テ金州ニ農事試驗場ヲ移轉スル爲其ノ豫定地ヲ買收スルノ必要アリタルニ由リ該貸下土地ト和田某所有ニ係ル右豫定地ト交換シタルニ和田某ト農民トノ間ニ前記水田ノ小作料ニ付一時爭議アリタルモ其後圓滿ニ解決ヲ告ケ其ノ間毫モ官紀紊亂綱紀頹廢ノ事實ナシ

右ニ對シ同日清水留三郎君ハ意見ヲ陳述セリ

一八 陸海軍大臣任命ニ關スル官制改正ニ對スル質問

- 一 陸海軍大臣任命ニ關スル官制改正ノ意思ナキヤ
- 一 陸軍省官制第二十六條ニハ陸軍省職員ハ附表ノ如シト在リテ其ノ附表橫線ニハ大臣ハ大中



將ト規定セリ海軍省官制第三十三條ニハ海軍省ノ定員ハ別表ニ依ルト在リテ其ノ別表ニハ陸軍省官制第二十六條附表ト同シク横線ニテ大臣ハ大中將ト規定セリ此ノ官制ヨリ見レハ陸海軍大臣ハ陸海軍大中將ヨリ任命セサルヘカラサルカ如クニテ曩ニ山本内閣ノ當時豫後備迄ニ資格範圍ヲ擴張セシモ其ノ大中將タルコトハ依然タリ然ルニ大正十年海軍大臣加藤友三郎華府會議全權委員ニ任セラレ同時ニ軍人タラサル原内閣總理大臣ハ内閣官制第九條各省大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時攝任シ又ハ命ヲ承ケ其ノ事務ヲ管理スヘシトノ規定ニ基キ海軍大臣事務管理ヲ命セラレタリ茲ニ於テ内閣官制第九條文官大臣管理ト陸軍省官制第二十六條附表海軍省官制第三十三條別表即チ武官官制ト矛盾セサルヤ

一 假ニ事務管理ハ大臣ヲ別ニ任命スルニ非サルヲ以テ矛盾ナシトスルモ事實海軍大臣ト同一事務ヲ處理スルモノナルコト論ナシ大正十年十月以來歲月短シト雖其ノ間原、内田、高橋三代ノ文官大臣カ海軍大臣ノ權限ニ屬スル事務ヲ管理セリ而シテ亦其ノ間ニ支障ヲ生シタルコトヲ聞カス然ラハ事實上ニ於テ海軍大臣ハ大中將ニ限ラス文官大臣ヲ以テ之ニ充ツルモ支障ナキ唯一ノ證據ナラスヤ若又政府カ官制改正ノ意ナク武官大臣制度ニ限ルモノトセハ現在ノ高橋内閣總理大臣ノ海軍大臣事務管理ハ事實ニ於テ否認スルニ均シ況ヤ軍備國防ハ國力ト相俟タサルカラス即チ今日ノ趨勢ハ國家ノ財政其ノ他諸般ノ政務ト倍不可分ノ關係

ヲ滋フス是レヲ歐米各國ニ見ルモ文明國ハ殆ト陸海軍大臣ニ文官制度ヲ採用セリ而シテ日本ハ現ニ文官大臣ニテ海軍大臣事務ヲ管理セリ

内閣官制第七條事ノ軍機軍令ニ係リ奏上スルモノハ天皇ノ旨ニ依リ之ヲ内閣ニ下付セラルルノ件ヲ除ク外陸軍大臣海軍大臣ヨリ内閣總理大臣ニ報告スヘシトアリテ内閣總理大臣ハ單ニ報告ヲ受クルニ止マレリ一面憲法第五十五條ニハ國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責任ストアリ輔弼ノ責任アル各大臣ガ陸海軍大臣ヨリ報告ヲ受クルノミニテ其ノ責ヲ盡スコトヲ得ヘキヤ殊ニ軍機軍令ニ關スルコトハ國務中ノ重大事ナリト信ス此ノ點ニ對シ政府ハ同官制ヲ改正シ憲法第五十五條ノ國務大臣輔弼ノ責任ヲ充分ニ盡サシムル意ナキヤ

十一年二月二日野村嘉六君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月二十八日高橋臨時海軍大臣事務管理、山梨陸軍兩大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 陸海軍大臣任命ニ關スル官制ハ目下之ヲ改正スルノ必要ヲ認メス
- 一 海軍大臣任用ノ資格ヲ以テ直ニ海軍大臣事務管理ノ資格ト爲スノ理由ナシ
- 一 海軍大臣ト海軍大臣事務管理トハ之ヲ同視スヘキモノニ非ス
- 軍機軍令ニ係リ奏上スルノ件ハ現制ノ下ニ於テ別ニ支障アルヲ認メス



右ニ對シ同日野村嘉六君ハ意見ヲ陳述セリ

一九 戰艦陸奧、加賀、土佐及巡洋戰艦天城、赤城ノ建造遲延ニ關スル質問

一 戰艦「陸奧」ノ建造ヲ計畫シタルハ大正五年ニシテ第三十七回議會ニ於テ可決セラレタル軍艦製造費追加豫算ニ基クモノナリ而シテ右豫算ニ依レハ大正五年以降四箇年間ニ竣工スヘキ筈ナリシニ拘ラス大正十年下半年期ニ至ルモ尙完成セス爲ニ華府會議ニ於テ既成艦タルコトヲ否認セラレタリ右戰艦竣工ノ遲延シタル理由如何

二 戰艦「陸奧」ノ建造ニ要シタル經費ノ總額ハ幾何ナルヤ

三 戰艦「加賀」及「土佐」ハ「ジュットランド」海戰ノ經驗ヲ參酌シテ建造シタル我カ國最初ノ戰艦ナリ右二艦ハ共ニ大正六年第三十九回議會ニ於テ可決セラレタル八四艦隊計畫ニ基クモノニシテ政府カ其ノ計畫通り工事ヲ遂行スルニ於テハ大正九年中又ハ十年初ニ竣工スヘカリシニ拘ラス如何ナル理由カ其ノ建造ヲ遲延シタル爲華府會議ニ於テ未成艦トシテ廢棄セラルルノ運命ニ遭遇シタリ英米兩國カ各華府會議ニ於テ「ジュットランド」海戰ノ經驗ヲ參酌シテ二戰艦ヲ建造スルノ權利ヲ保有シタルニ反シ我カ國ノ「加賀」「土佐」ノ二艦ヲ廢棄セサルヘカラサルハ帝國國防ニ對スル重大打擊ナリ「加賀」ノ建造ヲ命セラレタル川崎造船

所ハ大正五年十一月既ニ戰艦「伊勢」ノ進水ヲ終リ「土佐」ノ建造ニ從事シタル三菱造船所モ亦大正六年一月戰艦「日向」ノ進水ヲ了シ兩造船所共其ノ船臺ハ自由ニ之ヲ使用シ得タルニ拘ラス何故大正九年七月迄「加賀」ノ起工ニ著手セス又同年二月迄「土佐」ノ工事ヲ始メサリシヤ

四 海軍大臣ハ大正七年第四十回議會ニ於テ八六艦隊ノ計畫ニ關スル豫算ヲ説明スルニ際シ

「金剛」「比叡」ノ二巡洋戰艦ハ孰レモ大正十年迄ニ艦齡第二期ニ入ルヲ以テ同年迄ニ「金剛」及「比叡」ノ代艦トシテ大正六年第三十九回議會ニ於テ新ニ建造スルニ決シタル二巡洋戰艦ノ中一隻ハ大正七年ニ他ノ一隻ハ同九年ニ起工セサルヘカラサルコトヲ聲明シタリ而シテ右二巡洋戰艦トハ「天城」及「赤城」ヲ意味シタルコト勿論ナルカ右兩艦ハ海軍大臣ノ聲明アリシニ拘ラス事實ニ於テ漸ク大正十年ニ起工セラレ兩艦共今尙船臺ニ在リ之カ爲右兩巡洋戰艦モ亦華府會議ニ於テ未成艦トシテ「加賀」「土佐」ノ兩戰艦ト運命ヲ共ニセサルヘカラサリキ「天城」「赤城」兩艦ノ起工カ海軍大臣ノ聲明ニ反シテ著シク遲延シタル理由如何

五 海軍省カ先ニ議會ノ協贊ヲ經タル八四、八六、八八、艦隊ノ計畫ヲ遂行スル爲大正十年十月末日迄ニ支出シタル金額ハ合計幾何ナルヤ又右金額ヲ以テ同日迄ニ幾隻ノ戰艦及巡洋戰艦ヲ竣工シ得タルヤ若尙未タ一隻ヲモ竣工シ居ラストスレハ右金額ハ如何ナル方面ニ使用セラレタルヤ



十一年二月十日永井柳太郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月八日高橋海軍大臣事務管理ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 戰艦陸奥ノ建造豫算ハ第三十九議會(大正六年)ニ於テ協贊ヲ得タルモノニシテ同艦ノ竣工ハ其豫算年度(自大正六年至大正九年度)ニ比シ多少遅延シタルコトアルモ右ハ同艦建造ノ初期ニアリテ一般造船事業ノ好況ニ伴ヒ材料ノ蒐集及職工ノ維持ニ大ナル困難アリシニ依ル
- 二 戰艦陸奥ノ建造ニ要セシ經費總額ハ目下精算中ナルモ約五千五百萬圓ノ見込ナリ
- 三 戰艦加賀及土佐ハ當初大正十年度末ニ竣工ノ豫定ナリシモ(一)此二艦ハ歐洲大戰ノ戰訓ヲ參酌シ根本的ニ其計畫ニ變更ヲ加ヘ(二)材料蒐集ニ困難アリ爲ニ起工準備ニ比較的多クノ時日ヲ要シ(三)一般船價トノ關係上之カ建造契約ノ締結ニ長時日ヲ要シタル等ニヨリ契約ハ七年度(建造豫算年度)ハ自七年度至十年度四ケ年度ナリ)中ニ締結シタルモ其起工(設計、製圖、材料ノ蒐集等著手)ヨリ起工迄ニ通例一ケ年餘ヲ要ス)土佐ハ八年度末、加賀ハ九年度初頭トナレリ

(備考)土佐ノ豫算年度ハ當初九年度ナリシモ巡洋戰艦ト繰替ノ結果前記ノ通七年度ヨリ十年度ニ至ル四ケ年度トナレリ

四 巡洋戰艦天城及赤城ノ中一隻ハ七年度ニ、他ノ一隻ハ八年度ニ著手ノ豫定ナリシモ實行上右七年度著手豫定ノ一隻ヲ九年度著手豫定ノ土佐ト振替ヘ二隻共八年度著手ノ豫定ニ變更シタリ

右ノ結果八年度ニ於テ夫々建造訓令ヲ發シ九年度ニ至リ起工セリ

天城、赤城ノ二隻モ加賀、土佐同様全ク新艦型ニ屬シ加賀、土佐ノ計畫ニ引續キ起工準備ニ長時日ヲ要シタルヲ以テ多少ノ遅延ヲ招キタリ

五 八八艦隊計畫(八四、八六計畫ハ此中ニ包含ス)遂行ノ爲メ大正十年十月末日迄支出セシ金額ハ總計六億二千七百餘萬圓ナリ而シテ竣工セシモノハ主力艦ニアリテハ陸奥一隻ニシテ加賀、土佐、紀伊、尾張、天城、赤城、高雄、愛宕ハ何レモ建造中ニ屬ス尙補助艦ニアリテハ竣工セシモノ五十隻建造中ノモノ七十五隻アリ

二〇 普通教育並中等教育ニ關スル質問

一 政府ハ刻下ノ急務タル小學校教育費問題解決ノ爲本院ノ建議ヲ容レテ地方教育行政調査會ヲ設ケ之カ對策ヲ講セシメシモ既ニ半歲ノ餘ヲ閱シテ猶未タ成案ノ以テ此ノ急ニ應スルモノナク僅ニ得タル假決議ナルモノハ物論ノ囂囂ヲ招キテ其ノ何レニ歸スルヤヲ知ラス市町



村ハ今ヤ次年度計劃ニ際シテ多大ノ困惑ニ陥リツツアリ政府ハ何故ニ速ニ之カ解決ノ方途ニ出テサルヤ

二 政府ハ小學校教育ノ施設ニ關シテ劃一打破ヲ唱ヘ市町村ノ狀況ニ應シテ其ノ施設ヲ異ニスルヲ至當ナリトスルノ見解ヲ持セラルル如シ斯ノ如キハ最均等ヲ期スヘキ國民教育ノ實ヲ害ヒ國運ノ進歩ノ上一大障礙ヲ與ヘムコトヲ恐ル政府ノ所見如何

三 中學四年修了者ヲシテ高等學校ニ入學セシムルノ制度ハ中學教育ヲ破壞スルモノト認ム當局ノ所見如何若果シテ其ノ弊ヲ認メハ之カ匡救ノ道如何

十一年二月十五日野溝傳一郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月二十八日高橋内閣總理、中橋文部兩大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 臨時教育行政調査會ハ成立以來先ツ市町村立小學校ノ施設ニ關スル調査審議ニ從事シ目下特別委員會ニ於テ議ヲ重ネツツアルモ事極メテ重要且詳密ニ互ルヲ以テ未タ成案ノ確定ヲ見ルニ至ラス政府ハ之カ進捗ヲ圖リツツアリ而シテ市町村ニ於テ次年度ノ計畫ヲ爲スニ當リテハ大體ニ於テ從來ノ施設經營ノ方針ニ據リ土地ノ狀況ト時勢ノ推移トニ鑑ミテ適當ナル方法ヲ講スヘキヲ以テ敢テ支障ヲ來タスコトナシ

二 市町村立小學校ノ施設ハ地方ノ狀況ニ依リ之ニ適應スル方法ヲ講スヘキモノニシテ全國畫一ヲ期圖スヘキニアラス小學校ニ關スル現行法令ノ精神モ亦同様ニシテ小學校ノ施設ニ一定ノ限界ヲ定メ其範圍内ニ於テ各地方ノ自由裁量ニ委ネタリ斯ノ如ク小學校施設ニ一定ノ制限アルハ所謂義務教育統一ノ眞義ニシテ地方ノ自由裁量ヲ許シタルハ即畫一打破ノ本旨ノ在ル所ナリ

三 中學校第四年修了者ヲシテ高等學校ニ入學セシムルノ制度ハ延イテ中學校教育ニ多少ノ影響アルコト勿論ナリト雖モ之ヲ以テ直ニ中學校教育ヲ破壞スルモノト認メス當局ハ此制度ノ實施ヲ圓滿ナラシムルカ爲常ニ周到ナル注意ヲ怠ラス

右ニ對シ同日野溝傳一郎君ハ意見ヲ陳述セリ

二 社會主義者ト軍隊ニ關スル質問  
近時軍隊ニ於ケル社會主義者ニ對シテハ絶對ニ在營ヲ許ササル方針ナリヤ之ニ對スル政府ノ所見如何

十一年二月十六日田中武雄君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月七日山梨陸



軍大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ  
社會主義者タルノ故ヲ以テ陸軍軍隊ニ在營ヲ許ササルコトナシ是レ兵役ハ法律上ノ義務ニシテ  
個人ノ主義如何ニ依リ之ヲ免セラルルヘキモノニアラサレハナリ

二二 赤坂離宮闖入事件ニ關スル質問

- 一 衆議院議員龍野周一郎君ハ大正十年十一月十五日御催ノ觀菊御會ニ當リ御召シノ御沙汰ヲ拜セシテ濫ニ離宮内ニ闖入セリ政府ハ斯ノ如キ事實ヲ聞知セリヤ
- 一 衆議院ヲ經テ傳達セラレタル御沙汰書ヲ拜受シタル者ノ氏名ヲ調査スルモ龍野周一郎君ハ此ノ恩命ヲ拜シタル事實ナシ而シテ又當日御沙汰ヲ拜シテ入苑シタル者ノ氏名ヲ調査スルモ同君ノ氏名ヲ發見セス果シテ然ルトキハ同君ハ他ノ氏名ヲ詐稱シテ濫ニ離宮ニ闖入シタルモノト斷定セサルヘカラス
- 一 前陳セル龍野周一郎君ノ行爲ハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スルノ甚シキモノナリ政府ハ觀菊ノ御會ハ宮中ノ御催シナリトシテ斯ノ如キ不敬行爲ニ對シ調査及處罰ノ途ヲ講スル必要ナシト思惟スルヤ

十二年二月十七日田中萬逸君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月七日高橋内

閣總理、大木司法兩大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

政府ハ質問ノ如キ事實ヲ聞知シタルヲ以テ其ノ調査ヲ遂ケタル處不敬ノ意思ニ出テタルニ非サルコト明白ニシテ其ノ情狀ニ照シ處罰ノ途ヲ講スルノ要ナキモノト認メタリ  
右ニ對シ同日田中萬逸君ハ意見ヲ陳述セリ

二三 鹿町炭礦買收ニ關スル質問

本員ハ昨年三月七日鹿町炭礦買收ニ關シ  
長崎縣北松浦郡鹿町村ニ存在スル鹿町炭礦ハ濱野治八(前長崎縣會副議長政友會員)カ前持主中島德太郎外數名ヨリ一坪八厘乃至三錢ニテ買收經營セシモ維持困難ニ陥リ漸ク大倉喜八郎氏ノ援助ニ依リ株式會社ヲ組織シ繼續經營セシモ炭界不況ニ際シ殆ト破滅ノ境遇ニ在リテハ時價僅ニ三十萬圓内外ニ過キストノ公評アリ然ルニ製鐵所ハ一坪當リ一圓ツツ計金三百萬圓ノ高價ヲ以テ該炭礦ヲ買收セシ理由如何  
トノ質問ヲ爲セリ右ニ對シ山本農商務大臣ハ三月十四日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ  
大正九年三月鹿町炭礦株式會社ヨリ製鐵所カ買收シタル礦區ハ總坪數四百六十七萬坪ニシテ一坪當五十九錢餘探掘可能總噸數ノ内良炭六割トシテ千八百五十五萬噸一噸當十五錢ノ計算



本礦區買收ニ關スル事項ハ製鐵所長官ノ專行權限ニ屬スルヲ以テ同長官ノ意見ヲ質シタルモ本礦區ノ炭質ハ本邦ニ於ケル製煉用該炭配合材料ニ適シタル唯一ノモノニシテ從來年々買炭シ海外ヨリ購入シツツアル配合炭ノ不足ヲ補フモノ也而シテ此礦區ヲ買收シタルハ當時開平炭ヲ購入スルノ困難ナルト近キ將來ニ於テ開平附近ニ製鐵所設立ノ計畫アリテ該炭ヲ購入シ得サル場合ノ發生セムトスルニ由リタルモノナリ然ルニ其ノ後本員ノ精査スル所ニ依レハ鹿町炭坑ニ於ケル炭層ハ平均一尺以下ナリ其ノ炭厚八寸ナリトハ地方人ノ數十年來言ヒ來リタル周知ノ事實ナリ山本農相ノ答辯ニ依レハ確定炭量ハ千八百五十五萬噸トアレトモ本炭坑諸般ノ事情ニ精通セル工學士鮎川甚五右衛門氏ノ調査ニ依レハ僅カ百萬噸弱ニ過キス而カモ其ノ計數ハ五百萬坪全部ヲ採掘シ得ヘシト假定シタル量ニシテ實際ハ其ノ二分ノ一又ハ三分ノ一ヨリ採掘シ能ハサレハ安全炭量ハ三十萬噸或ハ五十萬噸ニ過キサルヘシ

鮎川工學士ヨリ鹿町炭礦株式會社ノ技師長タリシ工學士玉城孝次氏ニ對シ(一)鹿町炭坑ノ炭層平均厚サハ何程ナリヤ(二)鹿町炭坑礦區ノ全面積中有炭地竝採掘サルヘキ面積ハ何程ナリヤ(三)採掘ニ堪ユヘキ面積ノ採掘收率ハ何程ナリヤ(四)水洗ノ歩止リハ何程ナリヤ(五)鹿町炭坑

ニ對スル將來ノ見込如何ト推問セルニ對シ玉城工學士ハ

- 一 鹿町ノ炭層「コークス」原料トシテノ炭厚ハ御見込ノ通り平均八寸位ト見ルヲ至當ト存シ候現在稼行中ノ第一坑ハ厚キ所ハ一尺以上ノ所アレトモ採掘スヘキ部分ハ最早幾何モナク第二坑ハ炭厚甚タ貧弱ニシテ第一坑寄リノ左片磐ノミ右片磐ハ四寸位ニシテ採掘スルモ到底引合ハス第三坑ハ小生開坑候モノニテ是ハ一尺位アルモ薄キ所ハ七寸位ナリ
  - 二 四百餘萬坪ノ礦區ナレトモ現在稼行ノ處附近ハ大斷層三條アリ降下隆起シ全部ヲ纏メテ經營スルコト頗ル困難ナリ小生ハ小規模ニ一部分宛ヲ採掘スルノ方針ヲ立テタリ全面積中先ツ五十%ヨリ六十%位ノ所ナラムト存シ候ソレ以上ハナキモノト小生ハ信シ候
  - 三 水洗前トシテ埋藏炭ト採掘炭トノ割合ハ六割五分即チ六十五%ヨリ七十%位ノモノニ候
  - 四 水洗ノ歩合ハ「ヂガー」不完全ナリシ時ハ六十%ナリシモ坑内手洗ヲ嚴重ニシ「ヂガー」ヲ直シテ七十五%ヨリ八十%ニ上ラシメタリ目下如何ニヤ
  - 五 以上ノ如ク鹿町礦ノミニテハ四百萬坪アルモ半分位ノ採掘區域トシ平均八寸ノ厚サトシ七十%丈トシテ七十%乃至八十%ノ仕上リトセハ總炭量幾何モナキモノニ候是ニテ大事業ヲ計畫シ得ルヤ覺束ナキ様存セラレ候
- ト回答セリ斯ノ如キニシテ尙且有望ナリト主張シ得ラルル乎各専門家ノ異口同音ニ唱道スルト



コロニ依レハ本炭坑ハ十年ナラスシテ廢棄セサルヘカラサルニ至ラムト假令此ノ「コークス」配  
合炭ヲ必要ナリトスルモ北松浦郡内ニハ鹿町同様ノ石炭ヲ産スル礦區數ハ尙數十ヲ下ラス何レ  
モ坪當リ五六錢ニテ買收シ得ラルルニ何故ニ斯ル貧弱ナル檻樓炭坑ヲ坪當五十九錢ノ最高價ニ  
買收セシヤ

十一年二月十八日田中善立君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月七日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本員ハ昨年ノ三月七日、天下ノボロ炭礦ヲ以テ炭礦界ニ有名ナル長崎縣北松浦郡鹿町村ニ在リ  
マスル鹿町炭礦ヲ、八幡製鐵所ガ時價僅カ三十萬圓ノモノヲ三百萬圓ノ不當價格ヲ買上ゲタト  
云フコトニ付テ質問ヲ致シマシタ、同月十四日附ニテ山本農商務大臣ハ、此炭礦ノ總坪數ハ四百  
六十七萬坪デ、坪當リ五十九錢、炭量ハ一千八百五十五萬噸、決シテ不當價格デハナイト云フ御  
答辯ガアリマシタ、其後本員ガ精査スル所ニ依リマス、昨年申述ベマシタ如ク其調査ハ全ク杜  
撰、殆ト虚偽ト斷言シテ憚ラス位ノ調査ニ依ッテノ御答辯デアッタコトヲ確メマシタ、即チ製鐵所  
技師ノ調査ニ依レバ、アノ炭礦ノ炭層ハ平均二尺二寸デアル故ニ、千八百五十五萬噸ト云フ炭量  
ニナルト云フコトデアリマスガ、其實ハ平均僅カ八寸ニ過ギナイノデアアル、而モ其百萬噸全部ヲ採掘スルコ  
トハ出來マセスカラシテ、其炭量ハ僅カ百萬噸ニ過ギナイノデアアル、而モ其百萬噸全部ヲ採掘スルコ  
トハ出來マセスカラシテ、眞ニ採掘シ得ラルベキ量ハ三十萬噸乃至五十萬噸ニ過ギナイノデアアル、是ハ  
前鹿町炭礦ノ技師長デアアル玉城工學士ノ證明及鹿町附近ノ人ニシテ炭礦界ニ於テ専門ノ知識  
ヲ有シテ居ラレマスル、能ク鹿町炭礦ノ經歷ヲ知ッテ居ラレマス所ノ工學士鮎川甚五右衛門氏  
ノ實地調査ニ依リマスレバ、確ニ今申シタ僅カ平均八寸、炭量ハ百萬噸ニ過ギナイト云フコト

デアリマス、昨年農商務大臣ノ御答辯及此炭礦ヲ賣買スルニ付テ親シク關係サレマシタ所ノ、中  
倉万次郎君ノ此席ニ於ケル答辯ニ依リマスレバ、此炭礦ノ石炭ハ製鐵所ニ必要缺クベカラザル  
物デアアル、此石炭ニ依ッテ拵ヘラレタ所ノ「コークス」ト云フモノハ、八幡製鐵所ニ缺クベカラザ  
ルモノデアリ、是迄ハ支那開平炭ヲ買ッテ「コークス」ヲ製造シテ居ッタノデアアルガ、支那ノ開平炭  
ガ長ク自由ニ買收ガ出來得ナイカモ知レヌカラ、強テ之ヲ買ッタノデアアル、炭質ノ日本唯一デア  
ルト云フコトモ、其高價買收ガ不當デナイト云フ理由ニモナッテ居リマス、併シ此石炭ノ炭質ノ  
良イト云フ事ハ、成程普通ノ石炭トハ違ッテ良イ點モアリマスルガ、必シモ鹿町ノ石炭ニ依ラズ  
トモ、高島炭ノ如キハ遙ニ優良ナルモノデアリマス、又此鹿町炭礦ノ附近ニハ同ジク其炭ヲ有ス  
ル炭礦ガ約五六十アルノデル、必シモ鹿町炭礦ヲ急イテ一昨年ノ選舉間際ニ高價ニ買上グル必  
要ハナカッタノデアアル、又其石炭ヲ採掘シテ年凡ソドノ位出ルカト申シマスレバ、八幡製鐵所ガ  
買收後幾百ノ役人、幾千ノ坑夫ヲ使ッテ採掘シテ見マシタ所ガ、月僅カ二千噸、年ニ二萬噸ヨリ出  
ナイノデアリマス、八幡製鐵所ノ要スル「コークス」原料ノ石炭ハ年ニ約六十萬噸デアリマシテ  
見レバ如何ニ之ガ優良炭デアッテ、必要缺クベカラザルモノトスルモ、是ダケノ石炭デハ其所要  
額ノ僅カ十分ノ一ヨリ充タスコトガ出來ナイノデアアル、一朝開平炭ヲ買フ事ガ出來ナクナッ  
ナラバ、連モ是ダケヲ以テ製鐵事業ヲ進メルコトハ出來ナイノデアアル、當時鹿町炭礦附近ニ在リ  
マスル所ノ同ジ石炭ヲ有スル炭礦ノ賣買價格ハ、僅ニ坪當リ二三錢ニ過ギナイノデアアル、高クモ  
五六錢ニ過ギナイノデアアル、ソレヲ強テ坪當リ五十九錢ニ買上ゲタト云フコトハ、何トシテモ諒  
解スルコトノ出來ヌノデアリマス、是ガ即チ質問ノ要點デアアルノデアアル、故ニ昨年私ハ唯製鐵所  
技師ノ調査ノミニ依ッテ如何ニ御答辯ニ相成ッタ所ガ、天下ノ疑惑ヲ晴スコトハ出來ヌカラ、須ク  
三者デアアル専門家ヲ僱ヒ、能ク之ヲ調査シ、其結果ヲ速ニ天下ニ發表サレヌケレバ、到底此疑ハ  
晴スコトハ出來ヌノデアアルト云フコトヲ私ハ吳々モ言ウタノデアアルケレドモ、更ニ其後何等ノ  
調査報告モ無イノデアリマス、遂ニ其後ニハ鹿町炭礦ノ主任者デアリマシタ所ノ、政友會ノ長崎  
縣支部長デアッタ濱野治八君ハ、此炭礦賣買ニ關シテ收監サレルニ至ッタノデアリマス、又聞ク所



ニ依リマスルト、會計検査院ニ於テモ其不當ナルコトヲ認メタト云フ事デアリマス、殊ニ此處ニ於テ申添ヘテ置キタイコトハ、昨年此席ニ於テ何等疾シキコトナシト云フコトヲ御答辯ニナリマシタ所ノ中倉万次郎君——同君ハ赤貧ヲ以テ令名噴々、人格者トシテ評判ノ高イ人デアリマス、ソレガ此賣買アツテ後ドウ云フモノデアリマスルカ、巨萬ノ富ヲ造ラレ、ニ至ッタト云フコトハ、其後稅務署ノ取調其他調査ニ依ッテ明ニナッタト云フ事デアリマス、茲ニ於テ益、世ノ疑惑ヲ深カラシムル次第デアリマスルカラシテ、昨年私ガ申シタ如ク、第三者ノ確タル調査ニ依ッテ、其疑ヲ晴サル、ニアラズンバ、如何ニ當局者ガ正當デアルト言ヒマシタ所ガ、到底疑ヲ晴スコトハ出來ヌノデアリマス、終リニ申上ゲテ置キマスルガ、鮎川甚五右衛門氏ハ飽迄モ其不當ナルコトヲ天下ニ發表セントシテ、製鐵所長官等ニ公開狀ヲ曩ニ送ッテ居ルノデアリマス、ソレニ對シテ何等當局カラハ今以テ一言ノ挨拶モシテ居ラヌノデアアル、如何ニ鮎川工學士ノ決心固キカハ、之ヲ一讀シマスレバ御分リニナラウト思フノデアアル、昨年十一月四日附テ製鐵所長官ノ白仁、同次長ノ中川、工學博士ノ服部君ノ三名ニ宛テラレタ公開狀デアリマス「一書呈上致シ候」——中略シマシテ——「先達鹿町炭礦買収ニ關スル小生ノ意見書ヲ御送附申上置キ候ヘバ、既ニ御落掌御一覽下サレ候事ト存ジ候之ニ依リテ右炭礦ニ關スル諸君ノ御意見ヲ伺フ事ヲ得ルナラント密ニ期待致シ居リ候ヘ共今日ニ至ル迄何等ノ御回答ニ接セズ甚ダ遺憾ニ存ジ居リ候ニ付重ネテ左記ニ對スル貴志ヲ得度次第ニ御座候小生ハ鹿町炭礦ノ附近ニ人トナリ且ツ炭礦ニ關スル専門ノ學ヲ修メ候者ナレバ此炭坑ニ關シテハ相當ノ知識ヲ有スルモノト自信致シ候元來鹿町炭坑ナルモノハ過去二十年間ニ於ケル稼業ノ状態ヨリ見ル時ハ天下ノボロ炭坑ニシテ大事業ヲ採ルノ價値無キモノナル事ハ小生ノミナラズ斯業ニ經驗アリ人士ノ等シク公言スル所ナルニモ拘ハラズ昨年春總選舉ノ將ニ來ラントスル一箇月前ニ三百萬圓ヲ驚クベキ高價ヲ以テ貴所ノ買収セラレシヨリ平生此炭坑ノ實質ヲ知レル地方人民竝ニ斯界ノ人士ハ驚異ノ眼ヲ睜リ怪々ノ耳ヲ聳テ流言蜚語卷ニ滿チ行路ノ人口耳相接スルニ至リ終ニ四十四議會ノ問題トナリシモ政府ノ答辯ガ不得要領ニ終リ我々専門家ヲシテ益々奇怪ノ思ヒヲ爲サシメ候頃者又之ニ關セリト稱セラル

ル濱野某ノ收監中倉代議士ノ家宅搜索等幾多ノ不祥事件ヲ頻發シテ益々世人ノ疑惑ヲ昂メ候事ハ既ニ十分御承知ノ事ト存ジ候由來製鐵所ハ前年彼ノ醜怪事件暴露以來世人ハ之ヲ以テ不正ノ巢窟醜汚ノ淵叢トナシ居リ候ニ今又鹿町事件ノ起ルアリテ益々其感ヲ深クセシムルハ天下國家ノ爲ニ痛恨ノ至リニ存ジ候此炭坑ハ專ラ貴下方ノ御意見ニ依リテ買収セラレタルモノト拜聞致シ居リ候處斯ノ如ク天下ノ耳目ヲ聳動セシメタル大事件ヲ諸君ガ平生公言セラルガ如ク單ニ意見ノ相違トシテ一笑ニ附シ世人ヲ満足セシムルニ足ルノ何等辯解セラル事ナキハ世人ノ口ニスル醜汚ノ事實ヲ肯定スルモノニシテ世道人心ニ害毒ヲ及ボスノ至大ナルノミナラズ諸君ノ名譽ノ爲ニモ遺憾此上モナキコト、存ジ候此事實ニ關シテ其間何等ノ疾シキコト無之ニ於テハ我等ヲ首肯セシムルニ足ルノ高明正大ナル理由ノ存スルナルベシト存ジ候ニ就テハ御職務御多用中恐縮ニ存ジ候ヘ共右ノ理由拜承致シ度ク新聞記者兩三人立會ノ上御面會願上度存ジ候御支障無之候ヘバ場所日時御一報被下候ヘバ小生拜趨可致候先ハ得貴意度如斯御座候積願再拜「此書面ヲ送リマシタケレドモ、其後何等ノ回答ニ接シ居ラヌノデアリマス、此故ニ斯業界ニ於キマシテハ、益々疑惑ヲ深カラシムルニ至ッテ居ルノデアリマスカラ、ドウゾ更メテ第三者ノ専門家ヲシテ十分ニ調査セシメテ、其結果ヲ回答ニ預リタイノデアリマス、尙ホ御參考ノ爲ニ議長ノ許可ヲ得マシテ、鮎川甚五右衛門氏ガ昨年七月十三日佐世保裁判所檢事局カラ質問ラレタ時ニ送リマシタ其答辯書ノ印刷物ガアリマスカラ、是ハ専門的ノ事ガ詳細ニ書イテアリマスカラ、之ヲ速記ニ掲載スルコトニ致シマスルカラ、之ヲ能ク御熟讀ノ上、是非共本員ノ希望ニ依ッテ、天下ノ疑惑ヲ晴サレンコトヲ偏ニ希望スル次第デアリマス

之ニ對シ山本農商務大臣ハ三月二十三日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ  
 製鐵所ノ調査ニ依レハ今日迄ノ實查ノ結果ハ鹿町炭層ノ炭層中其ノ重ナル鹿町五尺層ハ厚サ三尺八寸薄キモ九寸一分ニシテ縱斷層以外無炭地ナキヲ以テ殆ト四百六十七萬餘坪ノ全面積ニ布



置シ其ノ七割餘ハ良炭ニシテ更ニ其ノ約六割ハ實收可能ノモノナリ而シテ本炭ノ氣分ハ分析上十六%内外ニ過キサリニ依リ製鐵用骸炭製造ノ配合料トシテ水洗ヲ要セス故ニ各層ヲ通シテ計算上少クモ千八百餘萬噸ノ實收量アルコトヲ推定シ得タリ且目下調査中ナル實地ノ試錐及精査ノ結果ニ依レハ更ニ炭量ヲ増加スルノ計算ヲ示シツ、アルヲ以テ前記推定量ハ過大ニアラス會社カ當初買求メタル價格ノ至廉ナルハ經濟界不振炭價亦不況ナルノ時ナリシノミナラス數多ノ小鑛區主ヨリ其ノ各鑛區ノ炭層ノ一部ヲ目的トシテ買收シタルニ起因スルモノ、如シ而シテ製鐵所カ支拂タル價格ハ本炭鑛カ從來所有ノ鑛區ニ接續セルト附近一帶ニ互リ廣ク取纏メタル一鑛區ニシテ水運亦便利ナルカ爲事業經營上幾多ノ利益アルヲ省察シ當時ニ於ケル最近ノ賣買實例ヲ參酌シ慎重ニ採算シテ之ヲ決定シタルモノナリ本炭鑛カ本邦製鐵原料ノ獨立上重要ナルモノニ屬スルト前記各般ノ利便及骸炭ノ特殊ノ性質トニ照セハ敢テ高價ニアラス猶本件ニ付テハ本官ハ製鐵所以外ノ技術者ヲシテ目下調査セシメツ、アリ

二四 物價調節貿易振興ニ關スル質問

一 政府ハ物價調節ニ關シ大正十一年度ニ於テ何等カノ施設ヲ爲ス意思アリヤ若施設ヲ爲ストスルトキハ其ノ方法及時期ヲ明示セラレタシ

- 一 政府ハ金ノ輸出ヲ解禁セサル由ニ聞ク若輸入超過繼續シタル結果在外正貨減少ヲ來シ爲換決濟尻ニ不足ヲ生シタルトキハ如何ニスルヤ
- 一 輸入輸出均衡ヲ失シ對外爲換相場益不利ト爲ルモ是ヲ救濟スルノ必要ナキヤ
- 一 輸出貿易振興ニ關シ如何ナル政策ヲ實行スル意思ナリヤ

十一年二月二十一日太田信治郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月十四日山本農商務、高橋大藏兩大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 政府ハ大正十一年度ニ於テモ生産消費其他各般ノ施設ヲ通シテ適當ナル物價ノ調節ニ努ム可シ
- 一 政府ハ輸出ヲ獎勵スルト同時ニ不必要ナル輸入ヲ抑制シ以テ入超ノ趨勢ヲ緩和シ貿易外ノ受取勘定ト相俟テ在外正貨ノ維持ニ力ムヘキモ而モ尙爲替決濟尻ニ不足ヲ生スルカ如キ場合ニハ相當臨機ノ措置ヲ講スヘシ
- 一 政府ハ必要ニ應シ在外正貨ノ賣却ニ依リ爲替資金ノ不足ヲ補充シ以テ爲替相場ノ不利トナルヲ防キツツアリ
- 一 政府ハ海外ニ於ケル貿易事情ノ調査販路ノ維持擴張ニ努ムルト同時ニ生産費ノ低減品質ノ



改善ヲ獎勵シ又新ニ商務官ヲ置キ並ニ之カ連絡機關ヲ政府部内ニ設クル等常ニ輸出貿易ノ振興ヲ策スルコトヲ怠ラス今後ニ於テモ時宜ニ應ジ適當ノ施設ヲ實行スヘシ  
右ニ對シ同日太田信治郎君ハ意見ヲ陳述セリ

二五 社會主義者取締ニ關スル質問

政府ハ近來發生セル過激社會運動發生ノ原因何レニアリト思考スルヤ及其ノ取締ニ關スル方針如何

十一年二月二十一日田中武雄君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月七日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、本員ハ社會主義者取締ニ關スル質問ヲ致スノデゴザイマス、其趣旨ハ現時社會主義者ガ非常ニ過激化致シマシテ、過激的ノ運動ヲ開始スルニ至リマシタ形跡ガアリマス、之ニ對シマシテ其發生ノ原因ガ何レニアルカ、サウシテ又如何ナル取締ノ方法ヲ以テ之ニ御臨ミニナルカト云フノガ、其趣旨デゴザイマス、順序上此思想ノ發生ニ付キマシテハ、一般ノ思想界ノ有様カラ説ク事ガ順序カト心得マス、我國ノ思想界ノ現狀ハ、丁度新舊思想ノ對立時代ト云フカ、或ハ其衝突時代トカ云フベキ時ニアルト考ヘルノデゴザイマスガ、何モ舊思想ト申シマシテ、孔子、孟子ノ教、政治言フナラ官僚萬能主義ノ謳歌者ガ持ッテ居ル所ノ思想ト云フ意味ニモ非ズ、又新思想ト申シマシテモ、近頃歐洲ニ發生シテ居ル種々ノ思想ヲ直譯的、鵜呑的ニ消化シヤウト云フ所ノ思想デモナイ、詰リ前者ハ嘗テハ徳川三百五十年ノ專制政治ト申シマスカ、二重政治ト申シマ

スカ、其將軍政治ヲ布イテ居タル、其政治ヲ國民ノ手ニ取返サウトシテ、獻身的ノ努力ヲセラレタル方、ガ、其時分ニ詰リ御維新時代ニ持ッテオイデニナリマシタル所ノ思想トサウシテ現在ノ思想ト、對立ヲシテ居ルト云フ現狀デアルト思フ、斯ウ云フ方、ガ今ノ新思想ノ上ニ優越ナル所ノ地步ヲ占メヤウトスル所ノ努力、之ニ對シテ十ノ壓迫ガ來ルノデアラナラバ、十二ノ反動力ヲ以テ之ニ對シテ行カウト云フ所ノ思想、即チ五十年前ノ民主主義ト云フモノト、今日ノ民主主義ト云フモノ、對立ガ、現狀デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、サウシテ此舊思想ト稱スル詰リ前ニ屬スル所ノモノハ政治界デ云フナラバ、政治界ニ於ケル諸老、先輩諸君ノ頭腦ニ多ク存シ、サウシテ後カラ申シマシタ所ノ思想ハ其他ノ全階級ニ廣ク存シテ居ル所ノ思想ト私ハ思ヒマスガ、併シ此特權階級デアルトカ、上流階級デアルトカ云フ人ノ頭ニ存シテ居ル所ノ思想ト、其他ノ多數級ノ人々等ニ存シテ居ル所ノ思想トガ、適當ナル比例ヲ以テ居ルノテアリマスレバ何モ思想界カラ社會主義發生ヲ恐レ、或ハ社會主義ノ危險化ヲ恐レルト云フ必要ハ無イノデアリマスガ、此日本ノ思想界ノ一番ノ弱點、一番ノ危險ナル所ノ一點ハ何デアアルカト申シマス、多數ノ民衆ノ上ニ立ッ人ノ思想ノ方ガ、一般ノ民衆ノ思想ヨリ遲レテ居ルト云フ所ニ、其危險ナル點ガアルト私ハ思フ、併シ片方ハ少數デアリマシテモ、資本家デ云フナラバ資本ヲ擁シテ居ッテ、少數ノ資本家ガ多數ノ人間ヲ使ッテ居ル、政治上デ申シマスナラバ、其背景ニハ權力ト云フモノヲ以テ多數ノ者ヲ動かシテ居ル、政黨言フナラバ、少數ノ幹部ナル者ガ存在シテ、多數ノ黨員ヲ操縦シヤウトシテ居ルケレドモ、此少數ノ力ハ一般ニ勃興セントスル所ノ勢力ニ對シテハ、之ヲ壓止メテシマフ、後へ戻シテシマフト云フコトハ出來ナクトモ、何トカ堰止メヤウト思ッテ、勞働問題デアラナラバ、温情主義デアルトカ、協調主義ヲ以テ來ル、或ハ利權ヲ以テ來ルト云フ工合ニ、色々苦心ヲシテ居ルガ、其方法ガ足ラズ、力ガ足ラザルト見ルヤ、往々ニシテ壓迫的ノ態度、又極度ニ壓迫ヲ加ヘマス、茲ニ少數ノ持ッテ居ル特權階級ノ思想ト云フモノト、多數ノ民衆ノ持ッテ居ル所ノ思想ト云フモノガ「バランス」ヲ其處デ以テ失シテシマヒマシテ、是迄多數ノ人間ノ中ノ或ル部分ノ者ガ、今迄正當ナリト思ッテ居リマシタル思想ヲ捨テ、サウシテ過激ナル方法ニ



理窟ヲ付ケテ、之ガ正當ナル所ノ方法デアアル吾々ハ之ヲ要求スル所ノ權利ガアルト言ッテ叫ンデ來ルノガ、私ハ民主主義カラ生レル所ノ社會主義ナルモノデアリ、社會主義カラ生レル過激主義ナルモノデアラウカト考ヘルノデアリマス、併シ思想ノ惡化ト云フコトハ、政府當局ノ御意見ニ依ルト、隨分外國思想ノ流入ト云フコトニ付テ重キヲ置イテ居ラル、ヤウデアリマスルガ、外國思想ノ流入ト云フガ如キ單純ナル所ノ事柄ニ非ズシテ、外國思想ガ入ルト入ラザルトニ拘ラズ、多數ノ國民ト云フモノガ、己ニ臨ム所ノ爲政者、若クハ己ニ臨ム所ノ支配者ト云フモノガ持ッテ居ル所ノ思想、ソレノ政策其方法ニ依ッテ生活ノ安定ヲ失シ、思想ニ於ケル共鳴點ヲ發見シ得ラレザル場合ニ起ルモノデアルト思フ、ソレデアアルカラ動モスルト院內デハ、政治ト思想、國民生活ト政治ト云フコトハ大シタ關係ノ無イヤウナ意見ヲ持ッテ居ラレル方モアルヤウデアリマスガ、是ハ大ナル誤リト私ハ言ハナケレバナラヌト思フ、政府ハ何處迄モ國民思想ノ善化、惡化、共ニ大ナル責任者デアアル、又政治家ガ思想ノ潮流ト云フコトニ詳シクナケレバナラヌト云フノハ此點デアアルト思ヒマスガ、當局ノ方々カラハ、此思想ノ對策ト云フコトニ對シマシテ、確乎タル御意見ヲ未ダ聽イタコトガナイノデアリマス、先般安藤君ガ思想政策ニ對スル質問ヲナサイマシタ、之ニ對シテ高橋總理大臣ガ御答辯ニナリマシタガ、甚ダ不明瞭極マルモノデアアル、寧ロ不明瞭其物ガ御答辯デアアルト言ヘバソレデオシマヒカモ知レヌガ、唯嘗テ床次内務大臣ガ、思想ニハ思想ヲ以テ對スベシト云フコトヲ仰シヤッタコトハ、誠ニ適當ナル言葉デアアルト思ッテ居ッタガ、其後ノ當局ノ御行動ヲ見テ居ルト、何等此思想上ニ對スル對策ガナイケレドモ、成程思想ト思想トヲ對立セシメラレト云フノハ宜イ事デアリマスガ、現政府ハ實際現代ノ社會主義ト云フモノニ對シ、社會主義者ト云フモノニ對シテ、彼方ニ思想ガアルナラバ、此方モ一ツノ思想ヲ持ッテ行カナケレバ、思想ト思想トノ對立ト云フコトハ得ナイノデアアルガ、如何ナル思想ノ御持合セガアルカト云フコトハ、甚ダ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、現ニ先日モ貴族院ニ出サレマシタガ、思想ニハ思想ヲ以テ對スベシト云フ代リニ——此社會主義者ニ對シマシテハ、思想ヲ以テ對スル代リニ、過激社會運動取締法案ナルモノヲ御出シニナッテ思想ニ對スルニ思想ヲ

以テセズシテ思想ニ對スルニ法律ヲ以テシタル如キハ、明ニ内務大臣ノ御言明ノ如キハ裏切ラレタルモノト私ハ思フノデアリマス、併シ茲ニ伺ヒタイコトハ、斯ル特別ナル法案ヲ御出シニナラナケレバナラナイ程ニ、現代ノ社會主義ト云フモノハ惡化シテ居ルト御考ニナルノカ、ソレヲ認メラレザルナラバ、何故ニ斯ル法案ヲ御出シニナラントシツ、アルノデアリマス、御認ニナルノデアレバ、其責任ハ何處ニアルカト云フコトヲ當局カラ伺ヒタイト云フノガ第一問デアリマス、次ハ第二問ニ入りマスガ、然ラバ斯ル法律ノミデナク、他ノ如何ナル方法ヲ以テ御取締ニナルカト云フコトヲ伺ヒタイノデゴザイマス、御承知ノ如ク思想ハ固定性ノモノニ非ズシテ、流動性ノモノデアリマス、有形體ニ非ズシテ無形體デゴザイマス、思想ガ川ノ流レノ如クンバ、或ハ堤防ヲ以テ、或ル程度迄止メラレルカモ知レマセヌガ、此流動性ノ無形體ニ對シテハ、如何ニ劍ノ垣ヲ築イテモ、銃劍ノ垣ヲ築イテモ止メルコトハ出來ナイノデアリマス、何ノ效力モ威力モナイト云フコトハ嘗テ西伯利ニ出兵ヲサレマシタ其出兵ニ依ッテ、軍隊ガ惡化シタカ善化シタカト云フコトヲ御考ニナレバ、是ハ輒ク分ルコトデアルト思フ、ソレデ現ニ軍隊デハ今日社會主義取締ハドウデアアルカ、其方法ガドウデアアルカ、過激運動取締ガ軍隊內ニ於テドウデアアルカト云フ風ナコトヲ御心配ノヤウデアリマスルガ、洵ニ是等ハ大キナ矛盾デアッテ、此位ノコトヲ心配ニナルト云フコトハ軍隊ノ權威ニモ拘ハルコトデアッテ、大キナコトヲ云フ軍隊教育モ私ハ怪シイモノデアルト思フ、固ヨリ皇室ニ及ラ向ケヤウトスルガ如キ者ハ、斯ウ云フ怪シカラヌ輩ガ出マスレバ、ドシ〜ト處分ヲ致スベキデアリマス、所ガ茲ニ極ク少部分ノ泥棒ガアル、其泥棒ハ掏摸、巾著切ノ類ニ屬スル小サイ泥棒デアアル、其泥棒ヲ取締ルノニ、大キナ何十萬圓、何百萬圓ヲ人ノ目ヲ盜ンデ泥棒ヲシタ、或ハ強盜ヲ働イタト云フ風ナ者ヲ取締ルト同ジ方法、同ジ内容ノ苛酷ナル法律ヲ以テ之ヲ取締ラウト思ヒマスレバ、是マデ強盜ヲシテ居ッタル所ノ小サイ所ノ泥棒ハ、自分ガ一廉大キナ泥棒ニ成リ澄マシテ氣取リ込ミ、偶ニハ一ツ大泥棒デモヤッテ見ヤウカト云フ風ナ行爲ニ、却テ導キハシナイカト云フ心配ガアリマス、茲ニ一例ガアリマスルガ、是ハ宇都宮聯隊ノ出來事デ追放ヲ喰ヒマシタ或ル一人ノ社會主義者ガ、自分ノ先輩ニ宛テ、送ッタル所ノ



手紙デアリマス、其手紙ノ一齣ニ、自分ノ如キハ赤化運動ニ關係ノアル故ヲ以テ無病息災ナルニ拘ラズ、心臓トカ云フ病氣ニ依ッテ軍隊ヲ追放サレマシタ、サウシテ今ハ放タレタル獅子——獅子トハ「ライオン」デアリマス、獅子ヲ氣取ッテ下野ノ野ニ横行ヲシテ居リマスト云フヤウナ手紙ヲ送ッテ居リマス、誠ニ自慢サウニ吹聴ヲシテ居ル、實ニ一面カラ見マスルト、他愛モナイ代物デアリマスガ、斯ル小サキ輩ヲ教育シ得ズシテ、軍隊ガ追放ヲシタモノト致シマスレバ、私ハ軍隊ノ教育ノ眞價ヲモ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、然ルニ此處デ承リタイノハ、斯ウ云フ朝憲案亂ノ行動ヲシタ者ナドハデス、前ニ申シマシタル如ク皇室ヲ倒サウトカ、皇室ニ及ヲ向ケヤウトカ云フ風ナ者ノ行動ニ對シマシテハ文句ハ無イノデアリマスルガ、社會主義ノ思想ヲ持チ、又ハ共產主義、無政府主義ニ興味ヲ持ッテ、或ハ之ヲ學術的研究的ニ其意見ヲ社會ニ發表致シマシテ、眞ノ我國ノ改造ノ一步ニ資セントスル所ノ人々等ニ對シマシテハ、自由ニ其研究ヲ爲サシメ、意見ヲ發表セシムルコトガ正當ト考ヘマスルガ、之ニ對シテ當局ハ如何ニ御考ヘニナルカト云フ問題デアリマス、過激政治ト云フモノニ對シテハ、隨分亂暴ナ政治ノ如キ御解釋モアリ、又正體モ亂暴ナモノラシイケレドモ、日本ニモデス、嘗テハ僅ニ數十年前マデハ皇室ト人民ガ所有スベキ其土地ヲ、其間ニ領主ト云フ者ガアツテ、ソレデ自分等ガ勝手ニ領地ナルモノヲ拵ヘテ、其上前ヲ刎ネテ居ッタ所ノ領分政治ナルモノガ存在シテ居ッタノデアリマス、サウシテ其末流ガ貴族デアルトカ、華族デアルトカ言ッテ、所謂日本ノ上流階級ヲ占メテ居ルコトハ、是ハ日本トシテハ一ノ皮肉デアリマスガ、過激派ト雖モアノ永年ノ間、弊風ノ上ニ弊風ヲ積ミ、罪惡ノ上ニ罪惡ヲ重ネタル所ノ貴族政治、專制政治、罪惡政治ヲ一氣ニ屠リ去ッタル所ノ手際ニ至ッテハ、私ハ大ニ認メザルベカラザル點ガアルト思フ、又アノ塞爾維ノ一青年ノ放チタル所ノ一發ノ彈デ、アノ大動亂、歐洲ノ大戰ヲ起シタノデアリマスルガ、此終末ト云フモノガ著キマシタルノモ、亞米利加ノ兵隊ノ參加ト云フコトモ、或ハ聯合軍ガ「モットウ」トシテ居リマシタ所ノ正義ハ暴力ニ勝テリト云フコトモ、或ハ民本主義ハ軍國主義ヲ破レリト云フコトモ、ソレハ皆事實デアリマセウケレドモ、此裏ニ吾々ガ見ナケレバナラヌコトハ、肝腎ノ相手ノ獨逸ヲ倒シタルモノハ、是等ノ者

ヨリ更ニ有力デアッタモノハ、彼ノ永年蔓ッテ居ッタル獨逸ノ軍閥政治ヲ根本カラ引繰返シタル所ノ獨逸社會黨ノ力デアッタノデアリマス、實ニ獨逸ノ軍國主義ト云フモノハ世界ニ有名ナモノデアリマシタガ、内部ノ破レニ於テハ仕樣ガナイ、大政黨ト雖モ表カラ壞レルモノデアリマセヌ、政黨ノ歴史ニ徴シテモ大抵内部カラ壞レルモノデアアル、斯ル新行動ノ勃興ハ、軍隊ニ於ケル所ノ世界ノ大勢ノ重要ナル一部分デアアル、又皆ガ一齊ニ叫ンデ居ル所ノ改造トカ何トカ言ヒマシテモ、此惡キ所ハ捨テ、シマツテ、善キ所ハ採ッテ之ヲ國政ニ資セントスル所ニ意味ガアルノデアリマス、故ニ之ヲ頭押シニ抑ヘテシマフノデアリマスレバ、折角大勢順應主義ノ看板ヲ上ゲテ居リマシテモ、其看板ヲ上ゲテ居リマスル所ノ商店ニハ、恐ラク頭ニ徴ノ生ヘタル代物ト、役ニモ立タヌ觸レバ危ナイ所ノ硝子ノ破片ノヤウナ代物許リニナツテシマハナケレバナラヌヤウナ時代ガ來ヤシナイカト思ヒマス、餘程此邊ハ當局ガ能ク——御注意ヲ拂ッテ戴キタイ所ノ事デアリマスガ、ソレカラ社會主義者ト云フ者、斯ウ云フ思想ニ對シマシテハ、彈壓ト云フモノハ何等ノ威力モナイノデアリマス、社會主義ノ發生以來ノ歴史ヲ見マシテモ、斯ル事ヲ細ト申ス要必ハアリマセヌガ、例ヘバ「ビスマルク」ガ社會主義ト云フコトニハ中々理解ヲ持ッテ居ッタ人デアッタ、アッタケレドモ彼ガ一度彈壓政策ヲ取ッタル場合ニハ、アノ理想ヲ根本トスル「カールマルクス」ソレカラ實際主義ヲ發展シヤウトシタ「ラッセル」ガ却テソレガ動機ニナツテ手ヲ握ラシメテ、茲ニ獨逸社會共和黨ガ組織セラレタト云フコトモアル、英吉利デ以テ十八世紀ノ末頃ニ普通選舉ノ起リタルトキハ、商工業者ハ隨分潤ヒガアリマシタガ、一般ノ勞働者ニ對シテハ、アレハ社會ノ組織ヲ破壞スルモノデアルトカ云フ風ナコトニ依リマシテ、其潤ヒガナカッタガ爲ニ、茲ニ英國ニ於ケル穩健ナル社會主義ト云フモノガ、初テ階級鬭爭ノ第一歩ヲ開イタノデアリマス、ソレデアリマスカラ當局ニ於テモ、能ク大勢ト近代思想ト云フモノニ對シマシテハ、完全ナル理解ヲ持ッテ居ラル、ノデアリマスルナラバ、少クトモ思想問題ノ研究者、之ニ對スル言論ニ對シマシテハ、解放的ノ態度ヲ御採リニナラナイト、議會否認ノ聲ヲ止メヤウトスル考ガ、却テ議會否認ノ聲ヲ作ルヤウナ事ニナリハシナイカト思フノデアリマス、例ヘバ過激派ノ信條ト云フモノ



ガ議會否認デアリ、又共產主義デアリマシテモ、日本ノ労働者ノ大勢ヲ見、日本ノ社會主義者ノ大勢ヲ見マス、其絶對多數ト云フモノハ日本ノ社會黨ト云フモノニハサウ云フ黨ト云フ組織ハマダアリマセヌガ、確ニ議會政治ニ執著心ヲ持ッテ居ルト云フ一事ダケハ確カデアリマス、此勢カラ致シマシタナラバ、此議院ノ中ニモ或ハ民主黨デアルトカ、或ハ日本社會黨デアルトカ、或ハ立憲労働黨ト云フ風ナ黨派ガ出來テ議席ヲ有スル事ニナルト云フノハ、是ハ來ルベキ當然ノ大勢ト私ハ思フ、實際野黨多數ノ労働者ハ、譬ヘテ言フナラバ今日普通選舉運動ヲ助ケテ居ル、非常ニ熱心ニ助ケテ居ルト云フコトモ、亦吾々野黨ノ連中ト致シマシテモ、彼等ヲ尻馬ニ乗セテ働イテ居ルト思ッタラ大キニ間違デアル、彼等モ亦乘ッテ居ナドト考ヘテ居ナイ、其信條ハ何デアルカト云フト、普通選舉ガ實行ノ曉ニハ、今度ハ自分等ガ出テ來テ此中ニ議席ヲ占メテ、サウシテ主義主張ト云フモノヲ議會ヲ通ジテ天下ニ諒解セシメヤウト云フ所ニ彼等ノ本當ノ熱心ガアルノデアアル、之ガ唯一遍ノ煽動トカ、宣傳トカニ依ルト御覽ニナル御方ガアルト、是ハ大キナ誤リデアリマス、サウシテ一般ノ此普通運動——労働者ノ普通運動参加ト云フコトニ對シマシテ、皆此實際ノ點ノ理解ガ少カッタノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、又政局全體カラ申シマシテモ、普通運動ガ實行セラレタナラバ、チット是ハ餘談ニ互ルヤウデアリマスガ、之ヲ譬ヘテ言フナラバ野黨ガ政府黨ヲ破ルト云フヤウナ單純ナ事柄デハナイ、是カラ生レルモノハ恐ラク既成政黨ノ破壊デアリマセウ、恐ラクハ是カラ生レルモノハ少壯氣分ト、ソレカラ保守的气分トノ鬭争デアリマセウ、茲ニ於テ意味ガアルノデアリマス、コンナコトハ、ノウウ——ト云フ聲ガ聞エルヤウデゴザイマスガ、政友會ノ少壯代議士諸君ニハ能ク御分リノ方ガアッテ、私ノ如キハ度々意見ヲ交換シテ居リマス、而モ此大使命ヲ知リツ、此普通選舉運動ト云フモノニ、心ナラズモ束縛ノナル所ノ行動ヲ探ラレテ、此壇上ニ反對ヲサレタト云フコトハ、此思想界ノ上カラ見マシテモ私ハ洵ニ之ヲ悲シム者デアアル、併シ此大勢ヲ見ルト云フコトハ肝腎デアアルカモ知レナイ、又肝腎デアリマスガ、此状態ヲ知ルト云フコトモ必要デアアル、今度ノ法案ナンカラ見マシテモ、其理由書中ニハ外國同志ト氣脈ヲ通シト云フ風ナコトガ書イテアリマスルガ、是ハ支

那朝鮮——支那ノ中デモ上海等ニ居リマシテ、色々ナ行動ヲシテ居ルヤウナ者ニ其理由ガアルヤウデアリマスルガ、其根本ハ露西亞デアリマス、露國ノ意味シタノデアリマセウガ、露國ガ此過激思想ノ發生前ノ状態ハドウデアッタ、普通ノ多數級、庶民級ノ人ハ非常ニ極度ナル壓迫ヲ加ヘラレ、サウシテ文化ノ程度ハ些トモ進ンデ居ラナイ、字ヲ書ケナイ奴ハ澤山アル、一體誰ガドウ云フ政治ヲシテ居ルノカ知ラヌ人間ガ澤山アル、斯ウ云フ多數ノ人間ハ、社會主義ト云フモノガドウ云フモノデアアルカモ知ラヌ、民主主義ト云フモノガドウ云フモノデアアルカモ知ラヌ、彼等ガ唯知ツタモノハ貴族政治ノ壓迫其モノデアアル、專制政治ダケデアッタノデアリマス、仍テ彼等ハ合理的ナル、穩健ナル社會主義的ノ行動モ採ラナケレバ、民主的ノ行動モ採ラズ一足飛ニ此梯子段ヲ飛越シテシマヒマシテ、サウシテ今度ハ貴族專制ニ代フルニ勞農專制ヲ布イタト云フノガ現状デアリマシテ、是ハ又實際デアリマスガ、此立國ノ基礎ガ相當ニアル日本ガ、直ニ一足飛ニ過激思想化シ「レーニン」ノ手下ニナルナゾト云フコトヲ御考ニナルノハ間違デアルト思フ、是ハ思想界ノ順調的ノ產物ニ非ズシテ反動的ノ產物デアアルカラ、反動的ノ產物ニ對シマシテ唯單純ニ非常ナル恐怖ト非常ナル壓迫ヲ以テ臨ムト云フコトハ、其自ラ侮ルモノデハナイカト思フ、能ク——此邊ヲ御考ヲ願ヒマシテ、政府ハ是等ノ思想ニ對シテ如何ナル御取締ヲ爲サルノデアアルカ、如何ナル對策ヲ御持ニナッテ居ルノデアアルカト云フコトガ、私ノ趣旨デゴザイマス、ドウゾ御明答ヲ煩シタイト考ヘマス

之ニ對シ床次内務、大木司法兩大臣ハ三月二十三日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

近時我國ニ於ケル過激社會運動ハ主トシテ歐洲大戰後歐米諸國ニ於ケル思想ノ變遷ノ影響ト露國過激派ノ活動トニ基因スヘク之ニ對シテハ從來刑法、治安警察法、出版法、新聞紙法等ニ據リ取締ヲ爲シ來レルモ未タ充分ナラサルヲ以テ本議會ニ過激社會運動取締法案ヲ提出シ取締上遺



算ナキヲ期セムトスルモノナリ  
 二六 海運政策ニ關スル質問  
 政府ハ戰後ノ海運政策ヲ誤リ爲ニ日本ノ海運界ハ目下非常ノ窮境ニ在リ政府ハ如何ナル手段ヲ以テ之ヲ救濟セムトスル乎

十一年二月二十五日橋本喜造君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月十四日野田遞信大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ  
 政府ニ於テハ本邦海運ニ關シ常ニ適當ト認ムル施設ヲ爲シ政府ノ政策ニ因リ海運界ヲ窮境ニ陥ラシメタル事實絕對ニ無シ本邦海運目下ノ不況ハ大戰後ニ於ケル世界的經濟界ノ不振ニ因由スルモノニシテ此ノ不況タル獨リ本邦ノミニアラス世界的現象ナルコトハ事實ノ證明スル所ナルカ本邦海運ハ其ノ繫船數ノ僅少ナル一事ニ照ラシテモ尙ホ比較的良好ノ立場ニアルモノト認ム  
 右ニ對シ同日橋本喜造君ハ意見ヲ陳述セリ  
 右意見ニ對シ秦政府委員ハ同日口頭ヲ以テ答辯ヲ爲シタリ

二七 寶塚郵便局長印紙橫領事件及同件ノ裏面ニ潜メル政治的醜怪事ニ關スル質問

一 兵庫縣武庫郡寶塚郵便局長津下精一ノ印紙橫領事件ニ關スル豫審ノ決定及第一審判決ニ據レハ精一等ノ橫領シタル印紙ノ總額ハ二百三十四萬三千圓ニシテ是カ橫領ノ日時、場所、種類等明確ニ證明セラレ且遞信省ヨリ提起セル私訴目的價格モ亦同一額ナリ然ルニ此ノ日時、場所以外タル大正九年十二月精一カ東京驛ホテルニ滯在中精一ノ長男津下東洋及八尾捨治郎ノ兩名カ精一ノ命ニ依リテ同月四日神戸郵便局印紙出納係仁兒兼太ヨリ印紙五萬圓ヲ收受シ之ヲ正金ニ換ヘ金四萬五千五百圓ヲ大阪山口銀行堂島支店ニ拂込タルコト幾多ノ證據書類ニ依リテ明白ナリ然ラハ精一ノ橫領ニ係ル印紙ノ總額ハ二百三十四萬三千圓以上ナルコト動カスヘカラサル事實ナルト同時ニ遞信省ニ於ケル帳簿ノ亂脈ナル監督ノ不行届ナル且ハ豫審取調ノ粗漏ナル誠ニ想像ニ餘リアリトイフヘシ政府ハ猶以テ精一ノ印紙橫領總額ハ二百三十四萬三千圓ナリト爲ス乎

二 殺上五萬圓ノ橫領印紙ハ豫審ノ決定ニ依レル二百三十四萬三千圓中ニ加算スヘキモノナリトセハ豫審調書ニ明記サレタル橫領ノ日時、場所、種類等ハ全ク偽瞞ノ申立ニシテ從テ豫審ノ



根柢ヲ傷クト甚大ナリ殊ニ豫審調書ヲ根據トシテ精一カ横領金額ノ使途ヲ考察スレハ二百三十四萬三千圓以外ニ尙數十萬圓以上ノ横領ヲ敢テシタルカ如キ形跡在リ當局ノ所見如何

三 前掲ノ事項ニ關シテハ大正十年九月十四日辯護士禰津六也カ精一ノ背後ニ隱レテ此ノ大罪ヲ敢行スルニ至ラシメシ所謂大奸巨猾二十二名ヲ神戸地方裁判所檢事局ニ告發セルニ拘ラス神戸檢事局ハ此ノ告發ヲ不問ニ附シテ何等取調ヲ開始セムトハセス却テ結審ヲ急クカ如キ形跡アリ而モ同年十一月十四日ヲ以テ精一ヲ保釋出獄セシメタルハ抑如何ナル爲ナル乎而シテ精一カ保釋出獄後「本件ニ關係アル大官名士ヲ檢舉シテハ國ニ對スル拜借金ガ返却出來ヌカラ檢事局ニ願テ保釋出獄ヲ請ヒ大官名士方ニモ面會シテ專念返金ニ盡ス積リデアル」云々ト公言セルハ果シテ眞實ナル乎

四 禰津辯護士ノ告發ヲ無視シ疑雲ニ包マルル精一ヲ遽ニ保釋シ而モ輿論ノ糾彈囂囂トシテ議會ノ再開目睫ニ迫ルヤ大正十一年一月ニ至リ突然其ノ保釋ヲ取消シ再ヒ是ヲ拘禁セシハ恰モ當局カ證據ノ湮滅ヲ陰ニ幫助セシカノ如キ疑ナシトセス況ヤ前項ニ記セシ精一ノ奇奇怪怪ナル告白アルニ於テヤ當局ノ所見如何

五 精一ノ再拘禁ヲ招クニ至リシハ印紙法違反ノ罪名ニシテ前陳セシ横領印紙五萬圓ノ收支決

算ノ合致セサルカ爲精一カ印紙ノ偽造ヲ企畫セリトノ新嫌疑ノ爲ナリト謂フ果シテ眞ナルヤ

六 大阪遞信局監察課事故主任深谷吉藏ハ國ノ代理人トシテ精一ノ女婿田中繁造ニ對シ贓物收受其ノ他ノ罪名ニヨリ神戸檢事局ニ告發ヲ提起セリト謂フ然ルニ此ニ對シテモ亦審理ヲ開カムトセサルハ不起訴處分ニ附シタル乎或ハ又告訴人カ告訴ノ取下ヲ爲シタル爲乎

七 大正七年十二月ヨリ同八年三月迄ノ間ニ於テ精一カ神戸郵便局出納係井上鶴治ト共謀シテ横領シタル印紙ノ總額ハ六十五萬圓ニシテ同八年三月ニ至リ仁兒兼太カ新ニ出納係ト爲リ鶴治ヨリ事務ノ引繼ヲ受ケタル際精一ハ横領印紙中ヨリ十五萬圓ヲ返還セリ开ハ豫審ニ於ケル精一ノ申立及精一ノ長男東洋カ精一ニ與ヘシ書翰竝該印紙ヲ東京市神田區千代田町共榮貯金銀行ニ預入シ在リシヲ同銀行理事原口英雄カ之ヲ精一ニ渡シタル事實ヲ立證セル書翰ニ依リテ明白ナリ然ルニ鶴治ハ印紙ノ出納簿ヲ破毀シテ此カ證據ノ湮滅ヲ謀リ而シテ印紙二十萬圓ヲ精一ヨリ返還ヲ受ケタリト陳述セリ此ノ兩様ノ申立ニ對シ豫審ニ於テハ證據充分ナル精一ノ自白ヲ斥ケ何等確證ナキ鶴治ノ供述ヲ採用セリ而シテ此ノ五萬圓ノ差額ニ對シテハ前記大阪遞信局書記深谷吉藏モ亦頗ル疑念ヲ懷キ居レリ當局ノ所見如何

八 大正九年二月本件ノ發覺スルヤ折柄第四十四回議會開會中ナリシヲ以テ錯愕驚倒セル當局ハ百方之カ隱蔽ノ策ニ腐心シ遂ニ狼狽ノ極精一ノ有スル幾多ノ債權ヲ保全スルノ方法ニ出ツ



ルカ當然ナルニ拘ラス之ニ對シテ何等ノ手段ヲ講セス法規ヲ無視シテ精一ノ身元保證人平塚嘉右衛門ニ對シ其ノ所有ニ係ル不動産全部約三百萬圓ニ假差押ヲ執行シ以テ何等國家ニ損失ヲ及ホサスト公言シ自己ノ責任ヲ輕減スルニ是レ努メタリ果シテ政府ハ法規上身元保證人ノ所有財産ヲ處分シテ國ノ損失ヲ償ヒ得ヘキモノナリト認ムルヤ

九 神戸檢事局ニ於テハ本件ノ背面的醜怪事ノ昭昭トシテ明ナルニ拘ラス之カ檢舉ヲ欲セスシテ單ニ精一等ノ橫領事項ノミニ局限セムトスル方針ナルカ如ク思惟セシム果シテ然ラハ道聽途説ニ由ル大正十年夏大木法相西下ノ際本件ヲシテ可及的擴大セシメサル如ク命令セシト謂フハ單ニ一片ノ風評トシテ默過スルヲ許サス洵ニ我カ司法權ノ威信ニ關スル重大問題ナリ當局ノ所見如何

十 大正十年二月精一ノ犯罪發覺セムトスルヤ政友會所屬代議士澤來太郎君ハ運動費トシテ精一ヨリ數千圓ヲ收受シ精一ノ刑事訴追ヲ免レシムヘク故原首相床次内相野田遞相及岡警視總監ニ運動シテ其ノ内諾ヲ得更ニ議會開會中ナル同年二月二十七日大阪ニ急行シテ同遞信局長河合鼈ヲ遞信局ニ訪ヒ橫領印紙辨償ノ條件ヲ以テ事ヲ穩便ニ付スヘキヲ懇請シ之レ亦内諾ヲ得タリ然ルニ警視廳ニ於ケル上司ノ命令下僚ニ徹底セス三月一日精一ノ羅致ヲ見ルニ至リシモ其ノ手續ヲ遷延セシメタルカ如キ傾アリ如斯ハ司法權ノ威信ヲ損傷スルモノ頗ル甚大ナリ

ト信ス如何

十一 精一ヲ傀儡トセル權執印幸雄ハ星製藥會社ノ獨占セル臺灣粗製モルヒネ販賣ノ權利ヲ配分摺得スヘク精一ニ多額ノ運動費ヲ支出セシメ先ツ岡山縣知事香川輝ヲ手先ト爲シ古賀拓殖局長官ヲ動カシ次テ下村臺灣總務長官ニ迫リシモ其ノ效果ナキヤ方策ヲ一轉シテ之ヲ政治問題ト爲シ第四十一回議會ニ於テ政友會所屬代議士土屋清三郎同中村啓次郎ノ兩君ヲシテ攻撃的質問ヲ爲サシメ威嚇ノ裡ニ其ノ目的ヲ達セムトセリ當局ハ我カ立法院ノ面目ニ關スル此ノ重大問題ニ對シ如何ナル所置ヲ執ラムトスルヤ

十二 若然ラスシテ幸雄カ精一ヨリ運動費詐取ノ目的ニ是ヲ利用セリトセハ前陳セシ彌津辯護士カ告發書中ニ之ヲ明記シ更ニ一切ノ證據書類ヲ提供シ在ルニ拘ラス司法當局ハ我カ立法院ノ權威ニ關スヘキ此ノ重大問題ニ對シテ一指ヲ觸レムトセス今尙之ヲ不問ニ付スルハ何故ナルヤ敢テ明答ヲ求ム

十三 政友會所屬代議士植場平君ヲ始メトシ三谷軌秀寺田市正權執印幸雄及政友會所屬ノ大阪府會議員數名等ハ新淀川河川敷地ヲ占用シテ是ニ三角藺ヲ栽培シ製菸原料ヲ得ヘク其ノ純益一箇年三百三十八萬圓敷地土砂ノ賣却利益百萬圓ニ上ルヘシトテ巧ニ精一ヲ説キ九萬圓餘ノ運動費ヲ提供セシメ百方運動ノ結果先ツ堀田土木局長ヲ動カシ更ニ床次内相ニ迫リテ高壓的



ニ内務大臣ノ命ニ俟ツノ方策ニ出テ大正八年九月床次内相及堀田局長カ政友會關西大會ニ際シテ下阪スルヲ待チ名ヲ港灣ノ視察ニ藉リテ現場ノ視察ヲ請ヒ終ニ大正九年十二月其ノ目的ノ一半ヲ達成セリ由來新淀川ハ巨額ノ國費ヲ投シテ改修ヲ斷行セシハ天下周知ノ事ニシテ從テ該河川敷地ノ保護ハ治水上最重要事項タリ然ルニ情實因縁ニ依リ之ヲ無料貸與セシハ明ニ治水政策ノ一大失錯ニシテ且九萬圓餘ノ運動費ヲ詐取シ更ニ純益金三百三十餘萬圓ニ對スル利益分配ノ契約書ヲ作製シテ此ノ曲事ヲ敢行セル政友會一味ノ行動ハ綱紀ノ肅正上斷シテ許スヘキニ非ス敢テ問ハム政府ハ如何ナル法律規則ニ據リ河川敷地ノ占用ヲ許可シタルヤ

十四 床次内相ハ大正十年七月所謂津下事件ノ曝露サレ世論喧喧タルノ時巧ニ祕書官瀧代議士ノ名ヲ以テ「津下事件ニハ何等ノ關係ナク且精一ニハ一面ノ識ナシ」ト公言セシメタリ然ルニ其ノ後精一ヲシテ三十餘萬圓ヲ支出セシメタル秋田事件ノ真相明白ト爲ルニ及ヒテ内相ハ岡山縣知事香川輝ノ紹介ニ由リ精一ニ面會セシ事實明瞭ト爲リ更ニ大正八年初夏精一ノ事業ヲ援助スル目的ヲ以テ秋田縣知事名尾良辰ニ對シ精一ヲ紹介シタルノ事實明白ト爲レリ然ルニ前陳ノ如キ祕書官ノ代辯ニ依リ一世ヲ瞞詐シテ自己ノ不明ト不徳ヲ覆ヒ去ラムトスルハ賢明ナル床次内相ノ爲深ク惜マサルヲ得サルナリ内相ハ斯クテモ政治道德上何等ノ責任ヲ感セサルヤ

十五 大正十年七月禰津、木村ノ兩辯護士ハ神戸檢事局ニ對シ精一ノ背後ニ在ル數名ノ大奸ヲ口頭ニテ告發シ同時ニ幾多ノ證據書類ヲ提供シ更ニ同年九月十四日禰津辯護士單獨ニテ正式ノ手續ニ依リ二十二名ノ巨額ヲ告發セリ然ルニ神戸檢事局ニ於テハ何等ノ取調ヲ爲サムトハセス爲ニ禰津辯護士ハ同年十月中旬大審院ニ鈴木檢事總長ヲ訪ヒ總長不在ノ爲小山上席檢事ニ會見陳情スル所アリタリ然ルニ神戸檢事局光行檢事正ハ十一月二日大阪朝日新聞記者ニ向ヒ「禰津辯護士ハ津下事件ノ證據書類ヲドシドシ運シダガ夫レ以外告發ノ書類ニ接セス禰津辯護士ハ其書類ノ提出ヲ以テ告發トデモ間違テ居タノデセウ」ト語リシハ眞ニ奇怪ノ至リト謂フヘシ果シテ光行檢事正ノ談話ノ如ク禰津辯護士ハ單ニ書類ノ提出ヲ以テ告發ナリト誤認セルモノト爲シ正式ノ告發ヲ爲サスト認定セルヤ

十六 岡山縣知事香川輝カ精一ニ對スル債務ハ單純ナル普通貸借ニ過キスシテ何等官紀ヲ紊セル行爲ニ在ラストハ床次内相ノ答辯セルトコロナリ然レトモ香川知事ヲ精一ニ紹介シタル小關某カ精一ノ犯罪ヲ知悉セルノ點香川知事カ常ニ精一ト暗號電報ヲ交換シ居タルノ點竝香川知事カ公務ヲ抛擲シテ精一ノ利權攫得幫助ノ爲馳奔盡力シタルノ點殊ニ秋田事件臺灣モヒ事件大東銀行創立事件(橫領金六十二萬五千元投下)及畏クモ明治天皇御眞筆事件ニ關係セルハ昭昭ノ事實ナリ而シテ更ニ香川知事カ精一ニ送リタル書翰ニ「(前略)弊地ノ富豪三四人トハ



親密ニ交際致居候モ東京出發ノ砌原首相ヨリ古賀拓殖ニ縣内ニテ金錢受授スヘカラスト小生ニ申傳ヘヨト懇篤ナル首相内意ノ次第拜承折角ノ其厚意ニハ難背當惑此ノ事ニ候萬一内閣ノ交迭ヲ見候節ハ潔ク桂冠事業ノ方面ニ身ヲ委シタク存候モ現閣壽命アリテ小生ヲ信シ用ヒ居候内ハ其儀ニ難及苦心致居リ候トアリ斯クテモ尙香川知事ノ行爲ハ官吏服務規律ニ背反セス且單純ナル尋常貸借ナリト認ムル乎

十七 更ニ香川知事カ精一ノ爲各種ノ利權ニ付盡カスヘク其ノ職權ヲ濫用シタルノ證左トシテ官紀振肅上看過スヘカラサルコトアリ开ハ岡山縣兒島灣埋立問題ニシテ該願書ハ精一ノ印紙事件曝露スルヤ香川知事ハ蒼惶願書ニ不備ノ點アリトノ廉ヲ以テ是ヲ却下シ辛クモ自己ノ犯蹟ヲ覆ヒタリシモ抑本件ハ香川知事カ精一ノ恩顧ニ酬ユヘク是カ出願ヲ懲憑シタルモノニシテ表面ノ名義ハ香川知事ノ一味徒黨タル共榮貯金銀行專務小出熊吉及精一ノ兩名ナリト雖實際ノ權利者ハ精一ナルコト幾多ノ證憑ニ依リテ瞭然タリ而モ本件成功後ノ裏面ニハ謝金數萬圓ヲ香川知事ニ贈呈スヘキ口約アリシコトハ精一ノ女婿田中繁造ノ明言スルトコロナリ斯クテ尙床次内相ハ香川知事ノ行爲ハ官紀ヲ紊亂セルモノト認メサルヤ

十八 大正十年五月二十四日岡山市弓之町香川輝居宅ニ於テ香川輝カ證人トシテ豫審判事淺田六郎ノ訊問ニ對シ精一ニ對スル債務ハ二萬七千圓ニシテ最後ノ一回ノミ任地岡山ニ送致ヲ受

ケタルノミナリト答ヘタルモ本員ノ有セル證據書類ニ據レハ任地岡山ニ數回ニ互リテ送金ヲ受ケタル事實明白ナル上田中繁造ノ言明ニ依レハ香川ノ債務ハ五萬圓ヲ下ラスト謂フ然ラハ香川知事ノ僞證罪ヲ犯セルノ事實明確ナリ斯クテモ床次内相ハ猶香川知事ヲ曲庇セムトスル乎

十九 二月二十三日ノ議場ニ於テ鈴木富士彌君ノ質問ニ對スル野田遞相ノ答辯ニ依レハ監督局ノ廢止ノ爲此ノ犯罪ヲ發見スル能ハサリシハ汗顔ノ至リナリトテ汗顔ノ二字ニ隱レテ自己ノ責任ヲ覆ハムトスルモノノ如シ而モ大阪遞信局書記川田忠章村上勝ハ精一ノ請託ヲ容レ常ニ部内ノ動靜及取締方針ヲ内報シ以テ精一ノ犯行ヲ容易ナラシメ且犯罪ノ發覺ヲ妨ケタル事實アルノミナラス前後四箇年ニ渡レル犯罪ニ對シ監督局ノ廢止ニ藉口シテ董督不行届ノ責任ヲ忌避スルハ立憲政治家ノ態度トシテ大ニ惜マサルヘカラス野田遞相ハ依然トシテ汗顔ノ二字ニ隱レ其ノ責任ヲ逃レムトスルヤ

二十 前大阪遞信局長杉精一同田邊治通等ニ對シ官吏懲戒ノ法規ニ依リ處分スヘク手續中ナル由ナルモ數箇月ニ互リテ未タ其ノ手續ヲ完了セサル理由如何

二十一 大木法相カ佐賀縣第二區衆議院議員落選候補者田中猪作ノ擁護者ト爲リ古賀廉造ト協カシテ貴族院議員前田利定君ノ社長タル中央生命相互保險會社ノ專務取締役ニ推選セシハ天



下公知ノ事實タリ而シテ猪作カ前記保險會社ニ就任スヘキ信認資金中ノ金十三萬圓ハ精一ノ  
 出金セルモノニシテ猪作ハ精一ヨリ此ノ金圓ヲ借入ルヘク佐賀貯蓄銀行專務山口練造ト共謀  
 シテ該銀行ノ裏書手形ヲ偽造シ更ニ有明灣埋立ノ權利ヲ擔保トシ之ヲ現物出資トシテ一億圓  
 ノ會社ヲ創立(帝國土地開拓株式會社)シテ巨額ノ利權ヲ精一ニ付與スヘキヲ以テセリ而シテ  
 右手形ノ支拂期日切迫スルニ至ルヤ名ヲ前記土地會社ノ創立ニ藉リ大正九年十二月七日東京  
 市京橋區築地待合とんぼニ會合シ大木法相古賀長官橫田長官小橋次官等ノ大官列席ノ上其ノ  
 庇護ヲ得ヘシト爲シ以テ精一ノ出席ヲ促シ手形支拂期日ノ延期ヲ請フト同時ニ前記會社ノ登  
 記料二十五萬圓出資ノ件ヲ勸誘セリ然レトモ精一ハ此ノ要求ヲ避クルノ目的ヲ以テ代人北村  
 辯護士ヲ出席セシメタル爲其ノ目的ヲ達シ得ス終ニ手形偽造ノ事發覺シテ猪作ノ下獄ヲ見ル  
 ニ至レリ大木法相ハ果シテ猪作庇護ノ目的ニ依リ此ノ會合ニ列席シタリトセハ綱紀紊亂ノ罪  
 斷シテ免ルヘキニ非ス法相ハ果シテ此ノ會合ニ列席シ伯爵ノ威望ト司法大臣ノ威嚴トニ依リ  
 精一ノ代人タル北村政敬ニ出資ヲ慫慂シ且手形期日ノ延期ヲ懇請シタルヤ或ハ單ニ右兩者ノ  
 目的ヲ達スヘク陰ニ援助ヲ爲スカ爲ニ出席シ列席セル高橋賢造ヲシテ之ヲ代辯セシメタルニ  
 過キサル乎如何以上ハ質問ノ概要ニ過キス故ヲ以テ詳細ノ事項ハ幾多ノ證據物件ニ由據シ主  
 旨陳辯ノ際之ヲ述フル所アルヘシ

十一年二月二十七日田中萬逸君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十三日  
 野田遞信、床次内務、大木司法各大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 津下某ノ横領ニ因ル缺損額ハ本省ヨリノ交付高ト神戸局ニ於ケル正當ノ受拂高賣捌代金ノ  
 收入高竝ニ現品ノ在庫高等ト對照精査ヲ遂ケ確メタルモノニシテ二百三十四萬三千圓ニ相違  
 ナシ從テ犯人ノ横領後ニ於ケル處分ノ如何ハ前記缺損額ヲ動カスモノニアラス
- 二 缺損額ハ二百三十四萬三千圓ナルコト前項ノ通りニシテ此以外ニ缺損ノ事實ナシ
- 三 十二、十五
- 辯護士禰津六也ヨリ津下精一ノ犯罪ニ關聯セル事犯ニ付神戸地方裁判所檢事局ニ正式ニ告發  
 ヲ爲シタル事實ナシ然レトモ津下精一ノ犯罪ニ關スル周圍ノ事實ニ付テハ檢事局ニ於テ搜查  
 ヲ怠リタルコトナシ
- 四 大正十年十一月津下精一ヲ保釋シタルハ裁判所ノ決定ニ依ルモノナリ然ルニ其後別個ノ事  
 犯發覺シ大正十一年一月十四日豫審請求ヲ爲シ豫審判事ノ勾留狀ニ依リ更ニ拘禁セララルニ  
 至リタルモノナリ
- 五 津下精一ハ再ヒ拘禁セラレタルハ質問ノ如ク嫌疑ニ因ルモノニ非ス



- 六 田中繁造ニ對シ横領ノ告訴アリタルカ神戸地方裁判所檢事局ニ於テ搜查ヲ遂ケタル上不起訴處分ニ付シタリ
- 七 井上鶴治ト仁兒兼太郎ノ交替ハ大正八年九月ニシテ同年三月ニアラス豫審判事ノ認定ノ當否ニ對シ當局ニ於テ之ヲ批判スルヲ得ス
- 八 精一ノ債權保全ニ對シテハ最善ノ手段ヲ講セリ而シテ事件ノ如キ場合ニ於テ身元引受人ニ對シ代償ヲ求ムルハ法規上當然ナリト認ム
- 九 質問ノ如キ事實ナシ
- 十 内務大臣、遞信大臣、警視總監、前大阪遞信局長河合鼈ハ津下某ノ事ニ關シ何等ノ運動ヲ受ケタルコトナク從テ刑事訴追ヲ免レシムヘク内諾ヲ與ヘタル事實ナシ
- 十一 議員ノ議場ニ於ケル言論ニ關シテハ答辯ノ限リニアラス
- 十三 新淀川河川敷地ノ占用ハ河川法第十八條ノ規定ニ依リ大阪府知事ニ於テ許可シタルモノニシテ其許可ニ關シ内務大臣又ハ土木局長ハ關與シタルコトナシ
- 十四 内務大臣ハ秋田縣知事ニ對シ津下某ヲ紹介シタルコトナシ
- 十六、十七、十八

岡山縣知事香川輝ノ行動ニ就テハ今日迄調査ノ結果ニ依レハ不都合ノ點ナキモノト認メ居レ

- 十九 遞信局書記川田忠章及同村上勝ノ兩名ニ對シ官吏服務規律違反ノ廉ヲ以テ懲戒處分ヲ爲シタレトモ本件犯罪ヲ容易ナラシメ又ハ其發覺ヲ妨ケタルコトナシ
- 二十 質問ニ係ル處分ハ文官高等懲戒委員會ノ審議ニ干連スル所アルヲ以テ未了ニ屬ス
- 二十一 質問ニ係ル大木法相ノ行動ハ事實無根ナリ

二八 郡域變更並町村ノ分合整理ニ關スル質問

郡ノ境界ハ河川ニ依リテ定マルモノ尠カラスト雖左ノ場合ニ於テハ必スシモ之ニ拘泥スルコトナク分合整理ヲ加フルノ必要アリト認ム政府ノ所見如何

- 一 河川ヲ郡界トシ又町村界トシテ相對スル二箇ノ町村ニシテ本來人情風俗ヲ同シクスルノミナラス近時鐵道、橋梁等交通機關ノ充實ニ伴ヒ該町村孰レモ之ヲ併合スルノ至便ナルヲ認ムルニ拘ラス只沿革的觀念ニ因リテ關係郡ノ同意ヲ得難キ爲之ヲ實現スルニ至ラサルモノアリ是等ハ郡制廢止ヲ機トシテ其ノ分合整理ヲ行フコトカ自治發達上必要ニ非サルカ
- 二 前項ト同一ノ關係ニ於テ河川ニ沿ヒタル町村ノ延長數里ニ達スルモノノ如キハ上流地方ト下流地方ト人情風俗ヲ異ニシ却テ對岸地方ト利害ヲ同シクスルモノアリ是等ハ交通設備ノ



普及ニ伴ヒ一層分合整理ノ必要ナキカ

十一年三月四日萩田悦造君外一名ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十三日床次内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

郡町村等ノ公共團體ノ區域ニ付テハ從來ノ沿革及舊慣ヲ尊重シ容易ニ之カ變更分合ヲ行フノ意ナシ然レトモ人情風俗地勢交通等ノ關係上自治ノ圓滿ナル發達ヲ期スルニ於テ必要アリト認ムル場合ニ於テハ法律ノ規定スル所ニ依リ之カ分合整理ヲ行フ

二九 民心惡化ニ關スル質問

一 近時思想ノ變化ハ實ニ驚クヘキモノアリ此ノ時ニ際シ爲政ノ局ニ當ルモノ深ク注意セサルヘカラス然ルニ内務當局ノ爲ス所ヲ見ルニ畏クモ伊勢大廟ノ神事ヲ利用シテ黨勢擴張ヲ爲シタルノ事實アリ

二 内務當局ハ府縣知事ヲシテ黨勢擴張ノ爲官權ノ力ト黨派ノ力トヲ以テ正義ヲ壓倒シテ更ニ顧ミサルモノアリ

三 内務當局ハ警察官ヲ利用シテ反對黨ノ政談演說會ヲ故ナク中止シ又ハ解散セリ

以上ハ其ノ一斑ニ過キササルモ國家行政官權ノ不義不法ノ行爲ハ民心ヲシテ益惡化スルヲ見ル當局大臣ノ所見如何

十一年三月四日木槍三四郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十三日床次内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 内務當局ハ畏クモ伊勢大廟ノ神事ヲ利用シ黨勢擴張ヲ爲シタルカ如キ事實斷シテ之ナシ
  - 二 内務當局ハ府縣知事ヲシテ黨勢擴張ノ爲苟モ正義ヲ壓倒セシメタルカ如キ事ナシ
  - 三 内務當局ハ警察官ヲシテ故ナク政談演說會ヲ中止又ハ解散セシメタルコト嘗テ之ナシ
- 其ノ他行政官憲カ其ノ行爲ニ依リ民心ヲシテ益々惡化セシムルノ事實ヲ認メス

三〇 私設鐵道買收ニ關スル質問

- 一 政府ハ私設鐵道ニ對シ將來國有トシテ買收スヘキ線路ヲ豫定シ居レルヤ
- 二 若國有ト爲スヘキ私設線ヲ豫定シ居レリトセハ既ニ本院ニ於テ鐵道敷設法案ヲ可決シ所謂鐵道網ヲ發表セシ今日ニ當リ將來國有ト爲スヘキ私設鐵道線ヲ發表スルノ意思無キカ
- 三 國有鐵道ト爲スヘキ私設線ヲ豫定シ居レリトセハ買收ノ時期及其ノ價格ノ總額ハ何程ナリ



- 三 ヤ
- 四 國有鐵道ト爲スヘキ私設線ヲ豫定シ居レリトセハ買收スヘキ線路ノ順序並買收ノ基礎トスヘキ條件如何
- 五 若國有ト爲スヘキ私設線ヲ豫定シ居ラストセハ時ニ應シ場所ニ從テ買收スルノ政策ナリヤ
- 六 三月二日提出ニ係ル大湯鐵道及魚沼鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案ニ依ル兩線ニ比シ全國千九百八十一哩ヲ有スル多クノ私設鐵道中是レ以上重要ニシテ而カモ急ヲ要スル鐵道無キカ
- 七 現ニ政府新計畫中ニ係ル國有鐵道ノ未成線ハ其ノ長サ三千三百哩ニ達シ且又改良スヘキ幾多ノ案件アルニモ拘ラス大湯及魚沼兩私設線ノ買收ヲ以テヨリ以上重要且急ヲ要スト認ムルカ其ノ理由如何
- 八 前記兩私設鐵道買收ノ時期如何
- 九 兩私設鐵道ノ營業狀態如何
- 十 中國鐵道其ノ他二三ノ私設鐵道買收ニ關シテハ曩ニ國民黨其ノ他ヨリ建議ヲ爲シ滿場一致ヲ以テ可決シ政府ニ於テ其ノ一二ノ線路ハ既ニ買收ヲ了シタルニモ拘ラス中國鐵道ニ對シテハ今日迄建議ノ趣意ヲ實行セス政府ハ該鐵道ヲ買收スルノ意思アリヤ否ヤ若買收ノ意思

アリトセハ其ノ時期如何

- 十一年三月四日高草美代藏君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十四日元田鐵道大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ
- 一 乃至四 大湯鐵道及魚沼鐵道ノ外買收スヘキ私設ノ鐵道トシテ今日確定セルモノナシ
  - 五 公益上ノ事由ニ因リ買收ノ必要ヲ生スル毎ニ之ヲ決定ス
  - 六 及七 大湯及魚沼ノ兩鐵道ハ次ノ理由ニ因リ買收ノ必要アリ久留米大分間ノ第一工區タル大湯鐵道ノ終點小野屋湯ノ平間ハ近ク工事竣工スヘキニ付同鐵道ヲ買收シ直通運轉ヲ計ル必要アリ又魚沼鐵道ハ省線上越北線ノ開業ニ因リ打撃ヲ蒙リ營業ノ廢止ヲ申請シ來レルモ現存スル鐵道ヲ廢止スルハ地方産業上及軍事上妥當ナラサルヲ以テ買收スル必要アリ
  - 八 大湯鐵道及魚沼鐵道ノ買收期日ハ未タ確定セス
  - 九 最近三年間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平均割合ハ大湯鐵道ハ四分五厘ニシテ魚沼鐵道ハ八分一厘ナリ
  - 十 中國鐵道ヲ買收スルヤ否ヤハ今日確定シ居ラス



三一 臨時外交調査委員會ニ關スル質問

臨時外交調査委員會成立以來今日ニ至ル迄ノ效果如何、政府ハ其議事ノ内容ヲ公示スルノ意思ナキヤ又其ノ存廢ニ對スル所見如何

十一年三月六日有森新吉君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十三日高橋内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

臨時外交調査委員會ハ其ノ設置以來所期ノ效果ヲ舉ケツツアルモノト認ム

政府ハ其議事ノ内容ヲ公示スルノ意思ナク又目下ノ處之カ廢止ニ關シ詮議ノ必要ヲ認メス

三二 和歌山縣立日高農林學校廢校ニ關スル質問

一 政府ハ大正十年十二月和歌山縣會ニ於テ同縣知事カ「和歌山縣立日高農林學校ハ廢校ニモ非ス移轉ニモ非ス但シ生徒ヲ募集セス自然消滅ニ歸セシム」トノ聲明ヲ認メタルヤ

十二 未タ廢校ノ告示ナキニ前記農林學校ニ於テ本年度ノ生徒募集ヲ爲ササルハ前記知事ノ聲明ヲ認メタルカ爲ナリヤ若然ラストセハ何故ニ早ク例年ノ通り生徒募集ヲ縣當局ニ訓令セサルヤ

三 文部當局ハ和歌山縣日高郡御坊町ニ在ル縣立日高農林學校ハ本年新ニ同町ニ設立セムトスル縣立日高中學校ト性質ヲ異ニスルモノナルニ依リ兩立シ得ルモノナリト聲明セラレシニ拘ラス其ノ後知事ノ意見ノ如ク兩立シ難シ故ニ自然廢校トストノ說ニ同意セラレルニ至リシヤ

四 縣當局ハ文部省ノ許可ナクトモ生徒ハ募集セス廢校スト言明シ又未タ廢校トナラサル農林學校ノ敷地ノ上ニ日高中學校ヲ建設セムトスルカ如キ農林學校用ノ耕地ヲ其ノ地主ニ返還セシ如キ甚タシキハ農林學校ノ建物ヲ賣却スヘシトノ交渉ヲ開始シタルカ如キ政府ハ監督權ノ行使ニ關シ遺憾ナシトスルヤ

五 政府ハ本年新ニ縣立日高中學校ヲ設立スルカ爲ニ既ニ八箇年存續シ年々進歩シツツアル縣立日高農林學校ヲ未タ本年度生徒募集ヲ爲サスシテ生徒應募者僅々ニ三十名ニ過キスト妄斷シ神聖ナルヘキ學校ヲ自然廢校ト謂フカ如キ言語斷ノ處置ニ出テムトスル縣當局ノ態度ハ實業教育ノ振興ノ方針ト一致シ尙又教育上ノ根本精神ト相容ルト認ムルヤ如何

十一年三月七日田淵豐吉君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月十四日中橋文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ



- 一 政府ハ質問ノ事項ニ付キ之ヲ認メタルコトナシ
  - 二 和歌山縣知事ヨリ同縣紀南地方ニ於ケル實業學校配置整理ニ關スル計畫ヲ大正十二年度ニ於テ實施セントスル必要上縣立日高農林學校ノ生徒募集ヲ大正十一年度ニ限り中止シタシトノ申請アリタルニ依リ政府ハ調査ノ結果之ヲ認可セリ
  - 三 政府ハ前項紀南地方ニ於ケル實業學校配置整理ニ關スル計畫ニ基ク縣立日高農林學校ノ位置ノ變更實現セサル場合ハ該校ハ現位置ニ於テ繼續經營セラルヘキモノト認ムルモノナルヲ以テ質問ノ如ク該校ノ自然廢校ニ同意シタル事實ナシ
  - 四 縣立日高農林學校ノ敷地ト縣立日高中學校ノ敷地トハ何等關係ナク又農林學校ノ敷地建物等ヲ縮少スルカ如キコトナキヤウ特ニ通達シ置ケリ
  - 五 前數項ニヨリ了承セラレタシ
- 三三 圓山川改修工事ニ關スル質問
- 一 河川改修工事ノ施行ニ方リテハ吐口タル下流ヨリ著手シ漸次上流ニ遡及スルヲ恆則ト爲ス然ルニ本年度ヨリ著手セル兵庫縣圓山川改修工事ニ關シテハ沿岸居住民ノ期待ニ反シ工ヲ上流方面ヨリ起セリ右改修工事ハ十年繼續事業ナルヲ以テ斯ノ如キ方法ニ依リテハ施工年

- 八 度中一度洪水ニ會セムカ異例ナル工事施行ノ爲ニ中流及上流ノ沿岸居住民ノ罹災程度ハ毫モ起工前ト差異アラサルヘシ政府ハ如何ナル事由ニ依リテ斯ノ如キ方法ヲ執レルヤ
- 二 圓山川ノ水面勾配ハ極メテ緩漫ニシテ豐岡附近ト河口ノ津居山港附近ト四里ノ距離ニ於テ其ノ落差ハ僅ニ三尺ニ過キス故ニ改修ニ方リテハ津居山港附近ノ河幅ヲ擴張シ洲沙ヲ浚渫シ流量ノ快通ヲ圖ルヲ以テ緊急要務トス政府ハ起工ニ際シ何故ニ最初該所ヨリ著手セサルヤ
- 三 尙政府ハ改修工事ニ付津居山港附近ノ河幅ヲ擴張スルノ意思アリヤ
- 三 圓山川沿岸内川村及田鶴野村境界地點タル俗稱松茸山ノ懸崖ノ一角ハ甚シク突出シテ河幅狹窄ト爲リ出水ノ際ハ滔々奔流シ來レル濁水ハ此ノ懸崖ニ阻止セラレ水深ハ懸崖ノ前後ニ於テ三尺乃至四尺餘ノ高低ヲ生シ排水ノ疏通ニ至大ノ障害ヲ見ルハ洪水ニ會スル毎ニ沿岸居住民ノ久シキニ互リテ經驗スルトコロナリ政府ハ右懸崖ヲ除却スルノ意思アリヤ
- 四 豐岡以北河口ニ至ルノ間大小十數箇所ノ沙丘ハ河中ニ散在セリ之カ爲排水ヲ遲緩ナラシムルコト少カラス該沙丘ハ明治十八年ノ大洪水ニ於テモ尙潰流スルナシ然ルニ傳フルトコロニ依レハ政府ハ右沙丘ハ自然ニ放任スルモ潰流スルモノト認メ之ヲ除却スルノ意思ナシト謂フ果シテ然ルヤ



五 大正十年九月ノ洪水ハ豊岡ニ於テ二丈一尺ノ増水ナルニ下流域崎町ニ於テハ八尺ノ増水ニ過キス平水ノ落差極メテ緩漫ナルニ反シ僅ニ二里強ノ距離ニ於テ斯ノ如キ著シキ落差ヲ見ルハ此ノ間岐上ノ障害物存リテ然ラシムルハ争フヘカラサルノ事實ナリ政府ノ所見如何

六 岐上ノ如ク下流ヨリ起工スレハ施工年度中ニ一朝洪水ニ會スルモ沿岸居住民ハ既成工事ニ比例セル程度ノ利益ヲ享クルト共ニ一面ニハ上流ニ於テ政府カ改修地域内ニ入ルヘキモノトシテ測量セルカ如キ多クノ宅地及耕地ヲ收用スルノ必用ナク工費モ追加ヲ告ケサルヘシト認ムルモ今日著手セル狀勢ヨリ推定スレハ工費ハ巨額ノ追加ヲ見サレハ止マサルヘシ政府ノ所見如何

七 田鶴野村字一日市ノ下流、内川村字二見ノ上流、奈佐川ノ本川ニ合流スル所ニ對シ政府ハ如何ナル工事ヲ施サムトスルカ傳フルトコロニ依レハ開門ヲ設ケ洪水ニ際シ本川ヨリ逆流スル時ハ之ヲ閉鎖スルノ方法ヲ探ラムトスト大正十年九月洪水ノ際右合流點ヨリ押シ寄せタル逆流ハ豊岡驛附近迄遡及セリ若政府ニシテ岐上ノ方法ヲ取ラムカ奈佐川ノ流水ハ非常ノ勢ヲ以テ五莊村ノ耕地ニ氾濫シ其ノ住宅ヲ浸スコトハ歷々見ルカ如シ之ニ對スル政府ノ説明ヲ求ム

八 圓山川改修工事ハ上流タル豊岡附近ヨリ起工シ内川村ノ對岸玄武洞ト對峙セル所ニ至リテ打切ル方針ナリトハ今ヤ實地ニ臨ミテ工事ヲ擔當セル技師某ノ明言スルトコロナリト謂フ果シテ然ルヤ之ニ對スル政府ノ説明ヲ求ム

九 故土木技監沖野忠雄ハ圓山川沿岸豊岡ノ出身ナリ嘗テ郷人ノ圓山川改修ニ付テ其ノ意見ヲ叩クヤ曰ク該川ハ水面勾配極メテ緩漫ナリ故ニ改修ヲ施シ多クノ宅地及耕地ヲ除却スルモ其ノ效果ハ失フ所ヲ償フニ足ラサルヤヲ虞ルト沿岸居住民今ニシテ痛切ニ忠雄ノ卓見ヲ稱ヘサルナシ今ヤ政府ハ改修工事ニ當リ一體ニ面積ノ狭少ナル沿岸ニ於テ多クノ町村ヲ除却スルヲ意トセス斯クテ河幅ハ擴張セラレ洪水ノ爲ニ被ムル災害或ハ熄マムモ其ノ得失果シテ如何政府カ今日執ラムトセル方法ニ依リテ改修工事ヲ完了セムカ工竣ルノ日ハ沿岸居住民ノ大半ハ既ニ墳墓ノ地ヲ去リテ東西ニ離散シ改修ノ惠澤ニ浴スルモノハ從來直接ニ被害ヲ享ケス而シテ改修地域ニ入ラサル方面ニ居住スル大地主ノ徒ニ過キサルヘシ是レ改修工事ノ方法ヲ側面ヨリ觀察スルモノノ憂ヒテ措カサルトコロナリ斯ノ如キハ切ニ政府ノ慎重熟慮ヲ求メサルヲ得ス政府ノ所見如何

十 圓山川改修工事施行ニ方リ政府カ下流ヨリ著手セス上流ヨリ起工セムトスルハ一ニ政府與黨ノ利害ニ基因セリト傳ヘラル曩ニ改修工事ノ政府事業トシテ計畫セラレムトスルヤ政府與黨之ヲ好餌ト爲シ盛ニ之ヲ以テ黨勢擴張ノ具ニ供シ多年現政府與黨ト反目セル政黨ノ地



方有力者ヲ與黨ニ引キ入レタルハ顯著ナル事實ナリ若政府ノ爲ストコロニシテ傳フルトコロヲ眞ナリトセハ國家百年ノ大計ヲ一黨一派ノ爲ニ犠牲ニ供スルモノナリ之ニ對スル政府ノ説明ヲ求ム

十一年三月八日紫安新九郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十三日床次内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 河川改修工事ノ施工ニ方リテハ下流ヨリ著手シ漸次上流ニ遡及スルヲ得策トスルコト多シト雖モ工事ノ緩急得失ヲ計リ便宜ノ地點ヨリ著手シテ妨ナキモノ亦尠カラス圓山川改修工事ノ施行方法ハ後者ニ屬シ敢テ異例ニアラス
- 二 政府ハ津居山港附近ノ河幅ヲ擴張シ砂洲ヲ浚深スルヲ以テ緊急要務ト認メス然レトモ將來尙調査ノ上其ノ必要ヲ認ムルニ於テハ多少ノ工事ヲ施スモ可ナリト信ス尙第四項ニ對スル答辯ヲ參照セラレタシ
- 三 内川村及田鶴野村境界附近俗稱松茸山ノ尖端少シク突出セルハ事實ナルモ小局部ニ過キサルカ故ニ格別洪水ノ疏通ヲ阻止スルモノト認メス從テ目下之ヲ除却スルノ意思ナシ
- 四 豊岡玄武洞附近以下ニ於ケル砂洲其他ノ障害物ニシテ洪水ノ排疏ニ妨アルモノニ之ヲ除却スルノ計畫ナリ

スルノ計畫ナリ

- 五 洪水ニ當リ河口附近ニ於ケルヨリモ上流ニ於テ増水ノ大ナルハ河川特ニ未改修ノ河川ニ往見ル所ノ現象ニシテ獨リ圓山川ニノミ起ル事實ニアラス而シテ此ノ状態ハ改修工事ノ完成ニ由リ緩和セラルヘシ
- 六 改修計畫ハ一河川通シテ統一セル設計ニ依ルモノナルヲ以テ工事起工順序ノ如何ニ依リ工事ノ分量及潰地ノ區域ニ増減ヲ生スルモノニアラス從テ之カ爲ニ工費ノ増額ヲ來スノ虞ナシ
- 七 奈佐川ノ本川合流點ニ對スル措置其他ノ之ニ類スル施設ノ細目ニ關シテハ將來尙充分調査ノ上適當ナル方策ヲ講スル見込ナリ
- 八 圓山川改修工事ハ玄武洞附近ニテ打切ルモノニアラス其ノ下流ニ在リテモ城崎町地先ニ築堤ヲ施シ尙第四項ニ對スル答辯ノ通り處置セントスルモノナリ
- 九 圓山川改修工事ニ於テ一部ニ多少ノ犠牲ヲ生スルハ遺憾トスル所ナリト雖モ大局ニ於テ其ノ得ル利益ハ遙ニ其ノ損スル所ヲ償フテ餘アルモノト認ム政府ハ從來河川改修工事ノ起工ニ當リ此ノ點ニ就キ特ニ慎重熟慮ヲ重ネ來レリ
- 十 質問ノ如キ事實ナシ

三四 關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル經濟政策ニ關スル質問



一 關東州及南滿洲鐵道附屬地其ノ他滿洲ニ於ケル經濟的施設ニ對スル帝國政府ノ方針ハ不統一ヲ極ム假令ハ

イ 物價ヲ公定スル取引所ノ如キ外務省ノ許可スルモノアリ關東廳ノ許可ヲ得テ營業スルモノアリ又關東廳ノ直營スルモノアリ中ニハ支那側交易所ヲ脅威シテ排日思想ヲ誘發スルモノアルカ如キ其ノ實例ナリ

ロ 右地域内ニ於テ營業スル特殊會社タリ特殊銀行タル南滿洲鐵道會社、東洋拓殖會社、朝鮮銀行、正金銀行等ノ監督權ノ如キモ關東廳、拓殖局、朝鮮總督府、大藏省等ニ各分屬セルカ如キモ亦其ノ適例ナリ

之カ爲ニ滿洲經濟界ノ發達ヲ阻害スルコト實ニ甚大ナリ政府ハ之ヲ統一シ適切ナル施設ヲ行フノ意志ナキカ

二 關東州及南滿洲鐵道附屬地其ノ他滿洲ニ於ケル支那人ノ日貨排斥カ特ニ昨年來勃發シタルハ大連取引所建値變更ニ原由シタルコト多キハ言フ俟タサルトコロナルカ而モンハ金建ノ根本的的是非ノ問題ヨリモ寧ロ金建建兩派ノ醜惡不遠慮ナル運動又ハ宣傳ニ因リ支那人ヲ煽動シタルコトニ在ルハ悲シムヘキコトニ屬ス此ノ兩派ノ人達ハ盛ニ流言蜚語ヲ放チテ支那人ニ入智惠シ自家ノ利害ノ爲ニ金券銀券ノ兌換準備ニ對シ不謹慎ナル批評ヲ試ミ之ヲ殊

更ニ支那人ニ宣傳シ又或ハ營業上ノ祕密ヲ奸發シテ相傷ケルノ醜態ヲ演シ更ニ又日本人ノミナラス支那人ヲ買收シテ自派ニ有利ナル宣傳運動ヲ爲サシメタリト聞ク爲ニ財界ヲ攪亂スルモ敢テ顧ミサルカ如キ陋策ヲ弄ヒ更ニ將來紛糾ハ益甚シカラムトス帝國ノ經濟的權威ト利益トヲ損傷スルコト甚シ政府ハ之ニ對シ如何ナル措置ヲ執ラムトスルカ

三 關東州ニ於ケル金建銀建兩派ノ紛亂ニ關シ其ノ責任ノ一半ハ政府自ラモ亦之ヲ負ハサルヘカラス即チ政府ハ一方關東廳ニ對シ金建ノ遂行ヲ命シ乍ラ他方ニハ南滿洲鐵道會社橫濱正金銀行等ノ如キ特殊會社特殊銀行ノ重役等ヲシテ其ノ政策遂行ニ反對スルノ運動ヲ爲サシムルコト將ニ一年ニ垂々タリシカ如キ其ノ一例ナリ之ニ對スル政府ノ所見ヲ求ム

四 大正六年十一月勅令第二百十八號ハ銀券ノ發行ヲ爲シ得ル地域ハ關東州及南滿洲鐵道附屬地ヲ除ク支那領土内ニ制限シ更ニ大正十年四月十六日關東廳告示第三十三號ハ大連取引所建値ヲ金建トスルニ決定シタリ之即チ銀券カ關東州及南滿洲鐵道附屬地内ニ於テ新ナル發行權及通用權ヲ制限サレタルコトヲ示スモノナリ然ルニ銀券ノ新ナル發行通用ハ繼續サレツツアルハ勅令違反ナリト思惟スレトモ政府ノ所見奈何  
若右ハ勅令違反ニ非ストセハ各種銀行カ右地域内ニ於テ各自己ノ信用ニ依リ流通スル銀券ヲ發行シタル場合政府ハ如何ニ之ヲ處置セムトスルカ



五 關東州及南滿洲鐵道附屬地其ノ他滿洲ニ於ケル在留日本人ノ經濟狀態ハ頗ル不良ニシテ動モスレハ他國商工業者ノ爲ニ壓倒サレムトスルノ傾向アリ而モ在留邦人間ノ物價ノ高値ナル世界第一ト稱セラルルノ狀態ナリ之カ原因ノ一ハ滿洲ニ於ケル特殊金融機關カ非民衆的營業方針ヲ以テ唯一部特殊階級ノ商工業者ニノミ利用セシメ而モ其ノ金利甚シク高率ナルニ在リ故ニ之ヲ矯救セムト欲セハ既設金融機關ヲ利用シ又ハ特殊金融機關ヲ新設シテ低利資金供給ノ任ニ當ラシメ更ニ之ニ小口債券ノ如キモノノ發行權ヲ付與シテ零細資金ヲ吸收シテ滿洲企業資金ニ利用セシムルカ如キハ適宜ノ措置ナリト思惟ス之ニ對スル政府ノ所見ヲ求ム

十一年三月九日山道襄一君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月二十四日高橋內閣總理兼大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル經濟的施設ニ付テハ關係各官廳間ニ於テ協議ノ上處理スル方針ヲ以テ其ノ統一ヲ計リツツアリ又日本側取引所カ支那側交易所ヲ脅威シテ排日思想ヲ誘發スルカ如キコトナシ
- 二 大連取引所ノ建値變更ニ對シ銀建ノ存續ヲ希望スル者ノ内ニ其言動往々過激ニ涉ルモノアリタルモ是等ニ對シテハ當時夫々諭告又ハ戒告ヲ與ヘタリ其ノ後金建取引順調ニ行ハルルニ

至リ最早金建反對ノ爲特ニ不穩ノ言動過激ノ宣傳ヲ爲ス者ナシ

- 三 金建實施告示ノ當時滿鐵會社又ハ正金銀行ノ重役ニシテ個人ノ意見トシテ銀建說ヲ述ヘタル者アリ之ニ對シテハ夫々注意ヲ加ヘタリ
- 四 正金銀行券ハ大正六年勅令第二百十八號ニ依リ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於テハ公私一切ノ取引ニ無制限通用ヲ許サレサルコトナルモ之カ爲同地方ニ於ケル通用ヲモ禁止セラレタルモノニ在ラス
- 五 政府ハ滿洲地方ニ於ケル本邦人商工業ノ發達ニ資セムカ爲夫々金融機關ヲ利用シテ資金供給ノ途ヲ講シツツアリ

三五 自治行政區域ノ變改ニ關スル政府ノ方針並黨弊ノ自治體

破壞ニ關スル質問

- 一 市町村ノ自治行政區域ハ國家ノ元素ニシテ其ノ變改ハ特段ナル理由ノ存セサル限り濫ニ容スヘキニ非ス況ヤ之カ變改ニ因リ關係住民ノ反目對抗ト爲リ事端ヲ醸成シ地方自治ノ攪亂ヲ招致スルニ於テヲヤ大正十年九月二十四日栃木縣知事ハ栃木縣訓令乙第二百十一號ヲ以テ同縣足利郡北郷村大字名草ヲ分割シ其ノ區域全部ヲ以テ名草村ヲ置カムトスルコトニ就



キ北郷村ニ諮問シテ反對ヲ受ケタルニ拘ラス飽ク迄之ヲ敢行セムトシテ狂奔至ラサルナク  
今ヤ内務大臣ノ許可ヲ要請中ナリト聞ク然レトモ該問題ハ大正五年十二月二十五日及大正  
七年八月十四日一部ノ住民ヨリ分離獨立ノ出願ヲ爲セル際變改ノ理由ナシトシテ其ノ都度  
却下セラレタル既決ノ案件ニ係リ爾來今日ニ至ル迄何等新ナル理由ヲ發見セサルムミナラ  
ス之ヲ北郷村ノ歴史沿革地勢交通ノ状態ハ勿論財政經濟及住民ノ生活狀態等ニ徴スル時ハ  
寧ロ一層現狀維持ノ必要アルニ拘ラス今ニ及ヒテ同縣知事力強テ此ノ暴舉ヲ敢行セムトス  
ルハ疑モナク地方自治ノ根本義ヲ自ラ破壊スルモノニシテ吾人ノ解スルニ苦シムトコロナ  
リ政府ノ自治行政區域變改ニ關スル方針如何

二 巷間傳フル所ニ依レハ本問題ノ裏面ニハ同縣選出議員ニシテ現ニ法制局長官タル横田千之  
助及議員田村順之助氏等ノ有力者專ラ黨勢擴張ノ關係ヨリ終始關與シ當該地方長官始メ政  
府部内ニ對シ分離獨立ノ運動ヲ爲シツツアリトノ説アリ若果シテ事實ナラハ黨弊ノ及ホス  
トコロ遂ニ實質ナル地方自治體ヲ其ノ根本ヨリ破壊スルニ至ルヘシ政府ノ所見如何

十一年三月九日阿由葉勝作君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十三日床  
次内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 市町村ノ區域ニ付テハ從來ノ沿革及舊慣ヲ尊重シ容易ニ之カ廢置分合ヲ行フノ意ナシ然レ  
トモ人情風俗地勢交通等ノ關係上自治ノ圓滿ナル發達ヲ期スルニ於テ必要アリト認ムル場合  
ニ於テハ法律ノ規定スル所ニ依リ之カ廢置分合ヲ行フ

二 栃木縣足利郡北郷村ノ分村問題ニ付質問ノ如キ運動ヲ爲シタル事實ヲ認メス

三六 滿洲ニ於ケル取引所制度改善ニ關スル質問

一 關東州取引所令ニ依リ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル取引所ハ民營ト爲スヘキモノナ  
ルニ大連、營口、遼陽、奉天、鐵嶺、開原、公主嶺、四平街、長春等ニハ尙官營取引所存ス是等ハ  
速ニ民營ニ移シ勅令ノ精神ニ副ハシムヘキモノト認ム其ノ時期方法並之ニ關スル準備如何  
二 特ニ大連取引所ニ附屬スル大連取引所信託株式會社ハ其ノ特許期限大正十一年十月中ナリ  
ト聞ク果シテ然ラハ此ノ機會ニ於テ民營ト爲スヲ至當ト認ム而シテ該會社ハ從來屢經營ヲ  
誤リ甚シキハ金建反抗ノ中心ト爲リ取引ノ發達ヲ阻害シタルコト大ナリト聞クトコロニ依  
レハ政府ノ處置緩慢ナルニ乘シ該會社幹部ハ此ノ際急ニ大増資ヲ爲シ民營取引所ノ中心タ  
ラムト運動ヲ爲シ居レリ果シテ然ラハ増資ヲ許可スルトキハ民營ノ實行ニ障礙ヲ來スノ虞  
ナキヤ

三 南滿洲鐵道附屬地ノ官營取引所ハ開原長春ヲ除キ關東州取引所令公布後ノ設立ニ係ルモノ



ニシテ當然民營ト爲スヘキモノナルニ一部屬僚間ニ上司ノ命ヲ奉セス官營主義ヲ維持セムトノ意圖ヨリ勅令ニ違背シテ官營ト爲シタルモノト聞ク一日モ速ニ民營ト爲スヘキモノト認ム而モ其ノ附屬ノ信託會社ハ常ニ經營ヲ失シタル結果關東廳ト滿鐵トノ間ニ協定アリテ滿鐵カ半數以上ノ株式ヲ所有セサレハ許可セサルコトト爲リ居リテ居住民トノ間ニ紛爭絶エス一日モ速ニ是等ノ弊風ヲ一掃スル意思ナキヤ

- 四 右ノ外奉天、安東、哈爾賓ニ外務省ノ公認シタル取引所及默認セル鐵嶺、遼陽、開原、鞍山、營口等ノ現物市場即チ滿洲ニ於ケル取引所ハ寧ロ濫設ノ嫌アリ統一整理スル必要ナキヤ
- 五 尙南滿鐵道附屬地ノ官營取引所及哈爾賓ノ取引所ハ支那側ノ了解不備ナル結果雙方ノ關係甚タ不圓滿ニシテ却テ取引ノ發達ヲ害シ延テ兩國人ノ親善ニ障礙スルノ虞アリトノ評アリ改善ノ意思ナキヤ

十一年三月十六日砂田重政君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月二十四日高橋內閣總理、內田外務兩大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル官營取引所ハ將來可成之ヲ民營ニ移スノ方針ナルモ目下取引人ノ情況等ニ鑑ミ當分ノ内仍官營ヲ繼續スルノ必要アリト認ム

- 二 大連取引所信託株式會社ノ特許期限ノ延長ハ之ヲ許可スル方針ナルモ同會社ノ増資ニ關シテハ未タ關知セス

- 三 南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル官營取引所ハ凡テ大正二年勅令第六號ニ據リ設置セラレタルモノナリ又南滿洲鐵道會社カ鐵道附屬地ニ於ケル取引所信託株式會社ノ株式ノ半數以上ヲ所有セルハ同會社設立ノ當時發起人多數ノ希望ニ依リタルモノニシテ關東廳ト滿鐵會社トノ間ニハ之ニ關シ何等協定ヲ爲シタルコトナシ

- 四 從來滿洲ニ於ケル取引所策ニ關シテハ稍統一ヲ缺クノ憾アリタルモ其後取引所ニ關スル重要事項ニ付テハ外務省ト關東廳トノ間ニ相互協議ヲ爲サシムルコトニ決定シ爾後之カ統一ヲ圖リツツアリ

- 五 南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル官營取引所ハ何レモ日支提携融合ノ實ヲ示シ支那人ハ殊ニ官營取引所ヲ信賴シ安心シテ取引ニ從事シ居ルノ實狀ニアリ  
哈爾賓ニ於テハ從來哈爾賓信託株式會社アリテ取引所ノ業務ヲ營ミ日露支人間圓滿ニ取引ヲ爲シツツアリタル哈爾賓取引所ハ之ヲ改善擴張シタルニ過キササルモノナル處支那官憲ニ於テハ其ノ支那人株主ヲ拘禁スル等ノ不當處置アリタルニ付我方ニ於テハ支那官憲ノ反省ヲ促シ曩ニ不取敢被拘禁者ヲ釋放セシメタルカ引續キ善後措置ニ付交渉中ナリ



## 三七 滿洲ニ於ケル取引所制度改善ニ關スル再質問

關東州ニ於ケル取引所ハ民營ト爲スヘキモノナルコトハ勅令(大正八年十二月十三日附第四九四號關東州取引所令)ノ示ストコロニ依リ明白ナルニ拘ラス關東廳ハ特産物及錢鈔ノ取引ニ對シテハ尙官營ヲ維持シ居レルコトハ甚シキ怠慢ニ非スヤ

昨年關東廳カ當業者ノ反抗ヲ斥ケ該取引所ノ建値ヲ金ニ改ムルヤ國策ノ遂行ナリト稱シテ斷行シタルニ比シ此ノ明々白々タル勅令ノ趣旨ヲ實施スルコトニ今尙躊躇セルハ均シク法規ノ實施ニ付緩急甚シク一部銀建論者カ山縣長官ニ對シ金建ノ斷行ハ朝鮮銀行ノ救濟ニ赴クニ急ナリシ結果ナリトノ批難ヲ加フル者アルハ謂ナキニ非ス關東州取引所令ハ屢當院ノ議ニ上リシカ如ク政友會内閣ノ總選舉ニ因縁シテ制定セラレタル爲所謂天降リ案トシテ當時東京ニ於テ杉山事務總長古賀拓殖長官等ノ間ニ切り盛セラレ關東廳ノ屬僚ハ之ニ與ラスサレハ從來官營ヲ以テ金科玉條ト思惟セル大連取引所長井村某及其ノ監督ノ責アル關東廳殖産課長黑崎某等ハ從來信託會社側トノ諸種因縁情實アリテ該勅令ノ民營主義ニ極力反抗シタルコトハ當時隱レナキ事實ニシテ該勅令案ハ屢修正セラレ遂ニ大連取引所ニハ當分其ノ適用ヲ猶豫セラレタルモ彼等ハ勅令公布後ト雖信託會社重役ト相應シテ特産物及錢鈔取引ニ對シテハ民營ノ不可ヲ力説シ甚シキハ勅

令ニ據レハ新規設立ハ民營ト爲スヘキヲ規定セルニ拘ラス滿鐵沿線ニ官營取引所ヲ遽ニ設置シタルカ如キ又或ハ大連ニ於テハ當業者ヨリ取引所ノ民營出願アリタルニ對シ壓迫ヲ加ヘ却下スル等彼等カ極力民營論ニ壓迫ヲ加ヘ信託會社擁護ニ努力シタルコトハ周知ノ事實ナリ斯ノ如ク大連取引所ト信託會社トハ始ヨリ情實因縁シ居リテ其ノ所長及當該官吏ト幹部トノ間ニ對スル批難ノ聲常ニ高シ近クハ前記黑崎某カ右反抗ノ爲辭職シテ錢鈔信託會社ノ專務取締役ト爲リ井村某カ取引人組合ノ幹部ト爲リタルカ如キハ甚タ亂暴ナル振舞ト謂フヘシ

大連取引所ハ素ト官カ保護獎勵的ニ一定ノ建物ヲ建設シテ供給シ其ノ建物内ニ取引者ヲ收容シ支那人取引者カ箇々ニ取引スル者ヲ威壓的ニ集合セシメタルニ始リ先蹤ナキ組織ナレハ一旦市場取引慣行セラルルニ至ラハ官營ト爲ス必要存セサルハ何人モ疑ハサルトコロナリ故ニ名ハ官營ナレトモ之ニ附屬スル信託會社アリテ其ノ會社カ實際取引所ノ業務ヲ執行シ現在ハ建物ヲ官給シ吏員ハ其ノ取引ニ立會フニ過キス而モ信託會社ハ小規模ニシテ株主ノ多數ハ特産取引ニ關係ナク少數者カ其ノ實權ヲ壟斷シ居ルヲ以テ其ノ幹部ハ斯界ノ智識ニ乏シク常ニ市場ノ實際ニ通セス信託會社ノ利益ノミニ拘泥シ公正ナルヘキ職分ヲ忘レ常ニ偏頗ノ處置ヲ爲シ又最公平ナルヘキ官憲ハ取引所法ニ規定セル取引所ノ監督者ニ非スシテ實際ハ右ノ信託會社ト共ニ業務ヲ執行スル機關ナルカ故ニ常ニ信託會社ニ左右セララルル嫌多ク屢忌ムヘキ事件ヲ發生セリ例ヘハ



大正二年ニ於ケル總解合事件ノ如キ信託會社幹部カ取引ノ一方ニ關係シ其ノ損失ヲ免レムトシテ信託會社カ吞行爲ヲ敢テシ取引人ニ巨額ノ損失ヲ與ヘ信託會社モ亦十數萬圓ノ損失ヲ讓シタレトモ官營取引所ハ機宜ノ處置ヲ爲サス信託會社ニ對シ不問ニ付シタリ又大正六年秋臼井事件ノ如キハ最顯著ナル不法處分ノ一例ニシテ其ノ結果大正七年二月一般取引人ノ損害ニ對シ滿鐵ヨリ金三十萬圓關東廳ヨリ金四十五萬圓總計金七十五萬圓ノ救助ヲ爲シ又取引人鈴木商店三井物産小寺洋行等數百萬圓ノ損失ヲ見切り更ニ從來二割ノ手数料ヲ三割五分ニ引上ケ辛ウシテ其ノ局ヲ結ヘルモ斯ノ如ク年々歲々當局者カ其ノ機能ヲ發揮シ得サリシ爲取引ニ對スル負擔遞加シツツアルハ寒心ニ堪ヘサルノミナラス取引所ハ信託會社擁護ノ爲取引人ニ對シテ不公平ナル措置ヲ爲スコト多ク從テ取引人ト取引所及信託會社トハ努メテ圓滿ナルヘキ筋合ナルニ年來軋轢シテ犬猿モ雷ナラサル關係ニシテ大連取引所ニ生スル事故ハ殆ト不平ト抗爭トノミト謂フモ誣言ニ非サル狀態ナリ

信託會社ハ大正元年創立後既ニ十年ヲ經其ノ特許期限ハ來十月ヲ以テ滿了スト謂フ此ノ間取引方法其ノ他ニ關シ如何ナル事ヲ爲シタルカヲ見ルニ辛ウシテ大豆高粱ノ取引ヲ競賣買(強制擔保)ト爲シ得タルニ過キス而モ其ノ實際ハ相對賣買ニシテ亂雜ヲ極メ取引所制度ノ眼目ヲ爲ストコロノ公定相場ヲ構成セサルノミナラス一定値段ノ賣買方法ニ依ラス相對箇々ノ値段ニ依ル

ヲ以テ委託者ハ實際取引ヲ行ヒタル價格ヲ知ルコト困難ナルノミナラス自由賣買ニ非スシテ特定人間ニ制限スルヲ以テ取引所ノ眼目タル委託者カ安心シテ而モ簡易ニ多量ノ取引ヲ爲スコトヲ得ル特徴ニ副ハサルモノニシテ取引人ノ向上及一層發達スヘキ取引ノ增進ヲ阻碍シ居ルモノト謂フヘク即チ大連取引所ハ未ダ眞箇ノ公定相場ヲ構成スルニ至ラス況ヤ大連市場ノ主要物件タル豆粕豆油ハ相對賣買ノ下ニ一時ヲ糊塗シ屢取引所ノ取引ニ組入レムト腐心セルモ從來信託會社ノ信用全然地ニ墜チ此ノ上無意義ニ信託會社ヲ肥スコトヲ好マサル當業者ノ抗議ニ餘儀ナクサレテ之ヲ實行スルコト能ハス然ルニ同一市場ニ於テ原料タル大豆ハ競賣買(強制擔保)行ハレ豆粕豆油ハ無制限ニ相對賣買(無擔保)ニテ行ハルル結果受渡ハ極メテ不確實ニシテ相場ノ如何ニ依リ盛ニ差金賣買行ハレ受渡不能ノ場合其ノ損失ニ對スル救濟ノ手段ニ至リテハ全ク之ヲ缺キ取引上ノ弊害謂フニ堪ヘサルモノアリ加フルニ無謀不正ノ投機的取引盛ニ行ハレ延テ大連市場ヲ紊亂セシコト枚擧ニ遑アララス近クハ昨年豆粕不渡事件ニテ愈其ノ缺欠ヲ暴露シ永ク取引ヲ停止シタリ後朝鮮銀行カ金三百萬圓ヲ貸出シ漸ク救濟シ得タルカ如キ而シテ其ノ貸金ハ取引人組合及信託會社ノ連帶責任ニシテ其ノ辨濟方法ハ爾後ノ豆粕賣買ニ付一枚金五厘ノ負擔ヲ增加シタルカ如キ信託會社ハ唯收入ノ増加ヲ圖ルニ急ナリシノミト認ムヘク又取引所モ毫モ他日民營ト爲スヘキ既定ノ準備ヲ加ヘス相率キテ一時ヲ糊塗セルノミニテ毫モ積極的工夫ヲ加ヘタ



ルコトナキハ前ニ述ヘタルカ如ク賣買方法ニ付節制訓練又ハ改良ノ見ルヘキモノナキノミナラ  
ス検査方法ノ如キハ滿鐵會社員ニ一任シ又油ノ如キハ検査ニ就キ學術的研究ヲ基礎トシ多少ノ  
施設ヲ爲サハ甚タ容易ニシテ且大連製油ノ品質ヲ一定シ其ノ聲價ヲ昂ケ得タリシナリ之ヲ要ス  
ルニ現在ノ事情ノ下ニ於テハ取引所及信託會社ニテハ完全ナル發達ヲ期シ難シ政府ノ所見果シ  
テ如何

關東廳カ金建制ヲ斷行セムトスルヤ其ノ取引所ハ官營ナリ信託會社ハ特許會社ナリ取引人組合  
ハ朝鮮銀行ヨリ金三百萬圓ノ恩惠的貸出アリ今日ノ如ク反抗ヲ受ケムトハ關東廳當局者中何人  
モ豫想セサリシナラム然ルニ其ノ結果ハ豫想外ナリキ信託會社ノ幹部ト豫テ犬猿營ナラサル取  
引人組合トハ握手シテ反抗ノ中心ト爲レリ而シテ黑崎某及井村某カ關東廳ノ事情ニ精通シ其ノ  
缺欠ニ乘シタルコトハ當時夫ノ有名ナル李思明ト共ニ最注目ノ中心タリシコトハ新聞ノ傳フル  
トコロナリ斯クテ取引所ハ豫期ヲ裏切リテ取引ヲ休止シ信託會社幹部ハ到底取引ハ絶對ニ行ハ  
レサルコトヲ以テ極力反抗セリ關東廳ハ何故ニ此ノ際信託會社ノ幹部ヲ罷免シ又ハ戒飭セサリ  
シカ怪訝ニ堪ヘス後昨年十月金建ヲ斷行シタルニ毫モ支障ナク取引ハ圓滿ニ行ハレ今日ニ至レ  
ルニ鑑ムレハ若當時信託會社カ當局ノ意ヲ遵奉セハ取引所ヲ數箇月休場スルノ必要ハナカリシ  
ナラム加之信託會社ハ表面服從ヲ裝ヒナカラ尙銀建ヲ主張シテ止マサルニモ拘ラス關東廳ハ却

テ之ニ對シ賣恩的ニ其ノ増資ニ付諒解ヲ與ヘタリト謂フ果シテ然ラハ關東廳ハ金建斷行ニ付世  
間ニ對シ壓迫ヲ加ヘタリトノ批難ニ加フルニ一層忌ムヘキ利益問題ヲ以テセリトノ批難ヲ免レ  
サルヘシ信託會社幹部ノ言明スルトコロニ依レハ現在金三百萬圓ノ資本金ヲ金千五百萬圓ニ増  
資シ且更ニ特許期限ヲ十年間繼續ノ内諾ヲ得タリト謂フ果シテ然ラハ關東長官カ屢主張セル民  
營實行ノ時期ハ到底之ヲ見ルコトナカルヘシ政府ノ所見果シテ如何

更ニ財政上ヨリ取引所問題ヲ考慮スルトキハ一層官營ヲ一日モ速ニ廢止セサルヘカラス關東廳  
ノ財政ハ其ノ財源ニ乏シト稱スルモ大正十一年度豫算ニ依レハ取引所ノ經費金四十三萬圓餘ナ  
ルニ營業稅ハ金十一萬圓ニ過キス前述ノ如ク單ニ建物ヲ供給シ信託會社ヲ擁護スル外機能ヲ發  
揮シ難キモノニ對シ斯ノ如キ巨額ノ經費ヲ投スルハ緊縮方針ニ反スルノミナラス寧ロ甚シキ賣  
恩ニシテ其ノ間推測シ難キ事情ノ伏在ヲ疑ハサルヲ得ス政府ノ所見果シテ如何

南滿洲鐵道附屬地ニハ營口、遼陽、奉天、鐵嶺、四平街、公主嶺、開原、長春等ニ官營取引所存シ各  
其ノ附屬信託會社ノ設ケアリ開原、長春ハ勅令公布以前ノ設立ニ係ルモ其ノ他ハ總テ公布以後  
ノ設立ニ係リ開原ハ見ルヘキ成績ヲ舉ケ居レトモ其ノ他ハ必要スラ認メ難キモノ多シ就中長春  
及奉天ハ屢諸種ノ問題ヲ惹起シ紛爭絶エサルハ周知ノ事實ナリ

長春、奉天、營口ノ如キ附屬地ト支那市街ト近接セル地方ニ於テハ支那側トノ交渉圓滿ナラス却



テ支那側ノ反感ヲ招キ彼等ハ別ニ交易所ヲ設ケ對抗ノ態度ヲ採リ取引ノ圓滿ヲ害シツツアリ加之滿鐵カ前述ノ如ク大正七年大連取引所事件ノ際金三十萬圓ヲ出捐シ救濟シタル關係上凡ソ附屬地ニ於ケル取引所ノ取引ハ關東廳ノミノ管理ヲ不安ナリトシ其ノ信託會社ノ株式ハ半數以上滿鐵ニ於テ所有シ其ノ幹部ハ滿鐵ノ推薦スル者ニ限ルコトヲ協定シタル以後居住民トノ間ニ紛爭絶エス例ヘハ一昨年長春信託會社重役ノ疑獄事件ノ如キ昨年ニ於ケル奉天信託會社問題ノ如キ遂ニ滿鐵ハ多數株主又ハ居住民等ノ希望ヲ蹂躪シテ其ノ主張ヲ貫徹シタルモ其ノ成績却テ豫期ニ反セルハ何人モ認ムルトコロナリ政府ハ宜シク民營ト爲スト同時ニ分合整理スヘシ附屬地ニ於テ官營取引所ヲ設置スルコトハ差支ナシトスルモ其ノ爲巨額ノ經費ヲ要シ而モ官營ナルカ故ニ支那側ノ反感ヲ招キ居レルハ甚シキ不利ナリ奉天、長春、營口等ニ於テハ別ニ支那側ニ交易所アリ實際支那人ハ取引ヲ爲ササルカ故ニ其ノ機能ヲ發揮シ難キ状態ナリ今奉天ノ例ヲ述フレハ支那官憲ハ日本カ附屬地ニ取引所ヲ設置スルコトヲ以テ支那ノ國權ヲ害スルモノトシテ抗議ヲ申込ミタル際外務當局者ハ日支共有ノ民營設立ヲ希望シ又其ノ性質上斯クナルヘキコトヲ希望シタル識者アレトモ關東廳ハ之等ノ問題ヲ顧慮セス附屬地ニ於ケル行政權ヲ極端ニ擴大セムトノ傳統的慣行ニ基キ之ヲ強行セル結果支那側ハ別ニ交易所ヲ設立スルニ至レルモノニシテ現ニ安東奉天ニ於テ外務省ノ公認セル取引所ニ日支人間ノ取引圓滿ニシテ些ノ抗議ナキヲ

以テ證スルコトヲ得ヘシ之ヲ要スルニ

- 一 大連ニ於テハ信託會社重役ヲ戒飭シテ銀建復活、官營維持並増資運動等ノ如キ取引ノ安定ヲ害スヘキ行動ヲ思止ラシムルト同時ニ公明正大ニ民營ヲ斷行スヘキ方法期限準備ヲ聲明シ民營促進ノ意思ナキヤ
- 二 附屬地ノ取引所ニ對シテモ民營ヲ聲明スルト同時ニ分合整理ヲ爲ス意思ナキヤ
- 三 其ノ他支那側トノ親善ニ一層努力スル様戒飭ヲ加フルノ意思ナキヤ

十一年三月二十四日砂田重政君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十五日高橋内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ、  
滿洲ニ於ケル取引所制度ノ改善ニ關シテハ前回ノ答辯書ニ於テ既ニ其要領ヲ盡セリ、尙政府ハ將來一層取引所ニ關スル監督ヲ密ニシ之カ改善ヲ期スヘシ

三八 和歌山縣立日高農林學校廢校ニ關スル再質問

一 政府ハ答辯書第一項ニ於テ質問ノ事項ニ付之ヲ認メタルコトナシトアルモ數日前和歌山縣知事ハ「本縣中等學校ニ關スル諸問題カ議決セラレ而シテ之等ノ事項カ夫々本省ノ諒解ヲ



- 得テ今回總テ縣ノ方針通り愈實施セラルル運ニ至ツタト言明セラルルハ縣立日高農林學校ハ自然消滅ヲ意味スルモノト解セラルル之ニ對スル政府ノ所見如何
- 二 同校ハ凡テノ點ニ於テ最適當ナル地ナリトシテ八年前現位置ニ移轉シ來リタルモノニシテ其ノ後進歩ノ見ルヘキモノアルニ今回ノ答辯書ニアル移轉ノ理由如何
- 三 未タ廢校ノ告示ナキニ本年度ノ生徒募集ヲ中止シ又答辯書ニ依ル紀南地方ノ實業學校配置整理カ實行セラレ同校ノ移轉カ實現セラレサルニ拘ラス豫メ生徒募集ヲ中止スルカ如キハ教育行政ノ精神ニ反スル輕卒ノ所置ニシテ其ノ眞ノ理由奈邊ニ在ルカヲ疑フ政府ノ所見如何
- 四 政府ハ同校ノ生徒募集ヲ大年十一年度ニ限り中止スルコトヲ認可シタリト若同校ノ移轉實現セサル場合ハ翌大正十二年度生徒募集ハ現位置ニ於テ當然行ハルヘキモノト認ム如何
- 五 政府ハ同校ノ生徒募集ヲ大正十一年度ニ限り中止シタシトノ縣當局ノ申請ニ對シ之ヲ認可シ又紀南地方ニ於ケル實業學校配置整理ニ關スル計畫カ實現セサル場合ハ該校ハ現位置ニ於テ繼續經營セラルヘキモノト認ムルニ依リ自然廢校ニ同意シタル事實ナシトノ答辯ナルカ和歌山縣知事ハ數日前「今回同校生徒募集ニ對スル文部省ノ認可ニ依テ此ノ問題モ縣ノ方針通りニ解決シタ尤モ時勢ニ伴ヒ地方ノ狀況カラ見テ將來紀南地方ニモ堅實ナル實業學校ノ存在ヲ見ルヘキ時期カ來ルニ至ラムコトハ素ヨリ希望スル所デアアルト言明ス是レ政府

府ノ答辯ト全然相反スルモノト認ム政府ノ所見如何

- 六 縣當局ハ昨年末ニ於テ同校ハ縣立學校ナルカ故ニ文部省ノ許可ナクトモ生徒募集ヲ中止シ自然廢校ト爲スヘシト謂ヒシカ如ク又今回前記知事ノ言明アリタルニ徴スルモ政府當局ハ果シテ其ノ答辯書ノ如ク實行セシムルコトヲ得ルヤ且又政府ハ縣當局ト文部當局トノ權限ニ關シ果シテ統一アル行政ノ實ヲ舉クルヲ得ルヤ政府ノ所見如何

十一年三月十八日田淵豐吉君ハ右再質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月二十四日中橋文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 前回ノ答辯ニ依リ明瞭ナリト認ム
- 二 縣當局ノ計畫ニ依レハ縣立日高農林學校ノ位置變更ハ紀南地方ニ於ケル實業學校ノ配置整理上止ムヲ得スト謂フニ在リ
- 三 前項縣當局ノ計畫ノ實施上止ムヲ得スト認メタルニ依ル
- 四 御意見ノ通
- 五 前回ノ答辯ニ依リ明瞭ナリト認ム
- 六 各省官制通則地方官官制等ニ依リ了承セラレタシ



三九 國定教科書ニ關スル質問

政府カ大正十一年度以降ノ國定教科書翻刻、發行及販賣者ヲ定ムルニ際シ從來製造能力甚タ不  
充分ニシテ規程違背ノ事實顯著ナリシノミナラス不當ノ値上ヲ要求シテ暴利ヲ貪リタル日本書  
籍株式會社外數會社ニ對シ何等制裁ヲ加ヘス却テ繼續許可シタル件ニ付種々ノ疑問アリ之ニ對  
シ政府ノ明確ナル答辯ヲ望ム

十一年三月十八日高田耘平君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月二十四日中  
橋文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

從前教科書ノ供給遲延シタルコトアリシモ大正九年以來銳意會社ヲ督勵シタルニ依リ近年其ノ  
事實ナキニ至レリ又會社ニ於テ物價ノ變動ニ依リ大正十年度ニ於テ從來ニ比シ多額ノ利益ヲ收  
得セルノ事實アルモ政府ハ十一年度所要分教科書ノ定價ヲ定ムルニ當リ特ニ此點ヲ考慮シ其定  
價ヲ相當輕減シタリ

又日本書籍株式會社外三社ニ對シ國定教科書ノ翻刻發行又ハ販賣ヲ繼續許可セルハ國定教科書  
ノ製造供給ニ關スル將來ノ制度方法ニ就キ猶ホ慎重調査攻究センカ爲メ特ニ期間ヲ短縮シテ三

年トシ暫定的ニ之ヲ許可シタリ

四〇 外交ニ關スル質問

一 加藤海軍大臣カ去十五日貴族院ノ豫算委員會ト二十日衆議院豫算委員會ニ於テ答辯セル所  
謂七割比率ノ提議ヲ我カ全權ヨリ英米全權ニ提議セル事實ニ關シ其ノ説明ニ著大ナル相違  
アルモノノ如シ從テ本事項ニ關シ從來他ノ大臣ノ説明トモ矛盾スル所アルモノノ如シ之ニ  
關スル説明ヲ求ム

二 山東ニ於ケル我カ同胞在留民ノ救濟方法如何  
三 華府會議ニ於テ協定セル極東協約竝諸議院設置ノ經過及結果ニ對スル説明ヲ求ム

十一年三月二十日望月小太郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十四日  
内田外務、加藤海軍大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 加藤海軍大臣カ去十五日貴族院ノ豫算委員會ト二十日衆議院豫算會トニ於テ答辯セル所謂  
七割比率ノ提議ヲ我カ全權ヨリ英米全權ニ提議セル事實ニ關シ其説明ニ相違アルヲ認メス又本  
事項ニ關シ從來他ノ大臣ノ説明トモ矛盾スル所ナシ



二 山東條約實施ノ曉事態ノ變動ニ伴ヒ在留邦人ニシテ自然影響ヲ蒙ルモノ可有之キモ其程度態様ハ今日ノ處判明セサルニ付救済ノ要否竝方法等ハ言明シ難シ

三 今次華府會議ニ於テ調印セラレタル支那ニ關スル九國條約ハ同會議ニ於テ支那全權ノ表明セル希望ヲ參酌シ極東問題委員會ニ於テ討議採擇ヲ見タル諸種ノ決議中列國ノ對支關係ノ指針タルヘキ主義原則ノ性質ヲ有スルモノヲ取捨編輯セルモノニシテ大正十一年二月四日ノ總會議ニ於テ全會一致ヲ以テ可決セラレ二月六日華盛頓ニ於テ調印ヲ了セリ政府ニ於テハ目下之カ御批准ヲ經ル手續中ニシテ其ノ内容ハ二月八日外務省公表ノ通ナリ  
前記ノ通其ノ内容ハ列國ノ對支關係ノ指針タルヘキ主義原則ノ性質ヲ有スルモノニシテ從來ト雖列國ハ殆ト之ト同様ノ主義方針ヲ採リ來レルモノナルヲ以テ其ノ實施セララルルニ至リタル後ト雖直チニ其結果トシテ指摘シ得ルカ如キ著シク事態ノ變化ヲ生スルモノニアラスト思考ス

又諮議院ニ關スル決議ハ當初前記九國條約第三條ノ内容ヲ爲セルモノト一體ヲ爲シ一月十八日第二十回極東問題總委員會ニ於テ採擇セラレタル一決議タリシカ其ノ規定ノ内容ニ顧ミ其ノ一半ハ九國條約中ニ收録シ後半ヲ獨立ノ一決議トナシ二月四日第六回總會議ニ於テ全會一致ヲ以テ可決セルモノナリ

其ノ内容ハ三月五日外務省公表第一ノ通九國條約第三條及第四條ノ規定ノ實施ニ關シ生スル

コトアルヘキ問題ヲ附議調査セシムヘキ一機關ヲ設ケムトスルモノニシテ日本ノ公正ナル對支政策ハ之カ爲メ何等妨ケラルルコトナシ

#### 四一 外交ニ關スル再質問

去二十日本員カ提出セシ外交質問ニ對シ政府ハ本日之カ答辯書ヲ送り來レルモ其ノ答辯少シモ質問ノ要領ニ觸レサルヲ以テ茲ニ成規ニ據リ再質問ヲ提出スル所以ナリ

一 質問第一即チ華府會議ニ於テ我カ國ノ主張セル海軍制限七割比率提議ノ事實ニ關シ政府ハ加藤海軍大臣竝他ノ大臣ノ説明ニ矛盾スル所ナシト謂フモ事實ハ全ク左ノ通ナリ從テ少クトモ外務大臣カ本問題ニ對スル説明ハ當然之ヲ訂正セサルヘカラサルモノト信ス

即チ加藤海軍大臣ハ去十五日貴族院豫算總會ニ於テノ答辯ハ單ニ七割ヲ希望シタルニ過キサル旨ヲ辯明シタルモ去二十日衆議院豫算委員會ニ於テ本員カ別紙「我カ全權ノ名ヲ以テ英米全權ニ交付セラレタル機密文書ヲ提示シテ而モ其ノ文書中我カ全權カ七割率ヲ國防安全ノ最小限ナリ」トノ提出ノ結論ハ遂ニ之ヲ承認セラレタリ然ルニ我カ外務大臣ハ是ヨリ先一月二十三日ノ本會議竝二月一日豫算總會ニ於テ本員ノ質問ニ對シ「七割トカ何トカ謂ヨウナ確定的ニ申シタコトハアリマセヌ」併シ念ノ爲ニ是レハ全權ノ方ニ確メタル所カ全權ノ回答ニ依レハ絶體ニサウ謂フ事ヲ言フタコトハナイト云フコトテアリマス」ト謂ハレ



シハ明ニ加藤海軍大臣ノ此ノ率直ナル告白的説明ト矛盾セルモノナリ故ニ此ノ際外務大臣ハ速ニ以上説明ノ行違ヒヲ訂正セラルヘキコトハ外務大臣トシテ與國ニ對シ一般國民ニ對シ其ノ誤解ヲ一掃スヘキハ當然ノ任務ナリト信ス

(參照) 日本全權ノ名ヲ以テ米國全權ニ提出セシ七割比率ノ公文書

海軍制限ニ關スル日米見解ノ相違 (大正一〇、一一、二三)

一 本會議ノ精神

本會議ノ精神ハ製艦競争ヲ停止シテ國民ノ負擔ヲ輕減シ且製艦競争ニ依リテ激發サレ易キ戰爭ノ機會ヲ減セムトスルニ在リ

二 米案ノ精神ト其ノ主義

米國ノ提案ハ其ノ精神ニ於テ本會議ノ精神ニ一致ス此ノ點ハ列國ノ等シク承認セル所ニシテ日本モ亦然リ然レトモ此ノ精神ヲ實現スルニ當リ據ルヘキ主義ニ就テハ各國ノ見解必スシモ一致セス

米國ノ立テタル主義ハ左ノ四點ニ存ス

(イ) 建造及計畫中ノ主力艦全部ヲ廢棄スルコト

(ロ) 舊式主力艦ノ大部分ヲ削除シ之ニ依リテ更ニ縮少ヲ行フコト

(ハ) 大體ニ於テ三國ノ現有勢力ヲ尊重スルコト

(ニ) 勢力ノ計算法トシテ主力艦ノ噸數ヲ用ユルコト並補助艦ニ關シテハ主力艦ト相當ノ釣合ヲ保有シ得ヘキモノトシテ規定スルコト

三 日本ノ精神ト其ノ主義

日本全權ハ總會ニ於テ大體米案ヲ承認シ之ヲ原案トシテ會議ヲ進ムルニ異議ナキモ國家安全ノ見地ヨリ原案ノ「トンネージベージス」ニ關シテハ若干ノ修正ヲ要求スヘシト聲明セリ之ヲ原案ノ四主義ト對照スルニ(イ)(ロ)ハ全然之ヲ承認シ(ハ)(ニ)ニ對シテハ唯國家安全ノ見地ヨリ若干ノ修正ヲ試ミムトスルニ在リ

四 日米見解ノ主要ナル相違

米國全權ノ見解ハ現有勢力ヲ基礎トシテ定メタル五五三ノ比率ヲ變更スルハ原案ヲ破壞スルモノニシテ從テ會議ヲ破裂セシムルモノナリト謂フニ在リ

日本全權ノ見解

第一 主義(イ)(ロ)ノ承認ニ依リ本會議ノ目的ハ大部分達成セラレタルナリ既ニ此ノ目的ヲ達シタル上ハ相互ノ比率ヲ如何ニ定ムヘキ乎ハ主トシテ國家安全ノ見地ヨリ互ニ他國ノ意思ヲ尊重シテ定メラルヘキモノナリ



第二 既ニ本會議ノ目的ノ大部分ヲ達シタル上ハ五五三ノ比率ヲ五、五、三、五ニ改ムルハ本會議ノ精神ヨリ見テ第二ノ問題ニシテ毫モ原案ヲ破壊シ若ハ會議ヲ破裂セシムルモノニ非スト謂フニ在リ

五 日米見解ノ相違ニ關スル批判

(一) 米國カ現有勢力ヲ尊重シ之ヲ基準トシテ協定セムトスルハ確ニ一法ナルヘシ然レトモ元來製艦競争ナルモノハ各國共自國ノ安全上不安ヲ感シ互ニ現有勢力ニ満足セサルヨリ起リタルモノナレハ茲ニ製艦競争ヲ中止セムトセハ各國ニ各満足スヘキ比率ヲ與フルニ非サレハ協定ノ成立期シ難キハ當然ナルヘシ此ノ見地ニ於テ日本ノ主張ハ理由アリ

(二) 日本ニハ英米ト同等ノ海軍力ヲ有スル權利アリ將來ニ涉リテ此ノ權利ヲ拘束セサル理由ナシト主張スルモノナリ此ノ主張ハ理論上否認スルヲ得サルヘシ斯カル權利ヲ有スルニ拘ラス日本ハ七〇%ヲ以テ満足セムトスルモノナリ米國カ之ヲ不當トシテ却ケムトスルハ如何ナル證據ニ立ツヤ首肯シ難シ

(三) 假ニ現勢力維持主義ヲ取リタリトスルモ之カ計算法ニハ各種ノ方法アルノミナラス各艦噸數ノ計リ方ニ於テモ相違アリ然シテ各種ノ計算法中孰レヲ最良トスルヤハ意見ノ問題ニシテ日本ノ意見ハ米國トハ異リ其ノ計算法ニ依レハ優ニ七〇%以上ヲ有ス

米國カ自國ノ計算ヲ不可侵トシテ之ヲ強ヒムトスルハ不當ナルヘシ

(四) 日本ノ七〇%カ米國ニ對シ脅威ナリトセハ米一〇〇%ハ日本ニ對シヨリ以上ノ脅威ナルヘシ劣勢海軍カ優勢海軍ニ對シ脅威ナラサル限り日本カ六〇%ヲ有スルト七〇%ヲ有スルトハ米國ニ取リテ大ナル問題ニ非ス而モ日本ニ取リテハ七〇%ハ國防上必要ナル最少限トセハ之ニ同意シテ協定ヲ成立セシムヘキニ非スヤ

(五) 日本カ比率問題ヲ以テ本會議ノ目的上第二項ノモノトナスハ理由アリ何トナレハ一切新艦ノ建造ヲ廢止シ舊艦ノ一大削減ヲ行フコトニ依リ本會議ノ目的ハ略達成セラレハナリ此ノ狀況ニ於テ米國カ自國ノ定メタル比率ヲ日本ニ強ヒムトシ之ニ從ハサルレハ會議破裂ノ責任ハ日本ニ在リト謂フカ如キ態度ヲ裝フトセハ事實ヲ誣フルノ甚シキモノナリ日本ハ原案ノ精神並其ノ主義ヲ尊重セリ求ムル處ハ國家ノ安全上數字ニ若干ノ修正ヲ加ヘムトスルニ在リ而シテ此ノ修正ハ米國ニ對シ何等ノ脅威ヲ意味セサルナリ米國カ之ヲモ聽カスシテ一意自己ノ主張ヲ固執スルニ於テハ會議ハ當然破裂スヘク其ノ責任ハ米國自ラ負ハサルヘカラス

添附書類

現有勢力比較表



## 米國案ニヨル廢艦及建造廢止艦ノ勢力トノ比較

## 二 山東利權放棄後ニ於ケル我カ在留同胞救濟ノ方法如何

抑日獨戰爭中日支兩國間ニ締結シタル大正四年日支條約ノ眼目ハ再ヒ獨逸ヲシテ東洋ニ根據地ヲ有セサラシムルカ爲(一)膠州灣ヲ支那ニ還付スルコト(二)專管居留地及共同居留地設置ノコト(三)獨逸ノ山東ニ於ケル權利ノ處分ニ就キ將來日獨兩國間ニ於テ協定スヘキ一切ノ事項ヲ支那カ承認スヘキコトノ三大眼目ニシテ大正四年ノ日支條約ハ斷シテ山東ニ日本カ永久の根據地ヲ造ラムトスルカ如キ方針ノ皆無ナリシハ明白ナリ

然ルニ寺内内閣ニ至リ宛モ膠州灣ハ勿論其ノ他附近及山東重要ノ地域ニ於テ永久の勢力範圍ヲ確立セムトスルカ如キ方針ヲ以テ(一)鐵道合辦事業ヨリ(二)鐵道沿線巡警隊ノ設置(三)日本教官ノ僱聘ヨリ(四)進テ濟南順德高密徐州ノ延長線迄所謂人、資本、材料ノ優先權ヲ制定シ此ノ時ヨリシテ我カ同胞ハ直接間接我カ政府ノ誘掖ニ依リ山東ニ移住スルモノ今ヤ實ニ三萬ノ多キニ達シタノミナラス次テ現内閣ニ至リ巴里講和會議ノ結果聯盟規約第一五六條第一項ニ依リ「獨逸ハ山東ニ於ケル一切ノ權利、權限、特權、鐵道、鑛山、電信等凡テ「日本ノ爲ニ放棄スル」コトヲ明記シ同第二項ニハ「日本ハ之等獨逸一切ノ權利特權ヲ取得保持ス」ト明記セラレタリ殊ニ内田外相就任以來此ノ寺内内閣ノ政策ヲ踏襲シ大正八年五

月十七日及八月二日ノ聲明ニ依ルモ縱シ專管居留地ハ之ヲ廢スルモ共同居留地ニスルカモ知レヌト謂フ考案ノ旨ヲ發表セルニ今回華府ニ於ケル山東日支直接交渉ノ不結果ハ之ヲモ放棄シテ支那ノ自開商埠地ト爲セリ加之山東問題ノ交渉ニ關シテハ「ロンドンタイムス」ノ所謂二十回ノ評議ニ毎回多少共讓步セサルナシト謂フカ如キ有様ナリシハ一月二十三日ノ本員ノ已ニ指摘セル所ナリ從テ茲ニ憐ムヘキハ前段述ヘタル我カ三萬在留同胞ノ救濟問題ナリ即チ彼等ハ現内閣ノ前身内閣タル寺内内閣以來直接間接ニ獎勵セラレ且之ヲ踏襲セル現内閣ノ下ニ山東ニ永住的發展ヲ試ミ巨額ノ資本ヲ放チ農工商業ヲ經營シツツアルカ今ヤ我カ外交失敗ノ結果華府ニ於テ山東ノ利權放棄ト共ニ此ノ三萬ノ同胞ハ「生き埋メ」ノ慘狀ニ陥リ救濟ノ叫ヒヲ放チツツアリ

顧レハ大正三年青島占領ノ爲ニハ財ヲ費スコト二億萬圓、人ヲ殺傷スルコト三千、而シテ爾來足掛九年其ノ移住セル我カ同胞ハ三萬、放資一億五千萬圓ニ上レル今日彼等ハ無責任極マル政府外交ノ失敗ノ爲少クトモ國策轉換ノ犠牲ノ爲ニ今ヤ荒亡流離血ニ叫フノ究境ニ沈淪セリ

曩ニ尼港事件ニ依リ我カ四百ノ同胞ハ「バルチザン」ノ爲ニ殘忍ナル弄リ殺シニ會ヒ今ヤ山東ニ於ケル我カ大陸發展ノ急先鋒タル三萬ノ同胞ハ我カ政府外交ノ犠牲トシテ現在只今生キ埋メノ慘苦ニ陥レリ



政府ハ之カ救済ニ關シ如何ナル成算アリヤ少クトモ在留同胞ヲ安心セシムルニ足ルノ確乎タル答辯ヲ要求スルモノナリ

三 本年二月六日華府會議ニ於テ協定セラレタル九箇國極東協約中ニ極東問題ニ關スル我カ國唯一ノ希望要件タル支那資源開發ノ意見ハ何故ニ此ノ協約中ニ挿入セラレサリシヤ抑今回ノ華府會議ナルモノハ歐洲大戰ノ結果露獨ノ勢力カ極東及太平洋ニ沒落シ茲ニ支那ニ於ケル列國ノ新關係ヲ如何ニ調節スヘキカカ實ハ最終ノ目的ニシテ彼ノ華府會議ノ眼目トシテ世人ノ注意ヲ惹キタル海軍協定、四國協約ノ如キハ寧ロ此ノ目的ニ到著スル道程ニ過キサリシコトハ獨リ本員一己ノ私見ニ非スシテ現ニ二月四日華府會議最終ノ總會ニ於ケル英國全權バルフォア氏ノ演說之ヲ證明シテ餘リアリ即チバルフォア氏ハ曰ク「今ヤ太平洋ノ海軍國ハ海軍ノ制限ヲ斷行シ且新ニ四國協約ヲ締結シテ國際紛爭ノ禍因ヲ除クノテアルカ余ハ寧ロ支那問題ノ解決コソ禍因ヲ艾除スルノ根本」即チ第一步テアツテ四國協約ハ其ノ第二步、海軍制限ハ其ノ第三步テアルト思フニ云々ト

實ニ支那ノ將來ハ容易ナラサル運命ニ際會スヘク支那人自ラ支那ヲ助クルニ非サレハ或ハ恐ル此ノ華府會議ノ結果支那ノ内情カ世界ニ暴露シ來レハ來ル程途ニハ支那自ラカ救フヘカラサル或一種ノ國際監督ニ結局進ムヤモ圖ラレサル一大國難ニ逢遇スルノ運命ヲ荷フニ至ルコトヲ抑斯ク危キ支那ノ運命ニ對シ我カ日本ハ極東ニ於テ其ノ國防上、經濟上我カ國

民死活ノ關係アル「所謂特殊利益ノ地位」ハ實ニ大正六年石井ランシング協約ニ於テ明確ニ日米兩國間ニ規定スル所ナリ勿論此ノ石井ランシング協約ナルモノハ日本カ支那ニ對スル國家的權利ニ關シ何等具體的權限ヲ確定コソセサレ之カ締結ノ當事者タル日米兩國間ニハ此ノ協約ノ精神ハ所謂國際的道義觀念ヲ條約上ニ保證シタルモノニシテ日米兩國ノ支那ニ對スル關係ノ地位ヲ明瞭ナラシメタルモノナリ之ヲ例セハ日本カ若協約ヲ以テ米國ノ「メキシコ」ニ於ケル特殊利益ノ地位ヲ承認シタリト假定セル場合日本ハ其ノ地理的接壤ノ關係ヲ協約ニ依リテ保證シタル其ノ國際的道義觀念ヨリシテ「メキシコ」ニ對スル我カ行動ニ就テハ先ツ以テ米國トノ完全ナル諒解ヲ第一條件トスヘキト均シク實ニ米國人ヲシテ日本ノ支那ニ對スル其ノ特殊利益ノ地位ヲ承認セシメタルモノナリトス故ニ華府會議ニ臨ムニ當リ特ニ支那問題解決ノ提議ノ席上我カ國ハ此ノ重大ナル國際的特殊利益ノ地位ヲ利用シ其ノ地理的、經濟的、國防的關係ニ於ケル東亞ノ主人公トシテ一日モ早ク支那四億民族ノ安定ヲ得ラル、様第一ニ率先シテ支那ノ統一政府確立援助ニ關スル各國共同委員組織ノ提議ヲ爲シ進テ支那ノ主權、領土ノ尊重、産業發達、文化增進等ニ關スル各種ノ提案ヲ爲スヘカリシ主動的地位ニ在リシノミナラス實ハ華府會議ニ於ケル列國モ亦第一ニ我カ國ノ提案ヲ期待セル事實ハ即チ十一月十六日極東問題第一回委員總會ニ於テヒューズ氏ノ左ノ意見ヲ見



テモ之ヲ證明スヘシ曰ク「支那ノ門戸ハ眞ニ開放セラレサルヘカラス而シテ支那ノ門戸カ開放セラレタトキニ第一ニ其ノ入口ニ立ツヘキモノハ日本テアル支那ハ機會均等カ實行セラレタ曉ニハ日本ハ先ツ第一ニ支那ニ入り此ノ新シキ協定ノ利益ニ浴スヘキテアル」ト此ノ絶好ノ一大機會ニ以上ノ提議ヲ爲サ、リシ遺憾ハ去一月二十三日日本員之ヲ述ヘタルヲ以テ重ネテ茲ニ絮説セサルモ抑モ九箇國極東協約ノ各條項ハ其ノ實米國ノル―ト氏英國ノゲデス氏米國ノヒューズ氏ノ三案ト十一月十六日支那ノ提出セル十箇條トヲ析衷案配シタルモノニテ日本ハ夙ニ英米ノ原案ニ追隨シタルノミニテ其ノ僅ニ日本ノ提出シタルモノハ一月十八日ノ委員會ニ於テ幣原全權ノ左ノ支那經濟開發ニ關スル聲明寧ロ一種ノ希望條件ノミナリ即チ「日本全權ハ當極東問題委員會ノ一大眼目ハ支那國民ノ一般の福祉ヲ増進シ同時ニ關係各國ノ福祉ヲ増進スルニ在リト認ム而シテ之カ目的ヲ達成スルニハ支那ノ廣大無邊ナル天然資源ヲ開發利用スルヨリ重要ナルモノハナシ」ト更ニ進テ「支那ハ尙開拓スヘキ土地、鑛山及諸種ノ原料ニ富ム而モ之等ノ天然資源ニ對シ支那自身ニ於テ何等カノ政策ヲ樹立スルニ吝ナラサルヲ信ス」云々此ノ希望聲明ハ食料、原料品上我カ國民の死活問題トシテ實ハ支那自身ノ產業開發支那自身國富ノ増進ト共ニ當ニ日支兩國ノ共同利益ナルノミナラス實ニ各國商業發展ノ爲最必要ナル聲明ナリ然ルニ二月二日支那全權施肇基

氏ハ之ニ對シテ「支那ハ支那國民ノ重大利益及經濟生活ノ安固ニ一致スル限リ自發的ニ資源ヲ開發セム」云々ト彼ヘ全ク支那ノ自由裁量ニ一任シタリ何故ニ當時我カ全權ハ此ノ聲明ヲ右ノ九箇條中ニ挿入スルコトヲ要求スヘク努力セサリシヤ若之カ條約中ニ挿入セラレム乎支那ノ列國ニ對スル資源開發ノ義務ヲ明白ニ記載シ得タラムニ事ノ茲ニ及ハサリシ其ノ經過如何

抑極東協約ナルモノハ當ニ支那ヲ除ク八箇國ノ申合セナルノミナラス其ノ第三條ニ於テ商業工業上ノ機會均等主義第五條ニ於テハ鐵道其ノ他輸送ノ一律平等待遇並第六條ニ於テハ將來ノ戰爭ニ於テ支那自ラカ中立ノ場合其ノ中立義務ヲ實行スヘク約束セシメタルノミナラス更ニ十一月十六日我カ幣原大使ノ聲明前二日支那提案十箇條ノ說明ニ當リ支那全權ハ支那資源ノ開發ニ關シ實ニ左ノ如ク自發的ニ述ヘラレタルニ非スヤ「支那ハ世界ノ平和維持ニ相當ノ貢獻ヲ盡スノミナラス各國ノ物質的進歩及文化的發達ノ爲ニモ自家ノ職責ヲ完フセムト欲シ如何ナル國民ニモ巨大ナル天然資源ヲ提供スルト同時ニ各國カラモ亦自由平等ノ待遇ヲ受ケヤウト思フ」此ノ支那全權ノ自發的資源開發意見ハ前段述ヘタル十八日幣原全權ノ聲明ト其ノ目的希望トハ日支間全ク同一ナリ故ニ之ヲ九箇條協約ニ明記セシメム乎支那カ唯任意ノ聲明トハ異リ八箇國ニ對スル國際的義務トナリ支那資源開發ト共ニ其ノ食料並原料ノ供給上我カ國ハ極メテ安全ナル地位ト關係トヲ得ラレタラムニ事茲ニ及ハサリ



シ理由如何

更ニ進テ前段敍ヘタル石井ランシング協約ノ眼目タル日米兩國間ニ締結セル日米ノ支那ニ對スル國際的道義觀念ノ保證ハ此ノ九箇國協約ニ依リテ自然消滅トナリシヤ現ニ「ハーデング」氏大統領ハ去八日米國元老院ニ對シ「支那ニ關スル九箇國條約ハ石井ランシング協定ニ代ルモノテアルコトヲ通知シタリ」ト果シテ然ルカ然リトスレハ是レハ右九箇國協約中豫メ日米間ニ打合セ後日本モ進テ之ニ贊成シタルモノアリヤ抑石井ランシング協約ハ依然現存シテ日本ノ支那ニ對スル其ノ特殊利益ノ地位ハ國際的道義觀念ノ保證トシテ米國ヲ拘束スルノ權能アリヤ否ヤ

次ニ華府會議ニ於テ二月四日決定セル極東諮議院設置ニ關シ其ノ組織ノ細目ニ關シ之ニ對スル政府ノ所見ヲ尋ネムトス抑此ノ決議案ヲ見ルニ協約九箇國ハ(一)極東ニ於ケル事態ノ安定ヲ期シ(二)支那ノ權利利益ヲ擁護シ且(三)機會均等ノ基礎ノ上ニ(四)支那及列國間ノ交通増進ノ一般改革ニ關シ茲ニ諮議院設置ヲ決議シタルモノニテ即チ此ノ諮議院ヲシテ九箇條協約中ノ門戶開放主義及勢力範圍打破ノ二大規定ヲ實施スル爲ニ生スヘキ問題ヲ調査報告スル目的ナリ而シテ其ノ組織ニ關スル細目ハ來四、五月頃迄ニ支那關稅問題ニ關シ開カルヘキ特別委員會ニ於テ之ヲ起草セシムト是レ即チ本員カ前段一月二十三日申述ヘタル支那內政安定ニ關スル列國共同調査委員ノ組織ト其ノ主旨同一ノ結果トナラム何トナレハ

支那ニ於ケル列國ノ交通ヲ増進シ門戶開放機會均等ノ實ヲ擧ケ進テ支那ノ權利利益ヲ擁護スルニハ先ツ主トシテ支那ニ責任政府確立ナクシテ到底之ヲ實行スルコトヲ得サルモノナリ簡言スレハ極東ニ於ケル事態ノ安定如何ハ支那ニ於ケル統一の中央政府ノ確立ニ在リ故ニ今ヤ遅レタリト雖我カ國ハ右諮議院組織ノ細目ニ就テハ特ニ此ノ點ニ留意シ其ノ組織ノ公正ニ關シテハ十分ナル考慮ヲ以テ一ニ日支兩國國民ノ完全ナル親善ヲ圖リ以テ今ヤ將ニ失ハムトスル支那ニ於ケル我カ特種利益ノ政治的地位ヲ回復スヘキ絶好ノ機會ナリト信スルヲ以テ政府カ右諮議院組織ニ關シ本員ノ質問ニ對スル政府ノ答辯書中ニ所謂公正ナル對支政策ナルモノアラハ宜シク速ニ之ヲ國民ニ披瀝セラレタシ

十一年三月二十四日望月小太郎君ハ右再質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十五日內田外務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 三月二十日衆議院豫算委員會ニ於ケル加藤海軍大臣ノ答辯ハ當時ノ事情ヲ説明シタルニ過キスシテ華府ニ於テ帝國全權トシテ公式ニ七割ノ比率ヲ帝國國防上絶對必要ナリト主張シタルコト無キ旨ヲ述ヘタルモノナルカ故ニ內田外務大臣カ從來本問題ニ付爲シタル説明ト何等矛盾スル所無シ



二 膠州灣租借地還付後ハ右地域ハ外國人ノ居住營業ノ爲開放セラルルコトトナリ居ルヲ以テ同地域内本邦在留民ハ居住營業ヲ繼續シ得ヘキハ勿論其ノ適法且ツ公正ニ取得セル既得ノ權利モ尊重セラルヘク又沿線各地ニ居住スル邦人ニ付テモ先般公表セル通り支那政府ニ於テ鐵道沿線ノ都市ヲ開放スルコトニ決定シ居リ之等ノ細目ニ付テハ政府ニ於テ山東條約ノ趣旨及精神ニ照シ公正ノ見地ヨリ商議ヲ促進シ以テ出來得ル限り本邦人ノ居住營業ニ差支ナキ様努カスル意向ナリ只山東條約實施ノ曉事態ノ變動ニ伴ヒ在留邦人ニシテ自然影響ヲ蒙ルモノ可有之モ其ノ程度態様ハ今日ノ處判明セサルニ付救濟ノ要否並方法等ハ言明シ難シト謂フニ過キス

三 支那天然資源開發ニ關シテハ帝國全權ハ強ヒテ之ヲ條約中ニ挿入セシムルノ目的ヲ以テ之カ提言ヲ試ミタルモノニ非ス蓋シ本問題ノ如キハ其ノ性質上國際的義務ヲ負ハスノ形式ヲ採ルヨリモ寧ロ當該國ノ自發的行動ニ俟ツノ形式ニ據ルヲ妥當ト認メタルヲ以テナリ華府會議ニ於ケル支那全權委員ノ聲明ハ法理上國際的義務ヲ生セサルヘキモ何レノ國ト雖其ノ代表者ノ聲明ヲ無視セムトスルモノナカルヘク而シテ其ノ將來ニ對スル具體的運用ノ問題ハ一ニ支那政府ノ誠意ニ信賴シ臨機ノ措置ニ出ツルコト得策ナリト認ム九國條約ノ規定中ニハ石井「ランシング」協定ノ廢棄ニ關スル規定ナク又別ニ日米兩國政府間

ハ右廢棄ニ付協定ヲ遂ケタル事實ナキモ若シ同協定ノ規定中九國條約ノ規定ニ牴觸スルモノアルニ於テハ其ノ牴觸スル範圍内ニ於テ前者ハ後者ノ爲改廢セラルルノ結果ヲ生スヘキハ法理上當然ノ歸趨ナリ

頃者外電ノ報スル所ニ依レハ米國大統領ハ米國上院ノ質問決議ニ對シテ九國條約ハ完全ニ石井「ランシング」協定ヲ無効ナラシムルモノナル旨言明セリトノコトナルモ右ハ事實ニ相違ス外務省著電ニヨレハ米國大統領ハ石井「ランシング」協定ハ九國條約ニ宣明セラレタル主義及政策ト牴觸スル何等ノ拘束力ヲ有セスト陳ヘタルモノニシテ前述ノ法理ヲ釋明セルニ過キサ

ルモノナリ  
政府ノ看ル所ニ依レハ石井「ランシング」協定ト九國條約ハ其ノ内容ニ於テ何等相牴觸スル點ナク從テ前記法理ニ照スモ九國條約成立ノ爲石井「ランシング」協定カ無効トナルニ至ルモノトハ認メス

諮議院ノ構成ニ關スル細目ハ本質問中ニモ指摘セラレタルカ如ク支那關稅條約第二條ニ規定セラレタル特別委員會ニ於テ協議スルコトトナリ居リ目下政府ニ於テモ折角考究中ナリ又帝國政府ノ所謂公正ナル對支政策トハ其ノ根本ニ於テ前記九國條約ニ宣明セラレタル主義原則ト概ネ異ル所ナシ



四二 大阪株式取引所ノ違法取引ニ關スル質問

國民ノ徒ニ射利投機ニ走ルハ最寒心スヘキコトニシテ之ヲ抑制スルハ當路者ノ責任タリ現ニ山本農相モ取引所法中改正法律案提出理由ノ一トシテ投機抑壓ヲ數ヘ空賣買差金取引ヲ防止スルヲ主眼トスト稱シタルカ然モ從來政府當局ノ取引所ニ對スル態度ヲ見ルニ啻ニ此ノ投機抑制ノ旨ニ副ハサルノミナラス却テ進ムテ投機ヲ助長セルノ觀アリ現ニ取引所カ違法脫法ノ行爲ヲ公然恣行シテ徒ニ投機思惑ニ走リツツアルニ拘ラス毫モ之カ取締ヲ爲サスシテ默認シツツアルカ如キ則チ其ノ一證左ニ非サルカ元來現内閣關係者ト大阪株式取引所トハ特別ナル情實因縁ヲ有ヘルヤニ傳説セラレ大正九年財界ノ大反動來後ニ於テ千四百萬圓ノ資本金ヲ四千萬圓ニ増資ヲ許シ彼ノ財界大動搖時代ニ一擧ニ倍額以上ノ増資ヲ爲サシメタルカ如キ破天荒ノ事實ハ人ヲシテ益其ノ關係ニ就テ疑惑ヲ深カラシメ其ノ増資株ノ分配ニ關シテハ種々ノ流説行ハレ醜聞紛々トシテ起リ遂ニ有志株主會ノ奮起トナリ一世ノ耳目ヲ聳動シタリシハ尙世人ノ記憶ニ新ナルトコロナリ

斯ノ如ク大阪株式取引所ト現内閣關係者トノ情實因縁ニ關シ疑惑ヲ招キツツアル際同取引所カ公然違法ノ所爲ヲ創始シ久シク之ヲ實行シツツアルニ對シ當局カ毫モ取締ヲ行ハサルノ事實ハ

偶以テ此ノ疑惑ノ裏書ヲ爲スモノニ非サルヤヲ思ハシム則チ現ニ同取引所ニ於テ定期取引以外ニ行ハルル延取引ナルモノハ全然差金取引ヲ目的トスル法令違反ノ行爲ナリ

現在大阪株式取引所ノ延取引ニ使用セラルル物件ハ大阪取引所株、同新株、鐘淵紡績新株、天津取引所株、上海取引所新株ノ數種ニシテ其ノ取引方法ハ全ク差金取引ニシテ現物受授ノ如キ極メテ少數ナリ之ヲ日々ノ取引ノ實狀ニ見ルニ鐘淵紡績新株ノ如キ總株數十六萬株ニ過キササルニ同取引所ニ於ケル本株式ノ一日ノ賣買出來高十萬株以上ニ達スルコトアリ少クモ三四萬株ヲ下ラス而シテ其ノ中事實上現物ノ受授ヲ爲スモノハ極メテ少ク今其ノ實狀ヲ最近ノ統計ニ徴スレハ次ノ如シ

日	附	銘	柄	賣買出來高	受授高
大正十一年二月六日		天津取引所株		一五、〇三〇 <sup>株</sup>	一三五 <sup>株</sup>
二月十日		同上		五、二六〇	四二〇
二月六日		上海取引所新株		一、四二〇	四四〇
二月十六日		同上		五、三四〇	二三〇
二月七日		鐘淵紡績新株		一二四、二三〇	二、一三〇
二月八日		同上		一三七、〇八〇	五、四四〇



二月八日	大阪取引所株	一七、九四〇	二、五五〇
二月十六日	同上	一二、〇〇〇	二四六〇
二月十六日	同新株	五五、〇八〇	一、二〇〇

則チ日日ノ賣買出來高中眞ニ現品ノ受授ヲ爲スモノハ極メテ少許ニ過キスシテ大部分ハ差金決濟ヲ爲シツアルノ事實之ニ依リテ明ナルヘシ

尙取引所ノ帳簿上ハ是等株式ノ賣買ハ即日現品ノ受授ヲ了セル如クニ欺瞞シ居レルモ帳簿上ニ該受渡ニ用ヒラレタル株式ノ名義人及番號ノ記入ナキノ事實ハ其ノ假裝ナルヲ證明スルニ足ルモノナリ斯ル違法ノ賭博類似ノ取引カ經濟界ニ及ホス變態的影響モ亦甚大ニシテ現ニ上海取引所新株ノ如キ十二圓五十錢ノ拂込ニ過キササルニ延取引ニ使用セラルルカ爲ニ五十圓拂込ノ親株ヨリ高値ヲ持スルカ如キ昨年後半期ニ開業シテ未タ一回ノ配當ヲモ行ハサル天津取引所株カ之カ爲ニ非常ノ高値ヲ持スルカ如キ時時買占ノ事行ハレ値段ノ暴騰暴落ニ會セハ屢總解合ト稱スル賣買契約ノ解除ノ行ハレテ一般社會ニ迄惡影響ヲ及ホスカ如キコト即チ之ナリ而シテ斯ル法令違反ニシテ徒ニ投機ヲ助長シ經濟界ニ惡影響ヲ齎ラス延取引ナルモノハ現政友會内閣成立後創始セラレタルモノニシテ其ノ始メテ開始セラレタルハ大正九年十月一日ニ係リ同日ヨリ先ツ鐘淵紡績新株、大阪取引所株ヲ上場シ更ニ其ノ後十年一月十七日ヨリ大阪取引所株ヲ、十年七

月一日ヨリ上海取引所新株ヲ、十年八月一日ヨリ天津取引所株ヲ上場シ現ニ本取引ノ機關タル株榮會ナルモノハ大正九年十二月創立セラレタルモノナリ  
斯クテ爾來大阪株式取引所ニ於テ盛行シツアル本延取引ナルモノハ法令違反ノ差金決濟ヲ目的トスルモノニシテ其ノ害惡亦尠少ナラス若當局ニシテ眞ニ法規ヲ厲行シ投機ヲ抑制スルノ意アラハ當然之カ取締ヲ爲ササルヘカラサルモノナリ現ニ東京株式取引所ニ於テ日清紡績株等ニ付同様ノ取引方法行ハレタリシニ就テハ過般當局ハ其ノ違法ナルヲ認メ之カ禁止ヲ内命シタルニ拘ラス大阪株式取引所カ更ニ大規模ニ更ニ公然ト之ヲ行ヒ其ノ弊害甚大ナルモノアルニ拘ラス當局カ之ニ對シ何等ノ措置ヲ採ラス久シキニ涉リテ默認シツ、アルハ何故ナリヤ  
斯ル違法取引カ政友會内閣成立後ニ於テ創メラレ當局之ヲ默認シ取引所理事者ハ政府ノ認諾ヲ得居レリト聲稱シツツアルニ於テ現内閣關係者ト同取引所ノ因縁情實ニ關シ一般ノ疑惑ヲ深カラシムルモノ亦故無シトセサルナリ政府當局ハ何ノ理據ニ依リ斯ル違法行爲ノ久シキニ涉リ公然行ハレツツアルヲ看過シテ毫モ取締ヲ爲サス徒ニ投機ヲ助長シ流弊ヲ甚シカラシムルヤ政府ハ該取引方法ヲ以テ違法ニ非スト認ムルヤ若違法ナルニ於テハ速ニ之ヲ禁止シ相當ノ制裁ヲ加フルノ意ナキヤ



十一年三月二十日森田茂君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月二十四日山本農商務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 大阪株式取引所ニ對シ資本金ノ増加ヲ認可シタルハ一般經濟界ノ情勢ニ伴ヒ取引高ノ増大ニ因ル賠償方法ノ完全ヲ期スル必要ニ出テタルモノナリ東京其他ニ對シ之ト前後シテ適當ナル増資ヲ許可シタルモノ亦此ノ趣旨ニ外ナラスシテ其間質問書ニ言フカ如キ情實關係等ノ存在スルモノアルコトナシ

一 大阪株式取引所ノ直取引及延取引ハ大正七年八月三十日東京株式取引所ニ對シテ認可シタルヲ初トシ引續キ其方針ニ據リ大正八年二月十三日之ヲ認可シタルモノナリ而シテ該延取引ノ方法ニ付テハ法規違反ヲ以テ即斷スルコトヲ得サルハ曩ニ本件ニ關シテ告訴ヲ爲スモノアリタルニ對シ司法官憲力不起訴處分ニ付シタル事實ニ見ルモ明ナルヘシ然レトモ世間往々非難ヲ試ミル者アリ又前段ノ如キ事件ヲ惹起シタルニ付テハ其ノ取引方法等ニ付キ改善ヲ加フルノ必要モアル可ク旁、理事者ヲ招致シテ屢、嚴重ナル警告ヲ與ヘタリ即チ政府ハ之ニ對シテ取締ヲ怠リタル事實ナシ況ンヤ其ノ違法ナルヲ知ツテ之ヲ默認シ若クハ之ニ對シテ認諾ヲ與ヘタリト云フカ如キ事實ノ存セサルハ勿論ナリ若シ夫レ同取引カ法規ニ違反スルコト明トナルニ於テハ相當ノ制裁ヲ加フヘキコト言フ俟タス

四三 茨城縣ニ於ケル人權蹂躪ニ關スル質問

一 茨城縣茨城郡岩間村青年數名カ大正十年八月二十日居村市野谷駐在所巡查川崎留吉ニ對シ暴行ヲ加ヘタル嫌疑者トシテ同月二十七日瀨川音吉、美留町億四郎、箕輪龜之助、吉沼壽外十九名ノ青年ヲ笠間警察署ニ拘禁シ巡查川崎留吉同山崎淺吉同久野三之助等ハ同署擊劍道場ニ於テ引續キ三日間二夜ニ互リ棍棒竹刀椅子等ヲ以テ亂打シ或ハ頭髮ヲ掴ム等ノ暴行ヲ加ヘ依テ美留町億四郎、吉沼壽、美留町峯吉、箕輪龜之助、美留町秀雄、瀨川音吉、鈴木勝雄、島田勇其他ノ青年等ニ對シ傷害ヲ加ヘ且引續キ三日間不法ニ拘禁シタル事實アリト謂フ如何

二 茨城縣ニ於テハ曩ニ大正九年八月二十三日龍ヶ崎警察分署ニ於テ刑事巡查二名ハ同分署演武場ニ於テ椎名貞五郎ニ對シ捕繩ヲ以テ兩手足ヲ緊縛シ之ヲ吊シ上ケ卷煙草ニ點火シテ手首警部ニ押シ當テ火傷ヲ負ハシメタル拷問事件アリ今又笠間警察署ノ青年二十四名ニ對スル人權蹂躪アリ同縣警察部ノ暴戾非道言語ニ絶スルモノアリ内務大臣ハ同縣警察機關ニ對シ如何ナル措置ヲ採ラムトスルカ乎

十一年三月二十二日横山勝太郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十五



日床次内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

警察官吏ハ平素民衆ニ直接スルノ職ニ在ルヲ以テ接遇上慎重意ヲ用ヒ殊ニ罪狀嫌疑者ノ取調ヲ爲スニ當リ苟モ暴行凌虐ニ涉ル如キコトアルヘカラサルハ地方長官及警察部長會同ノ機會ニ於テ反覆訓示スル所ニシテ茨城縣警察官吏ニ於テ之ニ反スルノ行爲ヲ爲シタルハ遺憾トスル所ニシテ已ニ縣當局ニ於テ刑事訴追ニ付シ夫々判決アリタリ  
本件ハ元同縣岩間村受持巡查カ同村青年ノ風紀改善ニ關スル注意ヲ促シタルニ對シ同村青年等カ之ヲ怨ミ同巡查ニ對シ毆打暴行ヲ加ヘタルニ基因スルモノニシテ事情諒トスヘキ點ナキニアラサリシト雖モ元ヨリ警察官吏トシテ看過スヘカラサル所ナルヲ以テ政府ニ於テハ茨城縣當局ニ對シ嚴重訓戒シ警察官吏ノ監督ニ對シ一層ノ注意ヲ加ヘ將來決シテ是等ノ行爲ニ出ツルコトナカラシメムコトヲ期セリ

四四 災害地地租免除法ニ關スル質問

災害地地租免除ノ申請ニ對シ津島稅務署ノ査定方針カ立法ノ趣旨ニ背反スル事實ヲ認ムルヲ以テ政府ノ所見ヲ質ス

十一年三月二十二日三輪市太郎君ハ右質問主意書ヲ提出シタルモ提出者ハ同月二十五日之ヲ撤回シタリ

四五 部落有土地統一ニ關スル質問

町村ノ或部落カ從來所有スル共有地ヲ舉ケテ之ヲ町村有ニ統一セムトシテ縣郡吏ノ部落ニ臨ミ脅威的語句ヲ用ヒテ部落民ニ強ヒムトス甚シキハ強制ニ統一セラルルモノノ如ク又部落ハ所有スル權能ナキカ如ク妄說シ善良ナル地方古來ノ慣例ヲ無視シ遂行ヲ敢テセムトス此ノ如キハ口ニ社會主義ヲ禁シ手ニ共產主義ヲ行ハムトスルモノニ非サルナキ乎政府ハ此等不謹慎ナル官吏ヲ戒飭スヘシ凡ソ國家ノ安寧秩序ノ保持セラルル所以ノモノハ善良ナル風習慣例ノ維持存續セラルルニ由ルヲ思ハサル乎如何

十一年三月二十二日土井權大君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月二十四日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

部落有土地統一ニ關スル質問ノ説明ヲ極テ簡單ニ申述ベマス、即チ日本ノ森林行政ノ方針ト致シマシテ、山林ノ統一ト云フコトニ努メテ居ラレルノデアリマス、所ガ其實際ニ行ハレテ居ル所ノ事實ヲ調べマスルニ、町村ノ或ル部落ガ從來所有スル共有地ヲ舉ゲテ、之ヲ町村有ニ統一セント致シマシテ、或ハ縣知事デアルトカ、或ハ郡長、或ハ村長、是等ノ官吏ハ其部落ニ臨ミマシテ、



脅迫的言辭ヲ以テ、部落民ニ此山林ノ統一ヲ強ユルト云フガ如キ形跡ガアルノデアリマス、甚シキハ統一ハ強制的ノモノデアルカノ如キ口吻ヲ以テ臨ムコトガアルノデアリマス、又山林ナルモノハ一切部落ニ所有スル權能ナキガ如ク吹聴ヲ致シ、又部落民ヲシテ信ゼシムルガ如キコトガアルノデアリマス、其結果善良ナル地方、古來ノ慣例ヲ無視シ、飽マデモ山林統一ト云フコトヲ遂行致サウトスルノデアリマス、是等ノ遣方ト云フモノハ實ニ不都合デアアル、口ニ社會主義ヲ禁ジ、手ニ共產主義ヲ行ハントスル者デナイカト云フ疑ガアルノデアリマス、政府ハ是等不謹慎ナル官吏ヲ戒飭スベキヤ否ヤ、當然是等ヲ戒飭致シテ、國家ノ安寧ノ秩序保持ニ努メラレ、而モ善良ナル風俗慣例ノ維持存続ト云フコトニ意ヲ用キラレル意思ナキヤ否ヤ、即チ此ニツデアリマス、是等不謹慎ナル官吏ヲ戒飭セラレルヤ否ヤ、更ニ安寧秩序ヲ保持スル爲ニ、善良ナル風俗習慣ヲ維持サレル意思アリヤ否ヤ

之ニ對シ床次内務、山本農商務兩大臣ハ三月二十五日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

部落有財産ヲ町村ニ統一スルハ雷ニ林野ノ整理開發上必要ノ事ナル而已ナラス部落割據ノ觀念ヲ打破シ自治ノ圓滿ナル發達ト財政ノ安固トヲ得シムルノ途ナルヲ信スルモ從來之カ實行ニ付テハ案リニ強制ヲ加フルコトナク各部落民ノ自覺ニ俟テ圓滿ナル遂行ヲ期セシメツツアリ

#### 四六 東洋拓殖株式會社紊亂ニ關スル質問

一 東洋拓殖株式會社ハ大正九年衆議院議員選舉ニ際シ政府ヨリ選舉費用トシテ金四百五十萬圓ノ提供ヲ命セラレ土地買收ノ名目ノ下ニ之ヲ支出シタリ即チ第四十二回議會ノ解散トナ

十四日ルヤ時ノ原首相ハ田中陸相高橋藏相野田遞相ト共ニ選舉費ノ調達ニ付謀議シタル結果東拓ニ兼テ陸軍間諜ヲ爲シ居ル支那人ノ名義ノ形式ヲ採リ牧場用地トシテ內蒙古中人跡絶ヘタル東ザロトウ、カイロ地方ノ何等價値ナキ土地百八十町歩ヲ前記四百五十萬圓ニテ買收シタルカ如キ形式ヲ取ラシメ之ヲ政友會ノ選舉費ニ充當シタリ然モ該土地タルヤ經濟的ニ使用スル能ハサル朔北不毛ノ地ニシテ此處ニ金三千萬圓ノ事業ヲ計畫スルカ如キ目論見書ヲ實地踏査ノ爲派遣シタル陸軍中將吉田平太郎ニ作成セシメナカラ關東廳補助金五十萬圓ノ豫算削除ヲ理由トシ該計畫ヲ中止シ東拓ハ前記四百五十萬圓ヲ全然損失シタリ會社監督ノ任ニアル政府ノ此ノ事實ニ對スル所見如何

一 元來東拓ハ政府及政黨ノ爲惡用セラレ或ハ情實ノ爲或ハ緣故ノ爲無謀ノ貸出ヲ爲シテ損害ヲ蒙リタル事實多シ殊ニ古賀廉造ノ拓殖局長官ト爲リ其ノ推薦ニ依リ夏秋十郎ノ會社理事トシテ金融部長ノ重職ニ就クヤ此ノ弊最甚シク之カ爲東拓カ回收不能ニ陥リタル投資額ハ前記四百五十萬圓ヲ除キ實ニ二千五百萬圓ノ巨額ニ達スト稱セラル而シテ其ノ主ナルモノハ古賀ノ寵商平林甚輔ニ東拓法ヲ無視シテ大正九年金二十五萬圓ヲ貸與シ更ニ同年十二月小西喜代松ニ五百萬圓ヲ貸與シテ未タ一厘モ回收セラレサルヲ初メトシ東省實業會社(資本三百萬圓)北滿電氣會社(同三百萬圓)東海林伐木公司(同三百萬圓)等ノ泡沫會社ニ投資



シタルモノナリ是等ノ會社ハ何レモ經濟界ノ反動ニ遭遇シテ不況ノ絶頂ニ達シ唯僅ニ事業ヲ繼續シ居ルハ北滿電氣會社ノミナリ而シテ右ノ外日支親善ノ美名ノ下ニ支那人ニ東拓ヨリ融通シタル額ハ五百萬圓ニ達シ是レ亦全然回收不能ト稱セラル右事實ニ對スル政府ノ所見如何

- 一 東拓ノ内部敍上ノ如キヲ以テ第十四回ノ決算期ニ當リ株主ニ配當スヘキ利益ナク之ヲ社債ニ依リテ補ハムト目下社債一千萬圓ノ募集半ハナリト謂フ政府ハ此ノ行爲ヲ如何ト看ルヤ
- 一 東拓幹部ノ所爲餘リニ放漫無責任ナル爲下級社員モ之ニ倣ヒテ不正ノ行爲ヲ敢テシテ會社ニ物質上ノ損害ヲ與フル者甚タ多シ然モ會社ハ是等ニ對シ斷乎タル處置ヲ採ル能ハス却テ其ノ意ニ逆ハサラムト勗ム斯クノ如キハ益會社ノ内部ヲ腐敗墮落セシムルモノニ非サルカ
- 一 東拓ハ畏クモ皇室ヲ株主ニ仰キ國家亦其ノ株主タル以上政府ハ最其ノ監督ヲ嚴重ニシテ苟モ不正不法ノ行爲アルヲ許サス然モ政府ハ其ノ之ヲ監督セサルノミカ却テ之ヲ政略ニ利用シ莫大ノ損害ヲ負ハシメテ恬然タルカ如キハ實ニ經濟上ノ問題タルノミナラス政治上ノ罪惡ニシテ綱紀肅正上至大ノ問題タルヲ思惟セサルカ

十一年三月二十二日橋本喜造君外二名ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月二十四日高橋内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 東拓カ日支人ニ對シ滿蒙方面ノ農事資金ヲ供給シタル事實アルモ名ヲ土地買收ニ假リ政府ニ選舉費用ヲ提供シタルカ如キコト絶對ニ之無シ
- 一 東拓カ東洋拓殖會社法ニ反シ情實或ハ緣故ノ爲無謀ノ貸出ヲ爲シ巨額ノ資金ヲ回收不能ニ陥ラシメタルカ如キ事實ヲ認メス東拓關係ノ會社中經濟界ノ反動ニ依リ一二多少ノ打撃ヲ被リタルモノアルモ右ハ既ニ整理方針確立シ東拓ノ信用ニ影響ヲ及ホスノ虞ナシ
- 一 東拓カ事業資金ヲ主トシテ社債ニ仰クハ同會社ノ性質上當然ノ事ニシテ何等異トスルニ足ラス當期ニ於ケル同社ノ收益狀況ハ引續キ良好ニシテ配當上何等ノ懸念ナシ
- 一 東拓幹部ノ所爲放漫ナルカ爲社員ニ不正ノ行爲アリト謂フカ如キ事實アルヲ聞カス
- 一 政府ハ東拓ニ對シテハ常ニ嚴正ナル監督ヲ加ヘ苟クモ之ヲ政略ニ利用シ損害ヲ負ハシメタルカ如キ事實ナシ

#### 四七 關東州阿片事件ニ關スル質問

大正十一年三月十一日貴族院豫算總會ニ於ケル仲小路廉氏ト政府委員山縣關東廳長官トノ質問  
應答ニ關聯シ左ノ質問ヲ爲ス

- 一 關東州ニ於ケル阿片販賣方法ハ關東廳自ラ販賣スルヤ將又宏濟善堂戒煙部ニ仕入又ハ販賣



ヲ許可シテ爲サシメ居ルヤ

二 大正十年九月中關東廳地方法院ニ開廷サレタル阿片ニ關スル刑事被告事件公判廷ニ於テ辯護人ヨリ山縣關東長官ヲ證人トシテ喚問スルコトヲ申請シタルハ關東州ニ於ケル阿片ノ仕入販賣ノ目的方法ニ關シ明治四十一年第二次桂内閣以來其ノ爲ス所法制上論議スヘキ争點多キヲ以テ法制ノ詳細ニ關スル當局ノ説明ヲ聽ク爲ニシテ決シテ阿片刑事事件ノ内容ニ關スル證人トシテ喚問ヲ申請シタルニ非サルコトハ明白ナル事實ナリ而シテ立會檢察官ハ右辯護人ノ證人喚問ノ申請ニ對シ關東廳ニ於ケル阿片ニ關スル法制上ノ事ニ關シテハ歷代内閣ノ閣議決定ト相待テ施行サルモノナルヲ以テ山縣長官ヲ喚問スルノ不必要ナルヲ主張シ其ノ意見ノ餘論トシテ此ノ法制上ノ詳細ニ就テハ拓殖局長官又ハ總理大臣能ク詳悉シ居ルコトヲ陳述シタルニ過キスシテ斷シテ總理大臣カ阿片刑事事件ノ内容ヲ知り居ルコトヲ語リタルモノニ非ス然ルニ本年四月十一日貴族院豫算總會ニ於ケル議員仲小路廉氏カ前記公判廷ニ於ケル辯護人檢察官ノ意見ノ陳述ヲ誤傳シタル流説ヲ基礎トシテ恰モ原總理大臣カ阿片刑事事件ノ内容ヲ間接ニ知り居ルカ如キ前提ノ下ニ右檢察官ノ陳述ノ有無ヲ質問シタルニ對シ山縣長官ハ仲小路氏ノ質問ヲ肯定スルカ如キ口吻ヲ以テ仲小路氏質問ノ如キ事豫審調書ニ記載アル旨ヲ答辯セラレタルハ如何ナル事實又ハ記錄ニ根據シタルモノナルヤ

果シテ豫審調書ニ右ノ如キ事記載シアリトスレハ其ノ部分ヲ明示セラレムコトヲ求ム

三 山縣長官ハ右豫算總會ニ於ケル仲小路廉氏ノ質問ニ對シ刑事被告人中野有光カ貯藏スル十五萬圓ノ金額ニ付某氏ハ之ヲ小泉策太郎ニ相談シ小泉ハ之ヲ岡喜七郎ニ相談シ岡ヨリ古賀廉造ニ相談シタル事實アリトノ古賀廉造ノ豫審ニ於ケル申立ニ對シ豫審調書ニ記載アルカ如キ事實アリト答辯セラレタルカ右ハ昨年一月中阿片ニ關スル不正事件ニ付物議喧キニ及フヤ小泉策太郎氏ハ中野有光カ貯金十五萬圓ヲ有スルコトヲ聞キ込ミ之ヲ怪ミ岡警視總監ニ此ノ事ヲ申告シ岡警視總監ハ之ヲ山縣長官ニ注意シタル結果山縣長官岡警視總監協議ノ上古賀氏亦中野有光ノ所業ニ關係アルヤヲ疑ヒ山縣長官ヨリ岡警視總監ニ囑託シ古賀氏ニ就テ其ノ真相ヲ調査セシメタル事實アリト聽ク山縣長官ノ答辯ハ前掲ノ事實ト異ナリ孰レカ果シテ眞實ナリヤ

十一年三月二十三日水野吉太郎君外一名ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十四日高橋内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 關東州ニ於ケル阿片ノ買入及販賣ハ宏濟善堂藥局ニ特許シテ之ヲ爲サシメ關東廳ハ嚴ニ之カ監督ヲ爲シツツアリ



二 貴族院豫算總會ニ於ケル仲小路廉氏ノ質問ニ對スル山縣關東廳長官ノ答辯ハ仲小路氏質問ノ趣旨ヲ肯定シタルモノニアラス右公判廷ニ於ケル檢事ノ論告ノ要旨ハ關東州ニ於ケル阿片取締ノ根本方針ハ內閣ニ於テ決定シタルモノナルヲ以テ原首相能ク之ヲ知レリトノ意味ニシテ仲小路氏ノ言フカ如ク阿片事件ノ内容ハ原首相カ最能ク之ヲ知レリトノ意味ニアラス

三 後段ノ通り

四八 廣島監獄署ニ於ケル人權蹂躪ニ關スル質問

一 廣島縣會議員山下德右衛門(四八)ハ去三月二十日廣島監獄署ニ於テ病死セリ同人ハ既ニ入監前ヨリ胃病ニ罹リ居リ同月十八日以來重體ナリシニ拘ラス毫モ醫師ノ手當ヲ爲サヌ又病監ニモ移ササリシハ人權蹂躪ノ甚シキモノナリ司法當局ノ意見如何

二 由來全國ノ監獄署ハ既決未決ノ在監者ノ病氣ニ關シテハ甚タ酷ナル取扱ヲ爲スノ傾向アリ司法官モ亦在監ノ病者ニ對シ保釋責付ヲ爲スニ吝ナル傾向アリト思料ス司法當局ハ此等ノ事項ニ關シ監獄改良司法改善ノ意思アリヤ如何

十一年三月二十四日横山勝太郎君外一名ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月

二十五日大木司法大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

第一 廣島縣會議員山下德右衛門カ廣島監獄未決監ニ於テ病死シタルハ事實ナルモ其處遇上不當ノ措置ヲ爲シタルコトナシ

第二 在監中ノ病者ニ對シ冷酷ナル取扱ヲナシ又ハ保釋責付ヲ爲スヲ吝ムカ如キ事實ナシ

緊急質問及答辯

一 二重橋附近ニ起リタル事件ニ關スル緊急質問

右ハ十一年三月十八日議事日程ヲ變更シテ尾崎行雄君之ヲ提出シ同君ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

吾々臣民トシテ實ニ慄然トシテ恐懼シナケレバナラヌ驚クベキ出來事ガ、皇居ノ正門ニ起リテ奉ッテ居リマス、恐多クモ 陛下ノ御住居ニナッテ居ル皇居ノ正門ニ、肉ト血ヲ濺イデ上奏文ヲ奉ッテト云フガ如キハ、吾々未ダ承ッタコトノナイ聖代ノ一大不祥事件ト存ジマス、斯ノ如キ前例無キ非常ナル事件ガ起リタ時ニハ、臣子タル者ノ本分トシテ、其上奏文ナルモノハ、朝廷ニ向ッテ如何ナル事ガ書イテアルカ、又國家ノ現狀ニ對シテドウ云フ心ヲ持ッテ居ッタノデアアルカ、其人ノ如何ニ拘ラズ、一身ヲ抛ッテ上奏ヲスルト云フコトハ人生ノ最大事件デアアル、而モソレガ皇居ノ正門ニ起リ、紅血ヲ正門ニ濺グト云フニ至ッテハ、實ニ驚クベキ事デアアル、凡ソ斯ノ如キ事態ガ我が帝國ニ於テ起リタ場合ニ於テ、當局ノ大臣タル者ハ一刻モ早ク議院ニ報告ヲ致シ、朝廷ノ爲ニ憂ヒ、國家ノ爲ニ憂フル所ノ臣子ヲシテ其實情ヲ知ラシメ、安ンズル所アラシムベキ筈デアアルニ、是マデ待ッテ居ッテモ一切報告ヲセズ、恬然トシテ相關セザルガ如キ體面ヲ致シテ居ルト云フ



ニ至ッテハ、實ニ驚クベキ人ト申サナケレバナラス、是ニ於テ本員ハ已ムヲ得ズ日程ノ變更ヲ求メ、當局大臣ノ細カナル報告ヲ求ムルノ必要ニ迫ラレタノデアリマス、吾々ガ質問セズトモ自ラ進ンデ十分ナル説明ヲ爲サルノガ、當局者タルモノ、朝廷ニ對シ國民ニ對スルノ一大責任ト謂ハナケレバナラス、併シソレハ當局者ガ其責ヲ感ゼヌトアレバ致方ガナイ、故ニ私ハ已ムヲ得ズ問ヒマスガ、第一ニ其事件ノ顛末ノ真相ヲ有ノ儘ニ報告ヲ願ヒタイ、第二ニハ自殺者ノ爲人、性格等ガ分ッテ居ルナラバ、其分ッテ居ル程度マデ殘リ包マズ御報告ヲ願ヒタイ、何故ナラバ世間ニ傳フル所、殊ニ一部ノ人々ハ直ニ之ヲ狂人ト言ヒ、或ハ無賴漢ト傳フルガ如キ、不思議ナル働ヲ致シテ居ル者ガ確ニ此世ノ中ニ在ル、如何ナル人デアッテモ上奏文ヲ捧ゲテ、爆彈ヲ持ッテ己ノ身體ヲ爆發セシムルト云フコトハ非常ナル事件デアリマス、死ハ總テノ罪ヲ滅ボスト承ッテ居ルガ、斯ノ如キ場合ニ於テ其素性ノ正確ナルヤ否ヤハ分リマセヌガ、直ニ狂人或ハ無賴漢ナド云フコトヲ傳フル如キ浮薄漢、君國ノ何者タルヲ解セザル者ガ我帝國ニ多々有ルト云フニ至ッテハ、實ニ驚カザルヲ得ナイ、故ニ分ルナラバ其性格ヲ分ッテ居ルダケデ宜シイ、或ハ偵察詳カナラズシテ未ダ何事モ存ジナイカモ知レヌ、ナケレバ止ムヲ得ヌカラ知ッテ居ルダケヲ包マズ御話ヲ願ヒタイ、第二ニハ其捧ゲントシタル所ノ上奏文、一命ヲ籠メテ血ヲ以テ捧ゲタル所ノ上奏文、如何ナル事ガ書イテアルカ……朝廷ニ對シテハ如何ナル思想ヲ持ッテ居ッタルデアルカ、今日ノ國狀ニ對シテハ何等ノ考ヲ持ッテ居ッタルデアルカト云フコトハ、是ハ餘程ノ重大事件デアリマス、一人ノ死ハ輕イ、併ナガラ今日ノ時勢ヲ見マスルト、容易ナラス事ガ頻々トシテ起ル、曩ニハ東京驛頭ノ凶變アリ、今ハ皇居ノ正門ニ向ッテ血ヲ濺グ者ガ有ル、之ヲ唯、一人一個ノ所業デアルト見テ冷淡ニ扱フ者ハ、亦時代民心ノ變化ヲ察スルコトヲ知ラナイ者共デアル、斯ノ如キ人ノ出ル其裏ニハ、一世ノ空氣ガサウ云フ人ヲ激成シテ此舉ヲ爲サシメザルヲ得ナイヤウナ空氣ガ、何レノ方面ニカ隨分濃厚ニ横ハッテ居ルト云フ事位ハ知ラナケレバナラス、是等ハ皆梅花開イテ一輪ノ梅花ト雖モ開ケバ春ハ隨ッテ來ルノデアアル、霜ヲ履メバ堅氷ハ到ルノデアリマス、此一人一個ノ非常ナル事件ニ對シテ其裏ニ何ガアリ、續イテ何ガ來ルト云フコトヲ考ヘナイ、時勢民心

ノ趨ク所ヲ解セザルニ至ッテハ、迎モ政治ヲ談ズルニ足ラザル人々デアリマス、故ニ願クハ彼ガ捧ゲタ所ノ上奏文其儘ヲ、此議場ニ御報告アラシムコトヲ希望致シマス

之ニ對シ床次内務大臣ハ同日口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

昨日二重橋正門前ニ於キマシテ自殺者ガアリマシタ、國民ノ最モ尊敬スベキ場所ヲ瀆スニ至リマシタ事、洵ニ當局トシテハ恐懼ニ堪ヘナイ次第デゴザリマス、茲ニ今日マデ調査ノ結果知リ得マシタ事實ノ真相、其他本人ノ身分ニ關スル事等ヲ御報告致シマス、昨日ノ午後一時過宮城二重橋際ニ於テ、折柄附近ニ拜觀者モ多數ゴザリマシタガ、其中ヨリ突如トシテ一壯漢ガ躍リ出デマシテ、二重橋ヲ渡ッテ正門ニ向ッテ驅ケ入ラント致シマシタ、當時同所附近ノ取締ニ當ッテ居リマシタノハ、日比谷警察署勤務巡查渡邊一治ト申ス者デアリマス、之ヲ認メテ直ニ追跡致シマシタガ、同人ハ橋ノ半程ヨリ「直訴」ト連呼致シツ、遂ニ御承知ノ正門前ニ歩哨ガアリマスガ、歩哨前ヲ驅ケ抜ケマシテ、通用門ヨリ宮城内ニ闖入セントスル有様デアリマシタ、正門ノ方ハ平素締切ラレテ居リマス、其時勤務中ノ歩哨ガ之ヲ阻止致シマシタ、同人ハ豫テ懷中ニ用意致シマシタ爆藥ニ點火シテ居ッタノデアリマシテ、火藥ノ臭氣甚シク、且同人自ラ「爆彈々々アブナイ」ト絶叫ヲ致シマシタノデ、歩哨等ハ之ヲ遠卷ト致シタノデアリマス、時ニ同人ガ俯伏シトナリマシテ、其同時ニ轟然タル音響ヲ發シテ白煙ガ立昇リ、瞬間ニ於テ五臟露出シテ、茲ニ自殺ヲ遂ゲマシタル慘狀ヲ呈シタノデアリマス、二重橋ノ警戒ハ二重橋内正門ノ外ニハ近衛兵ヨリ歩哨ガ出テ配置サレテアリマス、二重橋ノ前ハ行幸啓又ハ貴賓參内等、警衛警戒其他多數人ノ集合ニ對スル、特別ノ警戒ヲ要スルト認メラレル場合ニ於キマシテハ、臨時適當ナル正服私服ノ警察官ヲ配置シテ警戒ヲ致スノデアリマスルガ、平素ニ於キマシテハ、馬場先門内ニ巡查派出所ガゴザリマス、此派出所ニ勤務致シテ居ル者ヲ、交互ニ二重橋前ニ出張ッテ取締ニ當ラシテ居ルノデアリマス、此取締ハ二重橋前拜觀者ニ於テ、不敬ナリ不謹慎ノ行動ノナイヤウニ、又同廣場ニ猥リニ車馬ヲ乗入ル、事ナイヤウニト云フコトヲ主眼トシテ、警察ノ任ニ當ッテ居ルノデアリマス、即



チ昨日ハ別段異ツタル事モゴザリマセヌ、單ニ多數ノ二重橋外ニ拜觀者ガ居リマシテ、前申上ダ  
 マシタ渡邊巡查ガ勤務シテ居リマスルト、一臺ノ自轉車ガ二重橋前廣場ノ方向ニ進ンデ參ル  
 デアリマシタノデ、ソレヲ制止致サントシテ居ッタ際デアリマシタ、多數拜觀人ノ中ヨリ二重橋  
 橋上ニ向ツテ、驅ケ出シテ參ッタ者ガアルノヲ認メテ、直ニ追跡致シテ正門前ニ參リマシタ、步哨  
 ト共ニ門内ニ闖入セントスルノヲ制止致シタノデアリマス、所ガ丁度通用門ト步哨ノ位置トノ  
 間位ニ石垣ノ脇ニ於テ、前申シタヤウナ次第テ遂ニ自殺ヲ遂グルニ至ッタノデアリマス、此人ハ  
 藤田留次郎ト云フ者デアリマシテ、前後ノ事情ヨリ察シマスルニ、豫メ覺悟ヲ致シテ居ッタノト  
 認メマス、前申ス如クニ危害ヲ加フルノ意思ナドハ毫モ無カッタモノト思ハレマス、爆彈ノ危険  
 ナル事ヲ叫ンデ怪我人ノ無イヤウニト注意致シタモノト思ハレマス、事情ハ斯ノ如クデゴザイ  
 マスルガ、尙ホ今日迄取調ベ得マシタ所ニ依リマスルニ、此藤田留次郎ナル人ハ、本籍ハ滋賀縣  
 伊香郡ノ人デアツテ、現住所ハ神田區東紺屋町火ノ番小屋ノ中ニ住ツテ居ッテ、當年三十八、本人ハ  
 明治四十年三月ニ滿洲ニ參リマシテ、大連ニ於テ土木工事ニ從事シタ、爾後土工ニ引續イテ從事  
 シテ居リマシテ、大正三年ノ十一月ニ青島ニ渡リマシテ、此所ニ於テ諸種ノ事業ニ手出シテ致シ  
 タヤウデアリマスルガ、何レモ失敗ニ終ツタ、其結果妻トモ離別スルニ至ツタ、大正五年ノ三月朝  
 鮮ニ轉ジ、同ジク六年更ニ内地ニ戻リマシテ、ソレカラハ大阪、名古屋、東京、北海道、樺太等ヲ浮  
 浪シテ居ッタ様子デアリマス、大正九年ノ八、九月頃ヨリ十年五月上旬迄ハ、神田三河町——檜ト  
 申シマスガ「トヨ」ト云フ人ノ家ニ同居致シタ、其時分ニハ度々青年會館其他ニ於ケル政談演說  
 入傍聽ニ出掛ケ、或ハ普選其他ノ民衆運動ニハ赤禱ヲ掛ケテ參加シタ事實ガアリマス、昨年ノ二  
 月十九日、本院ニ内閣不信任案上程ノ當日ニ於キマシテハ、院外ニ於ケル民衆運動ニ參加シテ、  
 檢束セラレタ事實ガゴザイマス、大正十年五月頃カラハ、北海道ニ居リマシテ、同年九月中ニ歸  
 京ヲ致シテ、當時本人ハ非常ニ健康ヲ害シテ居リマシテ、友達共ニ對シテ、俺ハ梅毒デ困ル此先  
 二年位シカ生命ハ持タヌカモ知レヌナドト云フコトヲ零シテ少カラズ悲觀致シテ居ッタト云フ  
 コトデアリマス、歸京後、北海道ニ出稼ヲ致シテ蓄ヘタ百二三十圓ノ金ヲ元手ニシテ、小間物ノ

行商ヲ始メタノデアリマスルガ、間モナク元金マデ無クシテシマヒマシタ様子デアリマス、大正  
 十年ノ十一月ヨリ本月十一二日頃マデハ、神田ノ東紺屋町二十六ノ火ノ番小屋ニ居住ヲ致シテ、  
 同町ノ火ノ番ヲ勤メテ居リマシタガ、最近著シク健康ヲ害シテ益々世ノ中ヲ悲觀シテ、友達ノ新  
 井貞次郎トカ申ス人々ニ對シテ、全ク此世ガ厭ニナツタ、一層死ンデシマヒタイナド、口外ヲ  
 シテボンヤリ考ヘ込ンデ居ッタコトモ屢々デアルト云フコトデアリマス、而シテ本年二月末頃  
 ヨリ、何事カ熱心ニ書附ケテ致シテ居ッテ、初ハ書類ヲ認メ始メマシテ、職務ノ火ノ番ノ方モ兎角  
 怠リ勝トナリ、本月ニ至ツテハ、全ク勤務モシナイ有様デアッタト云フコトデアリマシタ、斯ノ如  
 ク本人ハ健康勝レズ、餘命幾許モナイト云フコトヲ自覺シテ、將來ヲ餘程悲觀シタ精神狀態ニ  
 陥ツテ居ッタモノ、如クニ認メラル、ノデアリマス、本人ノ携帶致シテ居リマシタ上奏文ハ「天ニ  
 奏問シ奉ル」ト題シテアリマスルガ、要領ヲ申上ゲマスルガ「内外ノ政策及憲法上ノ大改革ヲ要  
 スル件數、アルガ樞要ノ地位ニ居ル者ノ利害ニ關シ當局容易ニ處決セサルニ依リ直願ノ行動ヲ  
 執ツテ自害ヲ致ス」ト斯ウ云フ前置デ、社會ノ組織、思想ノ動搖等ヲ述ベテ、吾々ハ過激ノ主義デ  
 ナイ、「概邦」トアリマス、國ヲ憂フル所ノ革新主義デアルト、斯ウ認メテアリマス、此文ハ二十枚  
 許リノ長文デアリマス、其中ノ主ナル事柄ヲ申上ゲマスレバ、普選ノ斷行……今後カラ申上ゲマ  
 ス、其事ハ後カラ申上ゲマス、今私ガ申上ゲテ居ル最中——普選ノ斷行、貴族院及華族制度ノ改  
 革、言論集會結社ノ自由、國政紊亂病ニハ如何ナル醫藥ヲ投ズベキカ、民族ヲ防護シ社寺ヲ文化  
 ニ活用サレタシ、宗教ヲ改革シ、現代化ノ刷新ニ活用セラレタシ、惡差別ナル資本制度ノ改革、下  
 級社會ノ事トシテ不法極マル一例、是ハ北海道ニ於ケル土木工事場ニ、惡周旋業者等ガ勞働者ノ  
 待遇ヲ惡ク致シテ居ルコトヲ非難シテ居ル、ソレカラ常備兵ヲ縮少シ、軍器軍需品ヲ完備セヨナ  
 ドト云フヤウナコトヲ論議致シテアリマス、右ハ上奏文ノ大要デゴザイマスルガ、此所ニ上奏文  
 本文ヲ其儘朗讀ヲ致シマスルト云フコトハ、事件搜查ノ必要上、只今ハ致シ兼ネマス、祕密會ノ  
 席ニ於テ全文ヲ申上ゲルコトニ致シタウゴザイマス、公開ノ席ニ於テハ、此程度ニ止メテ置キタ  
 ウゴザイマス、而シテ祕密會ニ入ル前ニ、尙ホ此所ニ申上ゲテ置キタイコトハ、此上奏文ヲ讀ミ



マシタ所デ、皇室ニ對シ本人ニ於テ何等不平不滿ヲ持ツヤウナ意思ノ無イト云フコトハ明デゴ  
ザイマス、ソレカラ他人ニ危害ヲ加フルト云フ考モ有ツテ居ラヌト云フコトハ、先程申上ゲタコ  
トニ於テ明カデゴザイマス、大要右ノ通りデゴザイマス、此上ハ御要求ガゴザリマスレバ、祕密  
會ニ於テ本文ヲ全文申上ゲル事ニ致シタウゴザイマス

尾崎行雄君ハ意見ヲ述フ

私ハ上奏文全部ヲ承リタイト思ヒマス、祕密會ヲ求ムルト求メヌトハ當局者ノ隨意デアリマス  
床次内務大臣ノ應答

折角御希望ノ方モアリマスルノニ、應ゼラレヌコトハ甚ダ遺憾デゴザイマスルガ、大體本人ノ意  
思ト私ハ餘リ間違ッテ此所ヘ御報告シテ居ル積リデアリマセヌ、其内容ニ立入ッテ今日茲ニ之ヲ  
公開ノ席デ申上ゲルコトハ、事件捜査ノ上ニ差支ヘルト認メマスカラ、甚ダ御希望ニ應ジ兼ネル  
コトハ遺憾デアリマスケレドモ、御斷リヲ致シマス

尾崎行雄君ハ再ヒ意見ヲ述フ

公開ノ席上デ讀ムコトハ捜査ニ差支ヘルナラバ、内務大臣ハ祕密會ヲ御求メニナッタラ宜カラウ  
ト思ヒマスルガ何レニ致シマシテモ、既ニ豫算委員會ニ於テ讀ンダモノヲ、此本會ニ於テ讀マヌ  
ト云フ理由ハ無イノデアリマス、事件ハ斯クノ如ク重大デアアル、委員會ヨリカ、本會ノ方ニ報  
告スルノガ本來デアアル、小サナ豫算委員會ニハ讀ンダ、本會議ニハ讀マヌト云フコトハ、本末ヲ  
顛倒シテ居ル、全體ニ對シテハ不信任デアルガ、豫算委員ダケヲ信ズルト云フガ如キコトハ、如  
何ナル次第デアアルカ、内務大臣ノ意見ヲ問ヒマス

副議長ハ政府ヨリ祕密會ノ要求アリタル旨ヲ告ケ祕密會ニ入ル

次テ公開議場ニ復シ横山勝太郎君ハ政府ニ對シ質疑ヲ爲ス

横山勝太郎君ノ質疑

極テ簡單デアリマスカラ、此席カラ發言ヲ御許シテ願ヒマス、昨日ノ宮闕正門前ニ於ケル慘事ニ  
對スル質問ノ結果、所謂上奏文ナルモノヲ、祕密會ノ會議トハ云ヘ、吾々國民ノ代表者ノ前ニ全  
部御朗讀ニナッタト云フ當局ノ公明ナル態度ニ對シテハ、私一應ノ感謝ヲ致シマス、從來斯ノ如  
キ不祥事件ノアツタ場合ニハ、一切萬事祕密ニナサレタノデアリマスガ、今回ハ何ノ感ズル所ア  
リテカ、之ヲ吾々ノ面前ニ朗讀セラレタト云フ事ハ、當局ニ向ッテ兎ニ角私ハ敬意ヲ表シマス、之  
ニ關シテ極メテ簡單ニ承ッテ置キタイト思ヒマスノハ、先刻ノ内務大臣ノ御話ノ中デハ、今後ノ  
搜索上之ヲ祕密ニスルノ必要ガアルト云フ意味ノ御言葉ガアリマシタガ、然ラバ此事案ニ對シ  
テハ、尙ホ他ニ幾多ノ共謀加擔ヲ致シテ居ル者ガアルト御認ニナッテ居ルノデアリマスルカ、如  
何デアリマスカ、其點ヲ承リタイ、其次ニ承リタイノハ、只今佐々木君ノ御質問ニ對シテ、機ヲ  
見テ此上奏文ヲ闕下ニ奉ズルノ考ガアルト云フ御話デアリマシタガ、此上奏文ナルモノハ、國民  
一般ニ對シテ公表セラル、ノ機アルコトヲ御考ヘニナッテ居ルカドウカ、之ヲ承リタイ、第三ニ  
承リタイノハ、只今御朗讀ニナッタ上奏文ノ大體ヲ承リマスノニ、是ハ概シテ現内閣ノ諸公ニ對  
スル彈劾デアアル、政府ハ如何ニ考ヘテ居ラル、カ、此點ヲ伺ヒマス、或ハ普通選舉ノ問題、或ハ過  
激思想取締法ニ關スル問題ヲ始トシ、其他二三ノ直接行動ニ出デタル者アル事ヲ例示シテ、幾多  
ノ犠牲者ガアルト云フコトヲ書イテ居ルノデアリマス、即チ此上奏文ノ内容ハ吾々内容ヲ此席  
ニ於テ指摘スルコトヲ致シマセヌガ、併ナガラ概シテ現内閣ノ諸公ニ對スル一大彈劾デアリマ  
ス、之ニ對シテ如何ニ考ヘテ居ラレマスカ……其次ニ承ッテ置キタイトノハ、近時頻々トシテ我  
ガ帝都ニ流血ノ慘事ヲ見ル、例ヘバ東京驛頭ノ一大慘事ノ如キ、又今回ノ事柄ハ内務大臣ガ公開  
ノ席デ言明セラレタル通り、人ニ害ヲ及ボスノ意思ヲ持ッテ居ナカッタコトハ明瞭デアリマスケ  
レドモ、兎ニ角宮闕正門ノ前ニ於テ、縱令自殺ニセヨ、血ヲ流スノ慘事ヲ見ルコトハ、上帝室ニ



對シ、又吾々國民トシテモ、洵ニ遺憾ニ堪ヘナイ事デアリマスルガ、併シ斯ノ如キ慘事ガ頻々トシテ起リマスガ、之ニ對シテ當局ハ如何ナル策ヲ以テ斯ノ如キ事ノ無カラシムコトヲ期スルカト云フコトヲ承リタイ、私ノ考フル所ニ依レバ、現内閣ノ存スル限り、斯ノ如キ慘事ハ頻々トシテ起ルト思フ、第五ニ承リタイノハ、本員ハ過日帝都ノ公安ニ關スル質問ヲ内務大臣ニ對シテ提出ヲ致シマシタ、其際ニ内務當局ハ帝都ノ公安ノ維持ニ關シテ終始努力ヲ致シテ居ルト云フコトヲ言ハレマシタガ、昨日復此事ヲ見ルニ至ッテハ、我内務當局ハ、帝都ノ公安維持ニ關シテハ、何等ノ手段方法ヲ執ッテ居ラナイモノデアルト言ハナケレバナラヌ、此等ノ事項ニ關シテ、丁寧ナル御辯明ヲ得タイト考ヘマス

床次内務大臣ノ答辯

御答シマスガ、第一ノ點ハ捜査上必要ガアルト申シマシタガ、何カ共犯者デモアル見込デアルカト云フ御尋デアリマスガ、ソレハ御答致スベキ筋デアリマスマイ、其次ニハ公表スル時ガアルカ、斯ウ云フ御尋ノヤウデシタ、是ハ只今捜査上ノ爲ニ祕密ニ致シテ置キマスカラ、其事件ガ止ミマスレバ、公表致シテ些トモ差支ゴザイマセヌ、ソレカラ其次ニ上奏文ノ内容ハ内閣彈劾ト心得ルガ、如何デアアルカ、是ハ私ヨリ御答スベキコトデアリマセヌ、銘々ノ考ヘル所ニ依ルヨリ外ハナイ、其次ハ斯クノ如キ事件ヲ如何ニシテ當局ハ止ムルカ斯ウ仰シヤッタヤウデアリマスガサウデアリマスカ

横山勝太郎君ノ應答

斯ウ云フ事ガ頻々起ルガ、ソレヲ起ラナイヤウニスル方法ニ付テ、何カ御考ガアルカト云フノデス

床次内務大臣ノ答辯

成程、ソレヲ御答致シマス、斯様ナ事ガ起ラヌヤウニスルノハ、御質問ノ御趣意デアルト内閣ガ罷メデモシタラ良イノデハナイカト、斯ウ云フヤウニ一寸承リマスガ、ソレハ御意見トシテ御答ハ致シマセヌ、ソレカラ帝都ノ公安維持ニ如何ナル手段ヲ執ッテ居ルカト云フコトハ、今日相當ニ注意ヲ致シテ居リマス、ソレカラ此事件ニ付テハ、警察ガ如何ニ行動シテ居ルカト云フコトハ、先程申上ゲタ所ニ依ッテ御了解下サルダラウト思ヒマス

第四章 全院委員長及委員ノ選舉並分科ノ設定

大正十年十二月二十七日日本院ハ全院委員長ノ選舉ヲ行ヒ天春文衛君過半数(百八十九點)ノ得票ヲ以テ當選セリ

又同日右選舉ノ後各部ニ於テ常任委員即チ豫算、決算、懲罰及請願委員ヲ選舉セリ  
特別委員ハ總テ議長ノ指名ニ依リ之ヲ選定ス其ノ總數五十三ニシテ内委員數二十七名ノモノニ、十八名ノモノ二十三他ハ執レモ九名トス

而シテ豫算委員ハ十一年一月二十六日六分科ヲ、決算委員ハ二月二十日五分科ヲ、請願委員ハ一月二十三日四分科ヲ設定シ委員ヲ配分ス但シ委員長ハ分科ニ屬セス  
各分科審査ノ分擔左ノ如シ

豫算委員(六十三名)

第四章 全院委員長及委員ノ選舉並分科ノ設定



- 第一分科 外務省、司法省及文部省所管 (兼務委員 十九名)
  - 第二分科 內務省所管 (兼務委員 十五名)
  - 第三分科 大藏省所管 (兼務委員 二十二名)
  - 第四分科 陸軍省及海軍省所管 (兼務委員 十五名)
  - 第五分科 農商務省及遞信省所管 (兼務委員 二十三名)
  - 第六分科 鐵道省所管 (兼務委員 十四名)
- 決算委員(四十五名)
- 第一分科 外務省、內務省、司法省、文部省所管及關東廳 (兼務委員 六名)
  - 第二分科 大藏省所管 (朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳及樺太廳ヲ除ク) (兼務委員 五名)
  - 第三分科 陸軍省、海軍省及鐵道省所管 (兼務委員 九名)
  - 第四分科 農商務省及遞信省所管 (兼務委員 八名)
  - 第五分科 朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳 (兼務委員 八名)
- 請願委員(四十五名)
- 第一分科 內閣、大藏省所管及他ノ分科ニ屬セサルモノ (兼務委員 三十一名)
  - 第二分科 外務省、內務省及農商務省所管 (兼務委員 四十一名)

- 第三分科 陸軍省、海軍省及遞信省所管 (兼務委員 五十一名)
  - 第四分科 司法省、文部省及鐵道省所管 (兼務委員 八十一名)
- 委員中病氣其ノ他ノ事故ニ依リ其ノ委員ヲ辭任シタル者常任委員ニ於テ八十一名、特別委員ニ於テ二百名トス其ノ補缺ハ常任委員ニ在リテハ其ノ選出部ニ於テ之ヲ選舉シ特別委員ニ在リテハ議長ノ指名ニ依リ之ヲ選定セリ
- 全院委員ハ本期議會中之ヲ開キタルコトナシ常任委員會ノ開會數ハ豫算委員會四十九回(各分科開會數ヲ含ム)決算委員會二十一回(各分科開會數ヲ含ム)、懲罰委員會八回及請願委員會三十九回(各分科開會ヲ含ム)ニシテ特別委員會ノ開會數ハ二百六十三回ニ及ヒ其ノ總數三百八十回トス







第四十五回  
帝國議會

衆議院議事摘要附錄

第一 議員及其ノ異動

本會期ニ於ケル議員氏名、議席、部屬及其ノ部屬黨派ヲ表記スレハ左ノ如シ

(「いろは」別)

(會期終了當日現在)

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三一	三	大阪一	國	板野友造君	一三三	二	新潟	六政	伊藤虎助君
二八七	二	大阪八	政	岩崎幸治郎君	三四一	四	群馬	三憲	飯塚春太郎君
二七八	六	大阪二	政	井坂豐光君	一九三	六	群馬	四政	今泉嘉一郎君
					四一五	四	群馬	六政	今井今助君

附錄 第一 議員及其ノ異動



一八四	二五四	四三一	一六五	三六〇	二六三	三四三	二八八	一二三	一〇三	一六四	一九一	二四〇	議席部屬選舉區黨派	氏名
四滋賀三政	四山梨二政	四静岡一〇憲	七静岡九政	七静岡九憲	二静岡五政	四愛知一憲	二三重九政	八三重五政	九奈良一政	三栃木二政	六茨城六政	二茨城四政	石井三郎君	石井三郎君
井上敬之助君	飯島信明君	石井研二君	池田猪三次君	井上剛一君	岩崎勳君	磯貝浩君	岩本平藏君	伊坂秀五郎君	磯田糸三郎君	石川玄三君	市村貞造君	石井三郎君	石井三郎君	石井三郎君
三九七	一〇六	二一四	二一五	一〇四	三六二	一七八	二七二	四三	二四	二三五	四一四	一一二	議席部屬選舉區黨派	氏名
六沖繩三政	一鹿兒島一政	六鹿兒島七政	八鹿兒島二政	九熊本七政	八佐賀四政	五大分五政	五廣島一三政	四岡山四國	七山形五國	七福島二政	三宮城一政	八岐阜五無	井上孝哉君	井上孝哉君
石川善盛君	禰苗代君	岩崎宗茂助君	岩切重雄君	池田泰親君	石川三郎君	一宮房治郎君	井上角五郎君	犬養毅君	石川長右衛門君	石川淳君	伊澤平左衛門君	井上孝哉君	井上孝哉君	井上孝哉君

三六九	三三五	四八	二〇三	一五一	九五	二二二	三八〇	三八二	一一三	一五	一一五	四一九	議席部屬選舉區黨派	氏名
三長野三政	一愛知一〇憲	一三重三國	一栃木四政	四千葉五政	三埼玉三政	四埼玉一政	四長崎四憲	二東京一三政	五東京一〇政	三東京二無	六北海道七政	七北海道一憲	一柳仲次郎君	一柳仲次郎君
花岡次郎君	早川龍介君	濱田國松君	波多野承五郎君	濱口吉兵衛君	長谷川宗治君	秦豐助君	橋本喜造君	長谷場敦君	鳩山一郎君	林田龜太郎君	伊藤廣幾君	伊藤廣幾君	伊藤廣幾君	伊藤廣幾君
七九	三四六	(記)	三二二	一九四	二八五	三六七	一五二	二一八	一五七	三六八	二二〇	一七四	議席部屬選舉區黨派	氏名
五滋賀五政	五千葉七政	(記)	二沖繩二政	五鹿兒島五政	五熊本六政	三高知二憲	五香川四政	三香川三政	二德島二政	六廣島一憲	九島根三政	七青森四政	八田宗吉君	八田宗吉君
西村伊亮君	西川嘉門君	(記)	花城永渡君	萩亮君	原田十衛君	濱口雄幸君	蓮井藤吉君	林毅陸君	原田佐之治君	早速整爾君	原田夫次郎君	原田藤次郎君	原田藤次郎君	原田藤次郎君